

カミに任命された。太玉タカツクシオーミコトは、小舟を浮べて遊覧に供し、天皇は、大いに喜こばれた。皇子20人は信濃國の平民となり、信濃の6皇子は更級の備えにつく。4皇子は荒城の国にあり、18皇子は磐城の陸奥國の平民になられた。黒川クニに2皇子、盤城の田村郡の赤沼に2皇子、陸前国に10皇子、エリ国（北海道）に5皇子を平民とされた。^{イナダクニ}支那国大臣の子28名をシナ王に任じ万国へ行く王に任じた。五色人の司（ツカサ支配者）となる68皇子・皇女に、万国行きを命令され、世界に文化を開かせた。天皇は、天之益人法（健康長寿・人の増加）でマツリゴト（政治）をされた。

夫のない女、子持ちの女、妻のない男、子持ちの男、ヤクなき女を養女とし、ヤクなき男を薬堀りとし、万民の安居樂業を計られた。

即位48年2月18日から万国巡幸。南アメリカのイリマニ山の大宮に、天浮舟で天降る。五色人王は、ラパス王ほか10名が来て拝礼した。天皇は日本から同道の11名を、南アメリカの王に命じた。

この時、北米には臨幸の記録はなく、彗星激突で無入境にちかいため、被害のすぐない南アメリカ太平洋側にアンデス文化を建直された。

このころスカの空港を整備、大津波の心配のない中央アンデスの、インカ文明が栄え、クスコなど、マヤ・オルメカも再興と考えられる。

即位50年12月30日、肥後の阿蘇大宮に臨幸して、仙洞とした。

即位60年7月30日、富山ニイヤの山に、薬師医術神を再び祭る。

人形彫刻を知るミコト・天の体骸長寿ミコト・禁厭タテヒコ・穀食類医師彦ミコト・少名彦ミコト・体骸居ミコト・薬剤カミ・薬師たちをまつる。以上八柱神を薬師神という。青人グサの長寿・富貴を守るカミであると即位65年1月6日の勅語で定めた。

クレハのアンネン山大宮を仙洞とし、即位95年3月26日、皇太子に譲位、同年4月6日、131才でカミサリ、アンネン山に葬る。50年目に、肥後の富山中神陵に分靈された。

ウガヤ第13代トヨアカリ クニオシ彦天皇

トヨアカリクニオシ
豊明国押彦天皇は、第11代天皇皇子の孫娘の、豊狭姫を皇后とし、
トヨサテ
妃の豊幸姫とサヨリ姫のほか12人のツボネ（局）をおかれた。

皇后に生れた。奇猿姫のほか、皇女は4人あり、皇女・皇子の58名は、万国の王となって万国へ行った。

トヨタマアカルカホ
大臣は、太玉明金ミコト・豊日別ミコト・直入若建ミコトの3人。

即位45年4月17日、フスキ港から万国巡幸、シナ琿春に天降る。

即位93年11月6日、エジプト民国のカイロが来日拝礼。カイロは天皇から国王を拝命。天皇は同月17日、ケネ港から遠州スルガ鈴川港に還幸。カイロ民主は、シナをへてエジプトへ帰りメンフィスを首都に定めた。

天皇は、カイロ民王を送ったあと、富士山西の富士大宮に臨幸、ここを仙洞とされた。

即位130年2月16日、天皇は皇太女の奇猿媛に譲位。161才の9月23日、富士大宮でカミサリ、清く高き富士大峯に葬る。

カイロ民王の帰国後、メンフィスの、採集・狩猟民は、日本の暦法で、最初の農耕をはじめた。エジプト人は、葦で造った家に住み、粗末な土器で食事。麦などを栽培していた。牛・豚・ヤギを飼い、亜麻で織った布をまとい、骨や象牙・貝殻の飾りをつけ、編んだカゴを用い、クシを使い、化粧をして、銅製の小さな器具を用いた。ナイル川の水の活用で、穀物が多くとれ、土で造った家もでき、集落もふえ、近隣との交易も盛んになり、エジプト第1王朝の、メネスの登場は、今から約5160年も前（BC3182）ウガヤ第53代ころ。

ヨーロッパやアフリカは、エジプト文化をマネ、発達していく。エジプトは5000年前から、運河を造り、オリエントも運河発達。「エジプト1万年史」は、ウガヤ第54代を見られたい。

ウガヤ第14代ホノスム クシマシラ媛天皇

ホノスムクシマシラ

火進奇猿媛は、第12代天皇の御孫アカリタテアメノサカホコノ尊を、夫(世幸男)とされ、遠江の富士山大宮で、即位された。

即位10年9月1日、富山の皇祖皇太神宮神殿661尺と、御皇城大宮1261尺を造りかえ、即位15年3月1日みづから大祭礼。女皇は皇子4人、皇女4人お産みになった。

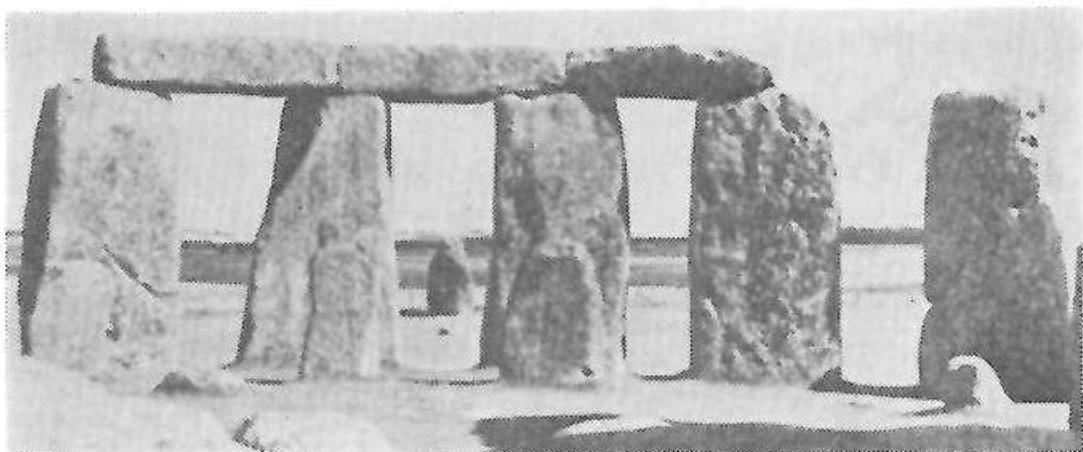
即位36年8月14日、富士山大宮を造りかえ、富山分靈の、天照女神の日向津媛尊を中心とし、コノハナサクヤ媛尊を向って右に、御父母の天皇・皇后を左に祭り、アサマノ神と名づけて、富士山に祭られた。

即位71年5月8日から万国巡幸、オイストラリ国メルボルンに天降る。コライ氏が参朝、メルボルン氏ほか12名が拝礼した。天皇はこれらを国王に任じた。

即位80年10月14日、天竺インドのマラッカ港から帰京。

富山ニイヤのカツシワ港に帰り、玉津天神大宮を仙洞とした。これを魚津天神という。

即位100年6月6日、御皇城山を仙洞とし、135年7月2日、信濃コマ山大宮を仙洞、150年2月20日タカヒ山大宮を仙洞、160年1月5日、皇太子に譲位。3年後の12月27日、コマ山宮で190才でカミサリ、コマ山に葬る。



イギリスのストーンヘンジ

ウガヤ第15代ウスキネ彦天皇

天皇は85才で即位、皇后は12代天皇の皇孫、小色幸玉撰媛。妃はヤマツミノメ命ほか12名。

富山で即位大礼、大臣は香山建雄熊ミコトほか、8名の名あり。

〔註〕 ウエツフミに、カヤマタチオクマノミコトを対島の国守と記す。（ウエツフミ全訳「26の4」三韓の来寇を参照）

ウエツフミによると、即位8年秋8月、三韓の賊が対馬に来襲、国守と民で追払った。翌年秋、三韓の將軍3人は、大船3隻で対馬の周辺をおかす。国守は民と協力して追返した。翌年の夏6月、再び大船80隻で対馬を包囲した。皇軍は韓国を攻め、三韓の王はあやまり、平和になるまでを、詳述される。竹内書にはこの記事なし。

即位13年2月24日、万国巡行。シナ黒竜江ノブルカ港に天降った。即位43年11月18日、北アメリカのシカゴから、天国に帰ると詔され、愛媛・伊予三津浜に帰着。九万（久万）大宮を仙洞とした。

即位51年1月29日、万国の棟梁の天下は1人の天皇と定め、上代から末代の天皇神靈は、富山皇太神宮に合祭を、堅く守るべしと詔され、即位53年2月30日、皇太子ウブトマサキノ尊に譲位、11月27日、138才で九万大宮でカミサリ、明神に祭られ、50年目に隅山の峯に分靈をまつる。

ウスキネ彦天皇は、万国巡行20年後、北米シカゴから帰り、クマ山に住居は、地球水位上昇を察し、子孫万民のため、末代を考えての、英慮でなかろうか。

ウガヤ第16代ウブトマサキ天皇

ウブトマサキ
産門真幸天皇の皇后は、第13代天皇の皇子、幸玉彦尊の王女、タマサクラ媛皇后。中宮のイクツ姫のほか、妃（キサキ）12人、局（侍女ツボネ）5人の名がある。

皇子・皇女は、万国の国令として行かせ、住む所の名をつける。
即位35年1月20日の勅語で、世界万国の各所にある高山の、マツリゴト（政治）の地に、天神と地祇の神まつりを、命じられた。

このころ巨石を動かす技術は進み日本各地の高山の頂きに巨石でアマツカミ・クニツカミを祭った所が多い。今から8000年前ころ、巨石で祈願所を築いた。

即位60年6月6日に万国巡幸。日本の枝（支）国、ヨモツ国をヨイロバ国と改め、フランス国パリー川（今のセーヌ河）の港に天降る。まずランス氏が参朝、つづいてナンシ氏・カレ氏・マトリイ氏・コント氏・ウ

フランス南方カルナックに、石の並木道を大西洋岸まで築いた。

1個350トンの自然石など、10数列東西に一直線に並べ、南米ナスカの地上絵と同じく、航空の目印で、今も巨石5000個が残存。

この地方には、ドルメン・メンヒルなどの各種巨石が密集している。

カルナック列石



イー氏・フカレスト氏の五色人王のほか8名が挙げた。天皇は、それぞれ居住地の王に任命して王の名を地名とした。天皇は、採取と牧畜の民にコヨミを教え麦作り農法を55年間指導され何回か往復された。

天皇は即位115年4月23日、若狭の佐浦港に帰られ、近江の浅井ミツチ山の大宮を、三国山仙洞とし、翌年1月7日、富山で皇女のオモテルアカリ姫に譲位。翌年1月27日、147才で崩じ、三国山に葬り、20年後に分霊を吾平山に祭った。

田畠を守り、役人は山住居

国土計画で、農業をしない官吏は、山に住み、鉱工業の生産をはげむ。農は食物を作り、肥料を還元。毎年同じ土地で、同量の生産を、コヨミと農業技術で完成させた。

このため、狩猟民のように、他を荒さず、生物を殺さず、しかもゆたかな生活で、長生きをした。

ウガヤ第17代オモテルアカリ媛天皇

オモテルアカリ 表照明媛天皇は、第14代女皇皇子の王子、ウマクラノオ尊を世幸男夫とされ、即位10年5月29日、富山皇太神宮を、昔通りに建てかえ、女皇と世幸男の祭主で遷宮の大祭礼。即位53年1月15日に万国巡幸、

天竺（インド）のマンダレに天降る。五色人王14名が挙げた、それぞれ国王に任じ、万国を全部巡幸された。即位57年1月4日、アラビアのオザネに行き、メッカ港からエゾ北海道の、オソヤ港に帰り、祖弥山大宮を仙洞とされた。後にこの山を宗谷岳という。

即位67年12月30日、豊後國大分の星岳大宮を仙洞とし、即位96年2月5日、皇妹ヨザミサト媛尊に譲位。3年後の2月5日、131才でカミサリ、星岳に葬り、夜明星神として祭った。世幸男は、豊前の下毛郡の鏡上（ウエツフミには鏡岳）に葬り、上代天皇の詔で、神明の皇祖皇太神宮の神靈に合せ祭る。

ウガヤ第18代ヨサミサト媛天皇

ヨサミサト

依細里媛は先皇の妹君、老年に、第15代天皇の皇子アマツタチノ尊を世幸男に迎え、富山皇太神宮で即位。大臣の太玉ユケフシミ命、思兼竹内彦命・児屋武彦命・大雷神建男命ほか、36名を諸官に任命。

女皇は世幸男と、大臣の太玉ユケフシミミコトと共に万国巡行。

即位10年2月14日、シナのバイカル港へ天降り、39年9月16日、琉球宮から帰り、武藏のアカリ羽の大宮仙洞に住まれた。

カケイノ山の大蛇を殺す。「祝いつき」を改め岩槻といい、大宮を造り仙洞とした。

即位53年9月9日、日本海全域大地震のあと大津波大変動、人は全部死す。(驚天動地の大災害)

女皇即位80年3月3日、皇弟のスクナカタオ彦尊に譲位。5年後182才でカミサリ、岩槻大宮に葬る。50年目の7月12日、豊後国(大分)の御宝山に分霊をまつる。

第2回北極氷柱の大雪崩

彗星激突の第1回大ナダレは、BC8498年ウガヤ第4代だった。

第2回は、BC7036年ウガヤ第18代。第3回は、BC2561年のウガヤ57代、第4回はBC1117年のウガヤ69代。第5回の最終大洪水はBC859年で、旧北極氷は7637年間にとけ終り、グリーンランドの出現。

- ① BC8498年はアトランチス水没
- ② ハ 7036年は南太平洋ムー大陸水没
- ③ ハ 2561年はノア大洪水
- ④ ハ 1117年は残存氷とけ大洪水
- ⑤ ハ 859年に最終雪とけ大洪水

彗星激突で第1回大雪崩後、氷は1460年間ゆっくりとけ、残った氷柱の瓦解で大地震発生。氷柱とけの大洪水は、そのあとに来た。

今の両極は1万余年の積雪

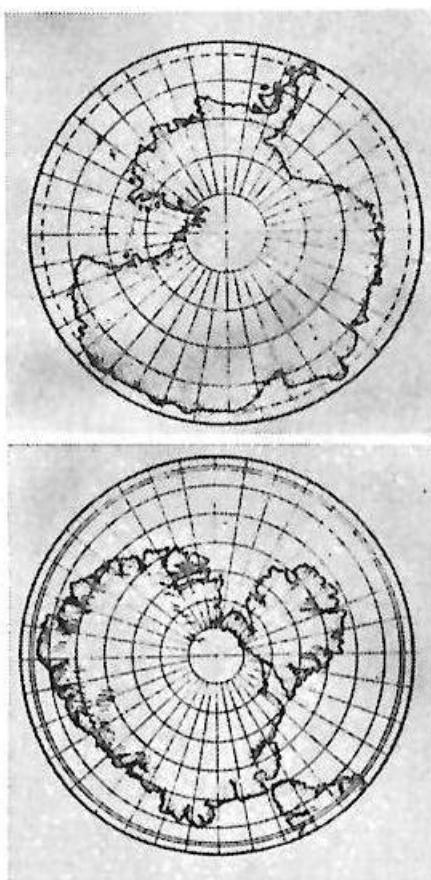
彗星激突前の南極は、オーストラリヤ西南の海上だった。現在の南極は古地図に残る大きな大陸。

今の南極は、10474年前からの積雪だから、平均標高は410m。

今の北極は海上で、冬に積った氷山は流れ、未だに昔の南極と同じで、氷山は高く積重ならない。旧北極のグリーンランドは大陸だから、積雪は何

万年も積重ね、2000m内外の氷山。彗星落下ショックで地軸は15°傾き氷山クズレのためアトランチス大陸水没。

過去何万年積雪の重さのため、氷は焼結して青磁器化して、底は磁石になった。今のグリーン島は超重圧でヒビ割れ形跡がある。



上は現在の南極地図 下がオロンチーの南極地図 これは氷河期以前の南極ではないか？

ウガヤ第19代スクナカタオ彦天皇

少名形男彦天皇は、富山で即位された。18代女皇カミサリ後、即位8年1月1日、即位大祭礼にあたり、高御座の前で天照日神に、天杯をささげ、神宝の3剣とヒヒイロカネの16菊紋のほか、神代モジ歴史の数十巻を、天皇の身近にまつられ、お宝を全部皇祖大神宮に秘蔵を定めた。皇后は、第14代天皇の曾孫、アマツ秋田ミコトの王女、大ナカタオ姫尊。^{クケ}身の丈7尺5寸もある大力の女丈夫。

天皇は丈3尺足らずの小男で山野に遊ぶとき皇后は必ず天皇を左手にのせ、かかえて歩いた。即位36年10月7日、赤池皇太神宮で天下泰平を祈り御皇城山大宮と鶴力城大宮を仙洞とす。皇太神宮は、海水位の上昇で水浸を恐れ皇城山と鶴力城に住まれた。

スクナの名は、カタオ彦・オオナ彦親子の2代あり、ヒルコ伝説のエビス神で、タライ舟で逃れた大洪水の民間伝承。当時まで陸地の世界の大陸棚は全没。瀬戸内海大阪湾もでき、今の世界漁場は森林と住居跡。

天皇即位37年2月1日、世界の水位上昇の情況視察に、天皇夫妻で万国を巡行。4年目の即位41年1月29日、シナの福州港から、常陸のカク島港に帰り、ツクツハノ山大宮に臨幸。同年12月9日に、豊後の直入大宮を仙洞とされた。

即位50年1月24日、皇太子のオオナ彦尊に譲位。同年11月10日に131才でカミサル。皇后は160才でカミサリ、5月18日にアイラ吾平山に葬る。天皇を富山の宮城に葬り、神明皇祖皇太神宮に合せまつる。

ウガヤ19代御製の桃木モジ（51音字のうち）

ヰあ イい ヲう リえ オあ

ウガヤ第20代スクナ オオナ彦天皇

スクナオオナヒコ 少名大汝彦天皇の皇后は、18代天皇の皇子、玉造尊の王女の秋姫。

妃の市井依姫・シガノマオ姫・朝霧姫ほか12名を、ツボメとし、富山大神宮で即位されたが、天変地変のため五色人の参列者なし。

即位47年2月24日から万国巡行、アフリカのガラランド国、ハラルに天降る。即位51年10月14日、アジアのオラ港から、加賀の安宅港に帰られ、山代宮を仙洞とす。即位63年元旦、摂津河内の千早コンゴ山（金剛山）を仙洞の御所とし、海水位上昇に備えた。

即位85年1月18日、常陸の信太の奥津宮（山奥）のアワ仙洞に移られ、即位100年7月28日、皇太子に譲位。3年後の7月12日164才でカミサリ、竜の崎に葬る。岬は後に島となり、竜ヶ崎大塚という。田畠は水没、農民は高地に移住、自然生活の昔にもどる。

大陸移動や造山説など、地球は生物。彗星激突後水位上昇、旧北極の氷解は、7639年間断続した。天皇は安全な山に逃れ、広大なアフリカ奥地を開拓された。

ウガヤ第21代ニギアカリタチ天皇

ニギアカリタチ

饒明立天皇の皇后は、第19代天皇の皇孫トキヨリ姫。富山皇太神宮で即位、天皇自ら祭主で、大舞楽と歌を奏された。

即位13年4月27日、河内古市宮に臨幸して仙洞とされた。

即位37年12月9日から万国巡幸。41年6月15日南アメリカのバラ水門（港）から、日向の延岡港に帰られ、速日岳大宮を仙洞とする。

即位133年1月5日譲位、17年後の12月20日、河内の古市宮でカミサリ、王テラに葬り、石室に葬る。

〔註〕 王テラは、寺らしい。縄文語のテ（手で集める）ラ（ハダカ）。

旧北極の氷解は、一時ゆるやかな時代だった。

ウガヤ第22代オシヒラキ カムタマ彦天皇

オシヒラキカムタマ
天押開神魂彦天皇の皇后は第20代天皇の皇女、豊秋姫。妃はアケタマ姫ほか、ツボネ（局）11人。

富山皇太神宮で即位、大臣の思兼道建ミコト・児屋道明ミコト・太王詞建ミコトほか、朝臣337名を諸官に任命。

即位35年7月28日から万国巡幸、シナのヤムスク港に天降る。即位41年8月8日オロネツ港から、インドのカリカル港に行き、伊豆・田方の天照山を仙洞とされた。この所を天城山宮という。

即位130年、55才の皇太子に譲位。3年後の7月1日、161才で天城宮でカミサリ、天城山に葬る。

彗星激突後、水位の上昇ヤマズ、水没を恐れ、庶民も高地に逃れ、新生器生活をした。

ウガヤ第23代アメニギシ クニニギシ サマツワケ クニタラシ天皇

アメニギシクニニギシサマツワケクニタラシ
天饒国饒狹真都別国足天皇の皇后は、第20代天皇の皇女ヨロズオ姫。富山神明の皇太神宮で即位された。

即位3年1月18日、皇祖の天照日神の大神宮・別祖太神宮の神主は、竹内越中彦ミコトに任じ、竹内と名づけ、1人と定めた。

即位25年3月22日、万国巡幸。北アメリカのタコマ港に天降る。

〔註〕 タコマ市は、アメリカのワシントン州の35万の都市、1852年に植民を開拓。昔の農耕集落地、彗星落下後に復興、レーニア山は富士山に似る。

即位36年2月15日、ヨモツ国改めヨイロパ国、イキス改めイギリス国のプリマス水門（港）に天降られた。

天皇の御前に、ロント氏・スター氏・ガム氏・コイク氏・リール氏、ほか13名がミツギ物をささげた。天皇は、13氏をそれぞれ住む所の王に任せられた。五色人王たちは、喜んで大樂を奏し、花をささげ奉った。

天皇は約10年間、農耕と天文台の築造を指導された。

イギリスの巨石柱（ストーンヘンジ）第2期の築造はこのときらしい。

イギリスのストーンヘンジ



イギリスのストーンヘンジは、第1期と2期は、天皇の指導で、直径100mの円形の溝を造る。石造の天文台で、第3期は3700年前ころ青石を立て、第4期は3500年前ころ、門形に列べた。1期2期は天文コヨミで、高台の丘陵地に築造は、天体観測に適し、万一の水没にも備えたまう。長い間に次々つけ加えた複合的な構築物で、はじめは十和田の天文台と同形と考えたい。

即位47年4月6日、北海道蝦夷イトイ大宮^{エノヲ}に臨幸、大宮を造営され、天皇は再び臨幸され、ニイカラ宮という。即位97年10月9日、奥州の陸前モノカノ郡、カムタテ山宮に臨幸して仙洞とす。大刈田岳という。

即位118年2月4日、62才の皇太子に譲位、同年9月4日に173才でカミサリ、桃生塚に葬る。

ウガヤ23代天皇御作キブク文字（51音字の内）

ナあ ニい ホう リえ ホあ

ウガヤ第24代アメニギシ クニニギシ クロハマ彦天皇

アメニギシクニニギシクロハマ
天饒国饒黒浜彦天皇の皇后は、第19代天皇の玄孫（皇孫）タマシキ姫ミコト、富山皇太神宮で即位。

即位31年1月5日、富山皇太神宮の神殿661尺、前殿1261尺、四方位の鳥居を造りかえ、遷宮の大祭礼。祭主は天皇、副祭主は皇后宮、^{マツリオサ}祭長は竹内越中彦ミコト、越根彦ミコトを神主職に任じた。

即位60年9月4日、万国巡幸。インド（天竺）ノブイナ港に天降り、黒人王のスラト氏・ハウライ氏・バトナ氏・ラホイル氏が参上して拝礼した。天皇はこの4人を国王に任じ、アフリ国を開拓された。

即位72年7月27日、アフリカ国カミギネアのイバタン港から帰国され、加賀の安宅に臨幸、同所を仙洞とされた。

即位129年2月19日、26才の皇太子に譲位、ヨーロッパやアフリカ開拓統治に、皇子派遣のため、皇后と皇妃11名で多産を計られた。

即位131年10月20日、193才でカミサリ安宅浦に葬る。

ウガヤ第25代トミアキタラシ ナカオキ彦天皇

トミアキクラシナカオキ
富秋足中置彦天皇の皇后は、第19代天皇の皇子の曾孫、タナオリ姫で、妃はアメニギシツキハ姫ほか10名。富山神明の皇太神宮前殿で、天照日神に天杯をささげ、南面して即位、大臣に太玉長寿彦・思兼大恐彦・児屋知彦を任じ、331名を諸官に任じ、鶴ヶ城の南の御廟宮を仙洞として、タネカシ皇子・神守ミコト（皇太神宮の神主）・サナイ彦・奇豊姫など、皇子皇女32人誕生。万国王育成の民生教育。

即位63年5月22日、天皇の羽衣（羽織きもの）に、身を守る16菊紋を、つけるよう定めた。即位71年4月23日、皇子・皇女32名を、エダクニ（枝国=外国）の王に任じ、各国をおさめさせた。

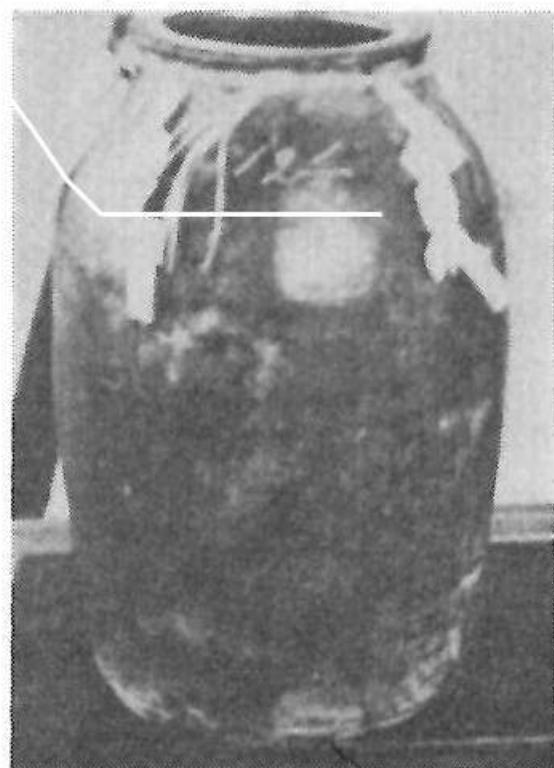
カムヒトガタ
神人像形51モジや、70とおりある神代モジから、その国にあったモジを、30年間教えさせた。教官の皇子・皇女は即位105年2月13日、

マテカ（真・手・変る）国から、ハタニ（出国・外国・円満）国の港を出立、九州豊前の高田から文珠山の大宮へ帰り、天皇の大前で、皇子・皇女は帰朝報告をされた。天皇皇后は、念願の達成を大いに喜こぼれた。即位151年3月26日、富山の中央の港に臨幸されクレハ大宮を仙洞としこいやのフジル里大宮（今の富山市）を仙洞とした。

天皇即位160年6月1日皇太子タネカシ彦尊に譲位、翌年6月5日に187才でカミサリ、富塚に葬る。

富塚山の藤井は、今の越中富山市。この古墳を10年前ころ発掘、土中から横書き計算の、分数 $12\frac{1}{2}$ と刻印土器(写真)を発掘、これは富山に現存する。算数の計算や、巨石運搬の技術は、特に高度に進み、長寿医学のクスリも創製された。これで越中富山の壳薬は、全国的に有名なワケが、ハッキリ判る。数年前まで考古学者は何も知らず、分数土器に目もくれないので、神道家が持帰り保存した。

当時は、アヒル草書体の文書などが盛んで、後世に薩人書サツムヒトノフミというヒタラ文字の文章は、全国にハンランした。皇道科学は世界に広がる。



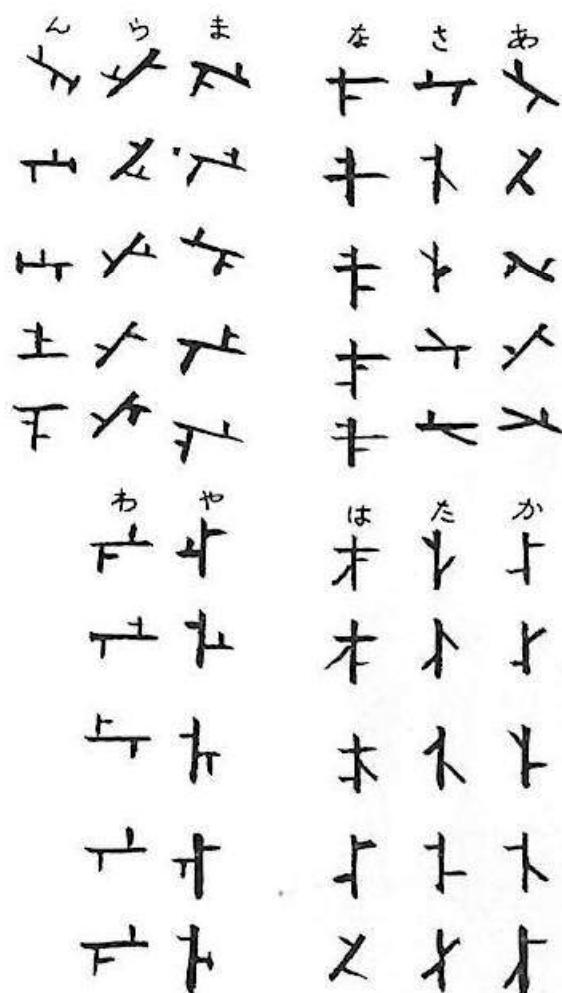
神代の万国史のトビラに、ヒリッピン古代文字の写真を掲載。ウガヤ25代富秋足中置天皇御作ヒタラ文字があり、神代モジと比較対照される。

ウガヤ第26代タネカシ彦天皇

クネカシ
種済彦天皇は86才で今（昭和53年）から8097年前即位。皇后は第22代天皇の皇子、大汝若武彦尊の孫娘、オオナワカヨリ媛尊。

即位32年2月1日から万国巡幸。アジア沿海国アルマン港に天降り、ロシア国ツーラにも天降る。次にアジアのトル国（トルコ？）コニエに天降られ各地の国王を命令された。天皇の随行者として317名が万国を巡幸し、その110名は各国にのこり、その地の長官に任せられた。

天皇は、次の西洋向き桃木モジ55音字を作り、トルコ・アラビア・ヨーロッパの日本の長官に送られた。



アラビアのベレイダに2名、(オネイザ彦尊・ベレイダ媛尊)が残る。タミイにヒハレ媛尊、ミヨイにヒワタミミコトが定住した。

タミアラ・ミヨイは、第10代に水没した南方の大陸で、1部の山頂は島に残り、タミイ島・ミヨイ島に新人が住み、集落が生れた。

天皇即位51年6月11日、奥州・磐城の井出港から、矢大臣山に臨幸して仙洞とされた。

下毛(シモズケ)の三本遺岳の大宮に臨幸、鹿子宮を仙洞とした。
即位57年3月1日、富山のゴフク(呉服)の宮を仙洞とされた。

即位102年12月24日、皇太子に譲位、3年後の2月19日、181才にゴフク宮でカミサリ、葬る所を御廟という。

ウガヤ第27代タテタマ天皇

クテタマ

建玉天皇の皇后は、第24代天皇の孫娘のモモアワス、ハナタテ媛。

妃はアダチ姫・ヤハギ姫のほかに妃局(ツボネ)26名をおく。

富山皇太神宮で即位され、皇子21名・皇女23名を、全国の平民オーミカカラとし、国内の経済発展につとめた。

即位102年1月5日、富山皇太神宮神殿661尺×横601尺、前殿1261尺×1061尺、八方位の大鳥居を造りかえ、大遷宮大祭礼。天皇祭主、副祭主は皇后と皇太子。神宮神主職のアメノウナドノ～エラキノオ彦尊を祭司長とす。

太古から伝える神明ミド宮、御皇城ホド宮地のマン中、南境のシンまで、北方は北代まで、東は神通川ヅチのアリサワまで、西はカナクサまで、太神宮の境内地のため、その通り境内を確定した。

造りかえの時、神明に向って右は太神宮、向って左は御皇城山と、両陛下は日向津姫の神勅で定め、天皇の代かわりに、太神宮の神殿を造れと詔され、家根はヒイカネ(黄金)で、ツキアワセタ。

即位101年9月1日、信濃国の立クワ山の大宮仙洞に住まれた。

即位128年10月6日に譲位。12月29日に178才でカミサリ、山科山に葬る。

ウガヤ第28代アメノ ウナドノエラキノオ天皇

天之海童嚙樂之雄天皇の皇后は、第25代天皇の曾孫ナカツ姫で、妃は中臣姫のほかにツボネ2人をおく。

即位46年8月14日、上古1代の神勅通り、天皇の結婚式のときは、皇后は一段下の右下座と定む。即位100年11月10日白杵高千穂宮に臨幸仙洞とし、即位130年1月5日トヨノリ姫に譲位。11年後の12月14日189才で崩じ吾平山に葬る。

健康と長寿の皇道医学

西洋医学は近世に進んだが、漢方医学は、日本の皇道医学で起った「皇漢医道」である。

太古の皇道医学は、人体実験の結晶で、心身とも健康を考え、天皇はシャクナゲ茶（葉緑素）などの、常用を教えられ、不老長生術を指導、平均150才以上生きた。

ウガヤ第29代カントヨノリ媛天皇

神豊実姫天皇（女帝）は、第27代天皇の御孫、タテキツキ彦を世幸男として、富山皇太神宮で即位。

即位13年4月19日、下毛国の鹿子山大宮を仙洞とされ、富山内宮の分靈を大子大神宮に勧請、即位73年2月1日富山内宮外宮と鳥居を建替え即位100年大遷宮祭。

即位110年5月3日、下毛鹿子大宮を仙洞とし、即位147年2月1日皇太子に譲位。12月9日185才で崩御、漆塚に葬る。

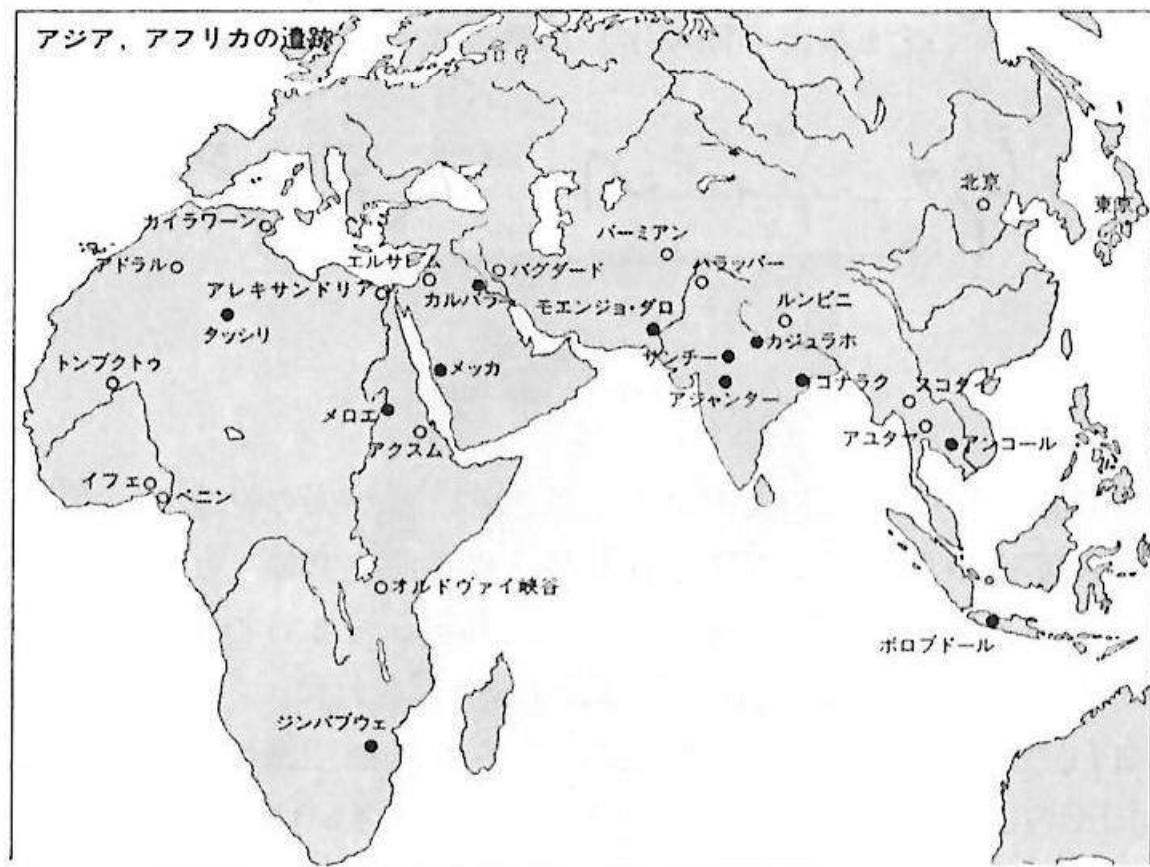
ウガヤ第30代マロセノオ天皇

マロセノオ
円背之男天皇の皇后は、第26代天皇の曾孫カカス姫。妃はムラサキ姫尊のほか2名あり、富山皇太神宮で即位された。

即位50年12月29日から万国巡幸。インド（天竺）のストラに天降り、五色人38名が、天皇御前に参朝して拝礼、天皇は彼らを王に命じた。

天皇はアフリ国（アフリカ）のキネボマに天降った。5000名が集り来て、大樂を奏した。黒人王国は繁栄して大いに歓迎をした。

即位51年4月13日、日向の大崎港に帰り、霧島山大宮に臨幸、仙洞とされた。即位80年1月13日能登高国山を仙洞とし、石南葉・松の種・天ンモド・カシウを飲むよう定め、即位126年1月13日讓位、2年後の12月13日163才でカミサリ、高クニ山に葬る。



ウガヤ第31代タチバナ媛天皇

タチバナ

橘姫女皇は、29代天皇の皇孫エナカクスオ尊を、夫の世幸男とし、73才に富山皇太神宮の前殿で即位、夫は女皇よりも一段下座につく。

即位7年6月15日、万国巡幸。オイストラリ国ノルマン港に天降り、五色人王のメルボルン氏・フリスペイン氏・ギベン氏・メリパロ氏・クハンブトン氏などが拝礼、ミツギ物をささげた。

翌年10月28日、奇日根（大隅）の神田港から帰国、日向の高千穂大宮を、仙洞とされた。即位50年1月8日、富山皇太神宮を昔通り建てかえ、即位61年2月15日、天皇自ら祭主で、大遷宮祭をされ、能登の宝達山大宮を仙洞とされた。

即位106年4月17日、60才の皇女ハナエリ姫に譲位、2年後の2月28日、181才でカミサリ、宝達山に葬る。タチバナ媛天皇の作られた51音字のうち（アヒル草書の簡略字）は次のとおり。

（ア　）イ　（ウ　）エ　（オ

ウガヤ第32代ハナエリ媛天皇

ハナエリ

花撰姫天皇は、第30代天皇の皇孫フツクエ彦が夫の世幸男。女皇は60才に富山皇太神宮で即位されたが、皇女清之宮姫・カマオリ姫・菅野常世尊・炊姫の1男3女あり。即位31年5月2日、大臣2名と臣327名の、婦人をつれ大ゼイで、万国巡幸をされた。

ヨイロパ国、アジメリコのフルツサ港に、数台の航空機で天降られた。各国王のロマニア氏（ルーマニア）・オイストリ氏・セルウ氏（セルビア）・トイツ氏、スウス氏（イス）・ラス氏（フランス）・イスパニ氏（イスパニア）・イギリ氏（イギリス）・ロシイ氏（ロシア？）・ウエエ氏・ベルシ氏・アフガ氏・アラビハイル氏（アラビア）・アフリ（アフリカ）ヌビア氏・コンゴ氏・ギニア氏、

天竺ナグブル氏（インド）・イダナ（シナ）大理氏・カルシ氏、そのほか、13000名が、女皇の前に参朝して、大樂舞歌を奏す。これまさに世界平和の聖代。中洋と西洋に、各国の文化がおこった。

即位61年7月10日、万国の王は、女王と定め、日本の枝国の万国王は、平和のため、この時から女王に定められた。即位102年10月6日、富山の生千の水門（港）から神通川舟にのりかえ、ふじい宮から、ハツ王大宮を仙洞とし、富山の平城、鶴力城を仙洞とされた。

即位137年1月5日、皇女に譲位され、2月24日、196才でカミサリ、フジイ山の根塚に葬る。

平和のため外国王は女王

女は家庭第一、戦争を好まず、女天下は平和のキメ手になる。

神道は道徳で、宗教ではない。一夫一婦制は、女の定めた道徳。

- ①家庭農園で豊かに生産。
- ②年中セックスを楽しみ。 }
③夫婦共同でコドモ愛育。 } 二大本能の満足で文化が起る。

ガンジス川の女神像



ウガヤ第33代スガノミヤ姫天皇

スガノミヤ
清之宮天皇は、第30代天皇の皇孫、カンタマ、クニヒカリ尊を、世幸男に迎え、富山で即位、3皇子と2皇女を産まれた。

即位41年11月17日、天下のアマツ高御座は、天神各代の歴代の神を、親しく祭る玉座と定め、世幸男以下のすわる席順は、5級として、万国五色人王は女王と定む。天皇即位百年1月6日に、皇祖皇太神宮の分霊を、宮中で親祭を定め、歴代の天皇ならびに、五色人祖49大神、五色人王の代々の神靈を合せまつる。

即位51年2月1日から万国巡行、シナの天津に天降り、この地に天神を親しく祭られた。この時からテンシン（天津）という。

トコヨ国（アメリカ）を巡幸され、南米メキシコのモントレーから、天空浮舟に乗られ、摂津の住吉港に帰り、ヨイサカ（大阪）を仙洞とした。後にオイサカのスミノイの坂という。女皇は馬術の達人で、女帝の馬を、姫馬のセヒメといい、乗馬術の神という。播州のヒミジ（姫路）を仙洞とされた。即位122年9月10日譲位、3年後の2月24日、174才でカミサリ、姫路に葬る。

ウガヤ第34代ヤチオカメノオ天皇

ヤチオカメノオ
八千尾亀之男天皇の皇后は、第32代天皇の皇女カシキ姫尊で、言待姫のほか3名が、妃となる。児屋寒川ミコト・太玉ミコト・思兼トハシミコトの三大臣は、天皇の御前に進み、8拍手、16拍手、160拍手をして、富山皇太神宮にて、64才で即位された。即位7年4月22日に万国巡行。南米のアルベンチ（アルゼンチン）に臨幸、即位50年11月2日、サンチャゴ（今のロス市）から帰国し、（豊後）大分のキミスミ山宮に、天空浮舟に乗って臨幸、仙洞とされた。即位53年7月28日、建日別（サツマ）の朝日岳大宮に臨幸、仙洞とされた。

即位119年元旦、天職天皇の3剣と・神代モジ51字の70余種と・

3種の神器・神骨像石の神体・七モロギ立瓶19個・日章菊形石1個・神鏡2面・16菊紋(白金製)4個・天マウラ白金剣1振・黒鉄剣3・神体78体・神代文字大巻32本・貴く遠く神秘の秘伝術を、神代モジで伝えきた、天国天下1人の天皇の御宝を全部、神明皇祖太神宮の神主家に、子々孫々に伝えるため、秘蔵方法を命じ、神主は必ず世襲のことを定め、全部の神躰・神宝を、常に神明ホド宮ミド宮の、皇祖皇太神宮に納め祭り、毎日、38神社の神躰・神宝を祭るよう定め、天照日神と、日向津姫(天照女神)の神勅の定め通り譲位され、6年後の12月6日、189才でカミサリ、大分御宝山の朝日山に葬る。

第34代ヤチオ老天皇は、老皇太女の第35代に譲位のとき、変る世界に対し日本国の未来を考え、神宝の護持を、竹内家に命じられたと拝察する。シナとヨーロッパに独自の文化が起り、皇道を守らぬキザシが見え、天皇はアフリカ・アメリカの黒人の農民指導につとめられた。

ウガヤ第35代ハナ媛天皇

花媛天皇の世幸男はいまさず、72才のときに富山で即位された。即位11年1月5日、肥後のタラダケ山大宮の仙洞に住み、即位56年11月13日、富山の鶴ヶ城を仙洞とされた。即位103年4月6日、弟の若照彦に譲位、111年8月26日、183才でカミサリ、呉服アンネン廟に葬る。

ウガヤ第36代ワカテル彦天皇

若照彦天皇の皇后は、第33代天皇の皇子七瀬彦尊の三女、アカサエ姫尊。妃は、富士の端山姫・ウカイのイラツメ・千賀浦姫ほか5名で、富山皇太神宮で即位された。

即位41年10月14日に万国巡行、シナ国の常徳に天降り、地能氏が参朝して、イダクニ（枝国）シナの王に任命された。地能は改名して地皇という。（天皇に対し地皇）

即位53年7月8日、欧州を巡行、イスパア（イスパニア）の、リスボン港から、肥後の阿蘇山大宮に帰られ、チホ宮を仙洞とされた。

上毛国の赤城の宮城宮に臨幸、仙洞とされ、即位139年1月26日、天職を皇太子松照彦に譲位、翌年12月9日、196才でカミサリ、赤城根に葬る。

ウガヤ第37代マツテル彦天皇

マツテル

松照彦天皇の皇后は、第33代天皇の曾孫、菊媛尊の王女のイトヨリ姫。ヤチ姫ほか5名を妃とす。天皇は富山皇太神宮で即位天空浮舟（航空機）を多数つくらせた。

皇女をミヨイ姫と命名して、ミヨイ国王に任じ、皇子をタミアラ大彦と命名、タミアラ国王とす。

〔註〕タミアラ・ミヨイ国は、水没した大陸の高地が島となって残存、この集落地を皇子・皇女に統治させた。

即位37年11月11日から万国巡幸、天空浮舟（ゼット機）26隻を新造、南アメリカのラパスに天降られた。天皇の前に、五色人王のロサリオ氏・ラブラタ氏ほか、19人の王が参朝するほか、官人（役人）3800名が集って来て、拝礼をした。天皇は3名を王に任じ、飛行場や石造の神殿などを建造させた。（今から約6800年前）

即位73年2月10日から、ヨーロッパ巡行、ロシアフ国（リガ港）から帰国、奥州の戸来山宮に臨幸、仙洞とされた。

即位137年9月29日譲位、12年後、202才でカミサリ五戸に葬る。代々の天皇は必ず富山神宮に合せ祭る。

ウガヤ第38代アマツフトノリコ天皇

アマツフトノリコ 天津太祝詞子天皇の皇后は、第36代天皇の皇女、ハオリナガ姫で、皇祖天照日大神宮の前殿で即位。

天皇即位20年1月6日万国巡幸、アメリカをまわり、北米のハゼルトンから、31年に帰国。12月2日、野道路彦（上毛）のサホクニチヨ山宮を、仙洞とされた。

即位106年2月1日譲位、7年後の4月3日、187才でカミサリ、榛名山に葬り、神明神として祭る。後にシンと名づける。

ウガヤ第39代カンタライタラシ彦天皇

カンタライタラシ 神足伊足彦天皇の皇后は、第36代天皇の皇孫、ナツ姫尊。12名を妃とし、富山神明皇祖皇太神宮で即位され、官人の妻に花冠を着せ、平民の妻は綿帽子を着せることに定め、平民の各自の祖先と天神地祇の神とを合せ、共に毎月の祭日を定めて、祭典をされた。

天皇は「子孫の富み栄えるため、必ず毎年、富山の皇祖皇太神宮に参拝せよ。子孫の長寿と富貴、安産で子を養う守りなり。不老不死長寿の石南薬を飲むべし」と仰せられた。

天皇は、日向津姫とスサノオ尊の故事を、一同に詔され、即位2年6月18日、自ら祭主として、再び中祖の日向津姫尊を祭られた。

即位30年9月1日から万国巡幸、天皇は天空浮舟に乗り、天竺（インド）のカリカル（カルカッタ？）に天降り、即位50年1月28日 外地（イダヌ）のシカエ国オラ港から帰り、奥州の陸前サオ山宮に臨幸、仙洞とされた。

即位100年5月18日、磐城国の三代山に、富山神明の皇太神宮の分霊を祭られた。この時から、三代明神を改め三代山の明神という。

天皇即位168年11月3日に譲位、3年後の5月10日、183才でカミサリ、サオ山宮に葬る。

ウガヤ第40代カンタテ媛天皇

神楯媛天皇は、第36代天皇の皇孫、カンヤカタノ尊を、世幸男ミコトとし、富山の皇祖皇太神宮で、即位大礼祭をされた。即位11年1月6日、先皇と同じく、天照日向津媛天皇の、岩屋かくれの由来を記され、神通川の東、フシイの里の行宮に住みたまう所を、トミヤマ（富山）ヤオヨロズという。五百官人をはじめ、八百万の多くの臣は、父の山（立山）に、ニワトリをつれて登り、父の山の高天原、祭礼の川原に官人たちは大樂を奏し、女帝の出御を祈る。

ウズメ（官女）は、日文の歌で舞い、熊笹を持ち根の國のソコ釜から出る、黒火の光る火湯（熱湯）で、探湯の花を、16方位に降りふらし、はねまわす。五百官人・八百万の朝臣たちは、拍手して大いに笑う。

この時、禍神・禍の万獸・害する厄病神を、くくりに、くくりてつなぎおく。雨風にさらした所を、ガキ原、チクショウ原という。

天之安川原を祭礼の川原といい、後にサイの川原という。父の山の左右の岩戸を引取り、手力男ミコトが左右の岩戸をステ置く所をモロ戸という。

即位101年6月26日、天皇は自身より上の神々を、大臣思兼ミコト・竹彦ミコト・神明皇祖皇太神宮の神主・岩戸別富士明神・神明高原彦ミコト・五百石明神など、それぞれ同時刻に、御神靈をおまつりした。

女皇は、皇祖皇太神宮の神主、別の30柱社、5所社の神主とすることを、日向津姫天皇の神勅で、必ず守り祭るよう詔せられ、伊豆の天城山宮に臨幸された。

即位128年4月5日、皇太子に譲位、5年後の2月10日 171才にカミサリ、天城山に葬る。（このころエジプト天文学進む）

ウガヤ第41代カンタテ ヒロハタ ヤソタラシ彦天皇

ヒロハタ カンタテ ヤソタラシ
神楯広幡八十足彦天皇の皇后は、第36代天皇の皇女、トミヨリ姫尊タキチ姫とキシベノ即女イラツメを妃とし、富山皇太神宮で即位。皇子タミアラ大彦尊を、タミアラ国守に任せ皇女ミヨイ大道媛を、ミヨイ国守に任せた。

即位38年12月16日 万国巡幸。ヨモツロパ（ヨーロッパ）国の、イタリ国ナポリ港に天降った。

天皇は白の羽衣に16菊紋、日の丸の旗を建てた。天皇大前に、五色人王の男と女、37名が拝礼した。同所をナボという。

天皇即位60年1月29日、オイスラー（オーストラリヤ）国のメルボルン港から帰り速日別（熊本）肥後の菊地、「皇子ミコトの山」を仙洞とされた。

即位101年2月15日 出雲別（出雲）大の木山大宮を仙洞とし、さらに三瓶山大宮を仙洞とされた。

105年元旦に、鶴舞姫尊に譲位。富山の皇祖皇太神宮で即位させ、2年後の2月23日、183才でカミサリ、三瓶山（ミスズヤマ）に葬る。

エジプトは、災害も一応落着、今から6214年前（B.C.4236）すでに365日の太陽暦法をもちいた。

エジプト暦は、月30日で、黄道（太陽）12星座の12カ月とした。

日本暦の通り、立10日・円10日・コモリ10日の上旬・中旬・下旬の36旬360日とし、年末に5日の間（ウルウ）日をおき、円周360度の高さ、重さ、長さを、科学的に計算、絵モジと50音の象形モジを用い、建築・数学も進んだ。エジプト暦は、3998年間も、同じ暦法をつづけた。西洋文化はすすみ、天皇の皇子は、ユダヤ系の王とし、ウル第1王朝を建国された。

ウガヤ第42代ツルマイヒメ天皇

ツルマイヒメ
鶴舞姫天皇は、第41代天皇の皇孫、ヒコタマオ皇子を夫の世幸男に迎えた。3年後に世幸男はカミサリ、夫の弟、マコタラシ タマワケ皇子を世幸男に立て、富山皇太神宮で即位された。（今から6125年前）

世界文化の向上に万国の^{ミツトゾン}王民に、神代モジのアサヒル（アヒル）文字と草文字（草書体）・紙造り・墨造り・竹筆作りの教官を養成訓練。

即位58年11月16日 豊彦幸ミコト・天文万国言知ミコトなど、64名をヨーロッパに派遣された。国の政治（マツリゴト）教育のため、天空浮舟（航空機）で大海の空を飛ぶ船を造らせ、それに乗る教官を任命。教官たちは天文航法で万国を巡幸した。

オリエントは、縄文語の大理笑産答^{オリエント}で、理学を教え産む多義語。

ユーフラテス河流域に、女皇の派遣した7賢人上陸伝説が残る。

メンポタニアは、女祖穂他丹初の多義語らしい。

6000年前ころ、アラビヤに天降った教官のうち7人は、舟で舟着場のエリドウに上陸した。当時のユーフラテス河は、美しい清流に明るい太陽は輝いていた。採集暮しのハダカの女たちは、水辺の集団暮しで、飼犬の姿も見えた。教官は、上陸地近くに穀物のタネをまき試作した。沃土と陽光で、ムギ類はよく実った。

未開地の男は狩猟生活、女は採集と育児で定住。男女は分れて集団生活をしていた。若い教官は高貴で、女たちの人気を集め、タネマキやトライレを手伝い、麦作りはウル方面に広がり、狩猟採集暮しは農作に変る。

教官は、木製のスキを作り、農法と共に、持参した紙・筆・スミで、モジを教えた。筆記具の補足として、川の沖積土の粘度を、やわらかく固めた平板に、芦のクキで、クサビ形モジを書き太陽に干し硬質の書料ができた。

女皇即位 103年10月29日、ヨーロッパを指導した教官は、ロマニア国（ルーマニア）のフカレストから、建依別（土佐）仁西港に帰るとスグ、女皇の住むハク光山の大宮に参朝して、詳しく報告した。

女皇は大いに喜こばれ、ハク光を靈光と改められ、即位 106年7月5日譲位。3年後の8月8日、176才でカミサリ、雪光山に葬り、光知姫神として祭った。

ウガヤ第43代トヨタラシオーミナカ天皇

トヨタラシオーミナカ
 豊足大御中天皇の皇后は、第41代天皇の皇孫 ワカタマイスギノ姫尊。富山皇祖皇太神宮前殿で即位。天皇即位33年5月3日、万国巡行、即位39年3月25日、北アメリカをまわり、メキシコのウレスから、琉球に渡られた。それより穴門根別(山口県)長門の栗野港に帰られ、天ノアゴイ山の大宮を仙洞とされた。後に天乞山という。

即位76年2月6日譲位、同年12月30日に133才でカミサリ、アゴイ山に葬り、代々の天皇の神靈と共に富山皇祖皇太神宮に、合祭された。

バイキング北欧狩猟民海賊

ヨーロッパの北海・バルト海域に、狩猟民族のバイキングが起る。

北欧は暖流のため、デンマークはカムチャッカと同位置だが、北極の移動後は、多数住みつき、水産で漁師は舟で各地に出かけた。

最初は穀物と魚の交易だが、年々人口増大、生活も向上し物資を集めうち、近辺と争い、武器が進むと、戦争は拡大、水路をたどり農耕民の略奪をはじめた。ポルガ河から黒海へ進み、アッシリア王国を建て、アリアン族はB.C.3000年にインド、スペインや北米にも達した。

狩猟民海賊はオリエントに進み、バビロンを占領、戦法は進み、同調者もふえ、農耕民を襲撃、騎馬民族の源流で天皇の神國をつぶす。

ウガヤ第44代オオカシキフキ天皇

オオカシキフキ
 大炊氣吹天皇は、富山で即位されたが、皇后や妃の記録なく、不老不死長寿薬の、石南茶を常にのむべしと詔され、即位7年2月15日、弟の皇子に譲位された。奇日根(大隅)の文球山宮に住み、188才の2月27日カミサリ、文球山に葬る。

ウガヤ第45代ソラツアラソイ カラス天皇

第44代天皇の御弟、空津争鳥天皇は、皇后を立てず、大臣・中臣倉谷ミコトなど、女官180名をつれて江尻宮を仙洞とし、神を祈らず、祭らず、不老薬の石南茶もせず、即位81年9月23日、神躰・神宝を次の皇弟に譲位、同年12月16日、127才でカミサリ、江尻山に葬る。

ウガヤ44代と45代は、異常な天皇史で、44代は弱い体質のため譲位と考えても、45代は天職をすて、江尻宮で遊び暮すなど、何か重大な理由が、あったらしい。エジプト・中洋・ヨーロッパも各国が独立し、中洋の商都ウルは、自由商業と物質文化で栄え、日本人は次々と移住、外國王の独立など、天皇無視が原因ではないか。

ウガヤ第46代カラスコトタリ スガオ天皇

カラスコトクリスガオ
鳥言足清男天皇は、第43代天皇の皇孫、トヨクシタマ媛尊。妃は依取姫ほか3名。天皇は富山皇祖皇太神宮で即位され、即位23年6月7日から万国巡行。中洋のオリエントと、エジプトを通りすぎ、アフリ国（アフリカ）チュニスのカベス港に、天空浮舟で天降られた。

五色人の王民37名が、天皇前に参朝して、ミツギ物をささげて拝礼、舞と歌で天皇を祈り祭った。同所をアルジリア（アルジェリア）という。

即位35年3月20日、南アメリカのアルベンチナ（アルゼンチン）のロサリオ川の港から帰られ、越前の高須山宮に臨幸、そこを仙洞とした。

即位65年2月16日、富山皇太神宮を全部つくりかえを詔され、105年3月1日に遷宮祭を、両陛下の祭主でおこない、不老不死長寿薬の石南茶をのむべしと勅語。

即位128年1月26日、富山の御皇城大宮で、大庭足媛に譲位。同年12月9日、191才でカミサリ、クレハノ宮に葬る。

ユダヤ建国はBC3761年

イスラエル・ユダヤ建国は、ウガヤ第46代天皇の末で、ユダヤ暦はBC3761年10月7日に始まる。

昭和53年は5736年目だが、ヘブライ民族の誕生は前16世紀とし、創生年だけを公表している。

ウガヤ第42代に、オリエント上陸の日本の教官は、ユーフラテス河上流ニップル市で学校を開き、クサビ字で教育。ウル政庁・ウルク市・エリドゥ市などで、日本人と土地の女の間に子が生れた。その1人がアブラハムらしい。彼はニップル学院出の秀才で、警察官の長となり、同胞の商業を守り、騎馬と船で、治安を固めていた。アブラハムは、祭政指導の根元はコヨミと知り、10月7日をユダヤ創世元年と定め、秋分に始まる暦法で、ニップルに天文台エンリル神殿を造り、天体星座を見て、月光の利用に便利な「純太陰暦」とし、高度なエジプト暦に合せて、3年目に閏日をおいた。

物質で栄えたオリエントも、暦法はエジプトに及ばず、475年間に種々の迷信が生れた。迷信の元祖はバビロンで、世界に広めた。

ウガヤ第47代オオニワ タラシヒメ天皇

オオニワタラシヒメ
大庭足媛女皇は、第44代天皇の皇子、サヤワケアシガキタラシ尊を世幸男とし、富山の皇祖皇太神宮で即位、天皇祭主で大祭礼。即位18年1月20日、万国巡幸。シナ西藏（チベット）托古札倫に天降られた。唐の王53名が拝礼した。アフリカをまわり、コンゴのミカンツから帰られ北海道の日高浦河港から、イトヨイ山宮に臨幸され、仙洞とされた。

即位103年1月21日に讓位、翌年の2月28日、197才でカミサリ、イトヨイ山に葬り、緑豊居山神に祭り、50年目に江尻山に分靈を祭る。

ウガヤ48代トヨツ カンタルワケ天皇

トヨツ カンタルワケ

豊津神足別天皇の皇后は、第46代天皇の皇女トヨスキ媛尊。妃にはコヨリ姫、松秀姫ほか3名を立つ。富山皇太神宮の前殿でご即位。秋津根（摂津）山城の宇賀山大宮を仙洞とされた。

即位33年5月3日、万国巡行。北アメリカのボストン港に天降られた。五色人の民王58名は、天皇の前に参朝して拝礼した。

即位37年7月5日、アジアの唐イダ（枝）国の大同に天降られ、唐王はミツギ物をささげて拝礼。

即位52年11月10日、豊日別（豊後）の久住宮に臨幸された。

即位86年2月6日譲位。3年後の4月19日、161才でカミサリ、九山疑山（クスミ山）に葬る。

エジプトは純太陽暦。ユダヤは太陰暦で天測、日本の太陰太陽暦を用いず、災害で弱った日本を無視して、王は、物質文化を誇り、専制政治で民衆をドレイとした。

天皇はシナ・アメリカ・アフリカなど、未開の奥地だけご巡行。

日本は金や白金、宝石などは堀りつくし、平野は段々水没。各国に移住する者多く、老体化した。

ウガヤ第49代トヨタル彦天皇

トヨタル

豊足彦天皇の皇后は、第46代天皇の皇孫トヨクシワカタマ媛尊。

沖姫と若品姫を妃とし、ツボネ（局）12人をおき、80才で富山皇太神宮で即位された。皇子5人と皇女1人は、皇太神宮の神主になられた。皇太神宮の下、赤池の魚類のうち、左眼がメクラの魚が住む。池の主は、白竜・五竜なり。（伝統の科学は衰え迷信おこる）

即位10年3月1日、万国巡幸。アジアのイルクック、キレンスクに天降られると五色人王31名が天皇に拝礼、群集5万人が樂を奏した。

即位21年11月15日、アフリ（アフリカ）のスイダン、タカより帰国され、

秋津根（摂津）山城の宇賀、伊吹山宮に臨幸、仙洞とされた。

即位80年3月1日、皇女に譲位、3年後の7月1日、167才でカミサリ、宇賀伊吹山の西山に葬り、日嗣居山と名づけ、後に神ヒエイ山といい、また改めてヒエイ峯の、日比（ヒエイ）山神に祭った。

ウガヤ第50代カンタラシワケクニオシノ姫天皇

カンカラシワケクニオシ
神足別国押之姫女帝は、第47代天皇の皇子、カサトリ彦尊を世率男（夫）に迎え、富山皇太神宮で即位され、皇女1人・皇子2人をお産みになった。

即位53年1月6日、富山皇太神宮、別祖太神宮の神殿661尺、前殿1261尺、5社ケン族の白龍明神・安彦守神・白狐（天皇の個人）75神（75人）・テンク天空（日本を守る8百万人）の万王神。千兆勝（億万人）神社の鳥居を造りかえ、天皇自ら祭主で、大遷宮をされた。のち、武藏海別（武藏国）所サワ宮（所沢）に臨幸して仙洞とされた。

女皇即位135年11月10日、第49代天皇の皇女の王子、国押別神足日皇子に譲位。16年後の即位151年10月10日、182才でカミサリ、所沢宮に葬り、足大塚の神にまつる。その所をサワ塚という。

エジプト第1王朝は栄え、ナイル川上流の狩獵民ナルメルは、第1王朝を武力でたおし、第2王朝に君臨した。

ウガヤ第51代クニオシワケ カンタラシ彦天皇

クニオシワケカンタラシ
国押別神足彦天皇は、第50代女皇の皇女、アメカツクニカツヒメを皇后とされ、第48代天皇の皇女の梅枝媛尊ほか5人が、妃となる。

不老不死長寿の石南茶を常に飲むべしと、神主家に伝う。天皇は、富山皇太神宮で即位された。皇太子アマツホノエタマ天津紅之枝玉尊は、穂積み磨きの米を精白する水車を造る。

即位50年2月18日、万国巡幸。アメリカをまわり、南アメリカのバラフバラ港から帰られ、即位78年2月27日、豊後の御越宮に臨幸、仙洞とされた。

即位81年3月6日、富山ニキヤの五百石宮に臨幸、仙洞となす。

即位103年7月27日、皇太子に譲位。15年後の即位118年1月17日、163才でカミサリ、五百石に葬る。天皇は遺言で「五百石神に祭れ」といわれた。

ウガヤ第52代アマツホノエタマ天皇

アマツホノエタマ

天津紅之枝玉天皇の皇后は、第49代天皇の皇女、ハシトミ媛尊。若足媛、48代天皇の皇女の幸媛、谷姫、桜玉姫、由布姫を嬪とされ、5皇子・5皇女が生まれた。

即位51年8月3日、万国巡幸。即位62年9月17日。ヨモツ国（ヨーロッパ）ドイツのブレイメン（ブレーメン？）から帰られ、豊日別（豊後）の久宮に臨幸して仙洞とされた。草木根別（紀伊）の大雲取山宮に臨幸、仙洞とされた。

即位89年12月10日に譲位。4年後の即位93年3月1日、138才でカミサリ、大雲取山に葬る。

このころエジプト第3王朝ジョセルは、階段式ピラミッドを造り、第4王朝の大ピラミッドの素地を開いた。

ウガヤ第53代アメヒラキ アカリシル クニツカ天皇

アメヒラキアカリシルクニツカ

天開明知國東天皇の皇后は、第49代天皇の皇女、ワカタカ媛尊。妃12名を立て、富山皇太神宮で即位は、約5130年前（B.C.3200年頃）

皇子22人は、万国ハセタキ^{カミ}頭となり、皇女16人は万国の平民に降下された。（ハセタキは駿建で、地方の国を統治する国主らしく、国令よ

りも上位。ウエツフミにはハセ（駛）イ（射）タケ（建）とある。日本は狭くなり、海外に発展のほかなく、万国の政治が主体となる。

即位8年9月6日から万国巡幸、シナの三姓から帰られると、天国（日本）吉道路彦（常陸）のカクシマ山宮を、仙洞とされた。

即位61年5月10日、枝国アヂチ（アジア）國の有巣氏に、国王を命じられた。即位101年9月19日、常陸カクシマのオワライ（大洗？）の港に臨幸、カクシマ大宮を仙洞とす。

即位146年11月10日、皇太子に譲位され、7年後の即位153年3月18日、191才でカミサリ、カクシマのアメツカ（天塚）に葬る。

万国史とエジプト史と比較

B C 3200年（今から5178年前）エジプト第1王朝は、天皇の指導で、皇子のメネスが、エジプト王国を建設した。ハセタキは、ウガヤ53代の皇子たちと考える。エジプトの黄金時代を迎えて、洪水期の農閑期を利用して、ピラミッド天文台が続々造られた。

ウガヤ54代タカマノハラ カカリトホル クニシル天皇

タカマノハラカカリトホルクニシル

高天原輝徹国知天皇は、玉柏媛尊を皇后に迎えられたが、早世されたので、第52代天皇の皇女、穂河媛尊を皇后に迎え、富山神明の皇祖皇太神宮で即位された。南太平洋の2大国の、タミアラ国王にはヒワタミ媛尊を、ミヨイ国王はヒハイレ彦ミコトをそれぞれ国王に任命した。

即位51年2月10日、万国巡幸。アヂチ（アジア）の唐ロシアのトムスクカインスクに天降られた。五色人王52名の民王と、5800名の民人が参朝して、ミツギ物をささげて拝礼、大楽を奏した。

即位100年6月26日、富山ニキヤの王津（オーツ）港に臨幸され、鶴ヶ城（ウサカ）を仙洞とす。

即位162年元旦、皇太子に譲位9年後の即位171年10月6日、201才で石室に入りカミサリ、神通川東のトメル山（富山）に葬る。

エジプト1万年史

ナイル河口デルタ地帯は、ウガヤ第4代の彗星落下まで、温暖な森林地帯で、石器で採取狩猟の生活。

旧北極の15°移転で、熱帯に急変。その1000年後の、ウガヤ第13代に民王の、カイロが日本へ来て、日本とシナの文化国に感動。メンフィスの首都で文化をおこす。

BC7036年、第2回大洪水で衰えたが、南ヨーロッパに中石器時代が始まり、西に広がる。5000余年前、ウガヤ朝53代の皇子は、エジプト太陽暦を作り、ナイル川デルタ地帯に、農業文化を起した。洪水期の6月から9月の農閑期に石造建築をおこない、天文台ピラミッドを築造、文明は急に進展、運河を造る。オリエントも運河を造った。天皇は、古代エジプト字を、指導され、数学なども高度に発達。

エジプト第1王朝は、5178年前（BC3200年）メネス皇子が建国。

オリエントのウル第1王朝でも、皇子は農と商の自由国家とした。

北欧の狩猟民は、武力で近国をおさえ、段々強くなり、オリエントへ侵入、ウル第2王朝に君臨した。上エジプトの狩猟民も、エジプト第1王朝をたおし、第2王朝のメンフィス（ティニス）と、上エジプトのヒエラコン市の神殿とをつくり、ヌビアへ外征した。

第3王朝は、再び天皇がみちびかれ、サッカラの階段式ピラミッドを建設、第4王朝に屈折形と、世界最大のギザのピラミッドなども、建造した。

第5王朝は、太陽神のラー信仰をはじめた。ウガヤ第57代の4539年前（BC2561年）に、第3回旧北極氷解のノア大洪水で、おとろえた。

エジプト第6王朝（BC2181年）は、ピラミッドの建設もできず、第7王朝から第10王朝まで衰えた。

BC2040年にナイル上流のエチオピア黒人が再び占領。BC1191年、セントウェスト3世はヌビアへ出兵、74年後（3095年前のウガヤ第69代）に第4回大洪水。エジプト第14王朝に、遊牧民ヒクソス（戦車と馬で戦う混合軍）侵入BC1675年から百年支配、BC1500年に「王国の谷」を造る。第17王朝でテーベは反抗。第18王朝でアアフィス1世はヒクソクを追放、3世のトトメス王の黄金時代を迎えた。アメノフィス皇子は4世をつぐ（詳細はウガヤ64代

の桃太郎皇子の項を参照)

第5回の最終洪水は、2837年前（BC859年）で、エジプト25王朝は衰えた。BC751年～656年は、狩獵民の黒人が支配した。

第26王朝はリビヤのプサンメティコス1世が占領、メロエに遷都。第27王朝はペルシヤが支配した。

BC332年アレキサンダー王が、エジプトを占領。BC31年にローマ帝国に支配された。西暦641年、アラブ回教が支配、さらにオスマントルコが支配。西暦1798年にナポレオンが遠征、ロゼッタ石を発見、エジプト学が始まる。

スエズ運河は1869年に完成、イギリスが支配。

ナセル中佐は1954年に大統領となり、スエズ動乱エジプト人は数千年間、悲運の血涙を流しつづける。

ウガヤ第55代アマツタマカシワ彦天皇

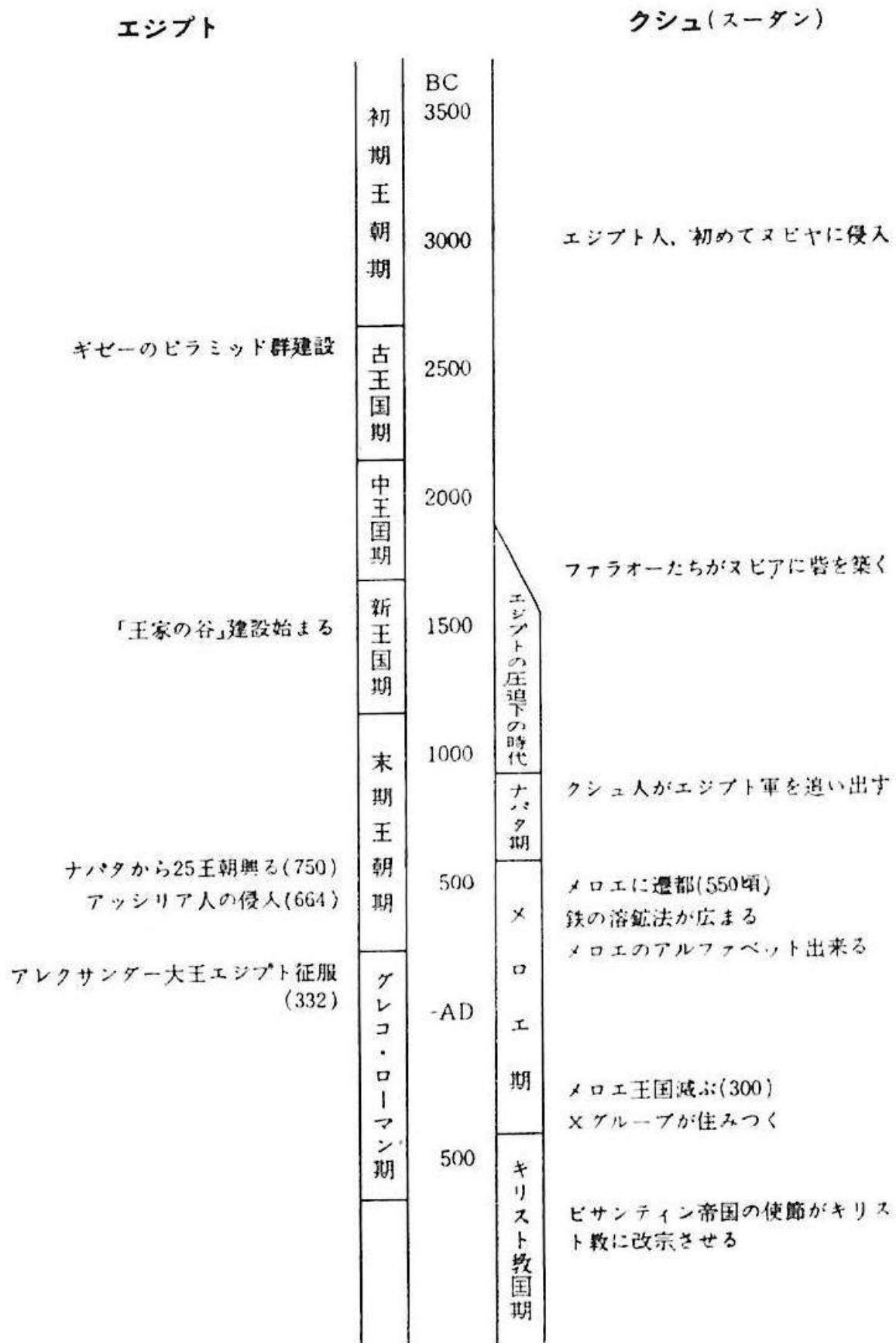
アマツタマカシワ

天津玉柏彦天皇の皇后は、53代天皇の皇女、クミヨリ（久米依）姫尊。神明のホド宮ミド宮～皇祖皇太神宮で即位。皇后から皇太子のほか、1皇子・1皇女ご誕生。

即位17年8月28日に万国巡行。北アメリカのモンテリ港から還幸、即位46年7月20日、丹後のミナト（湊）の宮に臨幸され、丹波の天野ニヰ宮を仙洞とされた。

即位143年3月21日、皇太子に譲位。7年後の即位150年2月19日、191才でカミサリ園部に葬る。

(関連年表) 第1王朝 (BC3200) メネス王建国

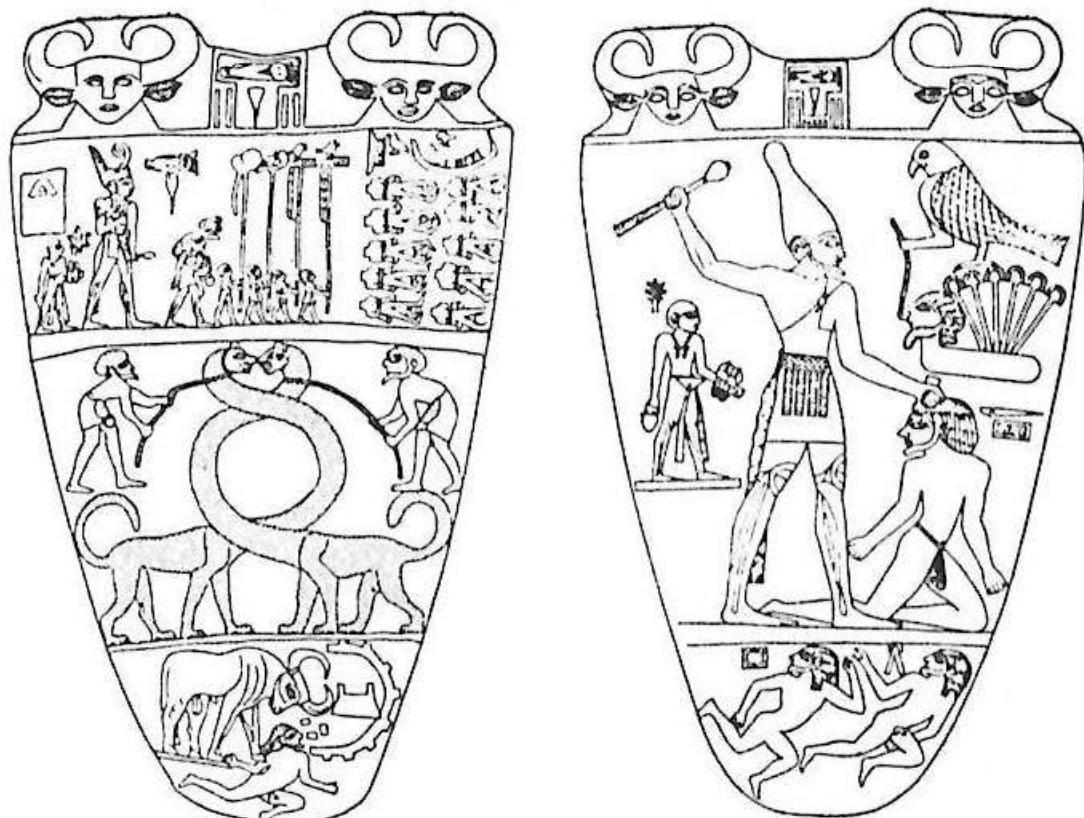


竹内文献の、ウガヤ第55代讓位年は、神武天皇前5171年とあるのは、功労年を加算したものである。実数は神武ヤマト即位前2187年で、今から4679年前（B.C.2701年）。

エジプトは今から5000年前ころに運河を造った。オリエントのウルク市でも、運河は四通八達、自由商業で物は豊かになった。実力者のユダヤ人は、ユーフラテス上流バビロンの都に、パペル塔を建設。

北欧の狩猟民のアッカドは、アッシリア国に君臨、バビロンに侵入、ウル王宮の占領をたくらむ。

エジプト第2王朝は、上エジプト王ナルメルの狩猟民国家。ヒエラコン市の神殿で発見の、パレットには、右手に棍棒、左手で捕虜の髪をつかみ、タカの守護神やヒョウの顔など、狩猟民王がチュニスから、メンフィスに入城、上下エジプトを統合、第2王朝に君臨、30年後ノア大洪水で亡ぶ。



ナルメル王の化粧板の表（左）と裏（右）

ウガヤ第56代アマツ ナルセノオ天皇

アマツ ナルセノオ
天津成瀬男天皇の皇后は、第53代天皇の皇孫、ナルセトヨ媛尊。

富山神明・皇祖皇太神宮の前殿で、大楽を奏し五色人王64名が参列し、即位大礼祭で、5000名の民は大いに舞い歌った。五色人王の参列は、上皇の万国巡行の答礼をかね、皇太子の即位大礼式のため、それぞれミツギの宝物を船につんで来日した。

〔註〕 七福神の宝船の伝説は、五色人来日の図で、ペルシヤ・インド・シナ人など、毎年、貢物をささげて、日本に来たこと教えている。

天皇即位32年12月9日 万国巡行。天皇は羽衣（羽織りの着物）をきて、天空浮舟（航空機）に、16菊形の紋章をつけて、オリエントに巡幸。ユダヤ民王に「ウル第1王朝」として、国王に任命した。

エジプトでは、メネスに「エジプト第1王朝」の国王を命じた。

天皇は、即位50年5月5日、アフリ（アフリカ）スイタン国イバダに天降られた。バリ氏・マオ氏・マセナ氏が参朝して、ミツギ物をささげて拝礼。民人3000名が大楽で舞い歌った。天皇は、それぞれの国王に命じられた。即位81年4月20日、オイスト国（オーストラリア）のダイビ港から天国（日本）富山ニイヤのイクジ（生地）港に帰られ、3日間居られた所を三日イチといい、ニイヤ大神宮を仙洞とし、さらに高岡の守山宮を仙洞とされた。

天皇は、即位120年9月30日、皇太子に譲位。翌年3月20日、169才でカミサリ、アンネホに葬る。

狩猟民族アッシリヤ（アーリヤ人）のエンシはバビロンからウルに、遊牧民族エラムと共に侵入、建国50年のウル王宮を占領、「ウル」第2王朝に君臨。16菊紋をまねて作り美女を集め酒池肉林の悪逆をおこない、農民をギセイに強い者勝ちで各地に土地の奪いあいが起った。

ユダヤ人アブラハムは、妻妾と天幕をたづさえ、牛や羊をつれてパレスチナに逃れ、エジプトにも出かけ、カナンの地に永住。息子イサクの嫁はウルから迎え、ユダヤ民族の長に育て、エルサレルの南40キロのヘブロンで死んだ。

ウガヤ第57代アマツテルオノオ天皇

アマツテルオノオ
天津照雄之男天皇の皇后は、第53代天皇の皇孫タムラヌシテル媛尊。富山皇太神宮で即位。妃の思兼日ラク姫、神竹内姫ほか、ツボネ（局）を12名立てられた。即位21年4月、天地大変、土の海となり、五色人全部死す。ナンムモ・アミン。

ナダレ 第3回旧北極氷柱の大雪崩

ウガヤ第4代に彗星落下で、アトランチス大陸水没、第18代に旧北極2度目の大ナダレで、ムー大陸水没、3度目の大雪崩は、第57代の即位21年（BC2561年）の有名な「ノア大洪水」大地変発生。彗星激突5949年後で、ウル第2王朝も30年間で亡び、世界の港湾は全部水没した。

第57代天皇即位31年1月6日、天皇は富山大神宮の神殿661尺、前殿1261尺を造りかえ、境内の赤池白竜神・安産守り神・千兆勝神・白人個王75神・天空王神の社殿、鳥居を造りかえて大遷宮の大祭礼を、両陛下の祭主で祈祭された。

翌年2月26日から、万国巡行。ヨーロッパのロマニア（ルーマニア）のハロラツから、アジアのシナ、奉天に天降られた。

天皇の大前に、伏羲氏と神農氏が参朝して、ミツギ物をささげ奉り、拝礼をした所を、奉天城と、名づけられた。

即位111年7月28日、天国の道路奥（奥州）の磐城、神籠石（釜石）夏井港から、アカヰ山の大宮に臨幸して、仙洞とされた。

大洪水のあと、世界中の人心は悪化した。日本では大臣の思兼クラカケノオ命と、大雷先タテヒコミコトが、鬼賊37名を討ち殺させた所を鬼ヶ城という。

即位131年10月13日譲位。2年後の7月30日、183才でカミサリ、アカヰの水石山に葬る。臣18名を神山の下のヨコ山に葬る。二大臣を葬る所を、ヤ大臣山という。

ウル第2王朝は、大洪水で全滅した。カナンのアブラハムの子イサクは、伝承した大洪水を察し、大型船を造り、一族70人は高地に避難して助かる。

大洪水の発生は、神のタタリと恐れ、狩猟民に種々の迷信起る。

イサクの子ヤコブは、クサビ字で太古伝承を書残した。4100年前頃ウル第3ナム王朝ができ、人口は50万をこえ、ウル市街に高さ50mのバベルの塔を造る。第3王朝は、110年間、集権国家として栄え、度量衡を統一、クサビ形モジで法典を作った。

エジプト第3王朝も、この前後に始まる。サッカラの階段式ピラミッドは、王朝2代目のジュセル王が造った。



スーダンのメロエのくずれたピラミッド。製鉄が盛なクシュ帝国の都。

ウガヤ第58代ミナカヌシサキタマ天皇

ミナカヌシサキタマ
御中主幸玉天皇の皇后は、第55代天皇の皇孫、クミテル（久米照）媛尊。中宮2名と、妃12名を立て、富山皇祖皇太神宮で即位された。皇子37名は、万国の王に任せられ、外国へ行き、皇女43人のミコトも、王に任じられ外国へ行く。

天皇・皇后の一夫一婦は、日本の伝統した原則だが、万国政治に必要で、12妃を立て、皇子・皇女を外国に派遣、文化を指導された。

即位51年3月15日、富山太神宮の神殿と前殿、境内の神社を造りかえ、大遷宮祭をおこない、祭主の天皇・皇后自ら祈り祭る、大祭礼をされた。万国の五色人王44名があつまり、アヂチ（アジア）の唐から、シナの伏儀氏と神農氏がきて、ミツギモノをささげて拝礼した。

伏儀と神農は、伏氏の港（伏木港）に住み、36年目にアヂチの天津に帰った所をテンジン（天津）という。この時、易学（八卦）と、薬学医術を、学んで帰った。

即位62年3月25日、遠津海（遠州）駿河のフロジ山大宮に臨幸、仙洞とされた所を富士山と命名。

即位80年2月27日、不老不死長寿の石南茶をのむべしと勅語。

即位82年11月2日、第5皇子の天地明玉主照ミコトに譲位。3年目の85年4月、191才でカミサリ、富士山に葬り、富貴の神に祭った所を富講、また富士山という。

〔註〕バイキングの故郷、北欧も一夫一婦制。

スカンジナビヤ・デンマークから出征。黒海カスピ海や地中海、スペインや遠くアメリカにも交流。植民地を各地につくる。記念碑は男根型。アルハベットは16字で、各種文章を書く。

ウガヤ59代アメツチ アカリタマ ヌシテル天皇

アメツチアカリタマヌシテル

天地明玉主照天皇は27才で即位、皇后は第56代天皇の皇孫、イタマ媛尊。太玉日向媛尊・成瀬フラムチ媛尊ほか10名を妃とされ、富山で即位大祭礼をされた。

皇后から皇子4人出生、ほかに皇女21人誕生。皇妃から皇女4人と皇子13人誕生。皇子・皇女は、万国の各王に任せられた。

即位63年2月15日、富山皇太神宮に天皇・皇后・皇太女(皇太后)が挙式のとき、天皇に天照日神の神勅があり、皇后に日向津媛(天照女神)の神勅で、天下万国の五色人王の天皇は1人なり。即位大礼式には、皇后宮や世幸男は、一段下座で南面、天皇に向って右下座の定めを、かたくまもれよ。南面の天皇の高御座の左に、皇祖の御神体・三劍・神骨像神体・歴代の皇靈・神宝歴史卷物32本・ヒモロギ立瓶2面鏡の座を、定めた通りにせよ。ちがうと天皇の代はアブナクナルゾ。と神勅あり。おもや(棟梁)は天下は天皇一人、無極末代まで守護するぞ。と神勅があった。

世界再統一の御神勅

ウガヤ第59代天皇即位92年1月6日、日向津媛天皇の神靈神勅。

翌年11月3日、日向津彦スサノオ尊の神靈が、皇后に神がかり神勅があり、「今より先きの代まで天皇氏がいて、統一する時が来るぞ、(中略)天国天皇の神宝を伝承の神主の左の股に、万国地図紋をもって生る代こそ、五色人再統一、天国天皇神人大統領の神主。先代の天皇と神主に必ずソムクナヨ、ソムクと天罰で死に、ツブレルゾ、マケルゾ、ナヤムゾ……」

神がかり神勅を聞いて、文にて伝う。天下一の像形仮名モジで、コトバの通り文するよう堅く守れ。

天照クシトヨ姫尊(60代天皇)のほか10名連書。このほか皇子41名尊、立会人の聞取る人が文とし、皇祖皇太神宮神体卷に納め祭る。大秘蔵の神宝卷。(神皇御記録の傍証第1巻113ページ)より転載。〔註〕神勅は、以心伝心の正夢?

皇祖皇太神宮の神躰・神宝を拝し、祭礼せよとの神勅を、天皇は詔せられ、官位の階級を定めた。

カムコ
神主・大マオシ・小マオシ・大臣・小臣・國令・内宿弥・外宿弥・
ホリネ オーオミ オーミ クズジリ ウツネ トツネ
侍従・太夫・舎人・御士タケリ(丈)・郡司・郷司・隊長・使士・村
ホリネ ヤツコ トモゴ オタコ クズコ サトコ ヤレコ オムト ムレ
長を、勅命で定められた。

即位 103 年 1 月 28 日から万国を巡行され、神勅を教え、天皇と同じ形式にすることを、堅く禁止の、神勅を教えられた。五色人王は、おそれ入って平伏した。シナ・インド・オリエント・エジプトなど、国運の隆盛を誇った。天皇は、マネル王をいましめた。

天竺(インド)のヒナレス尊者をはじめ、68名の王など、8千名が参朝、ミツギ物をささげ奉り、拝礼をした。

天皇は、インドから万国を巡幸して、即位 117 年 12 月 23 日、道路奥陸奥(奥州)エボシ山宮に臨幸され、富山の中湊の宮に臨幸、仙洞とした。

即位 137 年 9 月 7 日、皇女の天照クシトヨ媛尊に譲位、4 年後の 7 月 7 日、168 才でカミサリ、二神山に葬り、天地主の、二大神宮に祭られた。

ウガヤ第57代のノア大洪水のあと、海水位は、わずかながら毎年上昇、人々は不安におののく。

世界の低地にある港湾の飛行場は、7000 年間に順次水没。エジプトもピラミッドや、石造神殿の工事なども、すべて中断した。

B C 2040 年エジプトの第10王朝の都を、ナイル上流のエチオピア黒人が侵入、国家の統一は乱れ、地方の豪族が割拠する時代がつづく。B C 1991 年、第11王朝が復興、第12王朝のセントウェスト 3 世は、パレスチナやヌビヤへ出兵、金や銅を持帰り、シリア・クレタ島との交易などで栄えた。

ウガヤ第60代アマテル クシトヨ媛天皇

アマテルクシトヨ
天照櫛豊媛天皇は、第56代天皇の皇孫セヤサキタマオ尊を、世幸男として、富山神明皇太神宮で即位された。

即位41年12月16日から万国巡行、南アメリカのアルベンチ（アルゼンチン）の、フズル（ブエノスアイレス？）に、天降られた。

天皇の大前に、五色人王26名が参朝、ミツギ物をささげ奉り、拝礼した。天皇は国令を任命した。

即位131年、アフリ（アフリカ）キネアの、ビンダ港から、吉道路彦国（常陸）のオツに帰られ、シキタ郡のナリキ村に臨幸され、筑波山宮に臨幸して、遷都された。

即位135年2月15日、皇女に譲位、同年4月19日、156才にカミサリ、ナリキのさとにある。その所を後に大塚という。

ウガヤ第61代トヨタルヒアカリ媛天皇

トヨタルヒアカリヒメ
豊足日明媛天皇は、第58代天皇の皇子、クニオシカツノオ尊を世幸男とされ。富山の皇太神宮で、アマツ天御座で即位された。

即位45年6月13日から万国巡幸、即位88年3月15日、アジアのイルクックのキレンスクから、富山のウラ柿崎の港に帰られ、米山宮に臨幸。磐城（ハンノシロ）の河内、アリカウチ山の大宮に臨幸して、オマトノ海上に臨幸された。

即位106年6月23日、天皇は急に病気をされ、183才でカミサル。常陸カクシマの、高天原（飛行場）の外に葬り、その所を天皇塚という。

ウガヤ第62代アメノトヨタラシワケ彦天皇

アメノトヨタラシワケヒコ

天豊足別彦天皇の皇后は、第60代天皇の皇女、トヨワカヨリ媛尊。ツクラヲ媛、タテヨリタマ媛のほか、妃ツボネ（局）は12名。

第61代天皇がカミサルと、ただちに富山皇太神宮に参拝して、神勅によって、アマツ日ツギに即位された。

即位 103年1月6日、富山皇太神宮の本殿と前殿のほか、五社の宮を造りかえて大遷宮祭。天皇の祭主で、万国の五色人の民王500名、五色人民8000名で大楽舞歌、大いにニギワウ。

御皇城山大宮の北方の空に、大楽舞の形があらわれた。五色人王たちは、ひれ伏して拝した。

皇子・皇女の31名は、万国および北の国の平民に降られ、326名を諸官に任じられた。天皇は、神主になる皇子・皇女を定められた。

富山・一の宮、富山皇太神宮の神主にはタカヒコ尊を任じ、タカチタル彦尊・トヨタマアカリ媛尊の2人は、同じ神主の国令に任命。

二の宮、丹波の伊勢岩屋神宮の神主には、タカトヨ彦ミコトとし、

三の宮、日向・高千穂の二上神の神主に、常陸カクシマ神社の神主は、千常彦ミコトを任じた。

天皇即位 138年2月15日、天皇職を、第4皇子のコトシロ国守タカヒコ尊に譲位。3年後の即位 141年10月9日、201才でカミサル。アンネボの北代に葬り、天塚という。（私は、富山の同志たちと富山の北代、天皇陵を拝した。）

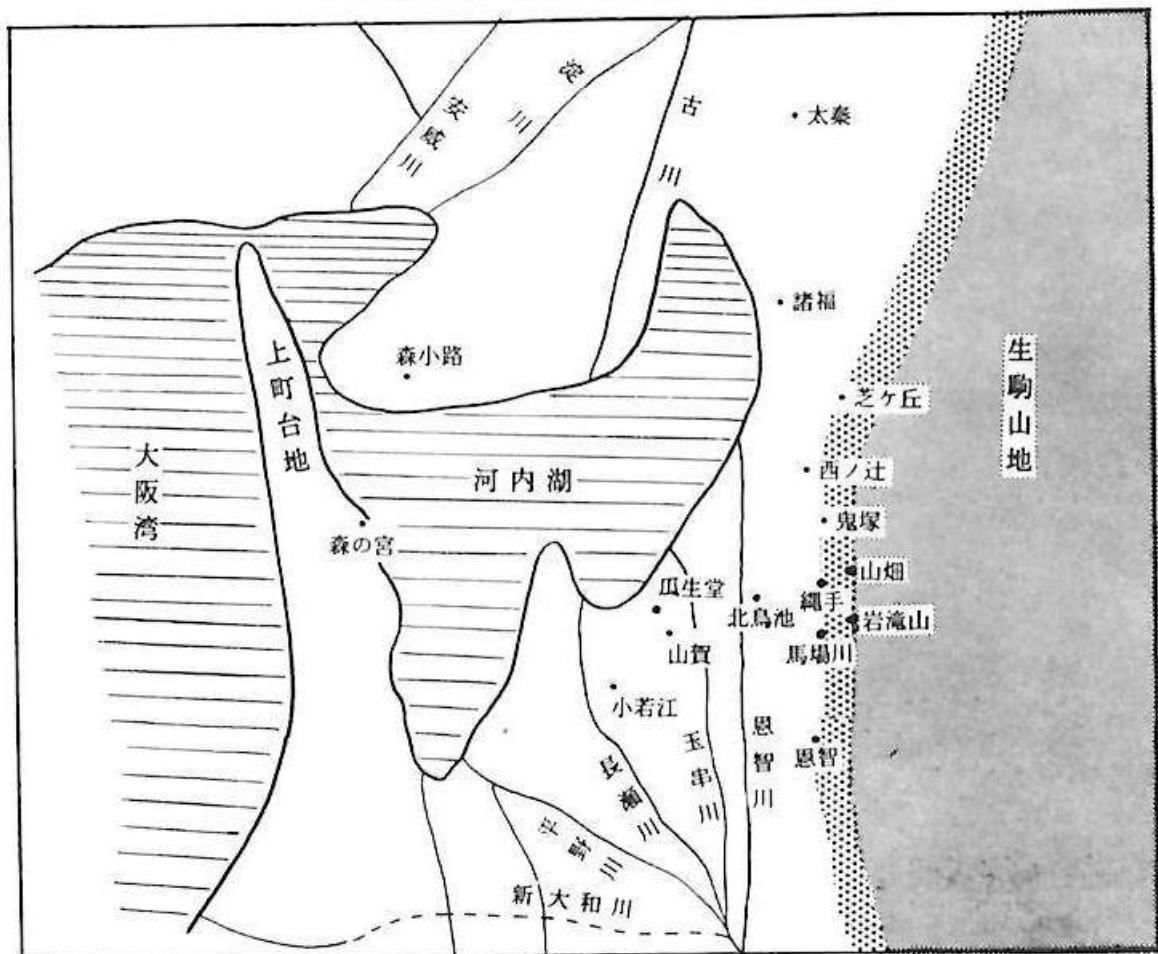
迷信はオリエントが元祖

ノア大洪水後、バビロンで人目をゴマカス奇術を発明、ユダヤ人は魔術を応用、神靈の予言・神示など、人の無智に乘じ、各種の呪文や水晶球の奇術、奇蹟やマジナイで迷信を説き、ユダヤ系宗教を創作して、世界宗教の祖となる。

ギリシャ哲学は神道

ギリシャは皇道科学で迷信をさけた。後世(BC470年)ソクラテスが生れ、真理を説いて投獄され毒死、弟子のプラトンは思想をつぎ、アカデミヤを創立、イデヤ論の理想国家、西欧哲学の祖となる。

BC2000年（弥生時代）の東大阪



東大阪市遺跡保護調査会 河内の主な弥生遺跡

ウガヤ第63代コトシロ クニモリタカ彦天皇

コトシロクニモリタカ
事代国守高彦天皇の皇后は、第61代天皇の皇女、アマツアカリタマ媛尊。天皇は妹息長津姫・児屋豊姫ほか、10名を妃とされ、富山皇祖皇太神宮で即位された。

皇子20人を万国の神主とされ、皇女48人を万国の国主に、任じられた。天皇即位53年3月6日万国を巡行され、即位91年9月17日にヨーロッパ・カウカシの、ダブリスから帰られ、能登国・別所ダケの宮に臨幸、三崎（今は海中に水没）から、神通川を舟で上り、クレハ宮に臨幸して、仙洞とされた。

即位 116年（BC 1836年ころ）天皇 174才のとき、シナニモジ（^{テン}篆字の象形字）を教えた。

後世、秦の始皇帝は、皇靈天皇作の神字（テンジ）を、漢字として国字に制定する。

天皇即位 130年2月28日、皇太子に譲位、5年後の4月12日、192才でカミサリ、日の塚に葬る。後にムム塚という。クラカケオ尊は、260才に卒し、百官人の塚に葬る。（竹内文献に560才に卒す。百官人を葬る50年目御宝山祭とある。ウガヤ第57代の大臣思兼鞍掛之男命の世襲名らしい。）

ウガヤ64代トヨヒ トヨタル彦天皇

トヨヒ トヨタルヒコ
豊日豊足彦天皇の皇后は、第61代天皇の皇女 奇豊日別媛の王女、カシワギタルナカ媛尊。皇妃は、奇豊日姫・平佐保姫のほか8名をおき、富山皇太神宮で即位された。

皇太子の勝勝雄之男ミコト・二男の万国巡知彦ミコト（知勇大力で、桃太郎といわれる皇子）・豊国造知彦尊（ヒラカ造リロクロ知尊）など皇子25人・皇女43人を教育して、万国の紙造り法・墨造り法・ヒラカ

文字を教える、教官に任じ、万国に派遣された。

即位43年1月29日、万国を巡行。

桃太郎皇子の物語

近東（中洋）オリエントの、ウル城を占領した狩獵人の鬼賊は、エジプトへも侵入、荒しはじめた。

神主の皇子アメフィスは、ウルに派遣されたが、狩獵民がウルを占領して、ウル第3王朝に君臨していた。

アメノフィス皇子は、ニップル学院の第50代目の学長の、世自在王（後の地蔵尊）に学び、皇子は法藏と改名した。

エジプトの第18王朝のトトメス第3世は、オリエントのニップル学院の、法藏のアメノフィス皇子に、救いを乞うた。法藏は、折から巡行のトヨヒトヨタル天皇に、智勇すぐれた万国巡知彦尊（別名桃太郎）の出陣を乞うた。

桃太郎皇子は、天空浮舟の航空機のキジ号と、日本人海士の忠実なイヌと、エジプト兵のサルの、空と海と陸の各兵が協力して、ウル城を攻め、鬼賊をあやまらせ、宝物を車につんで持ち帰った。

この話が有名になり、後世に、お伽ばなしが生れた。

法藏・アミダ・エンマ・不動尊は、同一皇子尊名

エジプトのトトメス3世は、法藏を第4世の王にたのんだ。

法藏は第18王朝の第4世王となる。光り輝やくアミダ如来と仰がれ、アメネムハットとして、アトム神（アトン原子）の一神に改めて、テーベの都を、下流のエル・アマルナ（如来の光明）に遷都。

ドレイを解放、民生の福祉と安定に務め、悪い地主や軍人・官吏などの舌をぬき、針の山や熱湯刑で、殺さず悪をこらし、エンマ大王と悪人たちは恐れた。

旧約聖書のパロ王（パルエブヘブ将軍）は、17年後にクーデターをおこし、大王をシリヤのマリで、火アブリにした。アメノフィス大王は、生き不動の姿でカミサル。

パロ王は、幼ない5世ツタンカーメン王の国政をにぎり、アトン神をやめ、テバの都で太陽神にもどした。後にユダヤ人のモーゼは、太陽神をこばんだ民衆とドレイにされ、大ゼイでエジプトを脱出、12の民族をあつめ、イスラエル建国。

天皇は即位130年3月16日、皇太子の勝勝雄之男尊に譲位。翌年12月18日、179才でカミサリ、富山のトメル家に葬る。

富山に葬ったのは、今から3519年前だが、最近、分数を書いた土器が、出土した。

エジプト第4王朝は、BC2613~2494年の119年間にダハシールの屈折型ピラミッドと、ギザの丘にならぶ三つの大ピラミッドとを建設した。このため数学と天文学が発達、コヨミを作り、医学も進んでミイラの製法も完成、王は神の権化と考えられた。

ウガヤ第65代カツカチオノオ天皇

カツカチオノオ
勝勝雄之男天皇は、皇后をめさず、富山皇太神宮で即位された。

即位46年6月13日から万国巡幸。天空浮舟（航空機）に乗り、アジチ（外国）のオセア国（オセアニア）のオイガスタ（オーストラリア？）港に天降られた。

五色人の民王23名が参朝、ミツヰ物をささげ奉り、大拝礼をしたので、彼らを国王に任じられた。

即位51年8月10日、吉道路彦（常陸）に、唐から還幸。オワライ（大洗）港により、カクシマ宮に臨幸され、ニイハルの大政都を、仙洞とされた。後にここを大祖の大塚といいう。

即位82年1月26日、皇弟の豊柏木幸手男ミコトに譲位された。

3年後の85年6月6日、141才でカミサリ、大祖大塚に葬る。

天皇が天空浮舟に乗られた文献記事は、ウガヤ第65代で終っている。

第66代天皇の即位は、今から3489年前（BC1501年）で、BC1707年

ころ、古バビロニヤのバベル王のハンムラビは、近国を統一してウル市からパレスチナに移住し、法典を制定した。これが有名な『ハンムラビ法典』で、ユダヤ人の書記が仕上げた。なお3278年前（B.C.1300）は、エジプト第19王朝にあたる。

ウガヤ第66代トヨカシワキサキテオ天皇

トヨカシワキサキ テ オ
豊柏木幸手男天皇の皇后は、第63代天皇の皇子トヨアシハラ大彦ミコトの王女、アマツトヨヒタル媛尊。足形姫のほか、8名を妃とされ、富山皇祖皇太神宮で、天皇自ら祭主で、即位大祭礼をされた。

皇子21人と皇女23人を、万国のモジとコトバの教官に任じた。

即位38年5月8日、万国巡幸。

即位129年12月9日、秋津根（摂津）大和のムネヒ山宮に臨幸されて仙洞とした。

即位137年4月5日、皇女の春建日媛に譲位、2年後の11月2日、189才でカミサリ、ムネヒ山に葬る。遺詔によって、天日種主ミコト・天月種王ミコトは、インドに行き、国を開くこととなった。

ウガヤ第67代ハルタテヒ媛天皇

ハルタテ ヒ ヒメ
春建日媛天皇の世幸男は、第64代天皇の皇子、天浮船乗り知ルミコトの王子のタカマハラタテヒコ尊を迎えて富山皇祖皇太神宮で即位された。

女皇即位55年7月27日、富山神明（凹ミド宮）の西、御皇城の（凸ホド宮）の境内、北代から南境のシンまで、西方のカナクから、東の神通川ヅチの、アリサワまで、皇祖皇太神宮の東西南北の境内地をハッキリ定め、神宮と鳥居を造りかえ、祭主天皇と世幸男ご夫妻は、自ら祈り乞い祭らる。即位84年10月18日、奇日根別（日向）の高千穂峰大宮に臨幸されて仙洞とされた。

即位117年11月2日、天職（天皇職）を皇太子に譲位。4年後の1月17日、181才でカミサリ、大隅の桑原、三像に葬る。

ウガヤ第68代アマツ ヒタカヒコ ムナカタ彦天皇

アマツヒタカヒコムナカタ
天津日高日子宗像彦天皇の皇后は、第64代の皇女、トヨタテヒワカヒメ尊。天皇は玉依春日姫のほか、6妃とされ、富山皇太神宮で即位。

白い石に大小の二つの身形（人形）を造り、赤池白龍の身形の神体を造り祭られた。これは次代の第69代天皇に詔された。

即位38年3月17日、万国巡行。アジチ（アジア）のシナ天津から、天国（富山）の中央、フシキの港に帰られた。（航空機でなく、船で帰国らしい）クレハ大宮に臨幸されて仙洞にされた。

海水位の上昇で、飛行場も水没らしく、豊地ヶ原の高山の峰、すなわち上代の天皇塚のある所に、神を勧請（祭り）して、天皇は民と国を守るよう、天皇自ら祈り乞う祭りをされた。水没に備えて、宮の棟木札（ムナギフダ）を造られた。これが棟木札のはじまり。

即位138年11月13日、天職を皇太子カンタルワケトヨスキ尊に譲位。4年後の10月18日、194才でカミサリ、皇城山の南、ミカドの上に葬り、同所をミカド上という。

ウガヤ第69代カンタルワケ トヨスキ天皇

カンタルワケトヨスキ
神足別豊鋤天皇の皇后は、第66代天皇の末の皇子、児玉品万尊の皇女、アシカタ媛尊。天皇は沖中津姫、佐保姫、青垣姫ほか6名を妃として、富山皇太神宮で即位された。

即位33年5月、天地万国は大変動で五色人は全部死す。ミヨイ国・タミアラ国は海のそこにしづむ。「アア オトロシヘ」と記録される。

第4回旧北極根氷の雪とけ

ウガヤ第57代に、旧北極（グリーンランド）大氷柱の、3回目の大ナダレのあと、根氷はだんだんユルミ、根雪の氷解はドット崩れ、4度目の大洪水は、地球をおそい、南方のタミアラ・ミヨイ国は、再び海底に水没。ウガヤ第54

代の皇女・皇子が、復興に努力された南方の大島(ムー大陸)は、3回目のノア大洪水災害、さらに4回目の大洪水で、人はみな水没した。

B C 1117年から1085年までの間に、南方大陸に残存の島も水没。噴火の爆発で新島が生れた。エジプトも大洪水災害が発生した。

第69代カンタルトヨスキ天皇は、即位52年4月5日から万国巡行。天の浮船は水没のため、舟でシナに渡海され、ヨモツ(ヨーロッパ)の国のオロネツ港から、即位58年3月14日に、富山の越後、岩船港に帰られ、朝日山大宮に臨幸、ニヰヤの父の山(立山)宮に臨幸の後、富山神明の皇祖皇太神宮に臨幸された。

即位100年3月16日、ヨモツ国(ヨーロッパ)から、モーゼ～ロミュラス(ユダヤ人のモーゼ)がきて、12年間、富山で神道を修業。

天皇は太神宮西の御皇城大宮を仙洞とされた。モーゼと大室姫(皇后)は結婚して、男子3人が生れた。モーゼがユダヤに帰るときに、天皇は世界平定のため、モーゼに十戒を下賜され、ヘブライ民を選民とする、約束をされた。モーゼは3人の子をつれて、シナイ半島に帰り、神天皇の選民とされた民族国家をつくり、天国に上るといい、能登に帰り、宝達山に永住した。天皇即位123年1月28日、奇日根(大隅)の文ゲン山の大宮を、仙洞とされた。

即位128年2月15日、皇太子に譲位。2年後の11月7日、183才で力ミサリ、御宝山の嶺の西にある岩室に葬る。

カンタルワケトヨスキ天皇作(51音字のうち)

ア ァ イ 司 ウ エ オ

モーゼはユダヤ王国をつくる

ウガヤ第69代天皇に、特に撰ばれた民族ユダヤのモーゼは、世界平定のため、シナイ半島に帰り、予告者サムエルの支持で、サウルを初代『ユダヤ王』として、長男をギリシャに、次男をローマに送り、3男をアフリカのカルタゴに送った。能登の宝達山にモーゼの墓・石棺が今も実在。

ウガヤ第70代カンゴコロヅテ モノノベタテ天皇

カシキサヨリ
カシキサヨリ
神心伝物部建天皇の皇后は、第67代天皇の皇女、ヤノ姫尊。妃の若敷狭依姫のほか、11名を嬪として、富山皇太神宮前殿の高御座で、即位された。

即位10年1月6日、富山太神宮の神殿661尺、前殿1261尺、境内の5社の神宮と、鳥居全部を造りかえの完成に、21年かかった。

即位31年11月5日、天皇・皇后の祭主で、天照日神に、天杯酒をささげ奉り、大遷宮祭礼をされた。

神躰万国の祖神・神躰像石・神宝の3剣・神日本魂のツルギ・神籬(ヒモロギ)立瓶・神代歴代の皇靈と、32巻の歴史宝巻・16菊紋のヒヒイロカネ(白金)の紋宝を、かざって大遷宮祭をおこなう。

天皇即位57年10月10日、インドの迦毘羅國の王子、釈迦若(青年のシャカ)が来た。

天皇は、天越根ミコトに命じ、シャカの神道入門を許された。

シャカは、富山の神主のアルラ尊に学び、さらにカルラ尊に5年学んだ。カルラ尊はシャカとインドに同行した。シャカの墓は、青森県に実在する。(東北本線の大釈迦駅で下車、釈迦嶽にあり。)

天皇即位70年8月10日、奇日根別(日向)高千穂大宮に臨幸して仙洞とされた。

即位110年2月30日、西方の高千穂峯に、富山皇太神宮の分靈を、再び勧請(まつられ)天孫天降神宮という。天孫コオリン祭りをされたときから、天孫の天降りという。この時より天孫といった。

〔註〕このころ、富山湾の水位は、さらに上昇、やがて水没の危険を感じ、阿蘇高原に皇都の移転を、お考えになった。

天皇は即位130年1月12日、第4皇子の天照国照ヒコ百日白杵ミコト(50才)に譲位、11年後の即位141年1月2日から5日まで、皇后に『上古第3代の天日豊本黄人皇主大神・皇美大神の神勅で、天

皇は無極まで1人と定む。太神宮の神躰と神宝に、国民および五色人よ、そむくなよ、そむくと天神・日月神に身をけずられるぞ。天国天神の天皇にソムク五色人は、必ずツブレ、ホロビ、命がなくなり、土の海になるぞ、変おこるぞよ。天国天神・天皇の教えの道を、守るよう、五色人オオミタカラ（天皇は民を昔から大御宝とよばれる）よう』と、三たび遺言された。

天地身一大神（ナンムアミン）日の神・月の神の神勅通り、今より3102年目までに平和無くば、必ずトコヨ国はドロの海のようになり、天皇の国も滅亡するぞ。『富山皇太神宮の神主の左の股に、万国図

 形紋を生じたから、神主の代はいよいよもって一大事、大神宮の神躰神宝を、神主がすておくことこそ、万国は土の海のごとき事変で、国あやうく、天皇もあやうくなるぞよ。

再び、大神宮神躰神宝をまつ奉りり、神主は世襲で取立て、大祈念すべし。天皇が世界を統一すること、うたがいなし。『必ず、遺言を堅く守れよ』との神勅をくり返された。

天皇はその年（即位141年）9月27日、199才でカミサル。大隅の御宝山に葬り、5年目に阿蘇神社の摂社の宮にまつる。

ジユミセン インド須弥山説は皇道科学

ヒマラヤを須弥山といい、九山八海は、大地全体を想像の地球。

地球（須弥山）1000が小千界。小千界1000が中千界。中千界1000が1仏国の大千界、宇宙は三千大千世界。1000の三乗倍数、億兆京の天文学の数字は、皇道科学の成果。

仏典にある極微の数値は、今の電子核よりも、一層小サク計算した。

極大・極小を示す仏典の計算など、太古皇道科学は、今より優れ、建築・化学・航空も、はるかに高度。昔は天皇家だけ進みすぎて、世界万民は無智のため、天皇を神とし、日本を神国といった。

インド4万年と興亡6000年（略史）

天竺のエベレス山宮に上古第1代天皇第8世を葬り、上古第2代第22世はヒマラヤ・カドマンツ宮。第3代第4世の御陵もインド国。

上古第4代に天竺王ハルマス尊の来日など、4万年前からインドと交流。

太陽暦をエジプトが始めたBC4236年ころ、ヒンズー教インドのリグベータなど、インドは興亡6千年の歴史が残る。

BC3000年からアリアン族がインド北西部から侵入、BC599～527年にジャイナ教（バラモン教）が始まる。

BC563～480年シヤカはガンジス河流域に仏（サトリ）を教えた。516年ペルシヤのダリウス大王は、インダス川に侵攻して流域を支配。

273年阿育王が、ガンジス河まで侵攻して、バラモン教を排し、仏教を指導、仏教文明は最高潮に達した。

399年シナの法顯がインドを旅行した。500年ころにバラモン教はヒンズー教となった。630年に唐の玄奘は、インドの仏跡を調べ、「大唐西域記」を著す。8～10世紀に拝火バラモンとなる。

711年マホメット教徒が、インドを訪ねた。

1206年ビザンチンがギリシャ帝国建設、インドを初めてドレイ王朝とした。

1600年イギリスは東インド会社を設立。1746年にフランスも侵入。

1769年ベンガルのキンで人口の3分の1死亡。

1929年新都のニューデリー完成。

ウガヤ第71代アマテルクニテルヒコ モモヒウスキネ天皇

アマテルクニテルヒコモモヒウスキネ
天照国照彦百日臼杵天皇は、クニテル彦の時、宮建姫から長女田鶴姫が生れ、竹姫から長男の彦五瀬尊が生れた。50才に富山皇太神宮で即位、第67代の皇子の娘、タマヨリ姫尊を皇后に迎え、竹姫・宮建姫・増野姫を妃とし、6名の嬪（局）をおく。後に皇后のタマヨリ媛尊に、狭野ミコト（神武天皇）が誕生された。

長男の五瀬皇太子と、3男の狭野ミコトの御年は、55才ちがう。

ウガヤ朝は、皇道医学も進み、歴代天皇は、不老長寿薬の常用をすすめられ、幼時から長生きを実行されて、平均150才、200才以上の長命で、100才以上で皇子誕生の記録も多い。近代人はすごく短命になった。狩猟民の略奪から、真文明がダラクの証拠。

第71代天皇の即位11年に、先皇の第70代天皇は、天変地異を警告されてカミサリ、その10年後に大地変起る。

即位21年10月、南無（ナンモ）大地変、五色人全部死す。万国の大変動す。ナンモ（元無極）・カミナガラ（天祖神）・アミン（天人地）

スメラの国（天皇国）に、埋もれていた神は生れ、信仰する人は、神を守り、救けられた。

第5回旧北極の根雪の氷解

旧北極の最終の根氷とけは、彗星激突後7639年もかかり、完全にとけ、旧北極がグリーン（緑）島になるのは、BC 859年以後で、北欧ノルマン人が982年に島を発見した。

第5回最終雪とけの大洪水で、日本海の沿岸は水没した。いままで岡の上にあった飛行場や、田地も家もスッカリ海に変る。穀類倉庫は流れ、たちまち食糧に困り、人々は食物集めに右往左往した。

ヨーロッパの沿岸も水没、フニキア人、日本人は大打撃をうけた。

北欧の狩猟民も困り、生きるため食糧を農民から武力でうばう。争奪に味をしめると、英仏や地中海まで進出、内陸の水路をたどり黒海・カスピ海まで遠征した。

バイキング海賊はバルト海のデンマークで起り、ロシアの旧名ルスランドはロシア国キエフの発掘で、バイキング起源が判った。

天候異変で、世界中の人々に、不安感がつのり、迷信も起った。
天皇即位41年12月22日の朝、五ツ刻（今の午前4時前後）に、太陽が三体あらわれた。人々はビックリ驚天、奇異現象を記録した。

これは、宇宙の隕石が、地球に落下した陽光か、あるいは惑星が極度に縮少した結果による核爆発の現象かも知れない。最新の宇宙物理で解明を、世界の篤学者に期待してやまない。

即位43年12月27日、93才の天皇は、天職の世界政治の責任があり、万国をご視察、ヨーロッパのトリコ（トルコ）のドスト港から船で帰国、富山は洪水の災害で、秋津根別（大和）の生駒山・西側の中腹（元生駒）^{モトイコマ}を仙洞とされた。

洪水で田畠の水没をおそれ、人々は山に逃げ、食糧あさりのみじめな、原始生活にもどった。

即位83年3月14日、天皇は生駒山の西側、中腹の仙洞から東側、今の生駒聖天宮に移され、健康食の大根・ニンジン・ゴボーなど、根菜の救荒食を、民に教えられた。

生駒聖天の社紋には、大根を交叉した画を、今も用いる。

天皇は、国民にモジ教育のため、第69代天皇作の51音字カタカナを単化され、ンを高底2音とし、神代モジ(52音字)を制定された。

（第71代の皇子神武天皇は、この中の19字をすこし改め、カタカナ51音字を完成され、親子3代で改められた。）

即位116年3月14日、竹姫尊に生れた彦五瀬^{イツセ}のミコトに譲位。

同年10月1日、166才でカミサリ、生駒山の山頂に葬り、天皇・皇后を生駒の2神、聖天としてまつる。

ウガヤ71代天皇御作の神代モジ

ンラマナツア
ンソヒチシイ
ルムヌスア
レメネセエ
ロモノソオ

ワヤハタカ
ヰレヒチキ
ウユフツク
ヱエヘテケ
ヲヨハトコ

ウガヤ第72代ヒコイツセ天皇

ヒコイツセ
彦五瀬天皇は、生駒山の仙洞で、81才に即位。同腹の皇弟 天津
クマノタテ
熊野建ミコトと、皇后に生れたサノノ尊（26才）の3人で協力、内憂外患の苦難の政治にあたられた。

第72代天皇の即位は今から2720年前（BC742年）。中洋（近東）バビロンは、狩猟民アッシリヤがあばれ、オリエントは強い者勝。第一次メッセニヤ戦争で、スパルタ人と対戦した。黒人のエチオピヤ人は、エジプトへ侵入するなど争乱の世の中。

BC 722年ユダヤの北王国は、アッシリヤにやられ、捕囚にされた。ユダヤ系新バビロニアのカルデアは、ペルシヤに合流して最強の水軍に発達した。ユダヤの案内で、ペルシヤ水軍は九州に来た。

日本はウガヤ第4代に、北夷オルシ軍が来襲したので、全国に鎮台をおき、モノノフ（武士団）が代々海辺を守った。

ユダヤ人は縄文語を話し、神代モジを知り、ヘブライ語で内外呼応、神国に帰化策をねらった。九州の鎮台は、ダマシ打ちによって博多港

と大村湾を、センキヨ占拠された。皇軍は天皇に急報、生残りの鎮台兵は、山にかくれ、ゲリラ戦術で、進駐兵をおびやかした。

ユダヤ人は、大陸から東漸のユダヤ騎馬軍と連絡、瀬戸内から広島・岡山に進み、軍備をととのえ、ナニワをめざした。海辺の農民は、大らかな異人歓待の心で、侵入軍をうけいれ、中には懲得ヨクトクで募兵に応じる者もいた。日本の武士団の総指揮官は、安日彦・長髓彦の兄弟。ナガスネ彦の皇軍は、山陽道から九州に進む。

ヒコイツセ天皇は、皇弟たちと協力、外敵の防衛と物資の生産に懸命だった。天皇は淀川の豊崎で敵の矢キズをうけ老年で治療もはかどらず、即位35年9月23日弟サノノ尊ミコトに譲位。翌年5月3日、紀州のカマ山で、117才にカミサル。

ナガスネ彦兄弟の皇軍は、九州に進んだが、戦線がのびすぎ、白魔の水軍にあやつられ、長期戦となつたが、最後に敗退、ナガスネ彦兄弟は、富山に落ちのび、捲土重来を期し、津軽に亡命した。

詳細は、ツガル古文書（東日流外三郡誌）を参照。徐福が書残した宮下文献（富士文書）に、皇軍は36年間戦い、攻防は激甚をきわめ、10万人が戦死したと書かれ、当時の多数遺骨も出土。

大秦のペルシヤ水軍は、九州大村湾と博多港、紀州熊野などに商船として、入港、交易と略奪の二面作戦で、神国に侵入をはかった。

満州の契丹国は、北陸の敦賀・佐渡・津軽にも上陸・帰化した。

シナはユダヤ侵入から春秋戦国に変り、騎馬兵とペルシヤ水軍は、呼応して北九州を占領、軍備をととのえ、徐々に東進していた。

ウガヤ第73代サノノミコト天皇

サノノミコト
狹野尊天皇は、兄イツセ天皇から9月23日譲位され、52才で生駒の仙洞で即位された。イツセ天皇は、翌年5月3日、紀州カマ山でカミサル。天皇は兄をカマ山に葬り、外敵防衛や遠征は、武王ナガスネ彦兄弟に一任。大和葛城山のフモトで、水稻を作り、食糧などの軍需生産で、後方をまもり、荒れはてた神国^{モノノフ}の復興に、全力をあげられた。

ユダヤの首脳は、神国天皇に忠誠心と、武力平定の両立てで、天国占領の遠大な計画を立て、世界情勢を考えながら、急がず、九州一帯を固め宇佐港から広島へ進み、岡山の児島半島でも待機、神国を乗っ取る手段を講じた。サノノミコト天皇は、皇國不滅を信じ、万民に「アマガシタヲ オオイテ イエトナス。マタ ヨカラズヤ」と仰せられ、大和ウネビ山に、富山皇祖皇太神宮の分靈をまつり、即位3年2月13日、祖国日本の地図をつくり、万国政治を中止して、国土防衛・食糧確保につとめ、神に祈願をこめ、山陽や九州の遠征は、ナガスネ彦兄弟のモノノフ軍団に一任された。

葛城山・東側の平野に、水稻は豊作、天皇は丘から見おろし、国見歌をご発声、食糧の備蓄に、30数年かかった。即位39年の春、天皇は100才のとき、ヤマトに新朝を開くため、富山の皇祖皇太神宮へ、報告に帰られた。北陸道は地変の大災害で、道路は寸断、富山の神殿も荒廃していた。

天皇は富山神宮の社殿を修復し、ヒモロギ立瓶19個に、天皇名を刻み、自ら祭主となり、4月1日大神宮の大前にて『ウガヤ第73代、サノノミコトは、カンヤマト・イワレヒコと改め、新朝を開く』と、大音声でノリトを詔した。

皇后には、第67代天皇の皇子の王女、タタライスズ姫を迎えるよう、天皇は百才の4月3日から、4日・5日・6日・7日まで、イスズ姫に勅語をつづけ、皇后になるよう、くどかれた。文献には、「皇后ひ神がかり神勅あり」と書かれている。

天皇作の地図



かくして、タタライスズ姫と結婚に成功、皇后と共にヤマトへ、帰る道は、荒れた海岸をさけ、ヒダ山ごえをめざし、神通川の東から、皇祖皇太神宮を拝され、遠見のサトと、名づけられた。

天皇・皇后は、神器を奉じ、ヒダから伊勢の四日市に出て、クズ村からハイバラをへて、大和にお帰りになった。

百才の11月6日、自ら神代モジで「世界一家の根元を守れ」という勅語の、20字20行を下のとおり、自ら書き大御心を示された。

← ↓

オオアア人ハベ皿火皿ミ小ア
ユコワワ业ナ彑逃口トヨマ
ヘニセヨホ人ハイムサマ田
フナギテラウロッエム逃マト
下ヲヌスエホヌム逃逃マト
ルル人ハギキ逃下逃口ト
イイココ逃ナ下逃ズギワレ
逃ナトトメメ人ハマムラ逃ズ
コウ下ヲヘニ业ナムユラマ逃
トトナモメメレトコラ逃コラ
ユエイイヘニヘニメトコラ逃
ヨウ业ナユコラ逃ヘメラ逃
コウ逃ヒトココ逃ナメラ逃
人ハトトトト下ヲトコラ逃
逃ナユコロッベトコラ逃
メメコウココイイ人ムサト
ヘニオオ逃ナ人サコル
逃ナモコココウロナム逃
トトヘニトロトコラ逃キ
人ハ下ヲ下ヲ人ハトコラ逃

〔勅語の謹訳〕

『八方位一字を始める者、心をヒツツにして、働くことを一字という。モノゴトを実行することを一字という。世界一家に中心がないと、国は乱れて乞食になる。八絃一字の、「無の人」の心は必ず忘れてはならない。

アマガシタ地球にヒトリの、スメラミコトをおき“八方位一字”として、中央の日ツギのカミのために、なしとげることをいう。

八方位の人々を守るため、中央大場のまん中に、天皇一人をオカンヅ、八方位を守るモノドモ』

ナモ ララスムユエムヒ四, レレキムフナ
 ヘノミルルフロッメメ ヘノククフナ ↓
 ヲコ キギルニニアムヒベバレニ
 ドトトトイイ人ハヘ, ママトト ヘノ
 ナモムニ立チロツ 人ハ小ガヘ, ララ四タ
 トトヨウニホ小カロツサシココヨンメメ
 ミリオオイイヨンココ四タココヘ, ルニ
 オオヘノエエヘ, イイムヒトロキム
 小カ ヘノ四タ立チトトハトトトイイ
 ヨンオオ メメヨウミリ 四ハ立チ
 ミゾニホ人ハルニオオ久ス小カヨンヨウ
 ベバ立チ トトミミフナドドトト
 人ハ メメフナサシララララ久ス久ス
 ロツママ 久スナテミ久ズ ルル
 ココフナ人ハトト ココワワ人ハリカ
 オオ小カロツアゲ立チトト久ス立チ
 下ヲヘ, ココルルラウオオレレココ立チ
 ママ ヘノココオオ小カルルオオヨウ
 スム久ス トトムニヨンフナヘ, サシ
 ルルミミママ下ヲ ヘノ小カヨン

天皇即位61年4月3日、112才に富山皇太神宮の、大和ウネビ山分神宮の大前で天皇自ら祭主となり、アマツヒツギの高御座にのぼり、南面して、「天照日神」に天杯をささげ奉り、後方に万国五色人の棟梁の御宝、ヒヒイロガネの3劍神宝（神ヒノモト魂の宝剣）と、神骨像石の神体・日向津姫（天照女神）の3種の神器・ヒモロギ立瓶・カミヨからの皇統譜の、象形仮名のアヒル文字の歴史宝巻・ヒヒイロガネの16菊紋などの神宝をそなえ、正殿にて即位された。後に「神倭初代神武天皇」と、漢字に書き改められた。

天皇の西側に、皇后は一段下に、天皇の南面の東側に御神宝。天神の座の一段下に神官、官位17級の座位を定め、式を行なわれた。

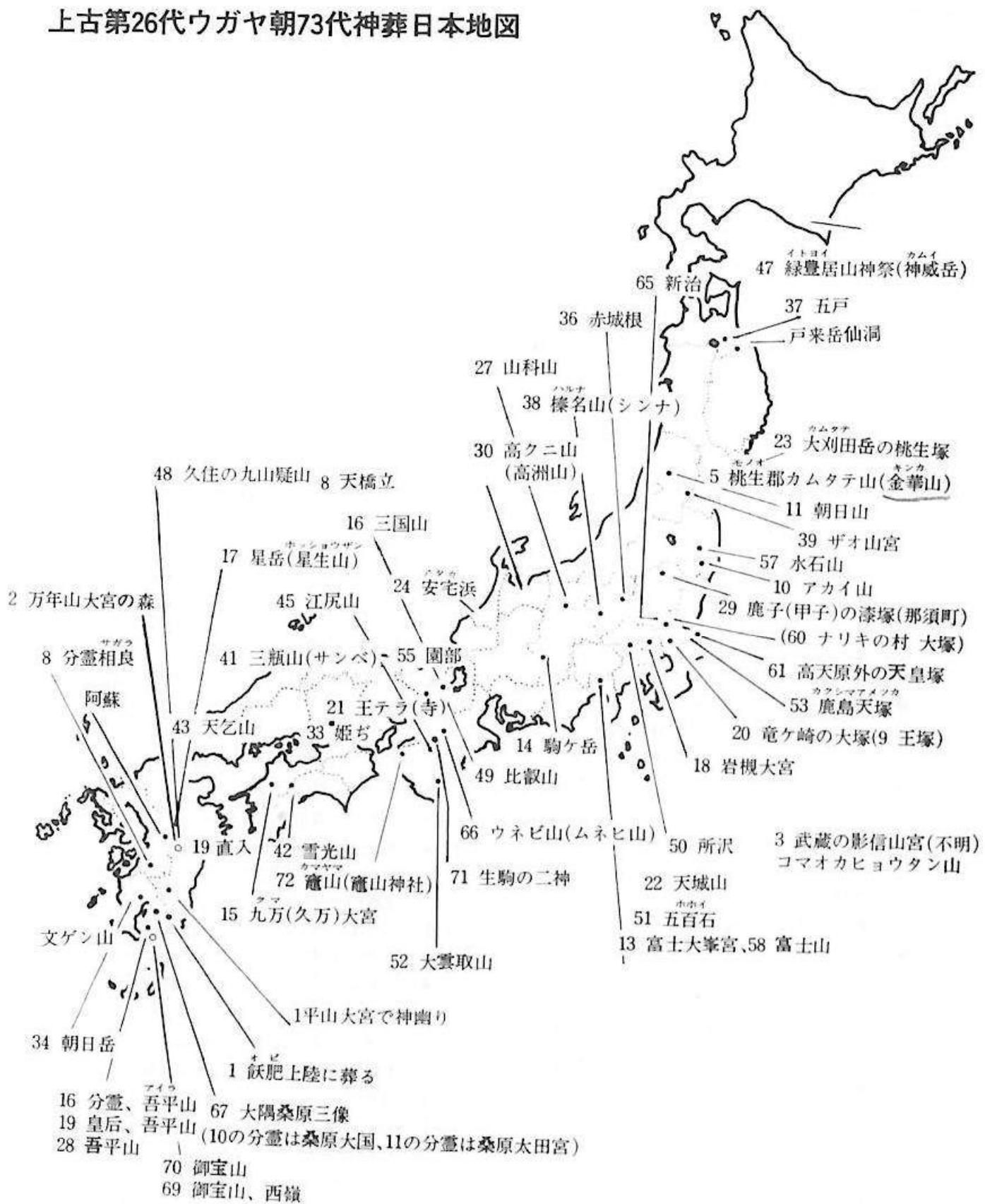
この記念祭にあたり、アイウエオ・ンと51音のカタカナとして、父君第71代天皇の作られた神代モジを、さらに19字を改めてご制定。

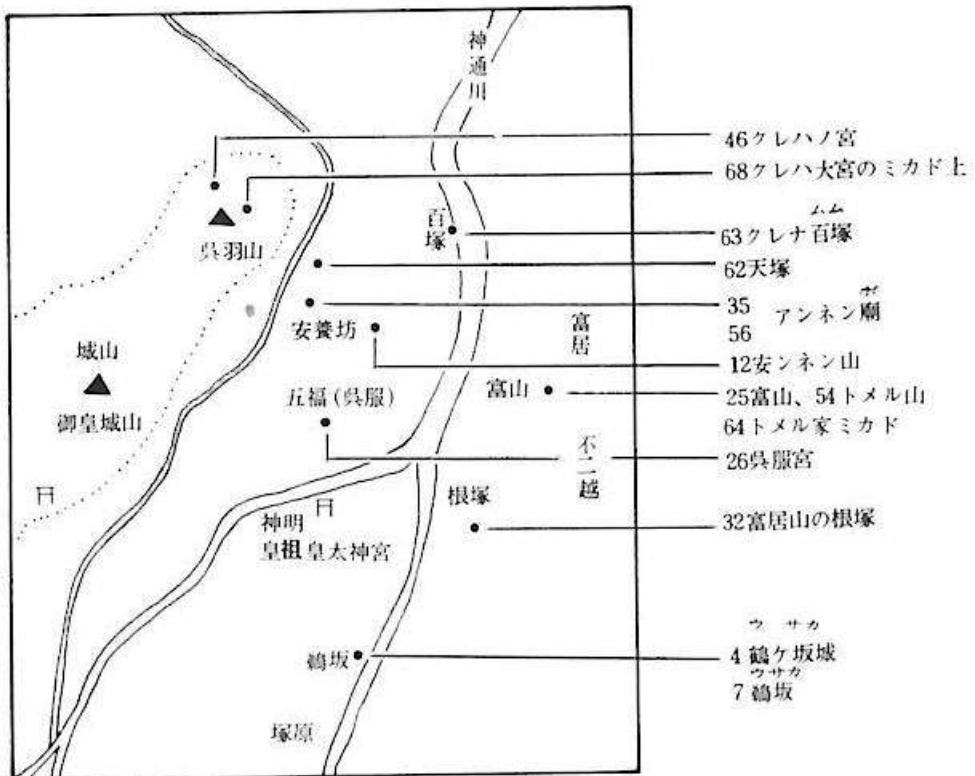
カナモジカイは、神武御製と知らず、タイプ字体を50年間研究。カナ電算機テレックスのカナは現在100万台以上活躍中。下の右はヒフミヨイムナヤコト（算数）。世界最高能率のタイプの印字。

（現行のカナタイプ書体）

アイウエオカキクケコ	ヒカリサス
サシスセリタチツテト	フシノネモ
ナニヌネノハヒフヘホ	ミエソメテ
マミムメモヤユヨラリ	ヨヘアケヌ
ルレロワヲンザビヒ	イマウラツ
アイウエオヤユヨツ	ムレユクホ
	ナルロオト
	ヤチワタニ
	コキハセン

上古第26代ウガヤ朝73代神葬日本地図





(ウガヤ73代は日本のみ)

(万国で葬られた天皇の記録はない)

- 1代葬 日向、平山大宮で神帰去り→飫肥上陵葬る
- 2代葬 万年山大宮より神帰り、森に葬る
- 3代葬 武藏の影信山宮→コマイカヒヨウタン山葬る
- 4代葬 富山、神明の南、ウガヤ坂の鶴ヶ坂城（ウサカノカミ）
- 5代葬 東北、桃生郡カムタテ山(大刈田岳)→キンカキン(キンカ山)(金華)
- 6代葬 豊後、大分、御室山に葬る
- 7代葬 富山の鶴ヶ城に葬、分靈サツマのカタヒラ山
- 8代葬 丹波の天橋立大宮に葬、分靈は相良
- 9(不明)王塚葬、外名山に葬り、分靈はマノハマ
- 10代葬 磐城のアカイ山、分靈は桑原大国
- 11代葬 道奥、朝日山葬、分靈は桑原太田宮と豊中山
- 12代葬 富山の安ンネン山葬、分靈は肥後の富山中神陵
- 13代葬 富士大峯宮
- 14代葬 信濃のコマ山(駒ヶ岳)
- 15代葬 愛媛伊予の九万大宮(久万)→富山の明神に葬
- 16代葬 近江の三国山、分靈は吾平山
- 17代葬 豊後大分の星岳大宮(星生山)
- 18代葬 関東あかり羽大宮→岩槻大宮葬る、分靈は御宝山

- 19代葬 豊後直入宮城に天皇葬る、吾平山に皇后葬る
- 20代葬 竜の崎(竜ヶ崎)に葬、竜の嶋、大塚
- 21代葬 河内古市宮より神幽り、王テラ(寺)に葬り石室に葬る
- 22代葬 伊豆田方天照山仙洞(天城山)
- 23代葬 東北、大刈田岳(カムタテ山宮)の桃生塚
- 24代葬 加賀国美濃部、安宅浦
- 25代葬 富塚→藤井→富塚山→富山
- 26代葬 富山の吳服宮、御廟
- 27代葬 信濃立クワ山仙洞→山科山葬る(立科)(蓼科)
- 28代葬 日向国印杵高千穂仙洞→吾平山葬る
- 29代葬 関東、下毛鹿子大宮仙洞→漆塚葬る
- 30代葬 能登高クニ山仙洞→高クニ(洲)山葬る
- 31代葬 能登宝達山大宮仙洞→宝達山葬る
- 32代葬 ニキヤの富居山(富山)の根塚
- 33代葬 播磨ヒミジ仙洞→姫ぢ(路)に葬る
- 34代葬 薩摩朝日岳大宮仙洞→朝日山葬
- 35代葬 鶴ヶ城仙洞→吳服に葬り、アンネン廟
- 36代葬 阿鮮仙洞→関東赤城宮仙洞→赤城根葬
- 37代葬 道奥戸来山宮仙洞→玉戸に葬る
- 38代葬 関東、上毛、サホクニチヲ山宮仙洞→榛名山葬
(せん→しん→はる)

- 39代葬 東北、サオ山仙洞、→ザオ山宮葬
- 40代葬 伊豆天城山宮臨幸→天城山に葬る
- 41代葬 出雲三瓶山大宮→三瓶山に葬る
- 42代葬 土佐のハク光山大宮→雲光→雪光山に葬る
- 43代葬 長門の天ノリ山大宮仙洞→天乞山葬
- 44代葬 大隅の文球山宮→文球山葬
- 45代葬 江尻宮仙洞→江尻山に葬る
- 46代葬 越前の高須山宮仙洞→クレハノ宮に葬る
- 47代葬 日高浦河のイトヨイ山仙洞葬→縁豊居山神に葬る
- 48代葬 豊後久住宮→九山凝山に葬る
- 49代葬 伊吹山宮仙洞→日嗣居山→比工山
- 50代葬 武藏、所サワ宮仙洞→足大塚神の所沢塚
- 51代葬 ニキヤ五百石宮仙洞葬る→五百石神祭礼
- 52代葬 紀伊大雲取山宮仙洞葬る
- 53代葬 常陸カクシマ大宮仙洞→カクシマ天塚葬る
- 54代葬 鶴ヶ城仙洞→石室→神通川東のトメル山葬
- 55代葬 丹波天野ニ斗宮仙洞園部に葬る
- 56代葬 高岡守山宮を仙洞→アンネボに葬る
- 57代葬 鬼城、アカイ仙洞→アカイ水石山葬
- 58代葬 富士山仙洞葬り、富貴神、富講
- 59代葬 越中湊宮仙洞→二神山に葬る
- 60代葬 筑波山宮臨幸遷都→ナリキの村葬→大塚（今は並木か）
- 61代葬 常陸カクシマ、高天原外に葬る。天塚という
- 62代葬 御皇城大宮→アンネボ北代に葬る。天塚という
- 63代葬 クレハ宮仙洞、葬る所日の塚→後、ムム塚といふ（百塚）
- 64代葬 フジ居ル宮仙洞、葬る所、トメル家、日見日高見はミカドといふ
- 65代葬 常陸ニイハル(新治)(ニイハリ)大政都カ仙洞→大塚→大祖大塚に葬る
- 66代葬 大和ムネヒ山宮臨幸仙洞→ムネヒ山葬
- 67代葬 日向高千穂仙洞→大隅桑原三像に葬る
- 68代葬 クレハ大宮仙洞→葬る所、ヒナ方、ミカド上といふ
- 69代葬 大隅、文ゲン山大宮仙洞→御宝山の嶺西の岩室葬る
- 70代葬 日向高千穂仙洞→大隅御宝山(御山)に葬る→阿蘇神撰宮と祭る
- 71代葬 大和生駒山仙洞→葬る所を生駒の二神と祭る
- 72代葬 紀州竈山葬る、竈山(和歌山)の神と祭る
- 73代葬 神武天皇

7、上古第27代カンヤマト朝

ウガヤ朝73代合計8277年のうち、前後をのぞき、7639年間に、災害大ナダレは5度、水位上昇つづく『天災の時代』

カンヤマト朝の初め、ユダヤ系が東漸、縄文人を殺して支配、アラブと争斗2000年の『人災の時代』

ヤマト朝第1代の神武天皇は御年100才の3月末まで、ウガヤフキアエヌ第73代天皇と申しあげる。すなわち100才の4月から、カンヤマト朝がはじまる。

日本人は、何万年間の伝統で、みんな祭礼をたのしむ、世界一のおまつり国民。昔から天災多く、常に天候を気にして、日常のアイサツも、天気を話す。シナは「飯を食べたか」西洋は「どうして暮しているか」とたずねる。

カンヤマト第1代イワレヒコ神武天皇

神武天皇は、御年100才の4月1日、富山皇祖皇太神宮で、ヤマト第1代を宣言。タタライスズ姫を皇后とされ、ヤマトに帰り、「世界一家の根元を守れ」と勅語。

御年112才の4月3日大和のウネビ山、カシハラ神宮で、即位の大典をおこない、記念祭に、国民の文化を広めるため、神代字カタカナ51音字を、ヨミヨク改め、ヒノモトの文化再興をはかり、韓国やシナから、文物を輸入、皇道文化の回復につくされた。

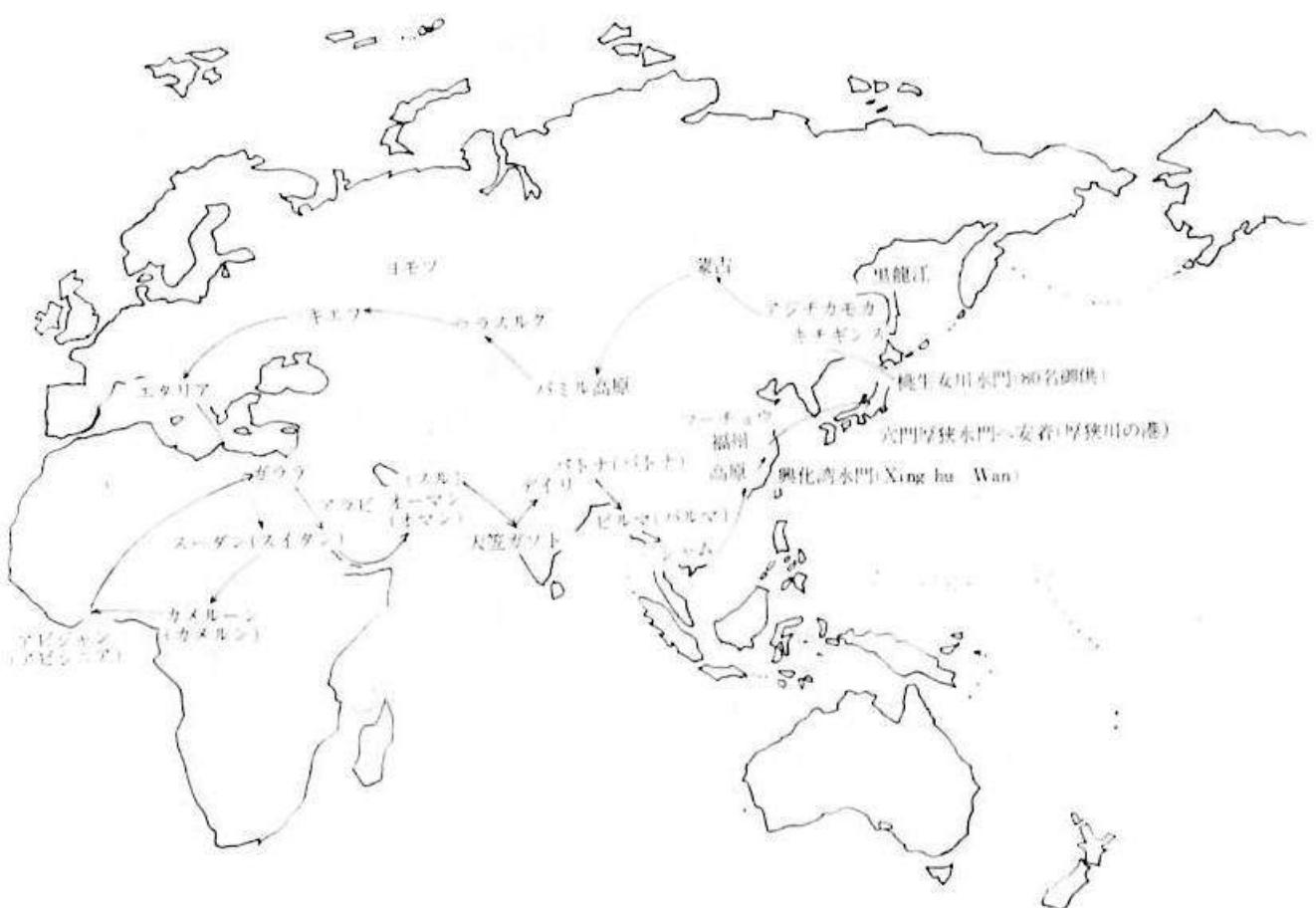
天皇は新朝を開かれると、海外巡行の用意をされた。即位3年2月から大洪水が起り、巡回計画をヤメ、国内の整備につくされた。

天皇は富山の皇祖皇太神宮の神主に神勅、16文字のお守りを身につけ、即位49年2月26日から万国御巡回に出発。思兼佐田彦ミコト・大土雷主ミコト・道臣ミコト・味日命のほか、80名がお供して、奥州

陸前の桃生女川港から、アヂチのカモカ、キチヂンスク港より、沿海州を巡行、黒竜江からモーコのパミル高原、ヨモツ（欧洲）ウラルスク・キエフ・エタリヤ（イタリヤ）、スタン（スーダン）カメルン・アビシニア・ガララ・アラビ（アラブ）・オイマン・スル・天竺インドのカラチ・デイリ・バトナ・パルマ・シヤム、高原各地をまわり、シナ福州に行き、興化港から即位71年5月11日に、厚狭港（山口県）へお帰りになった。翌年4月23日、シナ周国の25才の老子が参朝、2年2カ月学び、富山能登・神代川の浜から、船で新羅国の釜山をへて、帰っていった。

天皇は、ヤマト即位76年、御年180才にカミサリ、大和ウネビ山御陵に葬る。

神武天皇即位49年2月26日万国御巡幸
～71年5月11日



ユダヤのダビデ王とソロモン王

初代サウル王のあと、ダビデ王・ソロモン王は、ユダヤ王国を繁栄させ、中東全体の平定に成功。

B C 859年、旧北極の根雪が氷解、大災害が起り、アーリア狩猟民のアッシリヤが強大になり、ローマ・エジプトも独立。ユダヤは南北に分れ、弱くなった。
(我・利・我)

ユダヤは亡び苦難はじまる

B C 724年、ユダヤ北王国は、アッシリヤに占領され、2年後に南王国も亡び、ユダヤ人は捕囚生活で、大苦難がはじまる。

B C 550年ユダヤ系キルスは、メディア王国を奪い、首都スーサで「ペルシヤ帝国」を建て、バビロンを占領、小アジアを亡ぼし、小数のユダヤ人はパレスチナに帰った。ユダヤ人はアブラハム以来、クサビ字で古代を知り、国際知識に強い。しかし上の階級のほかは、他民族と同じで何も知らない。

ペルシヤ文化を興隆

ユダヤ系キルス王は戦死し、カンピセスがつぎ、エジプト第26王朝を亡ぼし、中東全域を亡ぼし、ペルセ市とスーサ市に、文化都市を建設。ダリウス1世は、B C 521年ペルシヤ大帝国に君臨、インダス河をこえ、インド西北まで支配、516年エルサレム神殿を再建、ローマをめざした。

B C 500年から西進（ペルシヤ戦争）、10年後マラトンで陸軍は敗退、20年後サラミス海戦で全滅。ギリシャと和議を結び、西進をやめ東進に転じた。

シナ周国から日本をめざす

インドを抑え、周大国をねらい「周」を内乱に導き、西北の秦国をうばい、ユダヤ系『秦始皇』を表に立て、アジアを平定した。シナの戦国はB C 403年、ギリシャの哲人ソクラテス誕生ころ始まる。戦争は西洋から東洋に広がり、3000年間、文化は後退した。

西暦471年、カンヤマト第21代雄略天皇は、超古代史の神武天皇までを、大臣の竹内真鳥に、漢字書きさせたので、ヤマト朝の記録は、トビトビしかない。やむなく多くの文献を探り、真相を追及した。

神武天皇はカナモジの創始者として、神文天皇と申し上げたい。



老子像（君臣図像）

カンヤマト第2代スイゼイ天皇

スイゼイ綏靖天皇は、52才で大和葛城高丘宮で即位、翌年正月、皇女イスズヨリ媛を皇后に迎え、84才にカミサリ、今の御所市森脇の、高丘宮に葬る。イスズヨリ媛尊は、神武天皇の皇后タタライスズ媛尊の御妹といわれ、一説に川派媛または糸織媛という。

シノノシコウ ユダヤ商人の子が秦始皇

ユダヤ商人はヘブライ語のほか、片言の縄文語を話し、シナの周国・殷国人と交通、殷の紂王をそそのかした。ユダヤ国が亡ぶと、スキタイ騎馬民族と大陸を東漸、内陸ユーラシアの乾燥地の平原や河谷を横切り、サルマート・フン族などの美女と混血、前3世紀にシナ北方の匈奴・ウーソン族・月氏族・突厥の部族連合にも加わり、楼蘭から商人として潜入、豪商の呂不婁は、秦國の王子を買い、自分の種を王子の子にして、秦始皇が生れた。

カンヤマト第3代アンネイ天皇

アンネイ
安寧天皇は20才に即位されて、父天皇をあつく葬り、御母を皇太后として、とうとばれた。翌年、今の大和高田市・片塩の、浮穴宮へ遷都。その翌年正月、淳名底仲姫を皇后に迎えた。

即位18年（B C 531）シナの司職吏の孔子は、21才の4月24日に日本へ来た。孔子は、富山の呉服に住み、皇道を5年学んだ。26才の3月4日、シナ東省の魯国へ帰り、30才の12月に周国の文書係の老子（90才）を訪ねて、道と礼を問う。

老子は、日本で学修した『真人の道』や『無為の哲学』、自然生活のことなどを語った。

孔子はシナの夏（曹・宋）と齊（山東）国に行き、詩書と礼楽を修め、故郷の魯（曲阜）の王に仕えた。孔子は魯国の12代にわたる、242年間の歴史「春秋」を作り、大義名分を説いた。

孔子の『論語』は、弟子たちの綴った「孔子の語録」にすぎない。孔子の「朝に道をきけば、夕に死んでもよい」という、深い皇道精神をジックリ考え味わいたい。

老子の『真人の道』や、「無為自然の理想」は、天変地異や争乱の世をアキラメ、サトリきった心境であるが、考え方は皇道精神。

老子の思想は、弟子の莊子や、列子の考えに残り、やがて日本につたわる。聖哲の教えは、日本を出て、また大元の日本にかかる。

カンヤマト第3代アンネイ天皇は、即位38年12月6日わずか57才でカミサリ、ウネビ山フモトの西南側に葬る。

儒教・仏教は皇道の教え

シナ周の盤古氏は、ウガヤ初代第1世天皇に、シナ国王を任せられ、盤城の釜石からシナに天降った日本人、112代つづく磐古王。

東漸ユダヤは、権謀術策で周の大國を春秋・戦国に落し入れた。やがてユダヤの秦は、周をほろぼし、秦始皇が113代国王に君臨。

カンヤマト第4代イトク天皇

懿德天皇は、43才の2月4日即位、翌年正月、都を大和の軽、橿原市大軽の曲峠宮にうつされ、2月に豊津姫を皇后に立てた。即位34年9月8日、イトク天皇は77才でカミサリ、翌年、橿原市池尻の、ウネビ山の南、マサゴ谷に葬られた。

このころのシナは春秋の世という。西紀496年5月、呉国（周）と越国（ユダヤ系）は、浙江の地で戦い、越王の勾銭は敗れた。越王は呉に命を助けられた。越王は苦労した末、最後に呉王を殺して勝った。

呉は、縄文人だから、敵の王は殺さない。狩猟民と全くちがう。

孔子は、BC481年に、春秋を作り、BC479年4月に73才で死す。

カンヤマト第5代コウショウ天皇

（ミマツヒコカエシマミコト）

孝昭天皇は31才で即位。都は大和の御所市ワキノエ、池心宮。

即位29年正月、60才のときに、世襲足姫を皇后に迎えられた。

即位53年4月21日万国巡行を詔し、ヒウケエヒロス（北米）アラスカのテライ港から、北海道（エツ）根室港に御安着。十勝で日の祭りをされた。

即位68年正月、弟皇子の日本足彦国押尊を皇太子とされ、即位83年8月5日、114才でカミサリ、御所市の王手丘の上陵に葬る。

西洋は、北欧・狩猟のバイキングが、イギリスやフランス沿岸をおそい、アジアのボルカ川とカスピ海に進み、殖民地の争奪など、戦争の技術は段々進む。BC403年大戦争は西洋から東洋へ移り、人のよい東洋人は、西洋戦法で破れ、道義のないヤバ戦国を展開。

カンヤマト第6代コウアン天皇

孝安天皇は、35才で即位。大和の室（ムロ）アキツシマ宮に遷都。即位23年2月18日、天下万国御巡幸を詔され、神武内種彦ミコト・埴大土船守ミコト・白羽鳥浮船ミコトのほか、78名がお供し、九州（速日）唐津港より、朝鮮（三韓）慶尚南道、次日村港へ上陸、三韓・奉天・モーコ・カウカシヤ・イスパニヤ・アフリカ・天竺（インド）・オセア・ラリヤ（オーストラリヤ）・ボルネオフリヒン・マニラ港より、即位52年8月20日、遠津海の伊豆・竹田港にお帰りになった。

（このころ航空技術は、一部残存して、白羽鳥浮船尊が生れた。）

即位26年2月、61才で皇姫（メイ）のオシ姫を、皇后に迎えた。

即位41年3月、シナから孟子が日本に来て、易（ゼイチク）を学び、神代の象形モジと、カン（神・漢）字とを5年間研究して、即位46年9月25日、戦国のシナに帰った。コレが後に漢字制定となる。

ユダヤ人の商鞅は、シナ秦国の変った富国強兵策を5年つづけて、「秦」キヤンシーショー カンヨージは陝西省の咸陽市に都を建設した。ヘンポーさらに第2変法で、農民を武装させ、5年で貴族を抑え、わずか10年で、中央集権に導いた。けれども商鞅は、家族もろとも、ムザンな「車ざきの刑」で、BC338年に殺された。利用したあと殺すヒドイやりかた。

秦は、黒海の遊牧民の着るツーピースに改め、胡服騎射とし、短剣と小弓で進撃させ、敵の王を打取ったあと、降服した農民を皆殺しにした。秦の將軍白起は、魏と戦い秦首15万人。秦と戦い捕虜40万人を穴埋めした。秦の蘇秦と張儀は、策謀で江南の6国を奪った。

ペルシヤ王ダリウス3世はBC330年に即位。アレキサンダー大王はマケドニアからペルシヤに遠征、ダリウス3世は殺され、更にアレキサンダーはインドに進み、ギリシヤ風のヘレニズム文化を起し、バビロンを首都としBC323年に病死。後継争奪戦がはじまった。チャンドラグプタは、インドに強大な統一国家のマウリヤ王朝を建て、大ペルシヤにサラセン大帝国をつくる。

天皇即位76年正月、弟皇子の大日本根子彦太瓊尊を皇太子に立て、

即位 102 年 1 月 9 日、137 才でカミサリ、御所市玉手に葬る。

カンヤマト第 7 代コーレイ天皇 (オオヤマトネコヒコ フトニ)

コーレイ
孝靈天皇は、オオヤマトネコヒコ フトニ尊といい、52才で即位、天皇は、9月に先皇をあつく葬り、12月に大和の高田市、蘆(芦)戸宮に遷都された。即位5年から9年までの間に、近江の琵琶湖ができ、富士山が噴火した。

地質学の推理では、富士山は大噴火で高くなり、ビワコは宇治川の流れが、流木や土砂で埋まり、ダムの形となり、北方まで大湖水の、ビワの形に湖水は拡大した。

天皇は、即位31年ヤマトの高田で、つぎの漢字51音(イツヒ)の、「安加左太奈・波未也良和」など、象形神字をつくられた。後に秦の始皇は、これにヒントを得て、漢字をシナの国字として制定した。

孝靈37年4月6日、天皇自ら朝鮮の馬韓・弁韓・辰韓に、バカンコマ国・ベカンシラキ国・シンカンクタラ国と三つの国名をつけた。

即位44年7月3日、ペルシヤ王の使いのセージは、丹波(但馬)キノサキ城崎の浜に上陸して、富山皇祖皇太神宮と別祖太神宮へ7月30日に参拝。神主の天越吉備臣ミコトと、神明の赤池姫に話し、『ヨモツ国(欧州)ペルシヤ独立国』の王に任命を、おねがいした。

神主の天越吉備臣は、ただちに大和の高田へ上京、天皇に拝礼して、この願いを言上した。

天皇は、アジチ国ペルシヤの、マセド王に、「国政をおさめる王に任ずる」と、詔をたまう。使いのセージ人は、喜んでおうけして、同年10月30日、但馬の城崎浜から、ペルシヤへ帰った。

天皇即位46年10月10日、秦氏をアジア盤古氏第113代目の王に任命された。このとき秦の「政」は13才。その26年後、孝靈72年4月、

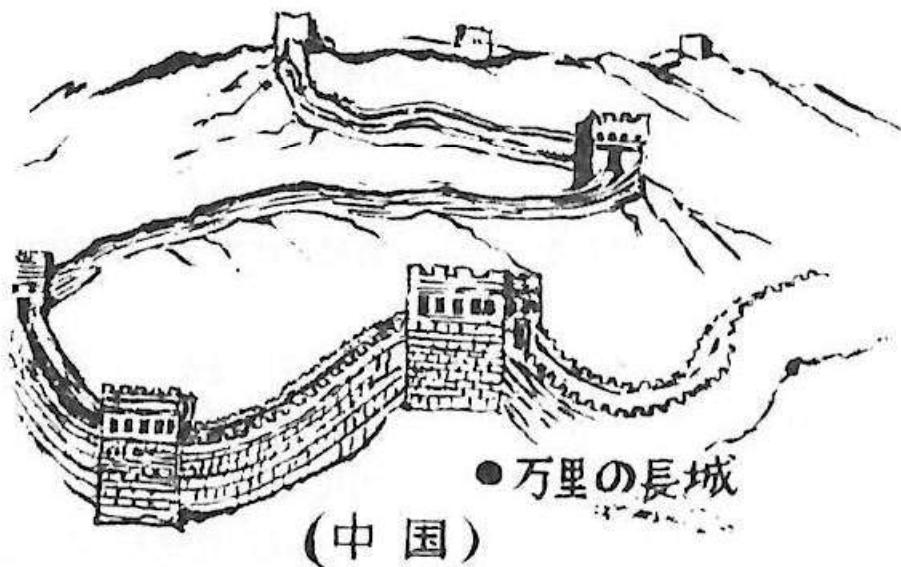
ア 安	安	安	安	ア 安
カ 加	加	加	加	カ 加
サ 左	左	左	左	サ 左
タ 太	太	太	太	タ 太
ナ 奈	奈	奈	奈	ナ 奈
ワ 和	和	和	和	ワ 和
ヲ 良	良	良	良	ヲ 良
リ 空	空	空	空	リ 空
ヰ 衣	衣	衣	衣	ヰ 衣
シ 室	室	室	室	シ 室
ヌ 𩫓	𩫓	𩫓	𩫓	ヌ 𩫓
ヌ 波	波	波	波	ヌ 波
ヌ 漆	漆	漆	漆	ヌ 漆
ヌ 渡	渡	渡	渡	ヌ 渡
ヌ 邦	邦	邦	邦	ヌ 邦
ヌ 衣	衣	衣	衣	ヌ 衣

天皇 124 才のとき、秦始皇帝と改めた政子（尊称）39才は、答礼のため水軍の大将徐福の船に乗って、埠に上陸、みつぎ物と童女500人、童男500人を献上した（B C 219年）。

徐福は、不老不死の薬草採取の名目で、日本の歴史とモジを調べ神国へ帰化を考え、3回も来日した。

孝靈天皇は、即位76年2月8日、128才でカミサリ、北カツラギ郡王子町張井に葬る。

当時のペルシヤは、東西を征し世界最大の国になった。神国天皇に接近を考え、39才の秦始皇は、孝靈天皇に答礼させた、サラセン大帝国のことである。ユダヤのボスは、つねに身をかくし、世界のサイハイをふるう。徐福はペルシヤ水軍系で、天国日本の不老不死の長寿薬採集といい、モジと歴史を調べにきた。熊野に移住し、十二史談をつくった。また徐福の子



孫は富士文書を作り、漢武帝軍の東征を、神武天皇の行動とし、話のつじつまを合すため、ウソをませ、日本史をつづった。昔の漢学者は、富士宮下文書にだまされ、正史を否定した。漢ユダヤは古文献を焼き捨て、ごまかすため、ニセの神字も作り、わかりにくくして、真の歴史を完全に抹殺した。

エッセネ派とパリサイ派

ユダヤ人は日本的エッセネ派と、狩猟人に味方するパリサイ派の両方あり、

混同してはならない。エッセネ派は、モーゼ・イエス、キリスト・竹内宿弥・平群真鳥など。

パリサイ派は、メシア（天皇）の國をつくろうとし、景教（ネストリウス派）となり、日本に3000年の悲願をもって帰化した。パリサイ派は、イエスの布教は受け入れなかった。

カシヤマト第8代コーゲン天皇

孝元天皇は、59才で即位、4年目に大和の軽（橿原市大軽町）に遷都、河内の物部氏の娘を、皇后とした。

秦始皇は、シナ全土をまわり、孝元5年の第5回巡視後、再び船で来日の途中、暴風のため山東へ引返し、船中で病気になり、上陸してまもなく50才で死んだ。

秦は、僅に3代40年で亡ぶ

秦の宦官は、始皇の死をかくし、都の威陽へ帰るうち、遺言状で陰謀をたくらみ、長男を自殺させ次男を謀殺、三男を皇帝にした。

シナ農民は、秦皇帝の悪政をうらみ、農民兵は始皇死後3年に都へ攻め入り、秦帝国を亡ぼした。

漢兵は項羽をかこみ自殺に追込み、農民の漢高祖を国王とし、農政を確立して、平和をめざした。

長い間、シナをいためたユダヤ軍官は、農民兵の仕返しを恐れ、大集団で山海関から満州に逃れた。頭のよいユダヤ人は内外呼応、騎馬戦術で朝鮮へ侵入、神国移住を考え、漢高祖の死後、政権をとりもどす遠大な計画をたてた。

孝元皇后から長皇子大彦ミコトと、弟皇子と稚日本根子彦大日日尊（第9代開化天皇）が生れた。天皇は、ユダヤ娘イカシコメを皇妃にされ、第3皇子のユダオシマコトが生れ、同じくユダヤ娘のハニヤス姫に、第4皇子のタケハニ安彦が生れ、皇室のまわりに混血がふえた。

孝元天皇は、即位57年9月2日、116才でカミサリ、橿原市剣池に葬る。

カンヤマト第9代カイカ天皇

先皇の弟皇子の稚日本根子彦尊は、55才に開化天皇として即位され、10月に大和の春日の率川宮（奈良市子守町）に遷都。

皇后には、父君第8代天皇の妃イカシコメ尊を迎えられ、第10代の崇神天皇が生れた。

第8代孝元天皇の妃イカシコメ尊に生れた、ユダオシマコトの子、武雄心親王は、紀州ツクリの娘、カゲ姫を妻とし、竹内スクネが生れた。

イカシは、14才から20才までの若もの。コメは光女^{コノミ}で、白系ユダヤの美女。イカシコメは、ワラハ（7才までの童女）のとき、徐福が第7代皇靈の晩年に献上した、美しい韓子スガタの童女。第8代孝元は、これを妃とし、ユダオシマコトが生れた。第9代開化は、父の妃を皇后とし、第10代崇神天皇が生れた。イカシコメの墓は、箸大墓と私は考える。

ユダオシマコトは、ユダヤから来日した20才のイエス・キリストに、大工の経験を活用、神殿の建設に協力させた。キリストは富山の皇祖皇太神宮で、神道を学んだ。

キリストは東北のヘライに住み、遺言状をユダオシマコトの子、武雄心親王に後事を託した。

遺言書（漢字カナ交り文とタネコモジの原本）は、十和田湖に近いヘライ（戸来・十来）と、皇祖皇太神宮（茨城県磯原）に現存している。

日本の神殿は、黄金造りを原則、としていた。開化天皇のとき、漢武帝の使者、張揚^{チヨーヨー}が来日して、「大筒真雄王耳ミコト」に、神殿は白木造りが、清くてよいと教えこまれ、白木の神殿をはじめて造った。『神明の風格は、黄金造りのほかはない』という、神主の武雄心親王に、神のおつけがあって、「必ず黄金で、金色の宮とすると、神明の加護は倍加する」とあった。張揚はこのことを武帝に復命した。

シナは、日本の神殿造りの黄金をとり入れて、金の祭壇を作った。これがシナの黄金造りのはじまり。

開化天皇即位60年4月9日、115才でカミサリ、10月に奈良市油坂、春日イザ川の坂上に葬る。

漢ユダヤは、恵帝・少帝のあと、日本の開化天皇即位18年(BC140年)21才の漢武帝が即位。年号を建元と改めた。建元8年10月、秦始皇をまねて東西に進撃、日本に方士を送り、神仙を求めさせた。

シナ前漢7代漢武帝は外征して元封3年(BC108年)朝鮮を占領。モンゴル・アフガニスタン・イラン・ベトナムなど征覇。

開化天皇58年(BC100年)「倭人は楽浪郡に朝貢」とある。この年ローマの英雄シーザーが生れた。

漢武帝は秦始皇やジンキスカン以上の、武力外交・官僚政治で全アジアに君臨した。

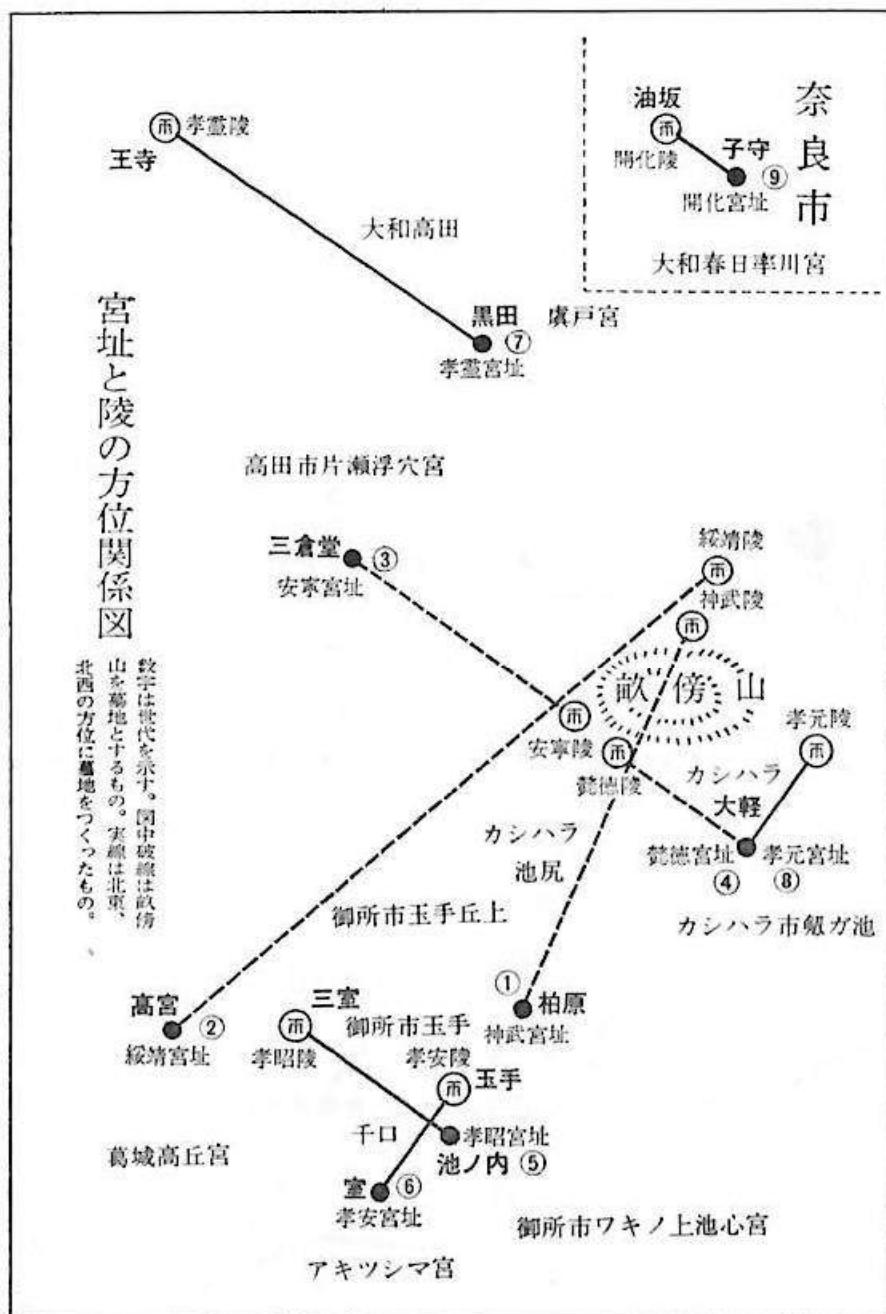
武帝は楽浪郡(平壤)中心の4郡のほか、南朝鮮から神國日本をねらった。

即位19年目(BC122年)の武帝39才に、『淮南子』^{ジョンナソン}ができた。

漢武帝53才のとき、38才の司馬遷を、史記作りの太史令に任じた。一方では平壤の占領軍に、日本を調べさせ、「倭人國は百余国」と書いた前漢書を作った。武帝軍の船団を、國東半島の宇佐から、徐福子孫の熊野水軍が先導、広島・岡山へ進み、淡路島で日本の國産みを相談、遠く鳴尾(兵庫県)の沖をすぎ、住吉の浜(堺市)に上陸、皇都の高田市へと進んだ。

皇軍の大将ナガスネ彦は、コレを必死に撃退、皇軍はナニワの防衛に全力をあげて戦う。侵入軍は東進をやめ、大和川をひそかに上り、南から皇都へ突入した。

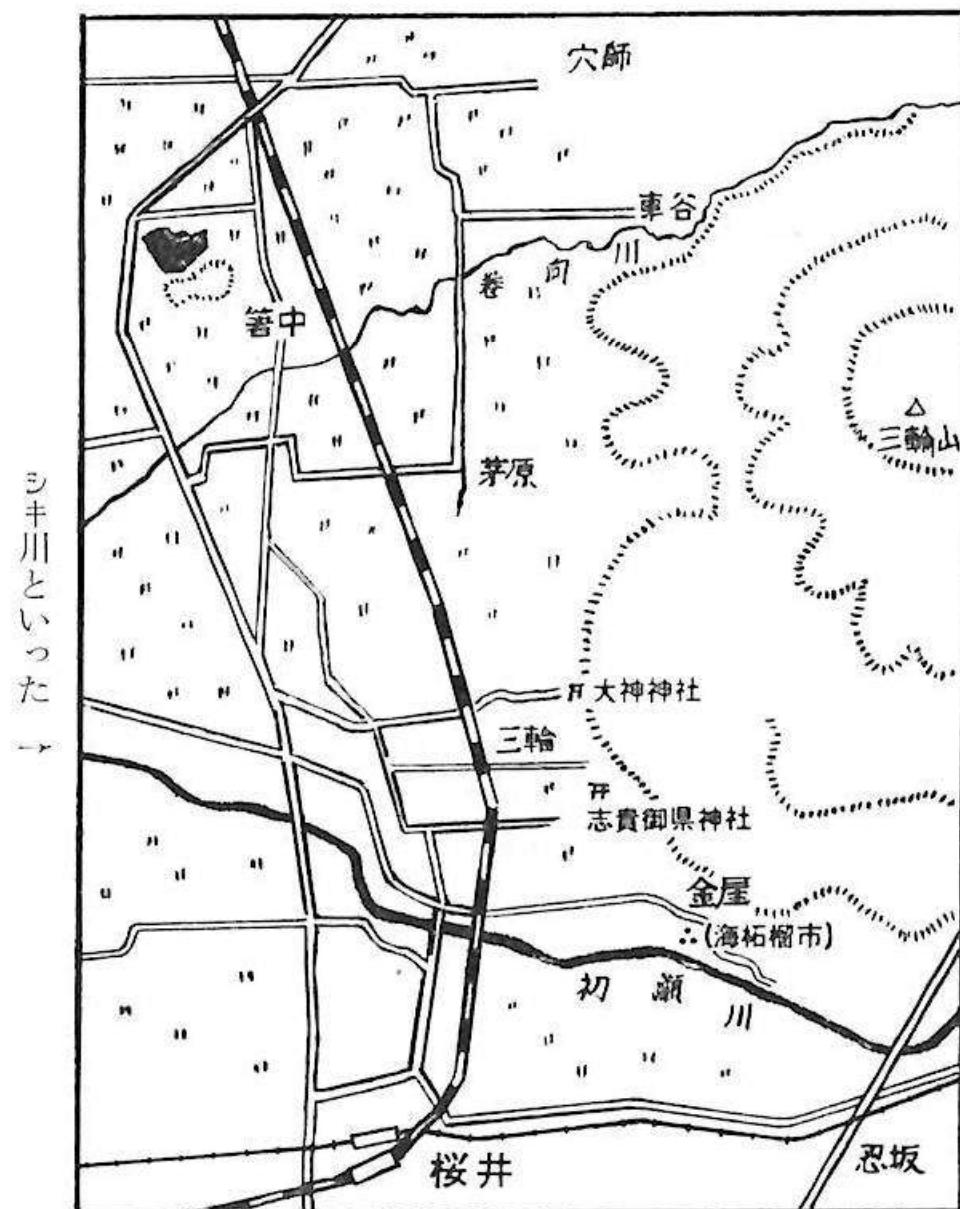
ヤマト初代カラ9代マテノ都ト御陵



カシヤマト第10代スジン天皇 (ミマキイリヒコ イソニエ)

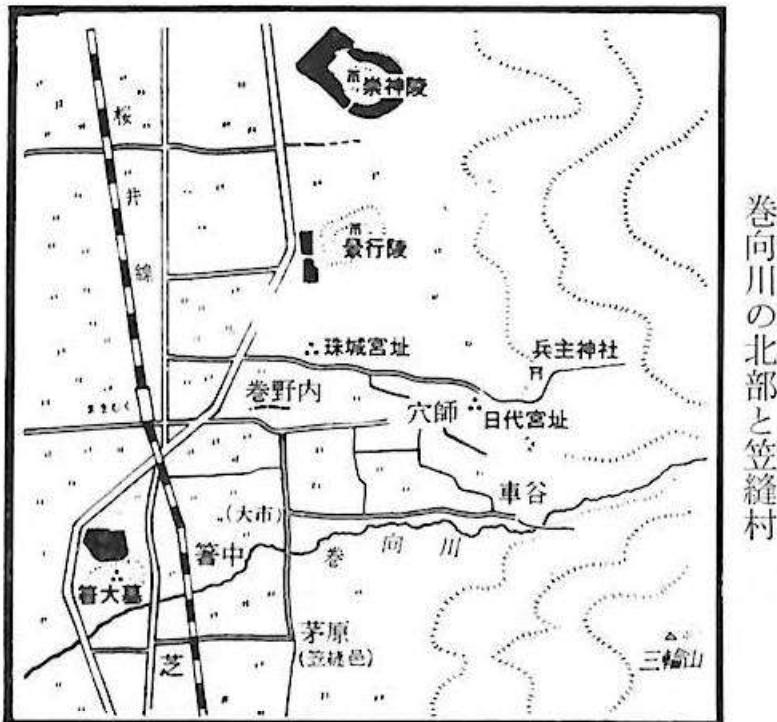
崇神天皇は、先皇崩御の翌年正月、51才で即位。2月に御間城姫ミマキを皇后に迎え、大和の磯城・三輪の初瀬川に、新都をつくり遷都。

漢武帝軍はナニワに陽動作戦、堺のタテ津を攻め、皇軍を大阪に引きつけた。熊野水軍は本隊を導き紀の川を上り、大和五条から北進、大和御所市から高田市の旧都に直進、右翼陣はアスカをとおりすぎ、三輪の新都へ攻め入った。崇神天皇は、平和のため終戦を決意、即



磯城族の古里 三輪山麓

位3年3月3日、神武即位から566年目（BC95年）今から2073年前、三輪新都を明渡し、卷向川をこえ、北岸の穴師に移られて、『皇祖皇太神宮』御神宝のうち、天皇御神骨像石御神体48体のうち、日



向津姫（天照女神）の神骨像石を、丹後の『元伊勢』に、ひそかに移し奉安させ、一体を宮中に祭り、46体は穴師に保管して、終戦の詔勅を発布された。天皇は、「シナの秦人を新民とし、初瀬川の新都に安住させよう。みんな戦争をやめ、マキムク川の北岸へ移れ」と命じ、混血の女たちに、カンゲイさせて終戦。

武帝軍は喜び勇み、三輪の新都へ進駐、長い戦いはおわる。

天皇は、ミズガキ宮を建て、46体の神骨を奉安して祈祭された。

翌年10月、『群郷百官は、皇國に忠誠をつくせ』と、詔された。まもなく進駐の軍官民に、疾病が大流行、死者がドンドン出た。

帰化人は、神靈（御神体）のタタリと恐れ、骨像の移動を命じた。

天皇はミズガキ宮に奉安の46体の御神骨を、三輪山の茅原の笠縫村に移し、皇女豊鍬入姫尊に神宮を奉安させた。流行病はおさまったが、祭政一致のマツリゴトは、BC63年から明治まで断絶した。

弥生大革命という、日本の春秋戦国の数百年は終った。漢人は神

代カナを抹殺、漢字の政治体制に変え、皇民はチンパンカンパンの、文盲になりはてた。

軍はシナや韓国の学者をよびよせ、万民をドレイの召使^{マレツカイ ヤツコ}(奴)とした。役人は遊び、ゼイタク三昧で、食糧は不足しだした。

天皇は、収量の多い水稻をふやすため、池や舟を作らせ、5年目に、水稻の増産が成功した。軍は、10年9月、北陸・東海・山陽・山陰の4道に、将軍を派遣した。

開化天皇第4皇子の武植安彦^{タケハニヤスヒコ}(崇神の異母弟)は、謀叛で殺された。四道将軍は、4月出発して1年後、四道から帰って復命した。

即位12年9月、はじめて人民の数を調べ、男女に調役を課し、四道の天社・国社と神地・神戸を定め、遠国から貢物を献上させた。

天下を太平にした崇神天皇を、『肇國天皇』といった。この前年、漢武帝は、74才で死に、漢昭帝が即位。

崇神天皇即位48年、皇后に生れた活目入彦尊^{イクメイリヒコ}(垂仁天皇)を皇太子と定め、開化天皇の第3皇子、ユダオシマコトに命じ、東国一帯を治めるよう派遣した。

ペルシヤ船と徐福水軍は、日本海を自由に通商した。ところが出雲と東北はヒノモトを守り、独立をつづけた。

武帝軍はツガルを荒しまわる。即位60年、出雲に神宝を求める使者を出し、進駐軍は吉備の岡山から出雲の東へ進軍、帰順を勧告した。帰化の軍官は韓国の釜山に入貢を強請して任那に日本府を設置した。

即位68年12月5日、天皇は119才でカミサリ、40才の皇太子が即位。

崇神天皇の御陵は、長さ240メートル、ユダヤ式築山の前方後円墳に、剣・鏡・曲玉の、三種神器を入れ、巻向川の北方に葬る。

古墳時代はじまる

縄文時代の墓は、天皇の御身骸^{ナキガラ}を風葬して、神骨を固めたので、自然の山が神域だった。武帝軍の侵入後、ユダヤ貴族の墓は、石で築き騎馬の武具や、鎧などを入れ、壮大をきわめた。

カンヤマト第11代スイニン天皇

垂仁天皇は、父君崇神陵の南、マキノウチ珠城宮に遷都、即位2年2月、第9代開化天皇の皇孫サホ彦の、妹サホ姫を皇后に迎え、互いに愛しあい、皇子も生誕した。

即位4年9月、皇后の兄サホ彦は、反乱した結果、皇后サホ姫も皇子も、サホ彦と共に崩じた。

(当麻) 垂仁7年7月、タエマノケハヤと、ノミノスクネは、角力をとった。これが相撲のはじまり。

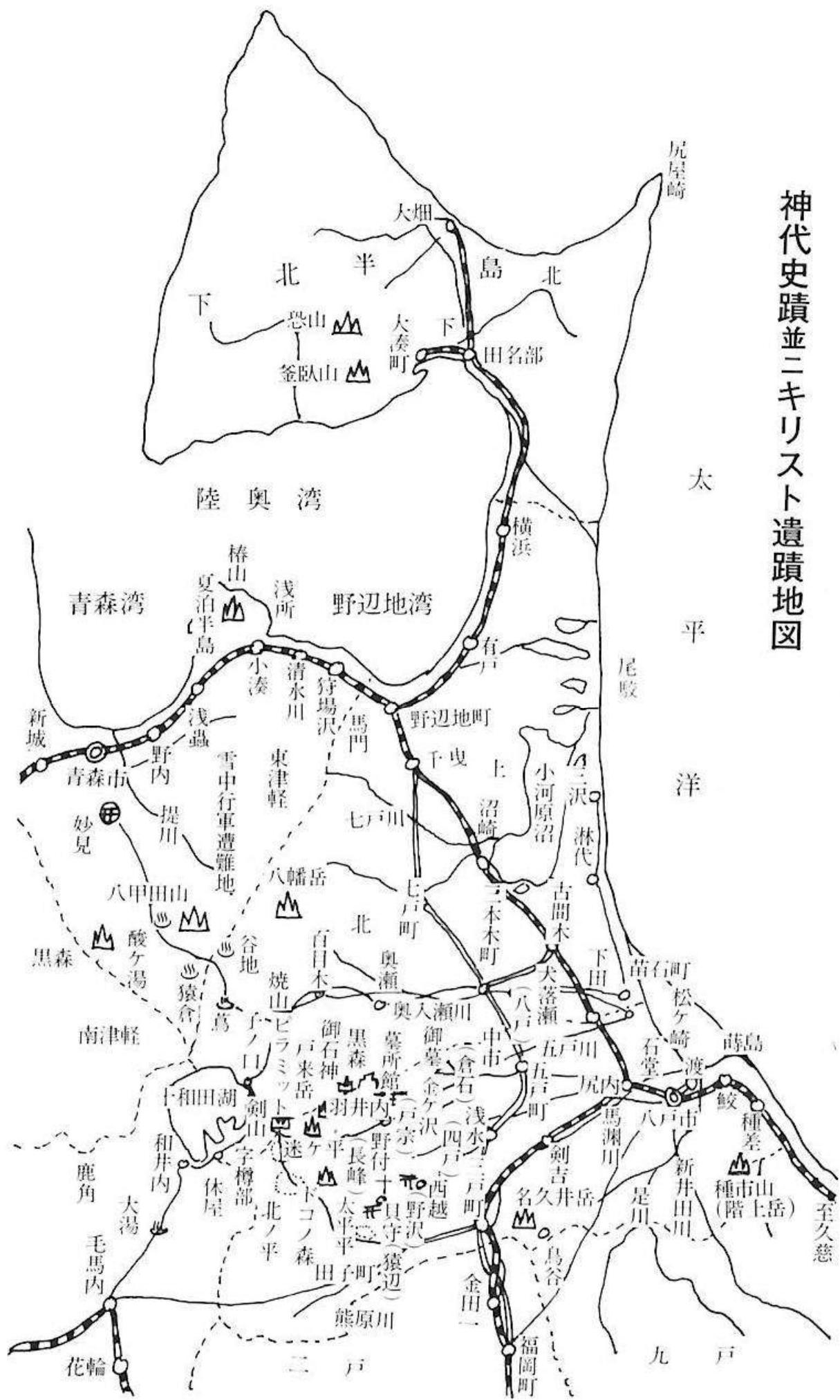
即位13年、ユダヤ国ナザレで成長したキリスト（20才）は、シルクロードを通り、丹後の橋立港につき、ユダオシマコトの世話になる。その前年のBC18年、クダラ百濟國は開国した。

ヒハス 即位15年8月、天皇は日葉酢姫を皇后とした。皇祖皇太神宮の天照大神の宮を、伊勢の五十鈴川上に遷宮のため、造営をはじめた。

キリストは、神道や神殿の建築法などを学んだ。

即位25年3月、伊勢内宮完成の前年、31才のキリストは、モーゼの旧約をつなぐ、新約運動のため、モナコをへてユダヤに帰り、神の福音を宣伝した。女たちは、一夫一婦制を喜び、キリストに協力した。4年後、権力者はキリストを捕えた。十字架で刑死したのは、身代りの弟イスキリ（33才）である。キリストは弟子数人と、イスラエルを脱出、各国を布教し、シベリヤからアラスカをまわり、10人余の弟子と青森県八戸市に上陸。ヘライ 戸来に住み、40才ころ十来太郎天空坊と改め、結婚して娘を3人つくった。

神代史蹟並ニキリスト遺蹟地図



吾国へ再来前キリスト世界巡遊略図



各国から14名の弟子をつれ日本に再来したイエス・キリストは、下記の名にあらためた。

八戸太郎 天空坊
統来太郎 天空坊

此皆八戸、戸来の地名によるもの

- 1 テンコクヒムトテングボ (天國即ち日本人)
- 2 イヅクニテングボ (蝦夷アイヌ人)
- 3 テンジクテングボ (天竺即ち印度人)
- 4 アジチイタテングボ (支那即ち支那人)
- 5 ヨモツテングボ (四方即ち歐巴人)
- 6 エビステングボ (エビス即ちアメリカンデヤ人)
- 7 オセアニテングボ (オウスタラリヤ人)
- 8 イタリテングボ (伊太利人)
- 9 ユタテングボ (猶太人)
- 10 ロオマテングボ (都市羅馬人)
- 11 カネカサタロテングボ (金窓太郎)
- 12 オホヘラタロテングボ (太平太郎)
- 13 ドイツビテングボ (独逸人)
- 14 アフリヒテングボ (アフリカ埃及人)



伊勢神宮の祭主は、皇女倭姫命。^{ヤマトヒメミコト}帰化人は民・百姓をドレイとして漢語で命令、帰化人の子孫には、貴族学院で漢字を教え、無数にあったカナ文書を全部焼きすぎてた。

ノミノ宿弥は、大陸騎馬民族の悪習の殉死をやめ、土隅に代えた。^{スクリーネ}

垂仁天皇は、水稻増産のため諸国に、800余の池^{ハニワ}ミヅを造らせた。^{スイトー}

キリスト天空坊も、稻作を全国にすすめてまわった。^{チング}

垂仁37年正月、大兄彦（30才）^{オーエヒコ}を皇太子とし、皇子イニシキイリ彦命に、剣千口を石上神宮（奈良県）に納めさせた。^{ツルギセンブリ イゾノカミ}

キリスト（54才）は、垂仁天皇（86才）の5月5日に参内拝礼した。

垂仁54年、シナ後漢の光武帝は、前漢王朝に代り、建武と改元して洛陽に都し、朝鮮を支配した。高句麗は建武8年後漢に朝貢。垂仁86年倭王の使節も洛陽に朝貢、光武帝から『漢倭奴国王印』^{ヤマト}を賜わる。（後漢書）福岡県志賀島村出土の金印。

垂仁90年2月130才の天皇は、田道間守に橘を求める名目で海外の事情を調べさせたが、139才の7月3日、残念にもカミサリ、同年12月奈良の尼辻陵に葬る。翌年3月、海外から田道間守は帰朝、天皇陵の前で自殺、菓子の神として祭られた。

カンヤマト第12代ケイコー天皇

景行天皇は、7月11日83才で即位。翌年3月播磨国の稻田姫を皇后に迎えた。

景行天皇は、帰化人に漢字でごまかされぬため、韓人の使う漢字を数十年も研究されて、漢字1字ごとにカナの音訓をつけた。

即位2年（AD72年）勅命で、韓人の官吏が読む『吏讀音訓』^{リトウ オンクン}を採用された。漢文はそのまま音訓でよむため、日本製の漢字も作る。後に万葉仮名ができる下地は、この『漢字音訓表』であった。

即位9年5月8日キリストは、富山皇太神宮に参籠。神主武雄心親

王に願い、キリスト父母の骨像を造って、太神宮に納祭を頼み、詔をたまう。天皇は、武雄心親王を紀伊に行かせ、諸神の祭祀を命じた。景行12年キリスト（106才）は、漢字カナ交りの遺書を残し、ヘライ（戸来）^{ハイ}で死亡、十来塚に葬る。

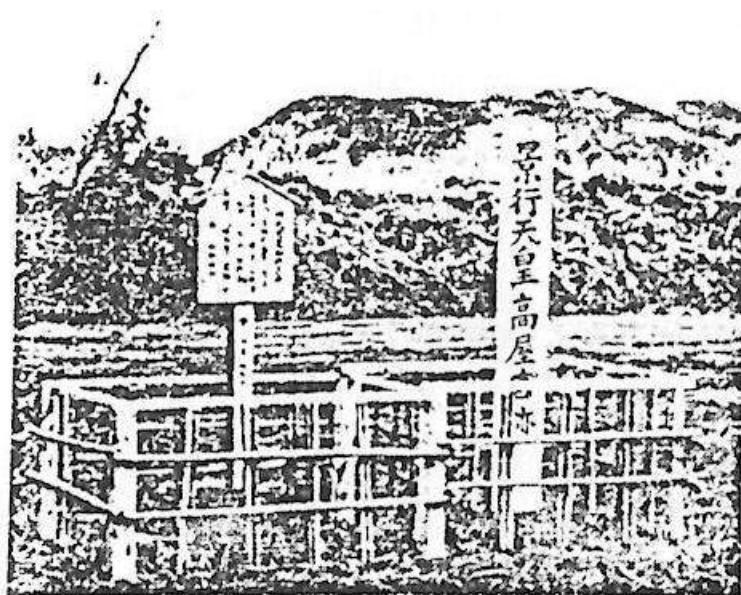
キノアクイ ヴジヒコ カヅヒメ
紀直の遠祖菟道彦の娘影姫は、武雄心親王の妃となり、竹内宿弥を生んだ。

景行4年2月美濃に行幸、11月に還幸。カンゴー アナシ 86才のとき、穴師マキムク（ヒレロノミヤ）の日代宮に遷都された。

景行11年（天皇93才）に竹内宿弥は22才で官仕えをした。翌年7月筑紫（九州）クマソ（ペルシヤシラギの外人）の侵入で、天皇は九州に親征された。同年12月熊襲のヤソタケルを殺し、翌年5月クマソは全部平定した。

天皇は日向の行宮（仙洞）高島宮に6年住み、子湯・八代に行幸。即位19年9月、101才の景行天皇が日向から還幸中、竹内宿弥は31才で正式の使臣となつた。

景行20年2月、五百野皇女に天照大神をまつらせた。



景行天皇の高屋宮跡、熊本県上益城郡の御所。ここから旧石器・縄文・弥生期までの出土器が多数出た。

（昭和46年8月県文化財調査資料参照）

クマソはペルシヤ系

ペルシヤは新羅と親交した。日本の近海は新羅と交通、新羅人は九州に上陸して、反乱を起した。これはクマソと考えられる。

契丹古伝によると、満州の渤海国は日本と修交して、34回も使節を送った。卑弥呼は北鮮の卑弥氏、南鮮は加羅氏、三韓は東大族の日系人。
(契丹古伝参照)

景行25年7月竹内宿弥は、北陸から北海道まで巡察、27年2月帰って、地形や民族を報告した。同年8月クマソまた反乱した。同年10月日本武尊ヤマトタケルに、これを討たしめ、翌年2月クマソ平定をご報告。

景行天皇の勅使武内スクネ

大足彦忍代別天皇（景行天皇）の勅使、武内宿弥は、天皇即位21年（神武紀元751年・西紀91年）、景行天皇の詔で、東方及び北陸、北海道（エゾ）シナ・ヨモツ（欧州）ヲリト、エヒルス万国巡廻を命ぜられた。武内スクネは謹んで拝受、巡廻する仕度にとりかかる。（スクネは東北地方を巡回、記録は紛失した）。即位23年（神武753年）3月15日、改めて天皇大前へ参上、言上して17日に大中臣大楯臣ミコト・ト部大狭山ミコト・大伴武日ミコト・物部トネネミコト・人民富足ミコト・別無官82名をつれて大和を出発した。

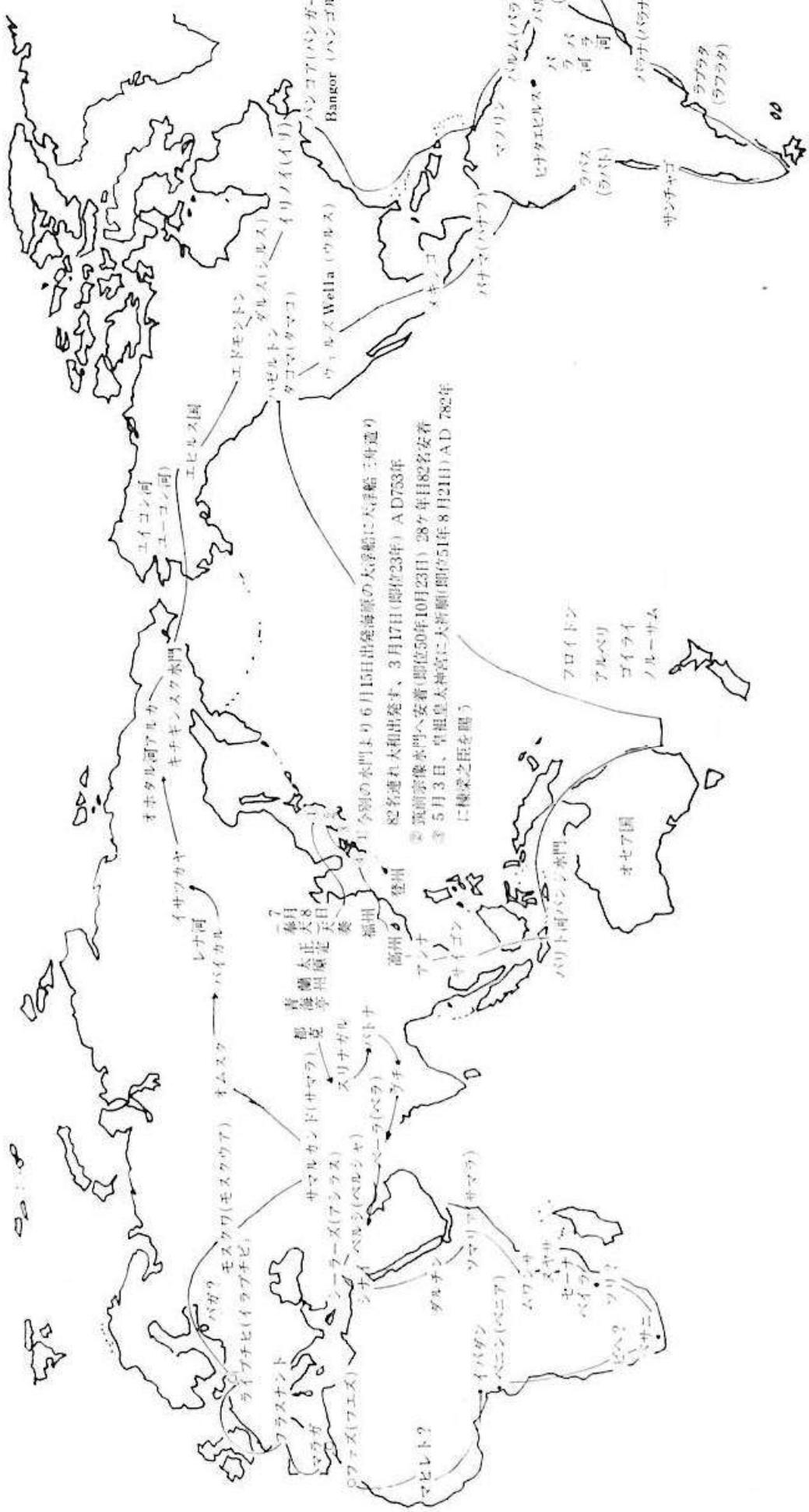
奥州の今別の港より、6月15日海の大型船で出立、天浮船3舟を造り持ちゆく。7月8日、シナ国コルフコイ港につき巡廻した。

シナ国祖を祭る奉天に拝礼、ウガヤ33代清之宮媛天皇が天降った天津の神殿に拝礼、シナの和帝氏に面会、その他官人383名に分れて、正定・大原・蘭州・青海亭・都克を巡廻した。

インド（天竺）スリナガル・パトナ・ブチ・ベラ・ペルシ・アシラス・シナイ・ダルチン・サマラ・ムワンサ・ヌヤサ・セナ・ツリ・ベザニ・ピヘ・バニア・イバダン・ベイラ・マヒレト・フェズ・マラガ・フラスナント・イラブチヒ・パガ・

ヤマト朝12代、景行天皇 勅使武内宿弥 海原の大船と天空浮船で万国巡回

A D95～96. (ヨンサン4.5世界狂宴に書かれたのは誤り) 28作かけて82名づけられていた。



モスクワ・スマラ・オムスク・パイカル・レナ河イサツカヤ・オホタ河アルカ・キチギンクス港より、乗船してエピロス国（アメリカ）テライ・ユイコン河サイクル・エドモントン・ツルス・イリ・ハンゴル、南米のマツリン・パラ河のパラパルマ、バラナ・ラフタラ・サンチャゴ・ラパト・バナフ・メキシコ・ウレス・タマコ・ハゼルトン港より、船でオセア国クロイドン・アルベリ・ゴイライ・ノルサム・パリト河バンジ港まで、まわった。

アンナンサイゴンに着き、高州・福州・登州港より日本の筑前宗像港に28年目に帰った。

即位50年（神武780年）10月30日、総大将の竹内スクネを始め、大伴武日ミコト・物部トチネミコト・大中臣大楯臣ミコト・人民富足ミコト・ト部臣ミコト・無官82名が安着した。天皇は大に喜びたまい、早刻に富山皇太神宮に参拝され、自身御礼祭礼。即位51年8月21日、竹内スクネを棟梁の臣とされた。日本武皇太子の熊襲征討及び東征は、スクネの旅行中の事変、皇太子のカミサリは、スクネの帰朝7年前だった。

景行37年『倭国王が後漢の安帝に朝貢』（後漢書）は、竹内宿弥のことか。景行40年6月東国が反乱、日本武尊は同年10月東征。43年伊勢のノボノで、32才でカミサル。景行51年第4皇子のワタラシ彦尊を皇太子とされた。

景行52年4月に皇后は崩じ、7月135才で八坂入媛を皇后とす。

翌年8月から東山道・東海道・伊勢を巡幸。57年諸国に田部屯倉を造る。58年2月近江（志賀）高穴穂宮に住まれ、3年後の11月7日、143才でカミサル。

カンヤマト第13代セイム天皇

成務天皇は、正月7日47才で即位。先皇の宮に住まれ、翌年11月先皇を大和天理の渋谷町にあつく葬る。成務3年正月竹内宿弥は、70才で大臣に任せらる。日本最高の大臣職の初代。竹内スクネと、ユダヤのキリストは、弥生革命の立役者と、私は考えたい。

ユダヤのダビデとソロモン王は栄えたが、BC859年の第5回大洪水後、3大国の侵入で国は亡んだ。亡国王の一団は、天皇（エホバ）の選民ユダヤ律法を信じ、スキタイに移り、馬賊団を編成。他民族に仇討ち、団結して本国に近づく執念をもやす。秦始皇は水軍の徐福と密約、美女イカシコメは第8代孝元妃から第9代天皇の皇后に出世、第10代崇神天皇を産む。

漢武帝は、東洋古代史を司馬遷に書きかえさせ、武帝の死ぬ7年前『史記』は完成。キリストは、クリスマス神・八戸太郎天空坊と改む。竹内宿弥は、秘かに百濟と結び、新羅征伐の名目で船を造り、満州や朝鮮のユダヤ民を、日本に帰化させる策略をもちいた。

成務21年（AD151年）シナ後漢の桓帝は、インド28宿暦で元嘉と改元して元嘉暦を作る。この暦法はカンヤマト第41代持統女皇が、初めて採用した正式の日本暦。

成務36年シナでは、大秦王安敦（マルクス・アントニヌス帝）のローマ使節と交流した。

後漢書に「倭國は大乱で歴年王なし」「卑弥呼を立て王とす（魏志倭人伝）」とあり、ヒミコは九州から南鮮一帯の女王でないか。

成務48年3月、天皇は、日本武尊の第2皇子足仲彦尊（30才）を皇太子とされた。

成務60年6月11日、天皇107才でカミサリ、翌年9月狹城盾列（奈良市山陵田）に葬る。15才月は空位のまま、2月目に皇太子は、仲哀天皇に即位された。

カンヤマト第14代チュウアイ天皇

仲哀天皇は、正月11日 44才で即位。10月に大伴（天皇を守りお供する家柄）の大伴武以を、大連職に任命。大連職の始め（初代）。

翌2年正月、24才のオキナガタラシ姫（神功皇后）を、皇后に迎えた。同年2月角鹿（敦賀）に行幸。同年3月 新羅軍が九州に上陸したことを知られ、防備のため穴門（山口県）へ行幸、豊浦宮を建て、

両陛下は住まれた。

即位 8 年正月、クマソ征伐に筑紫（北九州）へ行幸された。^{ツクシ}

同年 9 月群臣を集め、クマソ（外人侵入）討伐の会議を開いた。

この年、秦始皇第13世の功満王は、部下多数をつれて帰化した。^{コーマンオー}

ユダヤ民族の多数帰化に反対された仲哀天皇は、僅か52才に穴門の
カシヒノミヤ 檻日宮で、カミサリたまう。^{カグワ}

大臣竹内宿弥は、百濟と密議して、鮮満に流浪するユダヤ系を、日本へみちびく謀略をもちいた。

三韓征伐の名目で多数の船を造らせ、空船を韓国へ送った。

42才で身重の息長帯皇后を、神功皇后の名で天皇に代らせた。^{オキナタタラシヒメ}

カンヤマト第15代ジングコウゴウ

息長帯媛尊（神功皇后）は、24才に皇后となり、29才夏に身もごり、30才の2月に仲哀天皇は急にカミサリたまう。^{カケノミヤ}

皇后は蚊田宮で春ころお産。誉田別皇子（応神天皇）がご誕生。皇后は三韓征伐を名目と知らず、戦争に勝つため悲しみをおさえ、皇子のためにも、天皇に代り出征を承知された。

戦争のためお産も秘め、幼皇子をツクノ宿弥に預け、10月に竹内大臣と共に新羅へ渡り、伝書鳩で皇子の消息などを文通された。

約3月後の12月に還幸。翌年正月皇子誕生ご発表、このため後世まで、各種のウワサが民間に残った。

翌2年2月麿坂王と忍熊王が反乱、3月に武内宿弥らは忍熊王を討つ。10月、神功皇后は河内古市に帰り、政を摂り、翌年11月8日仲哀天皇を河内長野陵に葬る。^{カゴサカ オシクマ カワチフルイチ マツリゴト}

翌3年正月誉田別皇子（4才）を皇太子に立て、大和磐余に遷都。若桜宮という。

摂政5年3月新羅が入貢した。竹内宿弥の第6男、葛城襲津彦が送使として新羅へ行き、帰りには多数の帰化人をつれ帰った。^{カツラギ フツヒコ}

皇太子14才のとき、竹内宿弥をともない越前に行啓された。

ギヨーケイ

シナ魏・呉・蜀の三国時代は西暦220～280年だが、三国史中の魏志倭人伝に、日本は小国に別れたとあるがこれは九州・出雲・東北などの独立をいう。

神功26年（A D 266年）に西アジアのササン朝ペルシヤが起る。これは後のサラセン王国。

神功39年九州のヒミコ女王は、魏の明帝に貢献のため使節を帶方郡（平壤）に派遣、帶方郡主は倭の使者を魏都（洛陽）へともなう。明帝はヒミコを倭王とし、景初3年の鏡金印紫綬を与える。帶方郡主は詔書印綬をもって倭（九州）へ来た。ヒミコは魏に上表を使に託した（魏志）。神功47年にヒミコ死亡、翌年トヨがついだ。

神功54年5月5日筑紫の三井に天照大神を祀り、竹内宿弥は、大祭をおこなう。62年にトヨが、晋に使者を送ったあと、九州女王の政庁はなくなった。

神功69年4月17日、神功皇后は100才でカミサル。皇太子は御母の池上陵を造り、弓矢八幡の鍛治神にまつられ、翌年元旦、応神天皇として即位。

〔註〕 竹内文献では、神功皇后を第15代息長天皇と記している。

カンヤマト第16代オウジン天皇

カシハラ　トヨアキラ
応神天皇は、橿原輕島の豊明宮にて、70才の元旦に即位。

翌年3月、誉田マワカ王の娘仲姫を皇后とされた。このころは「氏族・部族・奴」の3階級に分れ、大伴・物部の氏族と帰化の部族は、漢字の読みぬ庶民を奴（ドレイ）として使役した。

応神9年4月武内宿弥大臣（第2世）は、九州へ出張した。弟の甘美内宿弥は、兄を悪口して探湯（1種の刑罪）をおこなう。

応神14年2月百濟王は、縫衣女を日本に献じ、弓月王の融通は、

120 県の秦人をひきつれて日本（大阪）に帰化した。融通は金ぐりを円滑にする融通寺に祀られた。（この寺は、今も大阪谷町に実在する。）応神16年2月百濟の王仁は孔子の『論語』『漢字の千字文』などを献上し、織工・治工・醸造人・呉服師などをつれてきた。

応神20年9月後漢・靈帝の曾孫阿知使主父子は、17県の民をひきいて大集団で帰化、このため百濟の音ヨミ漢字や、外国語の漢字文は広まった。応神22年3月天皇92才に、難波（大阪）大隅宮へ行幸。

応神28年9月高句麗は朝貢をしたが、皇子の菟道稚郎子は高麗王の表文（上呈書）が、あまりに無礼なので、使者を責められた。

応神31年8月諸国に船をつくらせ、武庫港に集める。新羅の貢船が失火して、日本船も類焼。新羅王は船工を獻じて謝罪した。

37年2月阿知使主の父子をシナの呉国につかわし、縫工女を求めさせた。呉国は工女を送る。39年2月百濟王はその妹を皇室に仕えさせ、婦女7人と共に帰化させた。

40年正月菟道稚郎子皇子を皇太子と定め、翌41年2月15日応仁天皇は110才でカミサル。この年にも阿知使主は、呉の縫工女をつれて帰りヤマト飛鳥は帰化人で激増、人口は充満した。

長兄の大山守皇子は皇位を争う。皇太子は大山守皇子を殺し、弟大ササギ皇子（24才）に皇位をゆずり、菟道宮で自殺された。やむなく弟皇子は即位。昔は兄弟同格で、天職1人を選んだ。

皇位争いの真相

帰化人は大和へ大殺到、食糧の争奪で大混乱の最中、応神天皇崩じ、皇太子は帰化勢力との争斗をさけ、譲位して自殺。第17代を即位の仁徳天皇は、食物不足で畜生道の大和から、急いで大阪へ逃れ遷都。

カンヤマト第17代ニントク天皇

仁徳天皇は、大急ぎで摂津の大坂（今の大阪城）^{セツヅ}高津宮に遷都。^{タカツノミヤ}
食べ物不足で民のカマドも煙は立たず、食糧増産の急を痛感され、農業優先の非常体制を命じた。^{ケムリ}

翌年3月、竹内宿弥の孫娘磐之媛を皇后とし、農作のため民の課役を3年免じた。^{イワノヒメ}帰化人にも協力させ堀やミゾを造り、^{ミヅ}おりから朝貢の新羅人に淀川の茨木堤を築かせ、^{ギモノ}^{ヨドガワ}^{イバラギヅヅミ}皇居の改築を後まわしにした。

ユダヤ系は橋や道路を造り、みんなで食糧の増産につとめた。

10年たち食糧の備蓄もでき、民のカマドに煙が立ちのぼる。

天皇は、やっと皇居新築を許された。民は聖天子とあおぎとうとび、内外喜びあい懸命に働いた。

シナでは、仁徳4年晋帝国が亡んだ。東晋・元帝のあと南北朝に分れて争乱。西暦266年から宋武帝第5代の413年まで歴史は空白。

仁徳55年大臣武内宿弥2世は死んだ。(宿弥は世襲名で在官244年)
仁徳65年、軍人は飛彈の宿儻^{スクリナ}を殺し、飛彈国に侵入占領。反抗した出雲の国も天皇に帰順した。北日本と南九州に、小数の縄文日本人は残存するが問題でなく、ユダヤ東漸は達成した。

第17代仁徳76年（AD 386年）北魏の秦（西秦）^{ユダヤ}^{レジ}^{シン}が東晋へ進む。

盤古（周王国）征服のため、後秦はまず東へ進み、竹内襲津彦は弓月氏を日本につれ帰った。大国の周は、南の宋国（南朝）になる。

仁徳79年（BC 391年）満州の鴨緑江岸に、好太王の碑を建て、『倭（ヤマト）の竹内襲津彦は渡海して、百濟・新羅を臣民とす』と石に刻み銘記した。

仁徳87年正月16日、天皇は110才でカミサル。中兄の仲皇子は皇位をねらい、皇太子に内定の長兄イザホワケ尊を、焼き殺そうとして殺され、長兄が2月1日即位。

ユダヤは亡国後1100年に神国日本へ帰化を完了

B C 859年の大洪水・大地変動大混乱の、イスラエルにシリヤが侵入、無政府状態になり、南北に分れて、南のユダ王国もB C 721年に亡び、ユダヤ人は神国へと願う。その執念は1100年後の仁徳朝に、ついに達成した。その喜びで堺市の仁徳御陵は、世界最大の墓を築造した。御陵やユダヤ系陵に、スキタイ騎馬民東漸の記念品を埋め、古墳時代のエポックをつくった。鴨緑江岸の好太王の碑は、高句麗・広開土王が造ったが、襲津彦は竹内宿弥の第6男らしい。

ユダヤ系帰化人は、漢字・漢語で力ナを抹殺、支配人を確保した。

カシヤマト第18代リチユウ天皇

履中天皇は72才の2月1日即位、4月に仲皇子と共に謀の阿曇連浜子の死罪を減じて黥刑（イレズミの刑）とされた。アズミムラジハマ
ゴヨーケイ
ミヅハウケ

履中2年正月皇弟49才の瑞齒別ミコトを皇太子とし、10月に大和の磐余へ遷都、平群木菟・蘇我満智・物部伊菖弗、3人の豪族が、国事（政治）を争い混乱した。

履中5年9月、天皇76才で淡路島に行幸、翌年正月クサカノハタヒ姫（幡梭皇女）を立てて皇后とされ、始めて蔵職（大蔵省）を設けた。同年3月15日に天皇77才でカミサル。（結婚されて僅か2ヶ月）

皇太子ミヅハウケミコト53才は、翌年反正天皇に即位。

カシヤマト第19代ハンセイ天皇

反正天皇は正月2日、54才に即位、河内の丹比に遷都。柴ガキ宮を建てた。治政は僅か6年、即位6年1月23日天皇60才でカミサル。大和アスカは平群・蘇我の帰化勢力。河内はモノノベの勢力。ヘグリ・ソガと、物部の勢力争いは、しだいに高まる。

カンヤマト第20代インキョー天皇

允恭天皇は、36才の12月に遠飛鳥宮（河内）へ遷都、翌年2月14日、忍坂大中姫を皇后とし、皇后のため刑部を定めた。

即位3年正月百濟でなく新羅に良医を求めさせ、新羅の医師2人が来朝、天皇の病を治して帰る。

即位5年7月、大地震あり、11月先皇の反正天皇を百舌耳原北陵（堺市北三国丘町）に葬る。

即位7年皇后に大泊瀬皇子（雄略天皇）が生れた。天皇は藤原宮の衣通姫を愛され身もごる。翌年茅渟宮を造り衣通姫に住まわせ、たびたび行幸、即位11年衣通媛のため藤原部を定めた。

即位14年9月、淡路島へ行幸。

即位23年3月、衣通媛に生れた木梨輕皇子（17才）を皇太子に立てた。皇后と大泊瀬皇子（18才）は、しりぞけられた。

大泊瀬皇子の母、大中媛皇后は、皇太子はわが子大泊瀬皇子と主張され、伊予に流されたまう。カンヤマト朝の流刑の始まり。

即位42年1月14日、允恭天皇78才でカミサル。新羅国は、喪をともない楽人の船をととのえて献上。12月14日皇太子木梨輕皇子（36才）は、穴穂宮で安康天皇に即位された。

源・平・藤・橘はみな帰化系

百濟は蘇我の騎馬系、新羅はペルシヤの水軍系。騎馬は源（元）氏、水軍は平氏の祖先。

大伴は天皇の近衛隊、物部はモノノフ武士。大伴・物部の気風は、帰化系と全くちがっていた。

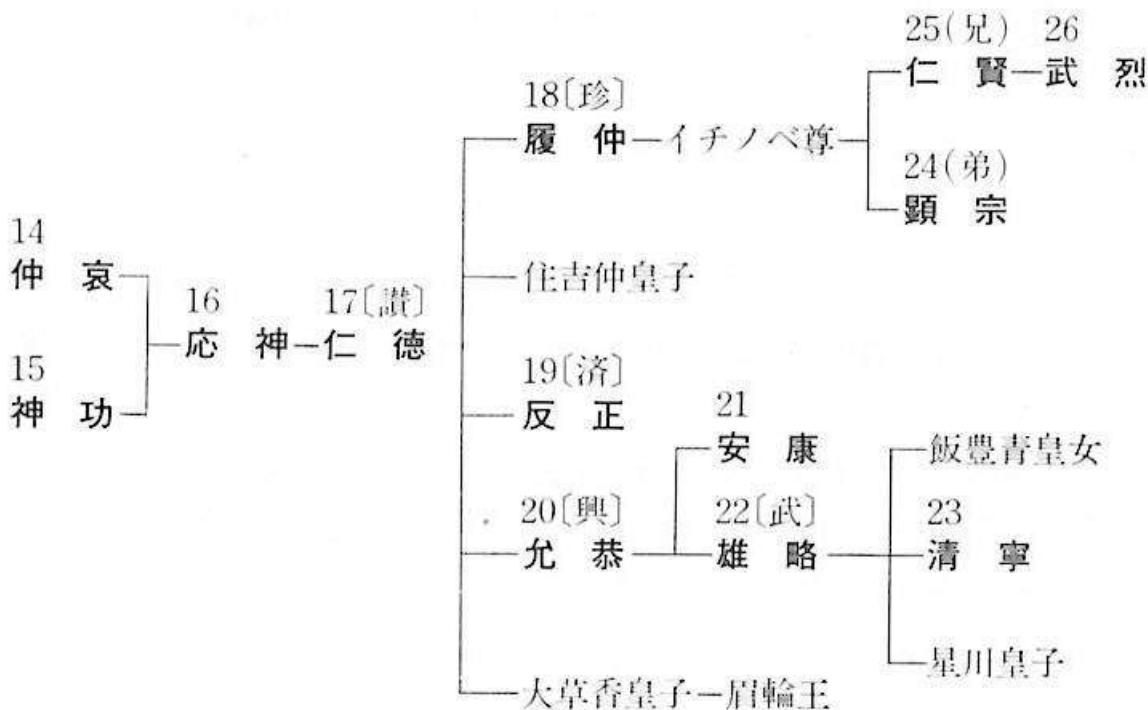
土着の日本人は皇祖と国体を尊ぶが、帰化人は天皇をアナドル。

カンヤマト第21代アンコー天皇

安康天皇（穴穂皇子）は穴穂に住み17才で皇太子となり、允恭天皇は正月14日カミサリ、同年12月14日穴穂宮で即位。翌年正月、中蒂姫を皇后とした。2月安康天皇は叔父大草香（仁徳天皇第5子）の持つ、押木珠綾を所望され、大草香皇子は承知された。タマカズラを天皇の命で受取りにきた使者は、そのカヅラがほしくなり、自宅に持帰り、『大草香は、約束しながらカヅラを出さず、逆に甥の天皇の悪口をいった』とだまし、天皇の伯父大草香皇子を殺させた。

大草香皇子の子眉輪王は、ソガ系のやり方と、父を殺されたウラミが重なり、正義の刃をふるい、8月9日安康天皇（39才）を殺した。

允恭天皇の皇后（大中媛）に生れた大泊瀬皇子40才は、帰化人がはびこり、母皇后を流罪にするなど、神国何十万年の危局をうれえ、天皇を殺した眉輪王を、殺した形で逃し、11月3日に雄略天皇として、自宅の朝倉宮で、重大な決意で即位された。



〔 〕は漢書にある仁徳以後の倭五王（安康は入れてない）

古事記・日本書紀は謀略書

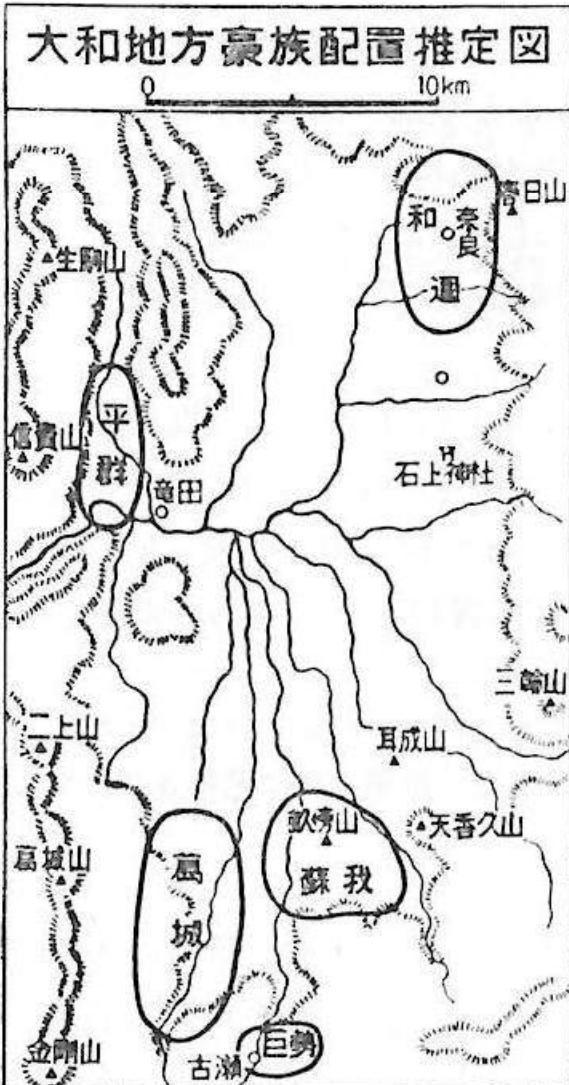
今の学者は10代崇神朝（BC95年）に、漢武帝軍の皇都占領を知らず、謀略のため後世に作った漢文の歴史を立前とし、根本から誤る。

21代安康天皇は、22代雄略天皇より一つ下の異母弟だが、兄雄略を弟とし、暴君に仕立てたのは、全くウソと早く気づいてほしい。

第20代允恭天皇は、河内に遷都し、皇后のため刑部を定め、新羅と接近された。後に藤原宮の百濟ソガ系の衣通姫に誘惑され、大阪から淡路島へ行幸。皇后に生れた大泊瀬皇子をさしおき、衣通姫に生れた穴穂皇子を皇太子とし、皇后を伊予に流した。

後世、天智の兄の天武を弟とし、兄弟入れかえた謀略を知れ。

大和地方の豪族勢力



- | | |
|------|--|
| 〔大和〕 | 奈良は和邇氏
飛鳥は蘇我氏
葛城山東は葛城氏
金剛山の東は巨勢氏
信貴山の東は平群氏 |
| 〔河内〕 | 遠飛鳥は大伴氏・物部氏 |

古事記・日本書紀は謀略書

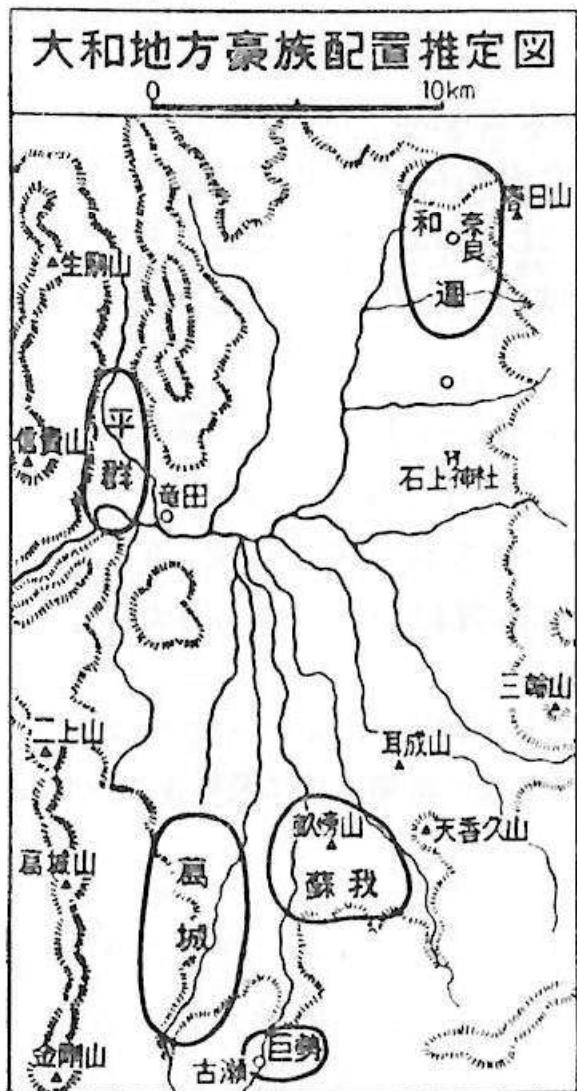
今の学者は10代崇神朝（B C 95年）に、漢武帝軍の皇都占領を知らず、謀略のため後世に作った漢文の歴史を立前とし、根本から誤まる。

21代安康天皇は、22代雄略天皇より一つ下の異母弟だが、兄雄略を弟とし、暴君に仕立てたのは、全くウソと早く気づいてほしい。

第20代允恭天皇は、河内に遷都し、皇后のため刑部を定め、新羅と接近された。後に藤原宮の百濟ソガ系の衣通姫に誘惑され、大阪から淡路島へ行幸。皇后に生れた大泊瀬皇子をさしおき、衣通姫に生れた穴穂皇子を皇太子とし、皇后を伊予に流した。

後世、天智の兄の天武を弟とし、兄弟入れかえた謀略を知れ。

大和地方の豪族勢力



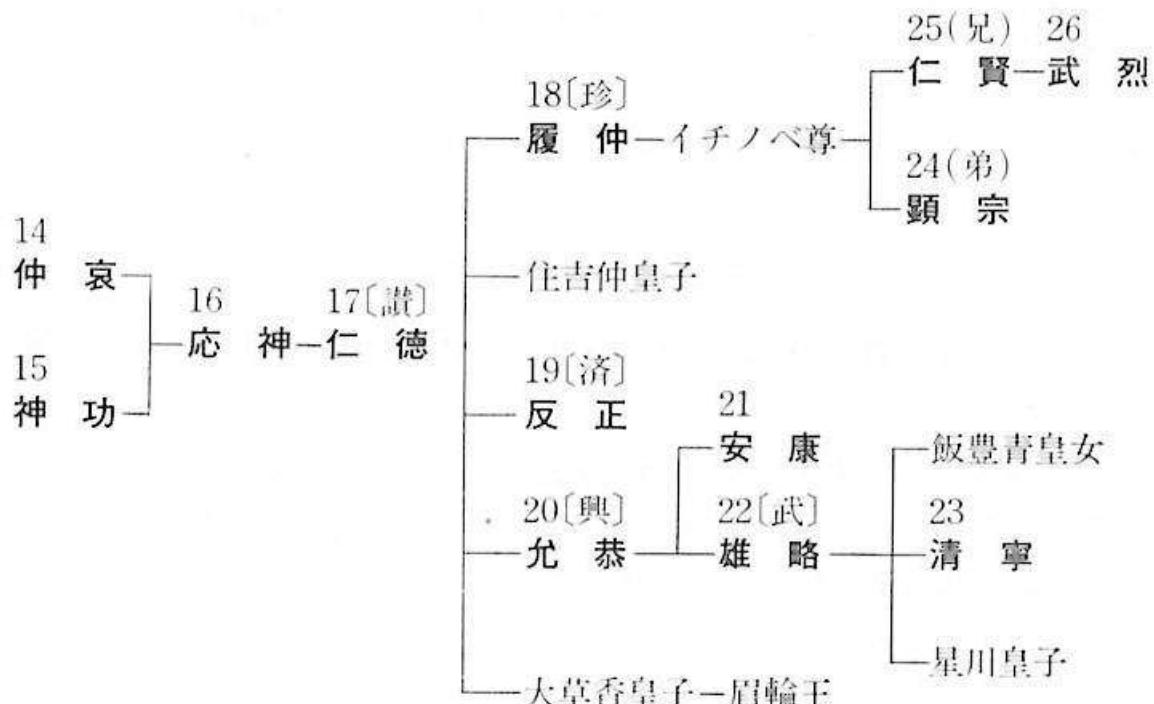
- [大和] 奈良は和邇氏
飛鳥は蘇我氏
葛城山東は葛城氏
金剛山の東は巨勢氏
信貴山の東は平群氏
- [河内] 遠飛鳥は大伴氏・物部氏

カンヤマト第21代アンコー天皇

安康天皇（穴穂皇子）は穴穂に住み17才で皇太子となり、允恭天皇は正月14日カミサリ、同年12月14日穴穂宮で即位。翌年正月、中蒂姫を皇后とした。^{ヒメ} 2月安康天皇は叔父大草香（仁徳天皇第5子）の持つ、押木珠綾を所望され、大草香皇子は承知された。タマカズラを天皇の命で受取りにきた使者は、そのカヅラがほしくなり、自宅に持帰り、『大草香は、約束しながらカヅラを出さず、逆に甥の天皇の悪口をいった』とだまし、天皇の伯父大草香皇子を殺させた。

大草香皇子の子眉輪王は、ソガ系のやり方と、父を殺されたウラミが重なり、正義の刃をふるい、8月9日安康天皇（39才）を殺した。

允恭天皇の皇后（大中媛）に生れた大泊瀬皇子40才は、帰化人が
はびこり、母皇后を流罪にするなど、神国何十万年の危局をうれえ、
天皇を殺した眉輪王を、殺した形で逃し、11月3日に雄略天皇とし
て、自宅の朝倉宮で、重大な決意で即位された。



〔 〕は漢書にある仁德以後の倭五王(安康は入れてない)

カンヤマト第22代ユウリヤク天皇

雄略天皇（オーハセ 大泊瀬皇子）は、皇國をつぶす大和リガの悪計を知られ、武内宿弥の孫、平群真鳥を大臣とし、大伴室屋と物部目を大連に任じ、神國を守るため、大和の帰化勢力に大反撃、平群真鳥と河内の大伴・物部をたより、自宅の朝倉宮で40才の11月13日に即位。

人祖・皇祖の神国を、死守する決意をかためられた。

帰化人は秦や漢姓を名乗り、フヒト（書記職）の重職で、諸外国と交流した。真鳥は神国を知る唯一の帰化系。第10代崇神朝に、漢軍侵入後566年間に、カナの日本は漢字の世に変り、民百姓は無学文盲の奴（ドレイ）に使役された。

天皇54才の即位15年、内外の情勢を深く考え、神宝・神代万国史の抹殺をうれえ、真鳥大臣とひそかに相談、ウガヤ第3代製作の、『アヒル字の歴史卷物』を、子孫の読めるよう全部、漢字カナ交り文に書き改めて秘蔵を命じられた。真鳥はただちに漢字書きを練習して、数十巻を5年で書き写した。そのうちヒミツはもれ、権力の強い五大豪族、大伴室屋・物部目のほか、葛城円・巨勢男人・蘇我韓子の5人連名で、歴史の下付を要請した。

天皇はやむなく、6年後（AD 477年）の1月23日、真鳥大臣に、『皇祖皇太神宮の系譜の巻より、天之御中主天皇から上代及び神代の神をはぶき、狭野ミコト（神武天皇）まで』を書写させ、5名に下付された。その250年後、古事記、日本書紀などが作られた。

このころシナは、東晋（北魏・北朝）と宋（南朝）の南北朝時代で、雄略即位20年北魏の高句麗は百濟を攻め亡ぼした。雄略天皇は翌年3月、地を百濟に賜い、百濟国を再興させた。

即位22年正月、白髮皇子35才を皇太子とし、9月に丹波の天照女神の御神骨（カンヤマト第10代崇神天皇奉安）を、豊受大神の名で迎え、伊勢山田の外宮に移し祀られた。同年宋の順帝に上表文を送り、

日本の皇祖・皇宗の宏遠さを高らかに誇られた。順帝は雄略天皇を日本と南朝鮮各国の国王とした。即位23年4月、安致臣は百濟を助けて高麗軍を攻撃した。シナは雄略天皇を倭武王と恐れていた。同年8月7日天皇は62才でカミサリたまう。天皇の末子黒川皇子は、天皇のなきあと、殺されてカミサル。崇神以後は暗殺が多い。

カンヤマト第23代セイネイ天皇

清寧天皇は、雄略天皇の長皇子で38才の正月15日、磐余の甕栗宮で即位された。10月父雄略天皇を河内丹比の高鷲原に葬る。隼人が殉死した。即位2年2月、諸国に白髮部舍人・白髮部膳部・白髮部鞚負を置く。天皇のあとつぎが生れないため、即位3年正月、履中天皇の御子市辺押盤皇子の子、億計王・弘計王の2人を、播磨国より迎え、4月に億計王を皇太子に、弘計王を皇子とした。

即位4年8月、天皇は自ら囚徒を調べて記録された。蝦夷の隼人は天皇に従う。翌5年正月16日、42才で天皇カミサル。（殺害？）皇太子と弟皇子も皇位をうけず、皇姉の飯豊青皇女が践祚され、11月9日清寧天皇を河内坂門原に葬り、同月飯豊青皇女も急にカミサル。（殺害？）この皇女を飯豊天皇とする史家もある。

シナ北朝(北魏)は、鮮卑・烏桓の胡漢一体化。齊は梁に変り梁武帝(東魏)は北魏を亡し、百濟に王陵を造り、仏教を国教とし、寺に祭壇を禁じた。南朝の宋は陳など五王の後AD 589年に亡び、北朝に天下を統一。

高句麗支配のユダヤ系百濟、蘇我韓子は丹波・山城・伊勢に勢力を広め、ヤマト朝廷は、二大勢力に分れ、歴史的な転換を迎えた。

カシヤマト第24代ケンソウ天皇

顯宗天皇は、第18代履中天皇の孫ヨケノキミで、先皇と飯豊青皇女
のカミサッタ翌年、正月元旦 近飛鳥（河内）の八釣宮で、35才で即位。
同年3月に始めて『曲水の宴』を設けた。

即位2年は豊年で、稻1斛の価格を銀錢の一文と定めた。貨幣のことを歴史にのせた最初である。

即位3年4月25日、天皇は38才でカミサル。顯宗天皇は、雄略天皇の墓をこわそうとして殺されたと、史書にあるのは全くの謀略。

この年、紀の生磐が任那で高句麗に通じそむいたが、百濟王に敗れて逃げ帰る。紀州は武内宿弥の出生の地で、ユダヤ系のなかでも、天皇に忠誠を忘れないエッセネ派である。

カシヤマト第25代ニンケン天皇

仁賢天皇は、先皇顯宗天皇の実兄オケノキミで、40才の正月5日、
石上神宮の広高宮において即位。10月に弟顯宗天皇の墓を、傍丘磐
杯陵（奈良県香芝町）に築かれた。

即位3年2月、石上部に武装した舍人を置き防備を固め戦争状態。

即位4年5月、的臣の蚊島穗翁君に罪あり、獄に下って死んだ。

即位5年2月、諸国にちらばった佐伯部を求める、佐伯部仲子の後
を佐伯造とした。即位6年正月、皇子の小泊瀬稚鷦鷯尊25才を皇太子（後の武烈）とした。

即位8年、官吏や万民はみなその業に安んじ、五穀やカイコ・麦も
多く収穫、民は安居樂業した。即位11年8月8日父天皇は50才でカ
ミサル。同年11月前の大臣平群（武内）真鳥は、皇統譜（神代万国史）
と皇祖皇太神宮の神宝をかくしたので、郷族は怒り連合して死罪を
命じた。神宝の粉失罪は極刑だった。

皇太子は、真鳥を引取り、手打ちにした形で、ひそかに古都の富
山へ逃し、神宝を末代まで、富山に秘蔵するよう命じられた。真鳥

は代々神主として秘藏を誓った。

皇太子は真鳥を逃した12月、ただちに武烈天皇として即位。^{ブレツ}

カンヤマト第26代ブレツ天皇

武烈天皇は、泊瀬列城宮で29才に即位、翌年3月、春日娘子を皇后に迎えた。^{ハセナミキノミヤ}^{カスガイラヅコ}

即位3年11月、大連職の大伴室屋に、城を水派邑に築かせ、身辺を護る。^{オームラジショク}^{ムロヤ}^{ミズハムラ}

すでに朝廷は二つに分れ、革命の前夜で帰化人の大和支配の頂点だった。

即位6年9月、小泊瀬舎人を、天皇の御名代（身代り）に置いた。同年10月百濟が朝貢した。あやしいので、百濟の使者を人質とした。翌年の即位7年4月、本当の百濟が朝貢した。

大伴氏は天皇を守りつけた。

即位8年12月8日、武烈天皇は54才でカミサリ皇統は絶え万事休す。

大伴金村は、天皇系の王子をさがしまわり、第14代仲哀天皇の五世孫、倭彦王を京都府丹波・桑田郡で見つけ、第15代応神天皇の六世孫、男大迹王57才を越前三国で見つけた。

金村は丹波へ迎えに行くと、すでに逃亡されていた。

金村は三国の大迹王を迎えて行き、やっと納得させ、繼体天皇として、第24代仁賢天皇の御子、手白香皇女を皇后として、天皇に即位をうながした。すでに当時は、キュークツで生命のアバナイ天皇になる人のない世情だった。

カンヤマト第27代ケイタイ天皇

応仁天皇6世の孫、繼体天皇は、2月4日河内の樟葉宮で即位された。同年3月農をすすめ、桑作の詔を出された。^{クズハノミヤ}^{クワサク}

即位2年10月、武烈天皇を傍丘磐杯陵（叔父第24代顯宗天皇と同所）に葬る。

即位3年2月、使者を百濟に派遣、捕囚を調べて、任那にいる者を、本国に帰らせた。

即位5年10月、都を河内から山背の筒城へ遷都された。
即位7年6月、百濟は、五經博士の段楊爾を貢物にささぐ。12月、勾大兄皇子48才を皇太子とされた。即位10年9月、百濟の使者がきて、高安茂博士をつれてきて、段楊爾博士と入れかえた。

即位12年正月、都を山城の弟国（乙訓郡）に遷都された。
即位21年6月、近江毛野は任那攻めに出発、九州筑紫の磐井は反乱を起し、征討をさえぎった。即位22年11月、物部は磐井を殺した。磐井の家臣は石人・石楯・石馬などを作って立て、物部氏に長門（下関）以西を破れと、すすめた。

即位25年2月7日、皇太子66才に譲位、82才で禅坐してカミサル。

カンヤマト第28代アンカン天皇

安閑天皇は、先皇（繼体天皇）の崩じた2月7日、66才で即位。天皇は3年目の正月、都を大和の勾金橋に遷都された。10月に3人の妃と屯倉を定めた。その翌年12月17日、天皇は在位わずか4年、70才でカミサリ、69才の皇弟が宣化天皇として、その日に即位された。

百濟本記に「倭国の皇族は、ことごとく死す」とあり、百濟と新羅は、任那の日本府を攻略した。

安閑天皇は、大伴氏を『伯父』とよび、雄略天皇の死後、大伴の勢力で帰化人系をやっと押えて、天皇位をどうにか守った。物部は武士で、大伴氏と協力して皇統を守り、帰化人系と対抗した。蘇我は大伴と物部を、別々に亡ぼしていく。

カンヤマト第29代センカ天皇

宣化天皇は、正月に都を、大和の勾金橋に遷都され、2月に豪族蘇我韓子の孫、我蘇稻目が大臣に君臨、7月に物部龜鹿火は死亡。

即位2年10月、稻目大臣は、大伴の勢力を弱めるため、大伴金村の子、磐と同狹手彦を、任那日本府を救う名目で九州へ出陣させ、大伴磐を、三韓を防備のため、筑紫（北九州）に駐留させ、弱体をはかる。

即位3年、稻目は百濟から、仏像と経巻を、大和のアスカに持込む。佛教伝来のはじまり。

即位4年2月10日、宣化天皇は73才でカミサル。蘇我高麗の子稻目の娘を、妃とされていた、31才の皇子天国オシヒラキ広庭尊は、12月5日、第30代欽明天皇に即位。

カンヤマト第30代キンメイ天皇

欽明天皇は、即位の翌年7月、都を大和・磯城島の金刺宮へ遷都。8月、三韓は貢物をささげた。この年、帰化人を調べて、戸籍を作ったが、秦人（ユダヤ）は、7050戸を数えた。彼らはみな漢文を用い、佛教をたて前とする、楽浪の高句麗などから渡來の、秦人たち。

即位2年4月、百濟に任那の日本府を復興するよう詔されたが、新羅の反対で、任那は復興できず、九州に常駐の大伴氏の面目は丸ツブレとなつた。

即位4年9月、百濟王は、扶南の貨財（金貨・銀貨・銅貨）と、奴（ドレイ）2人を献上した。

11月に津守連を、百濟に派遣して、任那の復興に当らせた。

即位5年3月、百濟は、天皇に任那の復興策を上表した。12月に肅慎の船が佐渡に入港した。新羅は昔から津軽（青森県）やペルシヤと交流して、日本海はペルシヤ系の船は、盛んに活躍していた。

即位6年3月膳臣巴提使ラシワテノオミハヂを百濟に派遣した。9月に百濟王は、天皇に丈六の仏像を造り献じた。大伴氏を弱め武士の物部氏を強めた。

即位7年正月、百濟に良馬70頭と戦船11隻イクサブネを送る。高麗はまた乱れた。翌年4月に百濟は、任那の復興のため、皇軍の助けを乞う。

即位9年4月、百濟の使者は、援兵の中止を乞う。10月に百濟に人を派遣して、築城を助けた。

即位11年2月、百濟に矢30具をたまう。4月に百濟は、高麗の捕りヨを献じた。

即位12年3月、麦種千石を百濟に送る。百濟の聖明王は軍をひきいて高麗を討ち六郡を復した。翌年5月、百濟は救援乞う。同年10月百濟聖明王は、仏像と経巻などを持込み、蘇我稻目は、向原の自宅を寺とした。神道派はこの仏像を、堀江に投げこむ。

即位14年正月、百濟は援兵を乞い、6月に百濟から医・易・曆などの博士が、代り番に来日した。

このころから、帰化人専用の漢字を、日本人も使いはじめた。

即位21年9月、新羅が入貢した。翌年も新羅は入貢したが、冷遇を怒り、貢物を持帰ったが、再び入貢。

即位23年新羅は、任那を攻め合併した。大伴氏は7月新羅征伐、8月大伴狹手彦サデヒコは高麗を征討して後退、結局失脚して、宮家も亡ぶ。

即位26年5月、高麗人は山城（京都）に帰化。蘇我の勢力高まる。

即位31年3月、蘇我稻目大臣は死去。4月に高麗の使いは、越（北陸）に来た。（ペルシヤ水軍？）

即位32年3月、任那を亡ぼした新羅をウラミ、4月15日、天皇は任那の復興を遺詔、63才でカミサル。5月に河内古市に磯（モガリ）され、9月に桧隈（アスカ村）に葬る。大伴氏はペルシヤ新羅にあやつられ、蘇我の思い通り失脚。

カンヤマト第31代ビタツ天皇

敏達天皇は先皇崩御の翌年4月3日、34才で即位。稻目の子蘇我馬子が大臣になり、物部守屋は大連職。大伴氏をはねのけた。

即位2年に高麗の使いの船が、越後の海で難破、死者多し。翌年7月に高麗の使者が入貢、11月に、新羅が朝貢した。

即位5年3月、豊御飯炊屋姫を皇后（後の推古）に迎えた。

即位12年7月、使いを百濟に出し、日羅を迎えたが、12月に日羅は死亡。翌年9月、鹿深臣などは、仏像を持込み、司馬達などの女は尼になって尼寺ができた。

即位14年3月、物部守屋は仏像を堀江に投じ。神國を示した。

同年8月15日、48才の敏達天皇は悲しみのうちにカミサル。天皇の殯の宮をヤマト広瀬に建てご遺骸を安置した。

大臣の馬子の妻は、大連の守屋の妹で仏教党と神道党に対立、河内古市の西文と、飛鳥の東漢の勢力はさかん。

9月5日、敏達天皇の弟で、仏教信仰の用命天皇が即位された。

用命天皇の母は、蘇我稻目の娘で、用命の子は、ウマヤド皇子（後の聖徳太子）である。

アラビヤ回教史などには、24才のマホメットが、西紀582年（敏達11年）ソガ稻目を頼って来日とあるが、稻目は西紀570年に死亡している。マホメットは馬子と面会したらしい。

ソガは、南方系小乗佛教や、拝火教をアスカ一帯に広めた。

後に来日した唐系（藤原）は、北方系のネストリウス派の景教と、大乗佛教を広めた。（エッセネ派）

カシヤマト第32代ヨーメイ天皇

用命天皇は、蘇我稻目（スミコト）の娘イシキナ姫（馬子の妹）を、皇妃とされ、67才の8月15日即位。翌年正月、欽明天皇の皇女穴穂部間人姫（アナホヘマヒト）を、皇后に迎えた。天皇は病気がちで、仏教の信仰を群臣と協議され、蘇我は大賛成、物部は反対のうちに、天皇は、在位わずか2年の4月9日、69才でカミサル。馬子は物部守屋を仏敵として討伐、16才の聖徳太子も参戦して亡ぼし、大伴・物部の全財産をうばった。

ソガは、韓子（カラコ）、高麗（コマ）、稻目（イナメ）馬子の、5代にわたり、皇辺をねらい、娘を代々皇室に接近させた。

用命天皇の異母弟、欽明の第5子の泊瀬部ワカササギ（ハツセベ）皇子（オイ）は馬子の甥で8月2日、崇峻天皇に即位。

カシヤマト第33代スシュン天皇

崇峻天皇の御母は、馬子の娘だから、馬子は天皇の伯父にあたる。天皇に即位されると、百濟から仏舍利（ブツシャリ）や、寺院工事人、瓦造り工、鋳盤工、画工を献上した。馬子は法興寺建立。

即位2年7月、天皇は、東山道・東海道・北陸道などの諸国を視察させた。

即位3年3月、尊信尼（ソンシンニ）などが百濟から帰った。この年、司馬達（シマタツ）の子、多須奈（タスナ）などが出家するなど、尼寺や修行の尼僧もふえた。

即位4年4月、先皇の敏達天皇（ミンタツノミコト）を磯長（シナガ）に葬る。8月に任那復興を協議。

即位5年11月、天皇は兵2万を独断で任那復興に進発させた。馬子は怒り73才の天皇を殺した。

12月8日に、自分のメイで、第30代敏達の皇后だった、69才の炊屋媛（ススキノウメ）太后（トヨウラグー）を、豊浦宮（ヨウブウノミコト）で第33代天皇として即位させた。

蘇我馬子は、大臣職で神國天皇家をうばい、ヒノモトを占領した主権者。彼は宗教は政治に利用するものと考え、ユダヤ教の代りに、仏

教を広めた。このころ、ササン朝ペルシヤの突厥（トルコ）アラビヤから、マホメットが、ソガ稱目を訪ねて来日、馬子と面会した。

崇峻天皇の皇子（母は大伴糠手の娘）蜂子親王は、身の危険を感じ、奥羽（ツガル？）に逃れ、のちに羽黒修驗道の始祖となる。

隋は南北朝を統一した

南朝（盤古周国）

宋（420—479）

齊（479—502）

梁（502—557）

陳（589年亡ブ）

北朝（ユダヤ系）

北魏（386—534）

東魏（534年起ル）

北齊（東魏に代る）
（577年亡ブ）

西魏（535年起ル）

北周（西魏に代る）
（581年亡ブ）

隋は朝鮮を制圧、蘇我と内通。
隋の煬帝は618年殺され唐が建国。

唐は新羅と共に任那日本府へ侵入、ユダヤ密使は蘇我と内通した。



カンヤマト第34代スイコ女皇

推古天皇は第30代敏達の皇后。第31代用命の姉君。チエ優れた甥の聖徳太子（21才）の、摂政を条件に39才で即位。

聖徳太子は、幼児より仏教信者で儒教を学び、正道をあゆまれ、マホメット回教も学ぶ、若きプリンスだった。隋ユダヤ系ソガ馬子は、四天王寺を建てるため、大坂高台の神社を没収、仏教をひろめた。

推古2年2月、ウマヤド皇太子と馬子大臣は、仏寺を各地に建て、国を守る仏教興隆の勅語を出した。

この詔で、太古からの大きな神社を、片スミに移転させ、社前に高麗犬をならべた。皇民の大衆は、仏教になじまず、神社の参拝を1400年以上つづけた。

推古3年5月、高麗の僧、惠慈が帰化した。ケイジ 百濟の僧、慧聰も来日、エチヨー 皇太子は大乗仏教を学んだ。

推古4年11月、法興寺ができ、蘇我善徳は寺の司役となり、エチヨー 惠慈・慧聰の2人は、寺に住みこむ。

百濟・新羅・ソガは互いに交流、8月に新羅は孔雀を献上するなど、ペルシヤ回教徒は飛鳥に來た。

推古9年2月、皇太子は斑鳩宮で、拝火回教などを勉強した。

推古10年2月、新羅は任那に侵入、クルメ 皇太子の弟来目皇子は、出征の途中、翌年2月に暗殺され、次弟の当麻皇子は、妃の急死で出征を中止。

10月百濟の僧が来て、暦法書・天文・地理などの書籍を献じ、12月に始めて、冠位12階級を定めた。

皇太子は、河内の枚岡神社で、神代モジの史書を発見、日本太古の宏遠さと、漢字ユダヤ革命を知られ、大乗仏教で真理をさとり、神道・儒教・仏教の和合こそ、『世を救う日本の皇道』と明察され、ユダヤと融和のため、ダビデ『大秦寺』の景教の寺を、秦の河勝に建てさせ、政治の道義を高める大学校の「法隆寺」と、国を守る「四天

王寺」を建て、シナや韓の知識人を迎える、日本文化を神儒仏で統一を考え、静岡以東の縄文人には、学問をすすめ、韓や唐人と親交をかさね、民族のとけあいを、真剣に実行された。

聖徳太子の神代モジ発見

皇太子は、1字1音のカナを研究、漢字草書の万葉仮名で「17条憲法」を説明。大乗仏教の「隋国」と親交、人の初めは神道、終りは仏教、日常生活は儒教と教え、静かに『夢殿』で正坐、空無に徹しられ、外国人にも皇道の仁愛を、仏典の解説で明快にとかれた。

ユダヤ人は、太子をメシヤ、仏僧は・シャカの再来と、歎嘆した。

聖徳太子は、經典を読みぬ大衆に、百年の大計でカナモジ復活を考え、カナ50音の万葉仮名を広め、ヤマトコトバの保存を叫び、50音を知る人を海外に派遣された。

推古12年正月、始めてシナ暦の暦日を用い、4月、有名な憲法17条を発布。9月に朝礼を改めた。

推古14年4月、丈六の金銅仏ができ、これを元興寺の金堂に置く。

推古15年2月、敬神の詔を発し、神・儒・仏と、三宝（仏法僧）を守らせた。7月、小野妹子を隋に派遣され、皇太子は学問のため斑鳩宮の西に法隆寺の勉学の道場を建てた。

小野妹子は、3回もシナの隋と往復し文物・学芸を輸入した。

このころ、シナから烏銅の鏡を持参して、3000人が福岡県と佐賀県に移住した。

推古22年8月、ソガ馬子は病氣となり、男女千人を出家させた。

皇太子は、法華経・勝曼経・ユイマ経の『三経義疏』（解説書）を、つくられた。

推古28年皇太子は、天皇記と国記（竹内文献風のアラマシの旧事記）を作るよう、女帝と馬子に進言された。

皇國史200部を作るうち、太子の生母は亡くなられた。

聖徳太子は「世間は、この世の仮りのすがた、仏（宇宙の真理）こそ真」と、妃に話され、悲しまれた。

推古29年2月、ウマヤド皇太子は、49才でカミサリ、ソガ馬子が政治、唐に追われた大僧正を迎えた。

推古32年4月、^{ソージヨー}僧正・^{ソーピ}僧都・法頭はふえ、僧や尼を管理させた。

日本の寺院は、46寺を建て、尼僧は1385人を数えた。

推古34年5月、馬子は死亡、子のソガ蝦夷が大臣になった。

推古36年3月7日、推古女皇は、75才でカミサリ、聖徳太子の御子を天皇とするよう遺詔された。

蝦夷は、詔をまげ、第30代敏達の孫、田村皇子を、第34代舒明天皇とした。

唐は隋を亡ぼす（隋・唐の交代）

唐高祖の李淵は、618年、隋の煬帝を殺し、景教で唐を建国。唐太宗は、日本に唐鎌子を派遣、鎌子は大阪高槻市に住み、子の鎌足は中大江皇子に近づき神祇伯に出世、蘇我入鹿は第35代皇極女皇を愛し、聖徳太子の子孫を全部殺す。隋はわずか38年の短命王朝。

世界宗教の大元は日本

日本の超古代は多神で、ヒンズー教の形。道教・儒教は、老子・孔子が日本で学び、組立てたもの。ユダヤ教・キリスト教は、モーゼとキリストの因縁で起る。イスラム教はマホメットが日本で学び、世界にひろめた。

ギリシア哲学は日本神道に似る。宗教の元はみな皇道（カンナガラ）。

民族の宗教は政治を動かし、戦争も起る。各宗教のキヨメの手法は、全部皇道とおなじ、祭政一致の天皇ミイズで、やがて円満に統一する。

出産と結婚は神社、処生法は道教・儒教、クリスマスはキリスト、葬式は仏教など、何の抵抗なし。

偶像を拝み、禪も受入れ、アンム・アミンの一神教。宗教を飛越え、信仰と政治が一体の日本皇道。

(ユダヤ)
神靈説はバビロンで生れた

靈肉一体は、皇祖の神ながらのみち、アンム・アミンは色即は空、神靈は宇宙全体にみなぎり、祈るスガタは、そのまま靈肉一如。ユダヤ教で歴史の真相を曲げたユダヤは、宗教の迷信で人々を恐れさせ、ウソの神靈を作った。

大宇宙は神靈の世界といえる。肉体も神靈そのもの、生死因縁のサトリは、信仰者（修驗者）でないと判らぬ。科学では奇蹟を認めない。科学万能で、宇宙神靈を認めぬ人は、血も涙もない石コロにすぎない。

神靈はあるが、また無いという答えも正しい。要は、神靈の迷信をさけ、正しい科学的な信仰を体得して、たのしく大宇宙に遊べる人が、真人であり神人ともいえよう。

カンヤマト第35代ジョメイ天皇

田村皇子（舒明天皇）は、36才の4月4日に即位された。

翌年8月、犬上（御田鉢）・薬師の恵日を唐に派遣した。これが遣唐使のはじまり。唐は『遠交近攻策』で、高句麗を攻め、新羅と握手のユダヤ系。この年、藤原鎌足は17才。

舒明3年2月琉球の掖玖人は帰化、3月に百濟の王子、餘豊璋を人質として来日。9月に天皇は有馬温泉に行幸、12月に還幸された。

ペルシヤ景教（キリスト・ネストリウス派）の宣教師は、シナ長安に635年に「太秦寺」を建立、同年サラセン人はペルシヤ軍を破る。

景教の宣教師は、京都ウズマサ興隆寺に入り、景教を宣伝した。

北魏の太武帝（440～451）は仏教をしりぞけ、534年に東魏は分れ、翌年、西魏に分れ、北齊北周に变成了。

即位9年、蝦夷（東北・ツガル・北海道）は反し、上毛野の形名が討つ。

即位10年、再び有馬温泉に行幸。

百濟・新羅・任那が朝貢、その後も毎年ミツギ物をもたらす。

即位12年5月、僧の惠隱を朝廷に招き、無量寿経をよませた。10月に唐の留学生が帰り、外国の芸術を伝えた。

ユダヤ唐太宗（640年）即位13年10月9日、天皇は49才でカミサリ。

舒明天皇の皇后（宝皇后）が女皇（第35代皇極）に即位。ソガ蝦夷の娘は、聖徳太子の妃で、山背大兄皇子の母である。

推古女皇は遺詔で、聖徳太子の御子山背大兄皇子に譲位ときめてあった。馬子はこれを無視した。

ソガ馬子の子、入鹿は、山背大兄皇子の一族を、皆殺しにした。

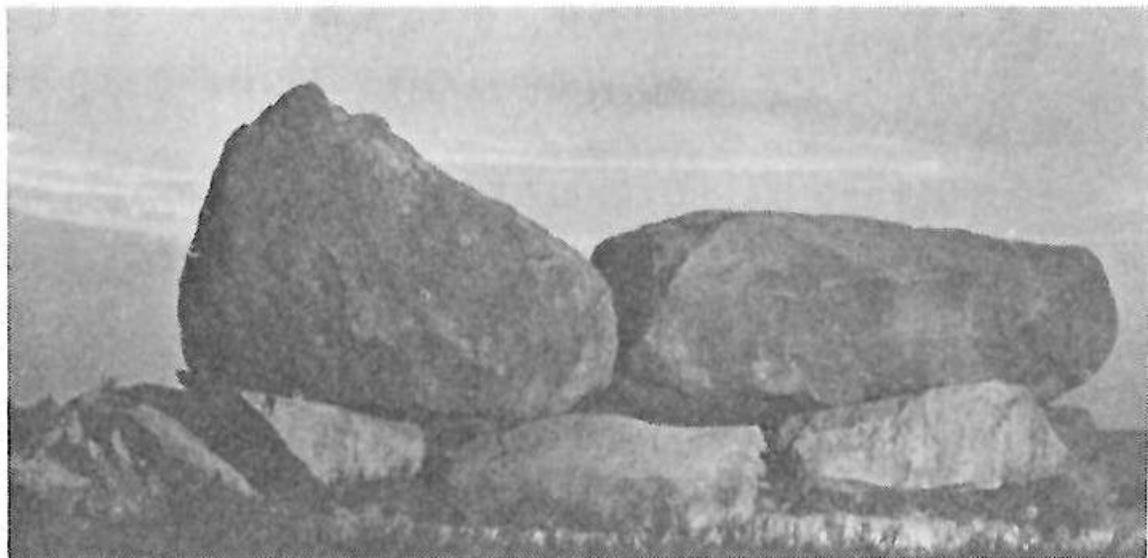
入鹿は、暴逆の限りをつくし、先祖の墓を陵といい、子女を王子・王女といった。

蘇我馬子の墓（石舞台古墳）

盛り土が失われ、空濠と外堤が残った。

巨大な横穴式の石室の全長19.1m、玄室の長さ7.6m。馬子は島の大臣とよばれた。

奈良県アスカ村島庄



カンヤマト第36代コウギョク女皇 (第38代サイメイ)

皇極女皇（宝皇后）は、舒明天皇最愛の皇后で、天皇は有馬温泉に何度も同行された、ソガ入鹿は女皇を愛し、4年後に斬殺されたとき、首は女皇に飛びついた絵がある。

女皇は49才の4月15日に即位、隋系の馬子と蝦夷は、わが墓を二つ造り、大陵と小陵といった。

皇極2年4月、筑紫（北九州）の太宰府から、百濟王子の来朝を知らせた。女皇はアスカ板蓋の新しい宮に移り、入鹿も同行した。

11月に入鹿は、聖德太子の御子山背大兄王一族をみな殺した。

皇極3年正月、摂津の豪族、唐の中臣鎌足は神祇伯をことわり、野に下る。（子の鎌足と、改新手段を考えた）

11月、入鹿は自宅を宮門といい、男女の子を王子・王女という。

皇極4年6月、中大兄皇子は、12才上の豪族鎌足のすすめで、入鹿を女皇の大前で殺し、女皇の御弟（天万豊日尊）を孝徳天皇（第37代）とし、中大兄は皇太子の名で、大化改新の詔を、翌年正月、宣布された。

日本の田地は全部天皇に返し、耕作者が納税する新しい仕組み。

天皇中心に8省をおき、冠位19階級を定め、諸政を一新した。

中大兄皇子と藤原鎌足

君・民の中臣。（藤原氏先祖）唐鎌（子は敬称）は、唐太宗から出た家臣。唐高祖の季淵は隋の煬帝を殺し、季淵の子唐太宗は、西安郊外に太秦寺を立て、隋を唐に変え、隋系日本を唐系とするため、唐の鎌足を難波に派遣した。

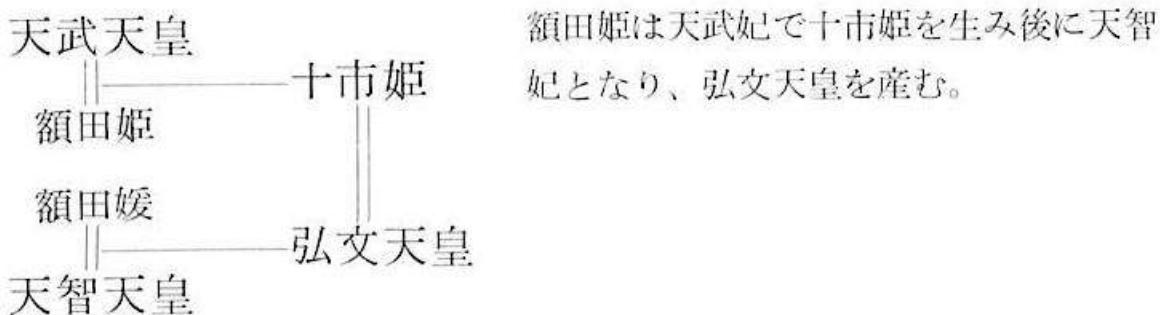
鎌足は神祇伯になり、子の鎌足を皇子たちに接近を計らせた。

大海人皇子は中大兄皇子の兄で、鎌足は弟の中大兄に、ケマリで近づき悪逆りが征伐をすすめた。

大化改新の中大兄20才、大海人24才、鎌足は32才。皇子は同腹の仲よ

し兄弟、兄は佳人の額田姫と相愛、十市姫誕生。大海人は28才のクーデターとき美濃へ脱出。

天智天皇は額田媛を妃とし十市姫をわが子、弘文天皇太子の妃とされた。兄（天武天皇）弟（天智天皇）は、舒明天皇と宝皇后（皇極女皇）に生れた同腹兄弟。兄弟入れかえは兄の第25代顯宗天皇を、第26代仁賢天皇の弟としたと同じ謀略。



カンヤマト第37代コウトク天皇

孝徳天皇は、入鹿を斬殺した6月14日に践祚。天皇は名だけで、政治はすべて中大兄皇子と、鎌足がおこなう。唐太宗は鎌足に指示、右大臣・左大臣・内大臣のほかに國の博士を置き、鎌足のすすめで難波（大阪）の、長柄豊崎に遷都。
ナガラノトヨサキ

孝徳2年（大化2年）正月、改新の詔を宣言、8月に新らしく百官を設け、旧職を改め、翌年、7色13階の冠を制定、柵戸を置いた。

大化5年2月、冠位19階をやめ、隋系を追いだし、唐系にかかる大革命で、3月、クーデターを起し、8省百官に改めた。

まず、左大臣の阿部倉梯磨を殺し、右大臣のソガ石川磨は、臣の日向が、石川磨を自殺させた。

大海人皇子は、石川磨の娘を妃とされ、都をのがれ、美濃国中川村の物部家にかくれ、ここで竹内真鳥の写した天之御中主以下の「竹内書」を読まれた。妃は尼子ノイラツメ（太田皇女）で、高市・大津・舎人の3皇子の生母である。

孝徳6年2月15日、大化を改め、白雉と改元、10月に始めて丈六仏など、16像を造った。

白雉4年5月、遣唐大使と副使を定めた。鎌足長男の定惠(11才)^{ジョンエイ}は、唐へ人質にされ、帰国後死亡。

白雉5年正月、鎌足に紫冠を授けた。10月10日、孝徳天皇は59才でカミサル。6年前の春、美濃に逃れた大海人皇子は34才となり、難波大坂も一応安定したらしく、孝徳の靈前で、母皇極上皇と、弟中大兄と御子大友皇子に、面会のため、6年ぶりに帰られて、石川磨の娘太田皇后に、高市皇子の生れたことと、竹内文献を研究中のことを話されたであろう。

翌年正月、皇極上皇61才で齊明に重祚、中大兄は皇太子となる。
(大友皇子は、23才で太政大臣となり、妃の十市姫は額田に生れた大海人の娘)

中大兄皇子は、母齊明の皇太子として、難局にあたられた。

天武天皇と竹内文献

アスカ
大海人親王は、大化(孝徳)5年3月、28才で飛鳥都をのがれ、美濃の中山村の物部家にひそみ、雄略天皇が物部目連に137年前、下賜の『天之御中主以下の皇統』譜を見て、吉野藏王堂でご研究。

25年後天武天皇に即位後、モジに詳しい外人の稗田阿礼に『原典古事記』を作らせた。その30年後の和銅4年夏、元明女皇のとき、唐ユダヤの太安磨は、稗田阿礼の作文をぬき書きして、4ヶ月と10日でまとめ、『古事記』を作った。序文に古来日本に文字ナシと、真赤なウソを書いた。

大化5年(AD666年)唐太宗死亡、高宗は22才で即位。高麗を打ち朝鮮から日本を支配。高宗の妃則天武后は、有名な女天下。

律令封建制で女皇や幼帝は看板。日本のカナを抹殺、アテ字の漢字で、日本人を文盲ドレイとした。武将を位階で勵かせ、唐藤原は明治まで1400年支配をつづけた。

カンヤマト第38代サイメイ女皇 (第36代皇極女皇重祚)

齊明女皇（舒明皇后）は、皇極女皇の重祚。62才の正月3日、アスカの板蓋宮で即位。皇太子の中大兄皇子は、聖德太子をまねて摂政。大化改新に反対の隋ユダヤ・蘇我アスカは、板蓋宮を焼いた。

翌年、宮地を岡本に定め、岡本宮（法隆寺近辺）にうつる。

齊明4年正月、左大臣の巨勢徳太古は死んだ。4月に阿部野比羅夫は、北海道と青森（津軽）に遠征。女皇は紀伊白浜温泉に行幸、11月に有馬皇子が、白浜に行く途中、ソガ系は無残にも有馬皇子を殺した。齊明6年5月、中大兄皇太子は水時計（漏刻）を造られた。10月、百濟の王子『豊璋（餘豊）』を迎えることを許した。

齊明7年正月、女皇は西征のため九州（筑紫）へ行かれ、69才の7月14日朝倉宮でカミサル。このとき36才の中大兄皇子（天智）は、摂政のまま国事をすべ、外敵にあたられた。

唐太宗の子、唐高宗は、藤原鎌足の長男定惠を人質に、鎌足と天智を、たくみにあやつり、唐系ペルシヤ水軍は高麗と新羅を動かし、日本を赤子同様にありました。

カンヤマト第39代テンチ天皇

天智天皇は、鎌足（実は唐）の指示で西征中に齊明女皇カミサル、翌年3月百濟は、コマの唐軍の侵入を知らせ、皇軍に救いを乞い兵器・兵糧を与えた。

5月、阿曇比羅夫らは百濟王の王子を京城に送り、王位をつかせたが、すでに唐高宗の騎馬軍は、コマを突破して南下した。

百濟王となった豊璋は、高句麗の善光（高松塚の主・百濟王といった唐系）と、日本で人質のとき話合い、防戦せずに高句麗に逃亡。ここに31代680年間の『百濟王国』は亡んだ。

皇軍は新羅を攻め、百濟を助けに向う。百濟は唐軍に寝返り、新羅は唐の陸海軍を手引き、わが國の大伴軍は、白村江で苦戦、8月新鋭の唐水軍に敗戦した。

この年、ソガ赤兄の娘(ウノササラ姫)は、大海人42才に近づき、草壁皇子を生む。〔天武皇后に出世は、天武2年に太田皇后(尼子イラツメ)のカミサリ後である。〕

翌3年2月天智天皇は冠位26階と氏上・民部・家部を制定し、唐将の劉德高らの使者を唐に送り、唐軍侵入を防ぐ城造り。

大化改新に不服の帰化系アスカ人は、天智の敗戦を大きく宣伝。

天智4年2月、百濟の400人余を近江に住ませ、8月、百濟人に筑紫と長門を防ぐ城を造らせ、香川県の屋島と、近畿の信貴山頂に高安城を造る。

天智5年正月、コマの使者来日、百濟帰化人2千余を東国に置く。近江に新都(大津市)を造り、6年正月3日大津宮で即位、7月に越後は、モエル水(石油)を大津宮に献上した。

この年、高句麗国王28代705年間の、コマの国は亡んだ。

鎌足は長男定恵の死を痛み、全財産を投じ、談山神社を造った。

天智8年10月、中臣鎌足(56才)に大織冠を授け、藤原の姓と朝臣を与えて死んだ。天智9年正月朝礼を定めた。2月に戸籍を作り、浮浪者と盜賊を、きびしく取締る。

天智10年正月、大友皇子24才に、兄大海人皇子と額田姫の間に生れた十市姫を結婚させ、太政大臣とした。この月、冠位と法律を定め、罪人の刑を軽くした。

10月に大友皇子を皇太子とし、12月3日、天皇は46才でカミサル。

唐と隋の交代の大化改新

唐高祖の子、唐太宗の第9子が唐高宗。高宗の妻(晋王の時の王妃)は有名な則天武后。高宗34年間に13回も改元。夫の妃を殺し最高の女天下。高宗と共に唐を固め玄宗につなぐ。聖武天皇(皇后は藤原不比等の)

アスカペ
娘安宿姫＝光明皇后) のころ、唐は隋と交代のため鎌子と鎌足を利用、大化革新を命じ、天武朝で唐制成る。

女帝出現



ナラ大仏と同形



龍門奉先寺盧遮那仏
一則天時代

則天の母楊氏を葬った順陵の石獅

隋は拝火教と南方の小乗(ソガ)。唐は景教と北方の大乗仏教(藤原)。

カシヤマト第40代コウバン天皇

弘文天皇は25才で即位、皇妃は伯父、大海人皇子(天武)の皇女十市姫。大和アスカの帰化人は、6月に大海人の名で挙兵、壬申の乱をおこして、アスカから攻め上る。

大海人皇子は、吉野の藏王堂で、日本史を、鎌足2男の不比等と研究、フヒトも学者肌で、表に出る政治はきらい、裏面で工作した。

弘文妃の十市姫と草壁皇子は、アスカからの迎えで、大津宮から大和へ帰り、父の大海人皇子に知らせた。

大海人皇子は、神代字をフヒトと研究、オイと争うことなど、考えてもいない。大津宮は防備もうすぐ、アスカ軍は一撃に押しよせた。

弘文天皇は、即位の年7月23日、大津宮から山科に出て自殺され力ミサリたまう。

その後、近江朝廷の滋賀の都は荒れはてた。歴史家は天武天皇の死後、勝手にウソを創作した。

カンヤマト第41代テンム天皇

天武天皇は、弘文天皇自殺の翌年、2月27日アスカ淨見原宮で即位。皇妃太田皇后（石川麿の娘アメコノイラツメ）を皇后とされた。御子は高市皇子20才と大津皇子、後に舍人親王も生誕。

3月に川原寺で、一切経をはじめて書写され、5月に入材を召しかかえる詔が出された。

即位2年3月、対島^{ツバシ}から白銀を朝廷に献じた。8月、石上神宮の武器庫を整理された。

即位3年正月、はじめて占星台（天文台）を造った。4月に牛・馬・鶏肉をたべるのを、禁止されたのは太田皇后のかミサリのためらしい。

（日本では昔から何度も天皇は、殺生禁断（四足禁忌）の詔多し）

このころソガ赤兄の娘（ウノササラ媛）は、天武の皇后に出世、わが子草壁皇子を熱愛した。異母兄は高市皇子20才と、大津皇子らがおられた。同年10月諸王以下、初位以上に、兵士をかかえ警備をさせた。

即位4年正月、群臣百官は拝朝した。8月に放生（生きもの逃がす）を詔された。10月に使者を新羅につかわす。11月新羅が朝貢し、肅慎人がこれについてきた。即位5年8月、耽羅王子^{タラヲ}が入貢し、飛鳥寺で大斎をおこなう。9月、帰化人は空地を知らぬ間に占有、旅から帰宅の民に課役を科し、勝手なことをした。

即位7年8月、諸氏に美女をミッギさせ、狩獵民の本領を発輝。

同年11月、初めて竜田山と大坂山に閑所と、難波（大阪）羅城を築く。

即位8年5月始めて金光明王経を、宮中や諸寺で説かせた。

即位9年2月、20才の草壁皇子を皇太子とし、高市皇子は30才だが、弟の大津皇子に政治をとらせた。

天武天皇は学者で、帝紀（竹内書）の神字を藤原フヒトとご研究。フヒトの書いたアヒル字は、伊勢神宮に実在する。

51音字のうち、すでに発音の区別しにくい「ヰ・ヱ・ヰヰ・ヰヰ・ヰヰ・ヰヰ・ヰヰ」の7音をのぞき、ハッキリした44音をえらび、濁音符号『々』の、世界的発明を完成された。

古事記に「即位11年3月、境部連石積などに命じて、新字44巻を撰せしむ」とあるのは、カナの神代モジのことである。

天皇は即位14年9月9日、65才でカミサル。皇后（蘇我赤兄娘）は、我が腹を痛めた草壁皇子25才を、天皇にするため、大津皇子をムザンに自殺させた。高市皇子は身をひかれた。

大津皇子の辞世、『百伝う磐余（イワレ）の池に鳴く鴨を、今日のみ見てや、雲かくしなん』

大津皇太子をしたう『中将姫』は、奈良の我家に引きこもったが、大和の二上山頂に葬る大津皇太子のボダイをとむらうため、山の東側にある当麻寺で尼となり、蓮糸でマンダラを織られた。

有馬皇子と大津皇太子は、アスカ時代における『2大悲劇』

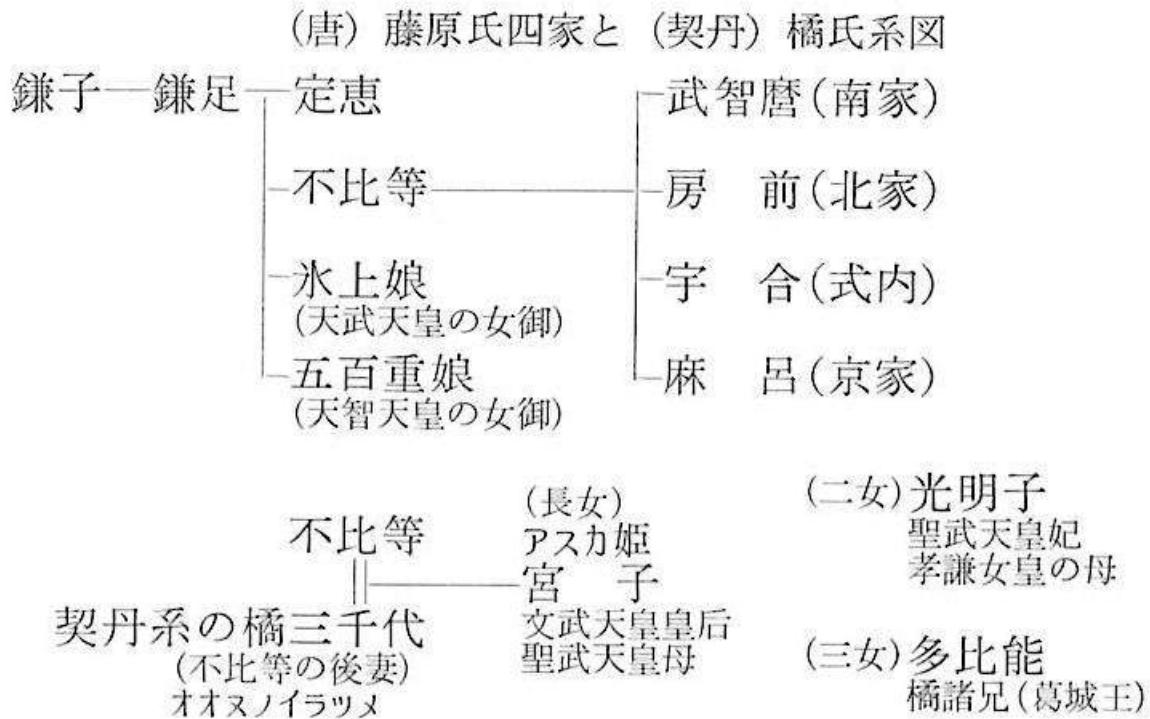
天武天皇と藤原不比等

藤原鎌足の父鎌子は、唐の鎌（子は尊称）で、鎌足の子の不比等は、文書係の官吏。天平9年藤原不比等の子、武智麿（南家）・房前（北家）・宇合（式家）・麻呂（京家）の4人は、同じ年に死んだ。

藤原不比等の娘宮子は文武皇后になり、聖武を産む。また不比等の娘安宿媛は聖武天皇の皇后（光明皇后）になり、第47代孝謙（称徳）女皇を産む。また不比等の娘多比羅は、契丹系の橘諸兄の妻になった。

北魏ユダヤ系の唐高宗は、太秦景教をシナ西安に広めた。

橘諸兄は、満州・契丹の騎馬軍の将官、秘本『神軍伝』を著わし、天武軍に協力。契丹のタチバナ氏と名乗り、天平宝字元年74才で死んだ。源・平・藤・橘はみな帰化系で、万民をドレイにした。



カンヤマト第42代ジトウ女皇

天武の皇后（ソガ赤兄の娘、ウノササラ皇女）は、42才に践祚、持統天皇となり、草壁皇子を熱愛し、即位式を新皇居でするよう、藤原フセトに頼む。翌年9月、新羅の王子らは、国政を調べるために来朝して貢物献上。これは唐高宗の妻武太后（則天武后）派遣の役人らしく同年12月、天智天皇の法会を崇徳寺（聖徳の寺）でおこなう。

翌年6月、今年の税を半分に免じ、11月、天武天皇を大内陵に葬り、12月、蝦夷男女213人をもてなし位を授けた。このエゾは唐人らしく、高句麗の善光（高松塚の主人）は接待役の最高貴族。翌年4月、草壁皇太子は28才で崩じ女皇のユメは消えた。同年6月勅命により撰善言司は、律令22巻（淨御原令）を諸司・諸国にわかつ。

同年閏8月、全国の兵士に武芸を習わせ、12月、雙六（スゴロク）を禁じた。律令発布の前に、民衆の遊びや、集会を押える策謀。

持統4年元旦に、持統天皇の即位式。2月に新羅の帰化人を、武藏国に置き、11月、始めてシナの元嘉曆（265年前に宋文帝制定）を

もちい、正式のコヨミとし日本最初のコヨミとだました。

持統7年正月、百姓は黄色の着物とし、ドレイの奴婢は白衣の着物に定む。9月、女皇は多武峰シンボーに行幸、12月、諸国に陣法を教習した。

持統8年3月、大宅麿オオヤケマロを鑄銭司ゼニノヅカサとし、力ネで人を動かす計画。

12月、藤原京の左右の坊ができ、女皇は多武峰から新都に還幸。

持統9年9月、小野や毛野などを新羅へ派遣した。

女皇は、草壁皇子妃（後の44元明）の生んだ軽皇子を天皇にする考え、持統10年7月、太政大臣高市皇子（43才）は力ミサル。15才の軽皇子を文武天皇とし、持統は太上天皇と、はじめて名のった。

アスカ万葉の血涙処刑の悲歌がはじまる。高市皇子挽歌の柿本人麿の長歌は、ありし日の追憶と、あらまさせばの哀惜の情に涙誘う。

高松塚は高句麗・善光の墓

昭和47年3月21日、藤原京の朱雀大路と天武・持統合葬陵の一直線南に、高松塚の極彩壁画を発見。専門学者は天武の5皇子として、新聞・雑誌で盛んに書立てた。

東漸ユダヤを知る私は、『商工毎日新聞』5月1日号に、高松塚は大化改新を巻返した高麗からの帰化人と断定。詳細は、東京・神理研究会の『さすら誌』に昭和48年に、連載したが無視された。

竹内文献を知らぬ学者は、ユダヤ系の作った史書をマコトと信じ、万葉時代の天皇家受難史を見のがす。

唐人藤原は1300年支配

唐鎌の子鎌足は、大化改新で隋系ソガ入鹿を殺す。唐高宗は鎌足長男定恵11才を人質とした。天智のあと、弘文を殺し、天武を即位させ、フヒト造営の藤原宮を、奈良平城宮に移らせ、女皇で支配した。

律令で武士と農工商をしばり、藤原の公家は皇統を左右、漢文の歴史でごまかし、1300年も支配。

カンヤマト第43代モンム天皇

8月に15才で文武天皇即位。10月に新羅は朝貢した。翌年4月、南島に人を派遣、5月に九州大宰府の三城は、唐の役人に抑えられた。

7月始めて笞法を制定、庶民を強制労働、遊ぶことを禁じた。

文武3年5月、役の小角(大峯山の行者。オツヌともよむ)を、伊豆に流す。6月15日、武藏国の飯倉城山に『神明宮』の分靈をまつる。

文武4年、刑部親王と藤原不比等たちは、封建制を強める「大宝律令」を作った。3月15日、天皇の勅命で、紀氏竹内家を終身の神主として、日見郷宮川、新川高野郷、榆原保郷を賜わる。

文武5年、藤原フヒトの娘宮子は、文武天皇19才の妃となり、首皇子(第46代聖武)を産み、後に第45代元正女皇となる。

文武5年8月、大宝と改元。律令を発布して博士を、全国6道に派遣、大宝律令の説明をさせた。

文武6年(大宝2年10月)律令を全国にゆきわたせた。

12月22日、太上天皇の持統上皇は、58才でカミサル。

文武11年2月、群臣に奈良平城京に遷都をする会議を開いた。

6月15日、文武天皇は25才でカミサリ、天皇産みの母(草壁皇子妃)は、7月17日、47才で元明女帝に即位され、12月、悪い風俗を改める、詔を出された。

カンヤマト第44代ゲンミョウ女皇

元明女皇は7月17日、47才で即位。慶雲5年(708)正月武藏から和銅を献じた。その直後、1月11日に慶雲5年の年号を、和銅元年と改元、2月に貨幣の鑄錢司を置き、5月に銀錢の『和銅開珎』を造り、8月に銅錢の『和銅開珎』をつくる。

和銅2年正月、銀錢の私製を禁じ、8月、銀錢をやめ、銅錢を作

った。10月、サツマ隼人（南九州）の188人が、ヤマトへ来た。

記・紀の編者3人は、伊勢神宮にアヒル字奉納

天武天皇が、竹内文献で稗田阿礼に作らせた『天之御中主尊以下の皇統記』を、藤原フヒトの命で、短く書直したのは、和銅2年らしく、ヒエダノアレ・オウノヤスマロ・トネリ親王の3人は、和銅2年（709）に、アヒル草・行・楷書の和歌などを、伊勢神宮に納めたのを、数年前、私たち（丹代・吾郷・林）がしらべた。初代の山田神宮皇学館長は、「神字はない」とウソを証言・新聞雑誌はそれを発表した。

大安曆が元明女皇に、古事記を献上したのは、伊勢によせ書きを奉納した、4年後にあたる。

和銅3年正月、北九州の大宰府と、播州（兵庫ハリマ）から、銅錢を献上した。3月、ナラ平城宮へ遷都。9月、銀錢をやめる。

和銅4年夏、古事記を4カ月で書き改め、翌年正月、太安曆は女皇に『古事記』を献上した。

和銅6年5月、諸国に風土記を作らせた。7年2月、紀の清人などに、国史の作製を命じた。

和銅8年正月、はじめて楽器の鉦鼓をもちいた。9月2日、元明女皇（第44代）54才の時、37才の元正（第45代）と交替、和銅の年号を靈亀と改元。

元明の讓位の詔に「ケンショウ皇太子は、まだ15才、聖武の御母冰高皇女の、元正女皇にゆづる」とある。

イセ神宮神代モジ99点実在

イセの神代モジは、記祀の奉獻前から、1000年間に50余人が、奉納した秘宝字。明治初年、神宮文庫ができた時、落合直亮は、實物をウス紙に書写した籠字を校閲している。

アヒル草書57点、アヒル楷書16点のほか、3種神字と画や漢字16点、計99点で、約80%まで、アヒル字体。

古代和字研究の大先輩、田多井四郎治は、昭和11年（1939）ごろ、すでに伊勢神字を調べている。

私たち丹代・吾郷・林夫妻4人で昭和50年6月19日、神宮文庫におもむき、これを確認した。丹代氏はこれを全部臨写した、実物は未公開だが、勅許を得れば、伊勢神庫からの出現を信じる。

すでに私たちは、丹代氏の写しを写真にとり、その内容をほとんど解読した。タケウチキヨマロ 竹内巨磨翁の裁判に、御用学者はイセ神字を秘め、「神字などはない」と証言、愛國者を罪に落しいれた。

オチアイナオズミ 註 落合直亮は、名著『日本古代文字考』を書いた落合直澄の兄。直澄も、伊勢神宮の祿宣だったから、同書の発行後、イセ神宮を見たが、何も発表しなかった。

書写した神字は、ついに発行

丹代氏が写したイセ神字は、荒深神道の小島末喜氏の並々ならぬ苦心と努力によって、ついにメテタク発行された。

その後私は、尾崎一弥氏・榎本雅一氏と共に再び神宮文庫を訪れて拝写、アヒル字を読み、漢字で日本占領の事実を確めた。そしてハワイで神字の発見を宣言した。

神字を書いた人は、ヒエダのアレ・オウノヤスマロ・一品トネリ親王など、50余をかぞえる。

ちなみに、この度発行の『伊勢神宮の古代文字』は丹代、小島氏の共著。

小島氏は神宮文庫のイセ神字の紙質がウスク、ボロボロになるのを歎き、自費でウラ打ちした奇篤の士、まじめな神道学徒である。

カンヤマト第45代ゲンショウ女皇

元正女皇は、藤原フヒト娘宮子（氷高皇后）で、首皇子（第46代聖武）を産み、37才に即位。

即位3年3月、吉備真備キビノマキビ と、阿部仲磨は、唐に派遣された。11月17日に靈龜の年号を養老と改元。

養老4年2月、南九州の隼人が反乱して、征討の將軍を出した。

同年5月、天武天皇の皇子、舍人親王は『日本書紀』を元正女皇に献上した。太安磨が古事記を献上した9年後、すなわち養老4年8月、藤原不比等は死んだ。翌5年12月7日、元明上皇は61才でカミサリ。この太安磨が講じた日本書紀の私記講義録が出た。これを養老私記という。

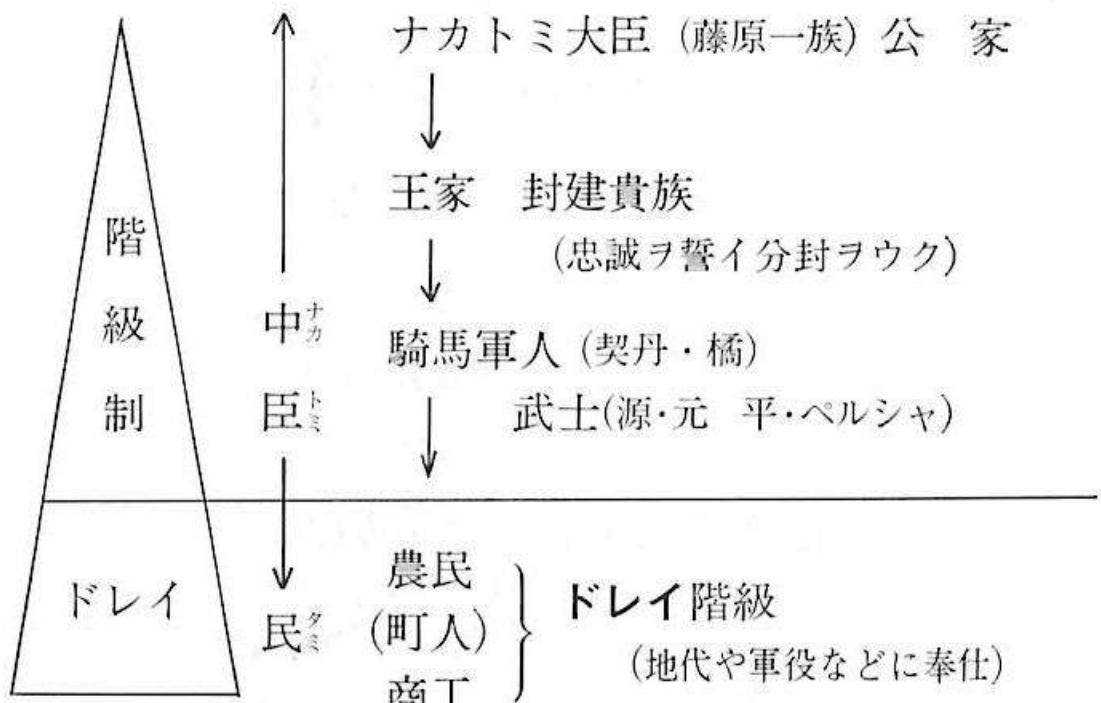
養老6年2月、学者23人に田を下賜、法隆寺の食封。8月に棚戸1000人を、陸奥（奥州）の鎮台所に配した。

養老7年7月、太安磨は死す。養老8年2月4日、元正女皇は46才で皇太子に譲位。首皇太子は24才で聖武天皇として即位。

藤原不比等は、わが子を四家（南家・北家・式家・京家）とし、

〔封建律令は武力制圧のドレイ制〕

(君) 君 天 皇 制 (位階下賜)



〔中央集権の律令で士農工商を取締る〕

クチバナ
末娘を橘（契丹）
諸兄の妻とした。天平9年、四家の当主4人は、
全部同じ年に死んだ。

カンヤマト第46代ショーム天皇

聖武天皇は、文武天皇20才のときの子、讓位後、24才の養老4年
2月4日、神龜と改元して即位。

4月、蝦夷（東北人）数万人を殺して、軍兵3000人を用い仙台市
に多賀城を築き、記念碑を立てた。

戦後軍人を出家させて、位をあたえ、国家平安の詔を出した。

仙台市郊外の記念碑



神龜6年2月、フヒトは、犬養の橘(契丹)三千代に産せた。光明子(安宿姫)^{アスカヘ}の(色白の混血)を、皇后と定め、反対した左大臣長屋王^{ヤオウ}を殺した。

8月5日、天平と改元。

光明皇后の妹、多比能^{タヒノ}は『神軍伝』を書き、東北を平定の大将、橘の諸兄の妻として活躍、藤原氏と橘氏を最高の貴族とした。

天平2年4月、興福寺の塔を造り、近畿一円に班田司^{ハシテンシ}を設けた。光明皇后^{カシコク}は官職の施薬院^{セヤクイン}をおき、9月、諸国の防人^{サキモリ}をやめ、殺生禁断を宣伝、仏教を広めた。

しかも、防人を帰さず、西から東北へ遠征、関東から大伴旅人を南九州に遠征させ、1400人を皆殺しにして、隼人の碑を建てた。

天平3年、スワと信濃に進軍した。大伴旅人が死ぬと、多賀城から東北に軍を進め、秋田に進駐。

奥州人はネバリ強く、何回も反撃、農民も騎馬で立向った。

天平5年正月、不比等の妻、橘三千代(光明の母)^{ナグ}は死んだ。

12月に出羽の柵^{ウタガキ}は、東北のエゾ人が打破り、戦果をあげ、守備兵は秋田へ引きさがる。秋田でも東北の日本人は、ゲリラ戦で勝った。

天平6年2月、歌垣^{テンバン}を天覧、4月に地震、7月、貴族は七夕の宴で、詩を作り、文人だけ楽しむ。

天平7年11月、日本書紀を作った舍人親王^{ドウセン}は力ミサリ、痘瘡^{ケゴン}が流行。

天平8年に唐僧道璿^{ヲササキ}は、華厳宗を伝え、漢人の皇浦^{マロ}は景教(キリスト)を持込み、聖武天皇^{ムチマロ}は彼を謁見された。

天平9年4月、藤原房前57才、7月藤原磨43才、藤原武智磨58才、8月藤原宇合44才の、藤原氏の第3世は4家とも当主4人が、ホウソウで死んだ。12月に大倭国^{ヤマト}を、大養德^{ヤマト}に改め、貴族は、漢字をもてあそぶ。

一切經5047巻ができ、恭仁宮に行幸、天平13年元旦の朝賀^{チヨーフ}は、恭仁大宮^{ニンオウジヤ}でおこなう。僧行基^{ギヨーキ}は、東大寺に天照大神を祭り、「日の神^{キヨウ}は大仏と同一神」と、本地垂迹を説いた。

天平15年10月、金銅の大仏を造らせ、東大寺の建立を発願した。

天平17年正月、僧の行基法師を大僧正とした。東北人は黄金を献じた。

同年2月5日より10日まで、富山の竹内家は、皇太神宮の骨像43体と、各種神宝の大秘蔵を、子孫代々に遺言して、大奥に秘蔵すべしと、竹内池上・赤池明神の花印で、天平6年2月26日竹内第10世麻呂臣は神宝の大秘蔵を誓った。
12

天平19年9月、奈良東大寺の大仏を造り、天皇の称号を用いた。

天平20年4月21日、元正上皇カミサリ、8月シャカ仏式の服装などを改定、聖徳皇太子の聖靈会をはじめた。

帰化人は、東北一帯に残存する縄文日本人の底力と、金の産出を恐れた。

光明皇太后と則天武后

唐高宗妻の則天武后は、ユダヤ式呪術と謀略を発揮。天平時代の、元明から称徳の女皇6代、51年間に処刑続出は、武后をまねたものである。

大化革新も唐制だった。女皇のころは、本格的な唐制。天智の孫、白壁王（第50代光仁天皇）は、天平の仏教と万葉人に大反撃された。

カンヤマト第47代コウケン女皇

(第49代ショウトク)

孝謙女皇に即位の2月、奥州は朝廷に、初めて黄金を献じた。僧の行基法師は、82才で死んだ。天平21年（749）4月14日、天平感宝と改元。

女皇は32才で、7月2日即位。和文の勅調（宣命）を出した。

天平24年（天平勝宝4年）4月、大仏開眼式に光明皇太后と元正太上皇と女皇3人行幸。

その2年後、中支（中国中部）の僧、鑑真は来日して、北支ユダ

ヤの悪逆を教えた。鑑真は漢音でなく呉音語。

天平勝宝8年5月2日、道祖王（新田親王の子）を皇太子とし、翌3日、元正女皇（太上皇）56才でカミサリ、髪をそって葬られた。

6月、はじめて怡土城（福岡県糸島郡怡土）を築く。翌年正月に橘諸兄は74才で死す。

3月に皇太子を廃し、舍人親王の第7子大炊王を皇太子とした。橘奈良麿は反対して投獄された。

光明皇太后は、ムリおしに8月18日天平感宝を、天平宝字に改元。

孝謙女皇41才は、譲位の立場に追いこまれ、ゴタゴタがつづいた。

翌年の夏ごろ、舍人親王の王子大炊王25才を、淳仁天皇と定めた。

皇太后や女帝は、北陸一帯の荘園収入で、ナラ仏教を狂信した。

カンヤマト第48代ジュンニン天皇

淳仁天皇は、天平宝字2年8月1日、25才で即位。

26才の8月、唐招提寺立つ。27才の6月4日、光明皇太后60才で崩じ、孝謙女皇51才の権力増大。

翌年正月、新羅語を習わせ、下野の薬師寺と北九州に戒壇設置。10月孝謙女皇は北近江の保良宮へ行幸、ここで道鏡と出会い、淳仁天皇は淡路に流され廢帝の悲運となる。

東北鎮台（秋田城）はできたが、守りにすぎなかった。

翌年、唐招提寺の戒壇ができ、ヤマト華厳宗や律宗と対立した。

淳仁6年6月、孝謙上皇は「大事はわたしが決裁」の詔を出した。9月、内相の恵美押勝は近江へ逃げた。11月、上皇女帝は新羅征討といって、東北のエゾ征討軍を訓練した。

天平宝字7年5月、僧の鑑真は77才で死んだ。8月、女皇は儀鳳曆をやめ、大衍曆をもちいた。

翌年9月上皇は、道鏡を大臣、禪師として位を高め、10月、淳仁天皇をやめさせ、上皇は再び重祚して、称徳天皇の名で即位。

カンヤマト第49代シヨウトク女皇 (第47代コウケン)

シヨウトク ジューツ テンビヨーシンゴ
称徳天皇に重祚の女皇は、淳仁9年正月7日、天平神護と改めた。
ジコンニン
淳仁天皇は10月23日、33才で淡路（兵庫県三原郡南淡町）でカミサ
ル。閏10月、道鏡は太政大臣に任せられ、女皇をわがものにした。
ウルウ
シヨートク シンゴ ケイウン カスガ
称徳3年目の8月16日、神護景雲と改元。春日大社の神殿を造り、
翌年完成させた。

シヨートク ワケノキヨマロ ウザ
称徳5年目の9月、和氣清磨を宇佐に派遣して神示をうけさせた。
チヨクジン
和氣清磨の直言を怒り、道鏡は、清磨を大隅（鹿児島県）へ流した。
アベナカマロ
翌年正月、阿部中磨70才は、唐国で死んだ。8月4日、称徳女皇
は53才でカミサル。天智の皇孫施基王子の子、白壁王は、9月に清磨
オウスキ
を大隅から帰し、道鏡を逆に大隅へ流した。10月1日、宝喜と改元、
ホウキ
白壁王は第50代光仁天皇に即位された。

光仁天皇は天平・万葉に反撃

天智天皇の皇孫施基皇子の子、白壁王は、730年に従4位下となり、
以後累進して765年に大納言の時、770年に第50代天皇に即位、ユガ道鏡
シモズケ
を下野に流し、和氣清麻呂らを召喚、財政をしめ、奈良時代の悪政を改
め、桓武天皇の政治のさきがけとなられた。

カンヤマト第50代コウニン天皇

光仁天皇（天智天皇の曾孫）は62才で即位、帰化人やソガに乱され
た日本を、モトにモドスため、第1皇子山部親王31才と、第2皇子早
良親王らと、愛国者に協力させた。

即位2年正月、帰化勢力は第3皇子他戸親王を皇太子とした。2
月に藤原水手（58才）は死亡、吉備真備と和氣清磨は、天皇を必死に
助けた。6月、渤海の使者は出羽に上陸、翌年正月、奈良都に朝貢。
ジヨーヒヨーブン
天皇は上表文が失礼だと追い帰さる。

3月、出羽国司に、戸税をやめさせた。4月に道鏡は死亡、5月に他戸皇太子をやめさせ、即位4年正月、長男の山部皇子36才を皇太子とした。3月、穀物のネダンを『常平法』で定めた。

ボツカイノヅカイノト

ヤマベ

6月、渤海使が能登に来たが、その無礼を責めた。閏11月に奈良東大寺の僧、良弁は死んだ。

即位5年3月、新羅は朝貢したが、しりぞけた。10月に大伴駿河麿を、エゾ東北・北海道に行かせて話しあう。12月、仏名会を宮中でおこなう。この年、皇孫(平城天皇)誕生。

即位6年6月遣唐使を派遣。10月、天長節をいわう。右大臣の吉備真備は83才で死んだ。

即位7年、検税使を全国に送り、白鳳と天平律令の政治体制で、民百姓から収税。7月、船50隻を陸奥に置き、エゾに備えた。

即位9年3月、藤原魚名を内大臣とし、のちに左大臣とした。

即位11年7月、諸国に海防を厳しくした。翌年正月、天応と改元して譲位、4月3日、長男の山部王は桓武天皇に即位され、次男の相良親王は、皇太子とし、6月、内大臣、藤原魚名を介して、エゾと握手された。12月23日、光仁天皇73才でカミサル。

渤海船は、帰化ユダヤ人に、連絡するため、能登・出羽・奥羽に来航した。このかきまわしを防ぐため、鎖国をした。ペルシヤ系の大将、坂上田村麿は、エゾを征討、胆沢城を築き、防衛した。

日本書紀の続編を光仁天皇が作らせたまう

『続日本紀』は日本書紀をつぐ697年(文武)から791年(桓武10年)までの95年間の記録。第50代光仁天皇が命じ、石川名取・淡海三船らに作らせたのが最初。790年桓武天皇は、藤原継繩らに続けさせ、4年後に奏上したがさらに菅野真造らに加入を命じ、797年完成。『続日本後記』は、第53代サガ天皇が作らせたまう。

カンヤマト第51代カンム天皇

桓武天皇は父天皇の遺志をつぎ、サガ 皇弟の早良皇太子と、改革方策ヨドガワ を実行、因習の奈良平城京をやめ、淀川中流の長岡に遷都。ナガオカ 因幡國主の氷上川継は1月にそむき、伊豆に流された。これに連がる左大臣藤原魚名は、やめさせられ翌年7月63才で死す。

8月19日、エンリヤク 延暦と改元。

京都サガに永住の秦民は、聖徳太子の恩で、酒と絹で栄えたが、東北エゾの来襲をおそれ、唐の長安式の王城を、京都に造るため、長岡京の建設を妨害。藤原種継を暗殺。早良皇太子は暗殺団の一昧ライシュー と見なされ、淡路島に流される船で力ミサル。

延暦13年桓武天皇は、京都に遷都、奈良を仏都とし、悲運な皇太弟の靈をまつり、各地の国分寺で金剛般若經を読経させた。後に早良親王に『崇道天皇』スドー の追尊号を贈る。

ユダヤは平安京を西安の $\frac{1}{4}$ とし、徐福の今熊野神社を建てた。

延暦14年12月、都の荒くれ兵士を、陸奥の棚戸の防人に出した。

翌年4月、渤海は入貢、公家は「続日本紀」を作り、帰化人の祖先は、神代天皇子孫と、いばる。

延暦16年11月、坂上田村麿を征夷大將軍とし、翌年清水寺建立。

延暦20年11月23日、弘法大師は、富山赤池白龍の万堂で、日本の神道を、3年修業をして、シナの唐国へ出発。翌年7月、最澄は、唐から帰り、天台宗を伝えた。8月、天皇は最澄を召された。

延暦25年3月17日、天皇は70才で力ミサリ、桓武天皇の皇太子平城天皇33才即位。8月、空海は唐から帰国、真言宗を伝えた。

弘法大師と伝教大師

平安朝の初め、唐で修行して帰国した最澄と空海は、カナ文化に復元の、革新的な光りを与えた。太古の神字を知る弘法(空海)は、いろは48字の『ひらかな』を広めた。漢字仏教を伝えた伝教の最澄は、仏典の

ヨミ方につけるオコト点をやめ、カタカナのルビをつけ、「神武のカタカナ」をひろめた。

カンヤマト第52代ハイジョウ天皇

平城天皇は33才の5月18日即位。延暦25年を改元して大同元年とした。大同3年2月齊部広成は『古語拾遺』を出し「神代日本にモジなし」のウソを発表。23才の皇弟は反論された。

大同4年4月1日、24才の皇弟サガ天皇に譲位され、平城天皇の第1皇子、高岳親王皇太子とした。

大同5年9月、平城天皇は重祚をはかって失敗、主謀者の藤原藥子は自殺、皇太子は唐へ逃亡。上皇は頭を丸め、謝罪された。

漢武帝の皇居侵入後715年経過、ユダヤ系はカナ文化を完全沫消、貴族だけ漢文を学修、庶民は無学文盲の、ドレイにしたまま、数百年たち、悪魔漢字でゴマ化す。

カンヤマト第53代サガ天皇

嵯峨天皇は、24才の大同5年4月13日に即位。帰化ユダヤ系を、しりぞける体制をとられた。ユダヤ系藤原藥子は、翌年9月先帝の重祚をはかり自殺、高岳皇太子は唐へ逃亡、上皇は頭を丸めて謝罪。

天皇は大伴親王（桓武の第3皇子）を皇太子とし、9月19日、弘仁と改元。

翌年元旦、蘇（蘇我ユダヤ系）を屠（殺す）屠蘇を、宮中一同で飲まれ、外敵の鬼を追出す決意。

3月、全国の囚人帳を作らせ、5月、外人が、農民に酒や肉を売るのをやめさせた。坂上田村麿は死んだ。即位5年6月萬多親王は、『新撰姓氏録』を調べ、帰化人祖先出所の、ウソをあばいた。

タチバナカチコ
7月、橘嘉智子を皇后に迎え、鑄銭司（造幣局）をやめる。この年、空海は高野山をひらく。

即位10年、最澄はヒエイ山をひらき、戒壇の建設をねがう。

天皇は、日本を守る人を築く、『人は城』の天台宗。いろは48字で、『庶民教化』の真言宗。最澄と空海を助け、職業軍人の養成をやめる。

リヨーブシンドー
空海は、神仏の両部神進、経文は、インド語でよます真言密教。

キヨーモン
最澄は、経文にカナ記号をつけ、我国の漢文知識人をやしなう。

シングンミツキヨー
天皇は藤原冬嗣らに、『続日本後記』（新撰姓氏録）の作製を命じたが、23年後（天皇カミサル前年）に、日本帰化系の身元を、明らかにした。即位12年、藤原冬嗣は勸学院を建てた。翌年正月、天皇は民衆教化のため空海に東寺を与え、4月16日に譲位、27日に皇太子38才を、淳和天皇に即位させた。

カンヤマト第54代ジュンナ天皇

ジヨーコー
淳和天皇は、38才の4月27日即位。サガ天皇は上皇の名で、政治を後見され、翌年正月5日、弘仁の年号を、天長と改元。

ゴーケン
7月7日、平城上皇は51才でカミサル。8月、公卿政治（ほとんど藤原一門）の刷新第6条を作る。ユダヤ公家は、ヌケ道を考えた。

コニン
天長2年2月、渤海は入貢、4月に藤原冬嗣は左大臣となった。

アンチヨー
11月28日、サガ上皇40才の、祝賀の宴がひらかれた。翌年7月、藤原冬嗣は52才で死んだ。

太古から、百才以上生きた日本人の、医道はすたれ、祈祷などで治療、心労はふえ、短命になった。

ハギワラオー
天長5年正月、渤海入貢、3月、萩原王を射殺した、大中臣の春繼を、流罪にした。

オーナカトミ　ハル
天長6年5月、全国に水車を作らせ、稻作をすすめ、翌年4月、皇后は、雲林亭に行啓、農業の実体を見られた。

天長10年2月28日、天皇55才で讓位、西院に住居。3月6日、仁名天皇24才即位、サガ上皇は49才でご健在。

カンヤマト第55代ニンミョー天皇

仁明天皇は、正月3日、承和に改元、後7日の修法を定め、「白馬節会」をはじめた。承和2年3月、空海は高野山の奥の院で入滅。

6月、東海道などの主な港に、船の数を増し、旅の便をはかる。

承和6年、山形県に石のヤジリが出土、ただ不思議に思っただけ。

承和7年(840)5月4日、淳和上皇は55才でカミサル。12月、藤原緒嗣は、親からうけつぐ、日本後記の新撰姓氏録を、23年目に仕上げた。サガ上皇は喜ばれたが、翌年7月15日、57才でカミサル。

承和12年、洛西ウズマサの景教(ネストリウス派のキリスト教)をつぶす。唐の武宗は、仏教と景教マニ教をつぶし、儒教を国教とした。

承和14年10月、僧円仁は唐から帰国。

承和15年正月、藤原良房は右大臣になり、6月13日嘉祥と改元。

嘉祥2年5月、渤海入貢。8月唐商人53人が、九州太宰府に来た。嘉祥寺を建立。翌年2月、京都に群盜がはびこる。

3月21日、仁明天皇は41才でカミサリ、4月17日、文徳天皇即位。

カンヤマト第56代モントク天皇

文徳天皇は、22才の4月17日即位、11月、惟仁親王を皇太子とし、学館院を建てた。翌年正月、全国の神社を、位の有無をとわず、全部『正六位の上』として、4月28日、仁寿と改元。仁寿2年2月、天皇は藤原良房の家に行幸。

仁寿4年6月、左大臣の源常は43才で死んだ。11月30日、齊衡と改元、翌年正月、奥地の兵備をかため、2月に国史を修正された。5月に東大寺大仏の頭が落ちた。齊衡4年正月、大衍暦をやめ、五

紀暦を用い、2月に藤原良房は太政大臣となる。21日に年号を天安と改元。近江と相坂の関を復し、大石と竜華の2関を置く。

天安2年8月27日、文徳天皇は32才でカミサリ、11月7日、わずか9才の清和天皇を即位させ、12月に10陵と4墓を定めた。

藤原の摂政始まる

光仁天皇→桓武天皇→サガ上皇と、ユダヤ系の巻返しを、藤原良房がくつ返し、日本は再び、アスカの藤原公家専政が、はじまる。

カンヤマト第57代セイワ天皇

清和天皇は、9才で天安2年11月7日に即位、藤原良房は太政大臣として摂政。天安3年4月15日、貞觀と改元。男山八幡宮を創立。

翌年2月、11才の天皇に孝経を教え、宇佐八幡宮を京都府の男山に祭る。翌年正月、渤海から先皇の弔喪使がきた。3月に大仏の修理終る。6月にシナの宣明暦を用い、その後、823年も同じコヨミ使用。

貞觀4年7月、唐の商人43人が九州にきた。この年、唐へ逃げた高岳親王は、インドへ行く途中カミサル。

貞觀6年元旦、天皇は15才で元服。唐と藤原は全く親族だった。

たえず互いに交流、来日する武士や商人に、金と物で、位を授け、姓を与え、日本人を軽く扱う。

清和源氏（元のミナモト）、桓武平氏（ペルシヤ系）などは、明治維新まで、位や系図で庶民を、アゴで使い、貴族は特権をたもった。

貞觀14年2月、右大臣の藤原氏宗は死亡。9月、太政大臣藤原良房も69才で死亡、12月、良房の墓を加え5墓とし藤原摂政はつづく。

貞觀18年11月29日、27才で譲位、10才の陽成天皇即位。

カシヤマト第58代ヨーゼイ天皇

陽成天皇（清和天皇第1皇子）は、10才の正月3日に即位、渤海国は朝貢した。

4月16日、元慶と改元。この時、菅原道真は33才の壯年の官吏。
菅原は学者の家柄の文章博士、35才に「日本三代実録」を著作。

陽成天皇は17才で、54才の光孝天皇仁明天皇の第3皇子に譲位、
サガ大覺寺で仏門に入り、長生きして、名筆を残された。天性ゆた
かな天皇だから、藤原氏は、サガ大覺寺に押込めた。

菅原道真は、類聚国史・漢詩文草・菅家詩集など、名筆を残す。

カシヤマト第59代コウコウ天皇

光孝天皇は、54才の6月23日に即位。万事は摂政の藤原基経にま
かせ、天皇職は名ばかりだった。

翌年2月21日、仁和と改元、仁和3年8月26日、天皇は58才でカ
ミサリ、11月17日皇弟の宇多天皇は21才で即位。菅原道真は44才の
学者。

カシヤマト第60代ウダ天皇

宇多天皇は21才で即位、政治は老練な摂政関白、藤原基経の独断。
翌年8月、ウズマサの景教寺跡に、豪壮なオムロ仁和寺を完成。

10月、巨勢金岡は、御所の障子に詩人の像を書いた。天皇は『易』
を善淵愛成に学び、博学の菅原道真に、いろいろ下問された。

即位3年目の4月27日、寛平元年と改元、5月、ペルシヤ系の皇子、
高望王に『平氏』の姓を与え、朝臣とした。

寛平2年、朝廷吉例の屠蘇のほかに、はじめて七草の粥を用う。
僧正の遍昭は75才で死んだ。4月、寛平大宝の銅錢を鋳造。

関白太政大臣の基経モトツネは、12月に退官して、56才の正月に死んだ。

天皇は、菅原道真スガワラミチザネを藏人クランド（大蔵大臣職）に、取立てられた。

12月、天皇の兄の、源氏（元）の源是忠・源是貞を親王に昇格。

侍医の菅原善綱スガワラヨシナは、『名論要抄』を作った。翌年5月、源能有コシトオと大蔵善行マサズミは、『国史』を作った。5月に菅原道真は『類聚国史』を、僧の昌住シンセンジカミは『新撰字鏡』作る。日本の学者は、漢文を自由に作ることができた。6月、渤海に勅書を出した。

寛平5年4月、敦仁親王アツヒトは皇太子となる。5月、新羅の海賊は肥前に侵入した。

翌年5月、渤海の使者が来た。8月、道真は遣唐使で出航、対島で新羅の海賊は入唐をとどめた。

道真は、入唐の無益を知り、帰国して天皇に進言された。

寛平8年12月、菅原の娘が女御として参内、藤原時平トキヒラは「道真は娘を皇后にしようとしている」といった。

道真を親認されたウダ天皇31才を、寺に入れ法皇とし、天皇の皇子13才を、醍醐天皇に即位させた。

カンヤマト第61代ダイゴ天皇

醍醐天皇は、13才の7月13日に即位、翌年4月16日、昌泰ショーカイと改元。

7月天皇に相模人の貢物を禁じ、京都に外人を招く。武士は公家貴族を憎み、強盗が都に出没した。

昌泰2年2月、藤原時平は左大臣、菅原道真は右大臣となり、宇多上皇オモージノは10月に入道（坊主）になられた。

道真は人格と学芸抜群、時平は「三代実録」をつくり、道真に対抗、昌泰4年正月、時平は、道真をザンゲンで落し入れ、4年、筑前九州太宰府の長官に左遷した。

群盜グントーは都にはびこり、公家は天皇を笠に、武士を位でつり、弱肉強食の無法な公家貴族の世の中。

天皇は17才の7月15日、中元節に、延喜と改元。8月に時平は、『三代実録』と『延喜格』を天皇に奉る。翌年9月、宮中で龍の舞を天覧に入れた。延喜3年2月、道真は九州天拝山で死んだ。

翌年2月、崇象親王を皇太子とし、ウダ上皇を仁和寺に移した。8月『日本紀』を講じた。

延喜3年正月、天皇は仁和寺に行幸、4月、紀貫之は古今集をささげ、8月、時平は延喜式（神名帳など）を作り、末代まで支配。

延喜9年4月、時平39才で死す。

延喜20年12月、騎馬の元（ゲン）出身の、高明皇子に『源』ミナモトの姓をあたえ、朝臣とした。

21年10月、空海を弘法大師と命名、翌年4月、道真を正二位の天神に祭る。藤原の公家は、庶民に学問を教え、おとなしくさせた。

閏4月11日、延寿を延長と改元。

延長6年6月、小野道風に命じ、御所の清涼殿のフスマに、漢の賢君と忠臣の言行を書かせた。

延長8年9月22日、天皇46才で譲位、7日後の29日、急に力ミサル、11月21日、8才の朱雀天皇を即位させ、藤原忠平は摂政をした。

菅原道真と平将門

菅原氏は、野見宿弥の子孫。道真は学問で、庶民の心を動かした。
平将門は、ウダ天皇の命により菅原道真が、平の姓を与えた高望王（ペルシヤ系）の孫、平民武士から朝臣になった。

昔は、血縁の親類で『氏』を守り、名を重んじ、団結していた。

将門は、公家が横暴で、道真の事件や、天皇を笠に民をしほる、役人たちに反発した。百姓の自力で、律令制を破る信念を貫いた。

瀬戸内海の藤原純友も、同じ考えだった。純友は漁村民、将門は農村民を、ドレイからぬけ出させるため、ひろく大衆の心を動かした。

道真は文学、将門は信念で、庶民を深く感動させ、明治聖代へと導く、神国思想の導火線となった。

カンヤマト第62代スジャク天皇

朱雀天皇は、わずか8才で即位。4月26日、承平と改元。7月19日ウダ上皇は65才でカミサル。

貴族の封建体制を、歴史で知った武士は、大衆を味方に、公家貴族に反撃、全国に強盗は出没。公家は位で武士をつり、貴族は、あくまで武士や平民を見下すようにした。

承平4年2月、平将門は伯父の國香を殺し、関八州をまとめた。

承平7年正月、藤原伸平が左大臣の時、高麗の使者は、朝貢を願うが謝絶された。翌年5月22日、承平を天慶と改元。京都の空也上人は、念仏宗をおこし、庶民は動く。

天慶2年4月、出羽で囚人の反乱が起り、東は將門、西は純友が反乱全国が乱ればじめた。

天慶3年2月、平将門は殺され、4月、藤原純友も討たれた。

表面は治まったが、民衆のウラミは残り、関東の農民は、再び奮起を考えた。西海の漁師も、武器を用意はじめ、將門は神田明神、道真は天神社に祭り、民の祭る神社は、全国くまなく、次々と復活。

朱雀天皇は42才でカミサリ、21才の村上天皇即位。

契丹古伝を遼国（満州）で作る

天慶4年（西暦941年）満州の契丹遼帝国第2代太宗のとき、大臣に勅命で、契丹の歴史を作らせた。約3000字の漢字音の文章だが独自の漢字を用い、難解である。日露戦争のとき、奉天で発見。東北アジア史として、古代研究家は必死にとりくんだ。

カシヤマト第63代ムラカミ天皇

村上天皇は、4月28日、21才で即位されたが、藤原忠平の摂政。翌年4月22日、天暦と改元。6月に菅原道真は、京都北野の天神社にまつられた。天暦3年摂政の関白忠平70才は死んだ。9月29日^{ヨーゼイ}陽成法皇は82才でカミサル。

天暦5年、空也上人は六波羅密寺を建て、念佛をひろめた。

村上天皇は42才の5月25日カミサリ、6月に藤原実頼は関白になり、18才の第2皇子冷泉天皇が即位。

村上天皇の世は、平和に安定したので、学者は『天暦の治』というが、民衆は苦勞を重ねていた。

カシヤマト第64代レイゼイ天皇

冷泉天皇は、18才で10月11日即位され、摂政の藤原実頼70才をさけ、源高明と橘繁延らに頼らる。^{サネヨリ}
^{ミナモトアカアキ タチハナシゲノブ}

藤原実頼は、天皇を冷泉院に押こめ、天皇20才の8月13日に出家させ、源高明などを罪人とし、9月23日に11才の村上天皇の第5皇子を天皇に即位させた。

カシヤマト第65代エンユウ天皇

円融天皇は、11才の9月23日即位。藤原実頼は摂政の翌年71才で死に、藤原伊尹^{コレマサ}は47才で摂政関白となり、2年目に死んだ。関白を交代した50才の藤原兼通^{カネミチ}も、53才で死んだ。^{ヨリクダ}藤原頼忠が摂政となる。

天皇は26才で、17才の花山天皇に譲位、円融上皇になられた。

カンヤマト第66代カザン天皇

花山天皇は、10月10日、17才で即位、19才で花山院に入り、7才の一条天皇に譲位、花山上皇の名で、西国33所の靈場を開き、後世まで、詠歌などで、有名な天皇。

藤原氏は、天皇を看板にするだけで、内心はバカにしていた。

カンヤマト第67代イチジョー天皇

一条天皇は、7月22日 7才で即位、藤原兼家の摂政、4年目に道隆に変り、丸5年で道隆は死亡。交代した道兼もスグ死に、藤原道長は内覽となり、翌月、右大臣となつた。藤原道長は、藤原氏のうちで最も全盛をきわめ、優雅な一生を楽しんで暮した。

公家政治は官僚役人

1200年間、法皇の名で公家官僚が支配した。役人政治は、形式・画一・はんさ・秘密・専制的な、タイドと氣風がともなう。

役所は権力を利用し、税金をウマク集め。経済を左右して金が流れても、ヤミからヤミで、わからぬよう秘め、一般国民を見下す考え方は残り、天皇にはインギン無礼、形は低頭して、ハラではバカにし、太古の歴史を秘め、長年月間、天皇を飾りものにした。

公家は英明な天子はニガ手で、つぎつぎと天皇を入れかえ、天皇を雲の上においやり、万民と天皇とを断絶させた。

カンヤマト第68代サンジョー天皇

三条天皇は、10月16日、36才で即位、冷泉上皇は10月24日、62才でカミサル。藤原道長は御所車で参内、豪壮な家で暮し、天皇を招待して競馬や騎射の遊びなどを、天覧に供した。天皇41才のとき、内裏は焼け、一条天皇の9才の皇子（母は道長娘の中宮彰子）が、後

一条天皇が即位。道長は「この世をば、わが世とぞ思う望月の、かけたることもなしと思えば」と詠じた。藤原フヒト以来、何度も反撃されたが、たくみに漢字の律令で切りぬけ、藤原氏は世界最長の貴族に君臨をつづけ、官僚組織を破るため、英明な天皇は必死に戦い、源・平の武士利用も失敗、明治は一応成功したが、伝統の役人の気質は変わらない。

カンヤマト第69代ゴイチジョー天皇

後一条天皇（一条天皇の第2皇子）は、2月7日9才で即位、藤原道長は、天皇3代の摂政をつづけ、後一条天皇の11才3月、娘の咸子20才を女御とし、10月に皇后とした、公家の藤原氏は常に天皇を利用、律令国家の独断政治を、1400年もつづけた。

天皇即位12年目に、道長は51才で花の生涯をおわる。長男の藤原頼道は、30年間の摂政、後一条・後朱雀・後冷泉天皇の3代に仕え、国民をギセイにして、ゼイタク三昧に暮した。

天皇は、即位20年に22才でカミサリ、皇后も同年38才でカミサリ、28才の後朱雀天皇即位。

「後」のつく天皇は25名

平安中期の藤原摂政『第69代後一条天皇から、第119代後桃園天皇』まで、後朱雀・後冷泉・後三条など、後のつく天皇名は、25代もある。しか�数え2才や5才の幼天皇を、即位させた。

宮中（禁裏）以外の万民は、天皇を知らず、御所車で行幸の天皇は、幼帝を秘め詔勅発布のため、前の天皇と思わす策略ではないのか。

一君万民の日本国で、一君を雲の上にかくし、藤原公家一族で、神国を支配した事実におどろく。

今の天皇批判は、全くマトはずれでないか。天皇家は、2000年来ユダヤ系の捕囚の生活。1万年前の神国天皇を見なおして、大いに考え、皇祖皇宗の天皇にザンゲをしよう。

カンヤマト第70代ゴスザク天皇

後朱雀天皇（一条天皇の第3皇子・母は道長娘の彰子）は、28才の7月10即位、摂政の藤原頼通の娘、源子を、翌年3月、中宮（皇后）とし、8月三条天皇の皇子13才を皇太子とした。天皇は37才でカミサリ、皇太子21才は後冷泉天皇に即位。

カンヤマト第71代ゴレイゼイ天皇

後冷泉天皇は4月8日、21才で即位。摂政の頼通は、朝廷を藤原一門でかためた。

学問で歴史を知る僧や、上層出身の武士は反乱。摂政の頼通は息子の教通に代った。源義家（16才）は、エゾ（東北）征討軍で出征。天皇は44才の4月19日カミサリ、後三条天皇35才で践祚。

カンヤマト第72代ゴサンジョー天皇

後三条天皇（後朱雀天皇第2皇子）は、4月19日後冷泉天皇はカミサリ、その日に35才で践祚、7月21日に即位。

2月、新らしい荘園づくりをやめさせ、反対者は平氏や源氏の武士で討伐、10月に記録所をつくり、藤原氏や寺院の荘園を調べ、頼通と争い、没収した荘園は、天皇領地とし、天皇39才の12月8日、22才の白河天皇に譲位。上皇となられ、藤原氏の莫大な領地を、天皇家にとりもどした翌年5月7日、後三条法皇の名で40才でカミサル。

カンヤマト第73代シラカワ天皇

白河天皇（後三条天皇第1皇子）は、22才の12月29日即位。翌年5月7日父上皇カミサリ、父の遺志をつぎ、文弱な藤原の摂政よりも、質実な武士たちに、相談をされた。践祚後4年目の9月関白教通は

80才で死亡、10月藤原師実の摂政に代った。

翌年4月、天皇は賀茂社カモに行幸、毎年の例とした。10月、大井川オーライガワに行幸、翌年4月、摂政の師実の堀河第ホリカラダイ（後の堀川御所）に行幸。

白河天皇31才の時、藤原信長は太政大臣となり、権政をほこる。

翌年4月、延暦寺の僧兵は、ナラ園城寺をおそい、ナラとヒエイとは戦い、僧兵は互いにあばれる。

白河天皇は、忠誠な源義家を、陸奥守ムツノカミの鎮守府長官テンジユフチヨーカンとされた。

天皇35才の11月26日、9才の皇子（堀河天皇）に譲位、上皇（白河法皇）になられた。

カシヤマト第74代ホリカラ天皇

堀河天皇（白河天皇の第2皇子）は9才で即位。白河法皇は藤原に代り、院政インセイをとられ、ホリカラ・トバ・ストクと天皇3代の44年間、法皇は、北面ホクメンの武士（源氏と平氏）と、地方の国司を集め、神仏を保護して、27寺院を建て、紀州（和歌山県）の高野山に3回、熊野神社に9回も行幸された。

藤原の公家は、院政をやめさす謀略ボウリヤクをねり、天皇と対抗した。

堀河天皇は、公家しか昇殿させない御殿へ、武将の源義家を昇殿させ、意見をきき、武士を貴族の列に加えられた。

天皇は29才の7月19日カミサリ、鳥羽天皇は5才で即位、白河上皇の院政はつづき、上皇から出る政令や指令を『院宣』インゼンという。

武士の昇殿で歴史は変った

唐藤原は、満州馬賊とペルシヤ海賊を、ガードマンにやとい、万民を押さえさせ、士農工商の『土』を上位とし、武士に農工商人キリスト御免の特權オーバンを与えたが、『土』のガードマンは下層だった。天皇は、源義家の昇殿をゆるされ、武将は貴族の一員となり、源平時代に花は開いた。

カンヤマト第75代トバ天皇

鳥羽天皇（堀川天皇第1皇子）は、5才の12月1日即位。藤原忠実が摂政、白河法皇の院政と対立して、平氏（タイラ）は鳥羽方。源氏（ミナモト）は法皇方に分れ、権力の争奪で内戦を展開。

天皇は御所に、法皇は城南宮と、南北に分れた。鳥羽天皇は21才の正月28日、5才の崇徳天皇に譲位鳥羽上皇として平忠盛と親交された。

カンヤマト第76代ストク天皇

崇徳天皇（トバ天皇第1皇子）は2月15日、5才で即位、12才の2月、平忠通の娘を皇后に迎え、7月、白河法皇カミサル。

平忠盛はペルシヤ系で水軍に強く、山陽と南海の海賊を捕えた。

崇徳天皇は、23才の12月7日、3才の皇子に譲位、平忠通の摂政で12月27日、近衛天皇即位。

カンヤマト第77代コノエ天皇

近衛天皇（トバ天皇第2皇子）は、12月27日、3才で即位、関白の平忠通が摂政した。京都ミナミの城南宮寺の競馬を、鳥羽法皇40才。

崇徳上皇24才・近衛天皇4才、3人で見物された。

鳥羽法皇50才に、鳥羽院が完成祝賀行幸。法皇53才の7月23日にカミサル。

藤原公家は、源平を争斗させ院政の奪回を謀り、崇徳上皇は藤原頼長と結び、源為義・平忠正らを招き、法皇追放密談中とだまし、源義朝（為義の長男）平清盛（忠正の甥）らの若者に急襲させた。

崇徳上皇は父の葬式で何の用意もなく、サヌキ（香川県）に流されてしまう。「保元の乱」は、源・平の優雅な戦争図絵物語で、庶民には関係がなく、近衛天皇は20才に重祚された。

カシヤマト第78代ゴシラカワ天皇

後白河天皇（第77代コノエ天皇）は20才の7月23日に重祚され、父の白河天皇、祖父の後三条天皇の遺志をつぎ、藤原公家支配を、天皇政治にしようとされ、天皇は23才の8月11日讓位、関白の平忠通コノエモトザネが摂政の後、藤原氏の近衛基実が代り、16才の二条天皇は、12月20日に即位された。

後白河天皇と鎌倉幕府

後白河天皇は23才で讓位、法皇として66才でカミサルまで、後三条・白河天皇の遺志をつがれ、平氏（平家）の盛衰を考え、源氏の鎌倉幕府を、みそなわした。天皇の遺志は、第83代ゴトバ天皇がひきつがれた。

カシヤマト第79代ニジョー天皇

二条天皇（後白河天皇第1皇子）は、12月20日16才で即位。翌年4月20日、「平治」と改元。12月に藤原信頼と源義朝は、後白河法皇を守り、二条天皇を法皇の官に移した。藤原通憲は自殺、藤原信頼は殺され、平治の乱はおわる。

平治の乱は、藤原公家の身内の内乱で、保元の乱と同じく、庶民にかかわりはなかった。

カシヤマト第80代ロクジョー天皇

六条天皇（二条天皇の皇太子）は、わずか2才の7月27日即位、その翌日の28日、二条天皇（上皇）は、23才でカミサル。

翌年7月、摂政の藤原基実は死に、藤原基房が代った。11月、平清盛が内大臣となって翌年2月、早くも平清盛は、太政大臣になり、武家政治をはじめた。清盛は頭を丸め、六条天皇が5才になられた

6月25日、三つ上の8才の高倉天皇に譲位させた。

2才の天皇にびっくり

有名な清和天皇は9才、陽成天皇は10才で即位、数え年2つの天皇や、10才までに即位は20をこす。

日本は形だけでも、天皇を頂かねば、政治のできない神国日本。

カンヤマト第81代タカクラ天皇

高倉天皇（後白河天皇の第5皇子）は、8才の3月20日即位、6月、後白河は、頭を丸め法皇になられた。キヨモリニュードー清盛入道は、藤原公家に代り、全盛をきわめ、広島の巣鴨神社をつくる。清盛の娘は、12才の天皇の皇子（安徳天皇）を産む。

イツクシマペルシヤ系の平氏は、貿易のため、兵庫福原（神戸）港を造築。

高倉天皇は20才の2月21日譲位、3才の安徳天皇は4月22日即位。

5月に源頼政は宇治市で旗をあげたが自殺。8月源頼朝は伊豆の石橋山で挙兵、9月源義仲は北陸から京都へ進撃。10月源義経は東北兵と富士川で、平氏と戦う。

平氏はペルシヤ水軍で、源氏の（元）騎馬兵に弱く敗走した。

翌年正月14日、21才の高倉上皇は力ミサル。同年の閏2月、平清盛64才も熱病で死んだ。

7月14日に養和と改元、翌年5月27日に寿永と再び改元したが、おごる平家は、久しからず亡ぶ。

万民不在の悪政1400年

明治人は、天皇の尊とうとさは、骨のズイまで、しみこんでいる。

君が代の歌は、どんなに排撃されても、国民大半は忘れ得ない。

藤原・橘・源平は、みな侵入軍の子孫とわかる。崇神から明治まで、万民をドレイとし、貴族や僧侶はゼイタク三昧。その点御用学者も同じ。

カンヤマト第82代アントク天皇

安徳天皇は、3才の4月22日に即位、父天皇と祖父の清盛も亡く、源氏軍の進攻のため、平家一門と、兵庫福原港（神戸）へ遷都。

義仲は7月京都に入り8月20日、4才のゴトバ天皇（高倉天皇の第4皇子）を立てた。源頼朝は京都の義仲軍討伐、義仲は翌年正月大津市栗津で敗死した。

源義経は、一の谷・屋島・下関に平氏を追討した。8才の安徳天皇は神器と共に、3月14日、下関の壇の浦で入海、平家亡ぶ。

義経は、安徳天皇の母（建礼門院）を捕え、京都へ引きあげた。

源頼朝の妻政子や北条氏は、鎌倉入りの義経を追討させた。義経と弁慶主従は、北陸の富山へ入る。

文治2年12月16日、ヨシツネとベンケイは、富山の皇祖皇太神宮に、大黄金25枚を寄進。起請文に『両人は生國に望みなきため、蝦夷唐國の王を望み、寿福立身を祈り奉る』と明記、花押で証した。ヨシツネは自ら義顕と書いた。漢字は当て字、義経は義顕と記す。義経主従は頼朝の追放令で、東北の藤原秀衡をたよる。翌年10月、秀衡死去、鎌倉軍が攻め、弁慶は衣川で立往生。ヨシツネは北海道へ渡り、頼朝幕府は奥羽を平定、義経はサハリン（カラフト）から北満に入り、ジンギスカン伝説となつた。

伝説は信用できないが、広い視野でインドから遠くヨーロッパ各地まで席捲した、元の足跡を探らず、一笑はできない。神代モジも長い間ウソ字と、断定していた。

カンヤマト第83代ゴトバ天皇

源義仲は、高倉天皇の第6皇子6才を後鳥羽天皇とした。源頼朝は、義仲を殺し、鎌倉へ帰り、幕府をひらいた。後白河法皇は、鎌倉幕府のできた年に66才でカミサル。ゴトバ天皇は15才に成長させていた。

天皇は、幼児から後白河法皇に天皇の歴史を教育された。

ゴトバ天皇は18才の7月13日、法然上人にナムアミダ仏の、浄土宗の受戒をうけられ、天皇21才の正月11日、4才のツチミカド天皇に譲位、ゴトバ上皇として仏典や和歌を、公家の貴族たちと勉強された。

そのころの役人は、漢字で歴史や経典を学んだ。力ナ本は平民や女のヨミモノで一般の庶民は、ひらがな画本や、カタカナ絵本を読んだ。

法然とナンムアミン

法然は、1147年、トバ法皇のとき、京都ヒエイ山で天台を学び、黒谷の寺に入り法然坊源空といった。法然は、弟子の親鸞と恵信尼の結婚を許した罪で、1207年法然は四国へ、親鸞は越後に流罪で、富山皇太神宮ナムアミンを知り、ナムアミに陀仏をつけ、浄土宗を開いた。親鸞は浄土真宗を開く。法然の念佛と信心は、弟子にうけつがれ、アミダ仏の浄土・真宗は、庶民にひろがる。

法然は黒谷上人の円光大師、親鸞は見真大師と追号され、天皇家と本願寺のナンムアミンの因縁は深い。

カンヤマト第84代ツチミカド天皇

土御門天皇（ゴトバ天皇第1皇子）は、4才の3月3日即位、翌年正月鎌倉の頼朝は死に、2代頼家は殺され、3代実朝の11月25日、天皇16才で、14才の弟順徳に譲位、上皇となり、祖父の後白河上皇、父のゴトバ上皇とともに、御所の公家と密議、鎌倉や地方の情況をきき、時節をまたれた。

ゴトバ上皇は35才のとき、延暦寺の根本中堂で『法華經』をヨミ、仏道修業の浄土信仰をかさね、和歌などにも美しい香気をはなつ。

上皇42才の承久元年正月、鎌倉幕府の源実朝は殺され、源氏の幕府体制は終り、『承久の乱』がはじまる。この『乱』は幕府執政を、天皇の神国政治にもどす、王政復古の第1弾だった。

承久3年（1212年）5月14日、皇軍兵士は鎌倉へ攻め上った。

北条義時の長男泰時は、「上皇自らの出陣なら降伏をせよ、軍兵だけなら戦え」と指示、万民に朝敵といわれることを恐れた。公家の皇軍はもろくも破れ、京都は北条氏が占領、7月7日、院政は廃止され、44才のゴトバ上皇は、13日に隠岐オサキへ流されたまう。

カンヤマト第85代ジュントク天皇

順徳天皇（ゴトバ天皇の皇子）は16才の12月28日即位。翌年、宮に仕える鴨長明は鎌倉幕府の、3代將軍実朝と面会した。

天皇25才の正月27日、実朝は鎌倉鶴岡八幡前で殺され、幕府の実権は、ユダヤ系の北条義時にうつる。2才の藤原頼経を名目だけ鎌倉の主（將軍）とした。源頼朝創設の幕府は、わずか3代で亡んだ。頼朝の妻、北条政子（尼將軍）は、影で政治を支配。鴨長明は京都を出て『方丈記』を書く。

順徳天皇（27才）の、承久3年4月20日、鎌倉の北条氏を討伐のため、3才の仲恭天皇に譲位されて、順徳上皇の名で、鎌倉幕府の北条氏討伐を、源氏の武士や、地方の豪族の武士たちに訴え「承久の乱」を起して失敗、順徳上皇は佐渡に配流された。

カンヤマト第86代チユウキョウ天皇

仲恭天皇（順徳天皇第1皇子）は3才の承久3年4月20日即位。ゴトバ・土御門・順徳の3上皇は、北条義時追放の、院宣を下し、神国復元の大号令を発布。鎌倉幕府は、これを公家の内通で知り、北条泰時は、東海・東三・北陸から、19万騎で京都へ攻め上り、3法皇を捕え3人を別々に流した。

3才の仲恭天皇は、即位式もなく70日で退位。北条は高倉天皇の孫10才を、ゴホリカワ天皇として即位させた。幕府は天皇の莊園を全

部没収。全国の豪族武士や僧は、承久の乱で、北条の悪逆を知り、日本の歴史をしらべ、太古の神代モジの研究を、真剣にはじめた。

日本神国の巻返しならずユダヤは、根づよく反撃

10代崇神朝に、漢ユダヤの武帝軍は、皇居に侵入、天皇を神として、皇民と武士をドレイに使う。第22代雄略天皇は、神代モジが漢字で消えるので、大臣竹内真鳥に神代史を漢訳させ、第26代武烈天皇は、真鳥を手打ちの形で、富山へ逃した。第41代天武天皇は、雄略天皇が物部氏に下賜の歴史で、古事記を書かせた。

唐藤原は近江朝を亡し、天武の死後、女皇は唐暦に変え、ウソの古事記を作り、女皇時代のアスカの悲劇。第50代光仁天皇親子3代の巻返しもならず、承久の乱で北条ユダヤは、上皇3人を流罪とした。

南北朝も悲劇をくり返し、勤皇の志士は、生きかわり死にかわり、明治維新でやっと達成した。

カンヤマト第87代ゴホリカワ天皇

後堀河天皇（高倉天皇の孫）は、10才の12月1日即位。翌年、北条義時は、天皇の周辺を警戒、六波羅探台を置く。

源頼朝の長男（庶子）大伴能直（藤原系）は、神武朝より前のウエツフミを発見した。足利の御用学者は、バラバラにして、ニセの神字を作り、神代の51音カナを、次々焼いた。

公家はあくまで封建制を守り、神字論を押え、天皇再興を防いだ。

天皇の血統の僧道元は、シナの宋で修業、4年目に帰朝した。そのころ渡満した源義経（ジンギスカン）は、『元』の王朝をつくって死んだ。

天皇20才の10月阿波（四国）に流された土御門上皇37才でカミサル。後堀河天皇は、21才の10月4日、2才の四条天皇に譲位。

ウエツフミ（上記）をつくる

源頼朝の子、能直^{ヨシナガ}は52才の時、子の秀親^{ヒデチカ}と家臣7人で、古記録を作らせた。これがウエツフミである。

能直^{チカヨシ}は、藤原親能の家で生れ、大友能直といい、豊後（大分県）で暮し、後堀河天皇即位3年（1223）北条2代義時^{ヨシトキ}のとき上記を完成した。

上津文ハシガキに、豊國モジ^{トヨクニ}（古代和字）を用いたワケを示した。

このころは、神代の記録も残っていて、正しく写すことができた。藤原・源氏は、帰化系の外人と判らぬよう、外地を秘め、骨ヌキ記録を書いた。

竹内文献の出る前は、ウエツフミが古代を知る唯一の本だった。

神代モジ（古代和字）は、いつか出現するから、なにかの形で神字を示し、ウタガイを晴らす必要があった。

カシヤマト第88代シジョー天皇

四条天皇（後堀河天皇第1皇子）は、2才の12月5日即位、4才の5月に、さきの仲恭上皇は17才でカミサル。8月に天皇の父ホリカワ上皇は23才でカミサル。

このころ、大和アスカの古墳を盗掘、高松塚の帰化人王の首を切る。

天皇9才のとき、隠岐^{オカギ}に流されたゴトバ上皇は、60才でカミサル。四条天皇は12才の正月9日カミサル。

3月18日に24才のゴサガ天皇が即位。同年の9月、佐渡島^{サドノシマ}に流された順徳上皇は、46才でカミサル。いたましいかぎりである。

ナンム・アミニと「禪」のサトリ

鎌倉時代に道元（曹洞宗）栄西（臨濟）は「禪」をシナで学修。

禪は無字の法だが、漢字のため庶民は縁なく、武士貴族が学ぶ。

皇道は、宇宙大自然に没入する皇祖と一体化の修業。念佛三昧の無我
は、皇道や禅とヒット。庶民は、わかりよい念佛を信仰した。

カンヤマト第89代ゴサガ天皇

後嵯峨天皇（土御門天皇第2皇子）は、3月18日24才で即位、6
月に北条泰時は60才で死去、9月に順徳上皇は佐渡でカミサル。

ゴサガ天皇は28才の正月に譲位、3月11日、10才の後深草天皇即位。藤原ユダヤ系幕府は、天皇が成長されると、常に幼帝と交代させた。ゴサガの在位も僅か4年。

カンヤマト第90代ゴフカクサ天皇

後深草天皇（ゴサガ天皇第2皇子）は3月11日5才で即位。藤原一族の近衛兼経が摂政。鎌倉幕府の北条時頼は、佐渡院を順徳院と追号して、順徳上皇を祭り、全国の廃社と廃陵を再興。

天皇17才に、曹洞禪の道元は死んだ。11月26日23才で譲位して上皇となり、12才のカメヤマ天皇即位。

カンヤマト第91代カメヤマ天皇

亀山天皇（ゴサガ天皇第3皇子）は、12月28日12才で即位、天皇14才の時、伊勢外宮に神庫ができ、神代モジ99点の大半を秘蔵。

5月に北条長時は、良い政治の新制21条を定め、法華経の行者の日蓮を伊豆に流した。

天皇21才のとき、北条時宗は執権。蒙古のフビライ（義経の孫）は、日本に親書を送る。時宗は使者をきり殺し、大廟と諸社に国難を告ぐ。亀山天皇は皇祖に祈願。

天皇26才の正月26日、9才の第2皇子（ゴウダ天皇）に譲位、亀山上皇として国難にあたられた。

カンヤマト第92代ゴウダ天皇

後宇多天皇は3月26日即位、10月3万人のモンゴル兵（モーコ）は、九州博多へ上陸、元と朝鮮兵4万人で来襲、暴風などで退散した。6年後の弘安4年、再び16万人で来襲、博多湾で大損害をうけ敗退した。元の防衛費のため幕府の財政は破れ国民全体はひへいした。

ゴウダ天皇が22才になられると、鎌倉幕府（北条氏）は、神国天皇親子の人気が高いのを恐れ、『承久の乱』の処分の不公平を理由に、8月、天皇と関白とを共に交代させ、ゴウダ天皇の2つ上の従兄フシミ天皇（持明院派）を即位させた。

ゴウダは法皇になり、大覚寺に住まれ、大覚寺殿といわれた。

日本の南北朝のキザシである。

「元」源義経とマルコポーロ

源頼朝が奥羽平定は西暦1189年、義経は30才前後で、北海から渡満、モンゴル太祖ジンギスカンの義経は、1206年47才で元国即位。^{ゲン}モーコ軍はインドに進んだ。その部下はロシアから、小アジアに進軍、ボルガ河畔の首都サライ建設。元の世祖フビライ1260年即位。

日本に国書を送ったのは1267年。モンゴル国を1271年元と改め、シナ支配の時マルコポーロは東方に旅行、ジェノアで捕えられたことが、東方見聞録にある。軍事は強いが政治経済に弱く、ユダヤに外モーコへ追出された。

東と西の全域支配は、皇祖皇太神宮に莫大な黄金を献じた、義経の発想ならでは、と考えられる。

カンヤマト第93代フシミ天皇

伏見天皇（後深草天皇第1皇子）24才は、足利ユダヤ系が立てた持明院系である。ゴウダ天皇は大覚寺系で、両派を争そわせ、南北朝はこのときはじまる。フシミ即位2年に、ゴウダ上皇第2皇子ゴダイゴ

(亀山天皇孫)天皇が生れた。

フシミ天皇は、34才のとき第1皇子12才に譲位、後伏見天皇に即位させ、伏見上皇になられた。

このとき亀山上皇の御孫、ゴウダ上皇の2皇子は、14才の後二条天皇と、12才のゴダイゴ天皇。

カンヤマト第94代ゴフシミ天皇

後伏見天皇は、12才の10月13日に即位、伏見上皇が摂政、院政をおこなう。トキムネサヂトキ足利時宗の子、貞時も徳政をおこなう。第91代亀山上皇は、ゴフシミ天皇15才の正月21日譲位させ、御孫ゴウダ上皇第1皇子17才を、3月24日、後二条天皇に即位させたまう。

カンヤマト第95代ゴニジョー天皇

後二条天皇は、亀山上皇の孫、ゴウダ上皇の皇子、17才で即位。一向宗を抑え、通行を禁じた。

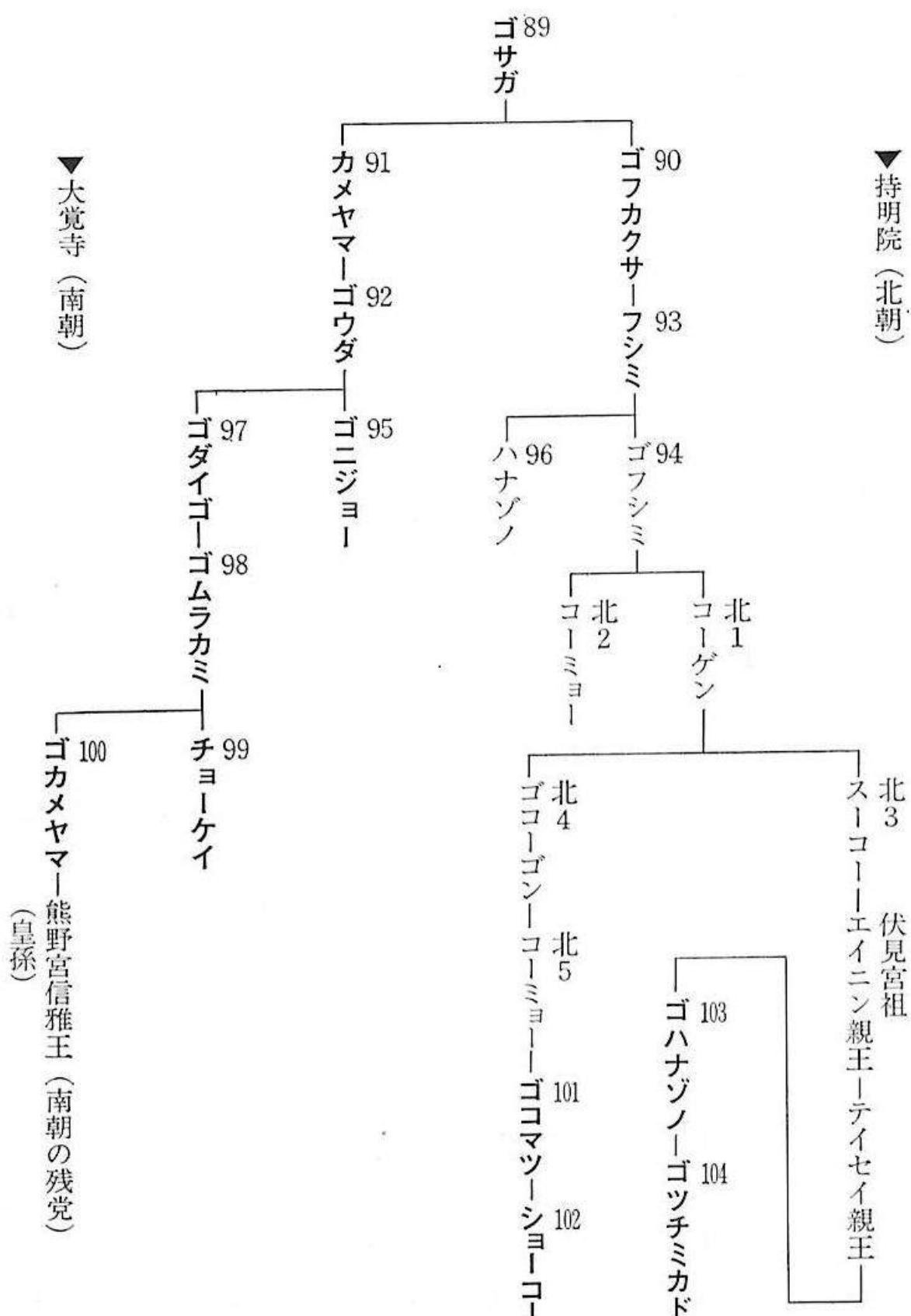
即位5年9月15日、大覺寺殿の亀山上皇(後二条と後醍醐の祖父)は、57才でカミサリたまう。

即位9年8月25日、天皇は24才でカミサリ、持明院派の後伏見天皇13才で践祚。

カンヤマト第96代ハナツノ天皇

花園天皇(伏見天皇第2皇子)は、後伏見上皇の弟で13才の11月16日に即位。翌年3月、九州太宰府は、『元』の襲来を伝えた。シューライエン延暦寺の僧兵は、日吉神社の御輿を奉じ、7月に入京した。東大寺僧兵は暴行をしづめた。即位9年7月、北条高時が執権となる。このころ金沢文庫ができた。

〔南北朝の皇統譜〕



即位10年9月3日、フシミ上皇53才でカミサリ、翌年2月26日、花園天皇（持明院派）は26才で譲位、花園上皇となり、3月に第95代後二条天皇（大覺寺派）の御弟、尊治親王が皇太子となり、ただちに第97代ゴダイゴ天皇に即位され、建武中興の聖主と仰がれたまう。

カンヤマト第97代ゴダイゴ天皇

後醍醐天皇（ゴウダ天皇第2皇子尊治親王）は、31才の3月29日に即位、12月に關白の道平は一条内經に代る。北条高時は、ゴダイゴの父ゴウダ法皇（55才）を摂政とし、鎌倉幕府記録書を設け、大津（滋賀県）と葛葉（大阪）のほかは、各地の関を全部やめさせた。

高時は、ゴウダ父子の「院宣」の使者を、鎌倉や関東に出させ、天皇を見下し、暴逆をきわめた。

北畠親房は、神国日本のため、武家政治をにくむ。名だけの摂政ゴウダ法皇は58才の6月カミサル。このときゴダイゴ天皇は37才。

花園上皇は禅の『碧巖録』学修。44才の天皇は笠置山に行幸、北条幕府の横暴を地方の豪族に知らせた。

高時は、朝廷を2分し光嚴院を北朝（京都）とし、南朝の笠置山に高時軍が殺到、笠置御所は9月に落城。楠正成は赤坂城（大阪府）を築き、北条勢をひきうけ善戦した。10月に赤坂は落城、正成は千早に築城。翌年3月5日、天皇45才は隠岐島へ流されたまう。

翌年の閏2月、天皇は伯耆（鳥取県に帰られ、公卿山伏の児島高徳がお迎えした。

楠木正成は、千早城に護良親王を迎える、吉野に布陣した。

義兵は各地に起り、鎌倉に新田義貞軍は侵入、北条高時は死す。

6月に天皇（46才）は京都に帰られ、光嚴院をしりぞけ、護良親王を征夷大將軍とし、年末に建武と改元、「建武の中興」成る。

正月に京都御所を造営、2月に乾坤通宝という最初の紙幣を発行、藤原公家たちは経済を独占、武士の間に不満が起る。

足利高氏は、公家と内通、天皇と武士と庶民を手なづけ、外国と貿易して、経済で政権をねらう。

これを見ぬく護良親王を恐れ、11月に東北へ流す。翌年2月、北条時行は、鎌倉を攻め護良親王を殺す。尊氏は征夷大將軍となり、今後の状勢を見ぬき、九州へ逃れ、地方の武士団を集め、大挙して攻め上る。楠正成は湊川で戦死。

建武3年（1336）正月、天皇（48才）は坂本城（滋賀県）に行幸された。

ゴダイゴ天皇は、皇女良子内親王と、竹内惟真（富山皇祖皇太神宮第33代神主）と、結婚させるため、坂本から富山へ行幸された。

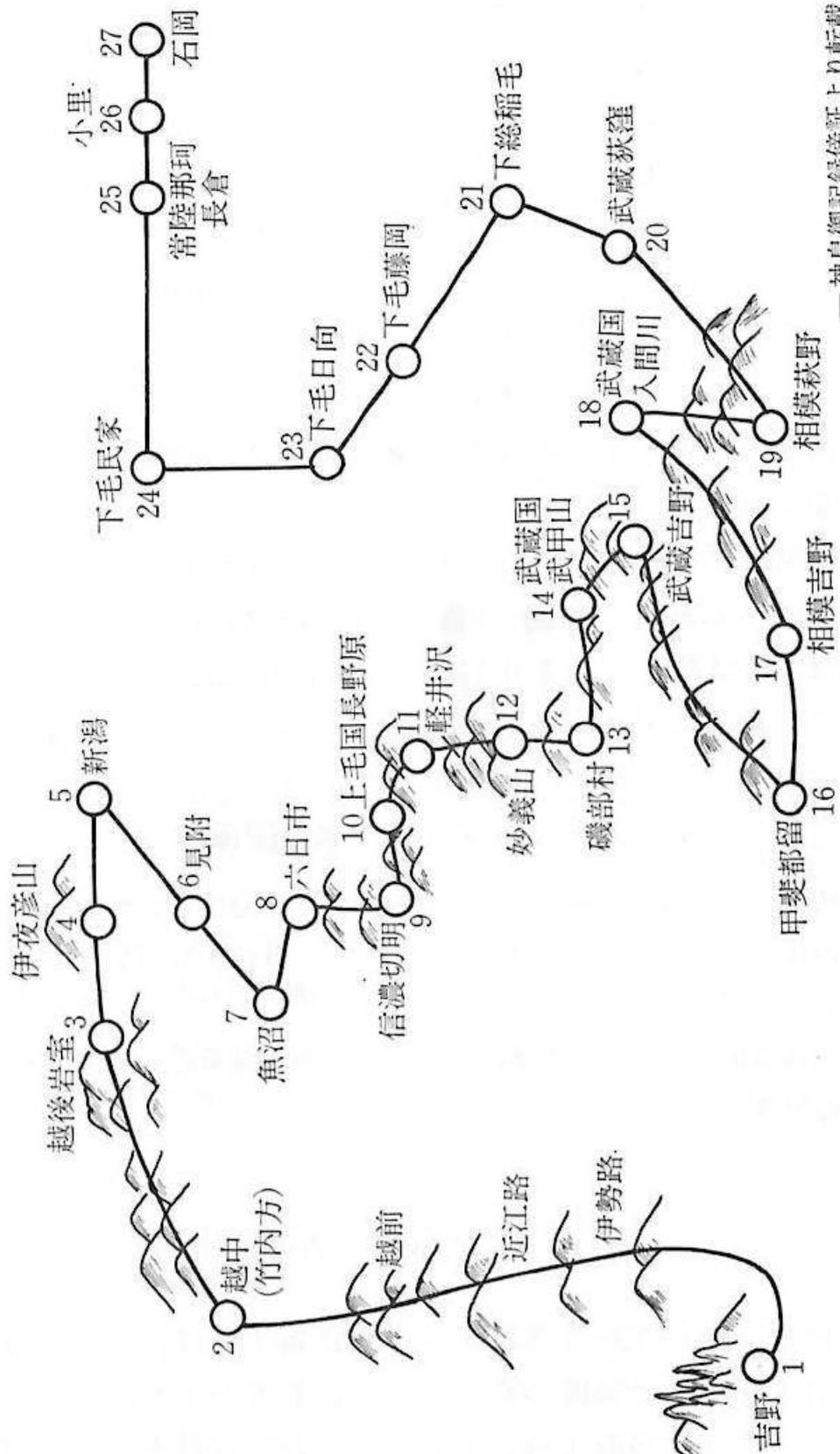
足利尊氏は、天皇旅行中の京都に入り、（北朝）光明院（ゴフシミ天皇第2皇子）を天皇に立て、同年11月鎌倉幕府式の「建武式目17条」を作り、足利の室町幕府を開き、人心をたくみにつかんだ。

ゴダイゴ天皇は12月に吉野に遷都され、南北朝は対立した。

建武4年3月、越前金崎は落城。恵良親王・尊良親王・新田義顕も戦死。北畠顕家は10才の義長親王を奉じて、鎌倉へ攻め入り、翌年正月伊勢に入り、3月大阪アベノで敗戦。6月天皇は懐良親王に九州を委す勅を出し、12才の義長親王（後村上天皇）に譲位後、52才で天皇カミサル形とし8月16日、富山の神主竹内惟真（娘ムコ）と父惟光の出迎えで、真夜中の午前2時、御箱の中に吉野をひそかに出御、伊勢・近江・加賀を通り11月10日夜富山の皇女夫婦宅に行幸。

翌年8月まで竹内家で休養されたが、家臣の桃井直常が足利方に内通した。天皇は東北で再起を計り、8月17日午前4時、惟光宅を越後へ出立、前後20里の間を竹内一族321名が護る。新潟は敵軍で引返し、見付で上杉憲顕に打たれ18名戦死、惟光は敵将を殺し天皇を背におい、落ちゆく。9月6日魚沼六日町、上野国軽井沢・妙義山で冬ごもり、1月14日山賊がおそう。武藏の武甲山で2月13日高師直軍と戦う。3月相模国で武田信玄軍と応戦、下野国・常陸国など17回も悪戦苦斗。

後醍醐天皇御足跡図



—神皇御記録傍証より転載—

8月8日天皇ご発病、生残った137名は勿来の皇祖太神宮に大祈願。天皇54才の9月6日（1341）竹内惟光・惟真へ御製『流れくる常陸の國に居定めし、王洗良日の國、帰り隠魂都こそ』を賜わる。

9月11日に足利方の手縄大塚、白庭寺主、僧の深須入道ほか6人が大将となり、42人のために天皇と、友人は大難にあう。9月12日、天皇は御辞世を惟光・惟真へ、『われ隠魂ゆ くとむ靈実ば 帝技に無く 帝の倍榮 万づ代守りぞ』と御製、16日カミサリたまう嗚呼。

竹内惟定は、惟光父子の命で、須須入道ほか悪僧9人を、切り殺し、天皇におともして自害した。

竹内家一行は、天皇を奉じて東北へ行き、再起のユメも消え、ご遺骸を常陸大北川南の高間山『天皇塚』（北茨城市足洗）に葬り、一同は別々に全国に落ち、悪戦苦斗。御陵の塚の寺院は無院。惨状は目もあてられず、自害の惟定のほか討死の184名の靈を、9月16日に3カ年祭礼、毎年3月1日2日を祭日と定め、ゴダイゴ太神宮と摂社に「明神の神靈」として秘蔵。

天皇家と竹内家の関係

竹内神主第34代宗義は、ゴダイゴ皇女と、第33代の間に生れた。

内親王の竹内家に降嫁は、竹内宿弥が、景行天皇の皇女を妻に迎えて以来、二度目の慶事である。

『神皇御記録』の傍証本に、『良子内親王御骨壺』と『同御遺物』の口絵写真が掲載される。

カンヤマト第98代ゴムラカミ天皇

後村上天皇（ゴダイゴ第11皇子の義良親王）は、12才に吉野で即位「神皇正統記」で神国の皇道を考え、北朝と争う気はない。16才に寛成皇子（後の長慶天皇）生誕。父ゴダイゴ御陵を吉野に祭らる。足利幕府は、堺港の天竜寺船で、元と貿易、収益をあげ、天竜寺に10

寺院を造り、禪の五山文学が生れた。

南朝方は、物量すくなく、楠正行は吉野から出撃、四条畷で戦死、
高師直は吉野行宮を焼き、天皇は賀名生に逃れたまう。北朝方の花園法皇は11月11日53才でカミサリ、崇光院に代ると、足利尊氏は、南朝方の大小数百社寺院を全部焼いた。

歴史の古語拾遺・古事記などの数百個所をけずり、「神代巻口訣」をつくり、史実をいがめた。

ゴムラカミ天皇は、41才の3月11日カミサリ、寛成義長親王は、26才に長慶天皇として践祚された。その12月、11才の足利義満を、3代将軍といった。(1368年) 南朝は元中元年に改元、北朝は応安元年に改元した。

南朝の血涙の遺書と地図

足利氏のために、ゴダイゴ天皇と長慶天皇は、無残なご最後。

竹内家に残る古文書を見て、断腸の思い。昭和17年8月16日、小島ミツエ氏は、「神皇御記録」として謄写印刷を苦労して作った。

竹内文献は、アヒル字の太古記録を漢字に訳したもので、スメラミコト(天皇)スミオヤ(皇祖)スミラミコト・タマシイノタマヤ(皇太神宮)オド(男)ミド(女)など、1700年前のコトバを、漢字で表現はムズカシイ。

南朝の記録は、僅か600年前深い万感ヒシヒシと胸を打つ。

竹内真鳥は神字を唐字に正書の時、漢字の返り読み(上り下り)をやめるため、カナ併用で書いたと記す。

カンヤマト第99代チョーケイ天皇

長慶天皇(後村上天皇第1皇子寛成親王)は、26才に吉野で即位。改元され南朝の元中元年とす。(1368) 僧の賢中は『古事記』に手を入れ、現在国定の真福寺本を作る。

南朝の元中7年(1374) 北朝の後光厳院35才カミサル。元中8年10

月29日夜、長慶天皇はお供2名と富山の竹内惟真宅へ行幸、翌年3月7日まで、竹内家がかくまう。供2名と元中9年8月13日河内国交野郡私市、師師窟山寺に行幸、僧持元と面会、天皇とお供10人を寺でかくまう。持元の心は変り足利方の畠山基国に知らせ、10月15日天皇34才で無残に力ミサル。お供の竹内惟真73才、信治61才は、つぎの間で自害。竹内宗義は僧に大黄金2枚を出す。僧は喜び天皇名を秘め、「寺の主上僧 覚理の名」で火葬、宗義は父惟真（母は良子内親王）と伯父信治（惟信）を火葬とし、寺の乾（北西）の塚に天皇御骨を葬り、松榦を植え近くに父と伯父の骨を埋めた。閏1月21日夜、宗義は、父の頭毛と歯を身につけ、ひそかに22日夜半、持元ほか6人の悪僧を切り殺し、峯々を通り逃亡。11月13日富山の惟尚方に帰りつく。皇祖皇太神宮の神主竹内家は、ゴダイゴ天皇と、後村上天皇の皇子、寛成親王（長慶天皇）をかくまつた罪で、足利氏にことのほか憎まれた。

全国の足利尊氏方に命じ、南朝方のものを根こそぎ無残に焼きすて、その話をした人さえ、大ぜいきり殺した。まことに無念殘念。

神主の竹内家は没落、宝物を大瓶に入れ、地中に埋め、子孫代々にわたって死守することを定め、今後、天皇ご親政の時、ご覧に入れるため、再興することを固く誓った。

昭和の裁判で真相を抹殺

ゴダイゴ天皇血涙史は、氏名も全部詳細記入、竹筒や如来像内に秘蔵保管。昭和初年の極秘裁判に『神皇御記録傍証』（小島ミツエ編）として2巻を提出した。裁判では長慶天皇を認め、御代数に加えながら苦難の真相を抹殺した。ゴダイゴ天皇の吉野崩御はウソ。（天皇御足跡図参照）

カンヤマト第100代ゴカメヤマ天皇

後亀山天皇（後村上天皇第2皇子）は、長慶天皇の4才下の皇弟で、30才のとき吉野で兄天皇の悲報をきき、践祚され即位。

足利義満は、高氏をゴダイゴ天皇の命名といい、尊氏と改め北朝を立てた。「三種の神器」はなく正統とイバレナイ。義満は神器の入手のため、南北朝合体を提案、「南朝は上皇になり、北朝にまず譲位、皇位は南と北は次々交代を条件」とウソをつき、ゴダイゴ天皇ボダイのため天竜寺を建立、和合を示した。

北朝の後小松院は、京都東山の南禪寺を五山の上におき、鎌倉五山の順を定めた。禪宗は漢字の読める貴族宗教で、庶民は縁ナシ。

義満35才（1392年）の10月、後亀山天皇は、代りの神器を北朝のゴコマツ帝に伝えられ譲位。上皇になり和合、本物の神器は、富山皇祖皇太神宮などに秘藏した。

北朝も南朝もみな正統

兄弟仲のよい天武・天智を、不和にしたのは、ユダヤ系大謀略。

南北朝に分け争斗させたのも、帰化人系の遠大な策略。シナを春秋・戦国に導き、互いに争斗させ、歴史を書きかえ真相を秘めた。

カンヤマト第101代ゴコマツ天皇

後小松天皇（北朝第5代後円融院第1親王）の即位がすむと、足利義満は、約束した皇位の南北交替制をやめ、昭和まで北朝天皇。

義満は、京都室町幕府と金閣寺などを建て、ぜいたくに暮し、9才の義持を4代將軍職とした。彼は太政大臣となり51才で死んだ。4年後、後小松天皇は8月27日、13才の称光天皇に譲位。

南朝のゴカメヤマ天皇の皇太子小倉宮実仁親王は、名だけの皇太子

とした。ゴカメヤマ上皇は、次の天皇は約束どおり、小倉宮実仁親王ときめでおられた。

カンヤマト第102代ショウコー天皇

称光天皇（後小松天皇第1皇子）は、13才の8月29日践祚された。ゴカメヤマ上皇は、約束がちがうと、4代義持將軍にねじこんだが、はねつけられた。伊勢の北畠氏も違約を責め、兵を挙げたが、結局やぶれた。ゴカメヤマ上皇は、悲憤のうちに、足利5代義量のとき、78才でカミサル。

称光天皇も28才の7月28日にカミサリ、10才の後花園天皇が践祚。藤原公家の二条持基クニモトが摂政した。

反対派南朝方の北畠満雄は、同年8月反旗をあげたが、12月に敗戦して死んだ。ゴカメヤマ天皇の皇太子、小倉宮実仁親王は、北朝に渡った。神器を取り返し、吉野川上村で南朝6代中興の天皇に即位されたが、64才でカミサル。

応仁の乱は南北朝の延長戦

吉野の南朝第6代天皇として、中興をされた小倉宮実仁親王のあと、南朝9代の熊野宮信雅王は、神器を持つ立場から、南朝再興の義軍を起された。これを山名宗全がもりたて、大和国越智氏の領、壺坂から京都西陣に向い、応仁の乱がはじまる。

カンヤマト第103代ゴハナゾノ天皇

後花園天皇は、第94代後伏見天皇（持明院派）5世孫第1王子で、10才の7月20日に即位、藤原の公家が摂政した。

足利幕府は6代義教、7代義勝、8代義政と代った。南朝方の残党は全国各地で反乱、足利北朝幕府の莊園を荒し、財力を弱めた。

守護職は將軍に代って地頭の土地や収入を保証し武士を養成した。農民や人民は一揆を起し、「武士を国から追出せ」とあばれた。後花園天皇は7月16日46才で譲位。同月19日に後土御門天皇26才で践祚。

カンヤマト第104代ゴツチミカド天皇

後土御門天皇（後花園天皇第1王子）は、践祚されたが、足利8代義政は、南朝との戦争に備えて、即位費の名目で五山の僧に費用を出させ、12月27日に天皇即位。

細川氏は足利尊氏に身方して、三河・讃岐・阿波のほか、河内・和泉など要地を管領、室町時代の武将として細川勝元が最も優勢。

山名氏も室町幕府の要職だが、建武中興の新田義貞の血族で、義貞が越前で敗死後、一族は多く南朝方として活躍、山名宗全は、南朝再興をきき、吉野に身方した。

足利9代義尚は、細川勝元を表に立て、山名氏の部下を降し、南朝の義軍と奈良で戦端をひらく。

北陸道の一一向宗は百姓たちの一揆を起し、真宗の蓮如上人は庶民の信仰をあつめ、大衆を動員して、貴族仏教が占領した神社をおそった。寺院の僧兵は、公家が造ったが、武士よりも強くなり、集団で暴れて手がつけられない。

守護職の大名は、將軍や重臣の勢力争いに加わり、山名宗全は西軍の南朝方を指揮し、細川勝元は足利北朝方で東方に布陣した。

文明2年(1470)3月、吉野朝の遺臣は小倉宮実仁親王を奉じ、南朝再興の義軍を起し西軍に加わり、30万人は東西に分れて戦う。

12月27日ゴハナゾノ法皇は、室町第で52才にカミサル。北陸の蓮如上人は、吉崎御坊で真宗をひきいた。文明3年ゴツチミカド天皇は、山林を竹内家に下賜された。

文明5年3月、山名宗全は子の政豊にゆずり70才で死す。5月に

東軍の細川勝元44才も死す。京都はすでに焼野原となり、文明6年（1474）正月、東西とも平和をのぞみ、4月山名政豊と細川改元は和す。南朝の熊野信雅王は、ただ1人となり、奥州の沢邑（福島県双葉郡浪江町）に山伏姿で下られ、10年余り南朝の王位をつぐうち、長享元年（1787年）12月15日、近くの相馬盛胤に攻められ、熊と沢の名をとり、熊沢現覚坊と改め、南朝の神宝を葛尾村観福寺に秘蔵、家中36人が守って愛知県一宮市に逃れ、源宗山延命寺を創建された。

加賀の坊主は神社をつぶす

長享2年（1488）年5月、加賀一向宗は能登・越中の神社荒しに乗出し、天台・真言・曹洞・浄土・真宗の坊主七千余の賊は、皇祖皇太神宮ほか各神社を荒し、赤池の魚を取ることも禁止、神宮神主家は大没落した。その12年後の明応2年（1500年）の正月17日に、賊頭「黒瀬覺道」は、越中・加賀・能登など、国内の寺の坊主1600人を集め、竹内家第36代正五位上の竹内義信93才を殺した。

京都の門徒は守護職の家を焼き、物をうばいあう百鬼夜行の地獄図絵、中心のない長期戦争で、弱肉強食の世の中、ゴツチミカド天皇、は59才の9月28日カミサリ10月25日ゴカシワラ天皇37才で践祚。

応仁・文明の乱は132年間つづく

応仁の乱は1467～1478年の11年間だが、徳川幕府の1599年まで、戦国時代はつづいていた。政治は経済を食いつぶして圧迫、人心は悪化し、宗教家は浄土をねがう心を利用した。これは日本の戦国時代だけではない。地球上の古い文明国は、西欧に起った狩猟民の世界征服のため、インド・シナ・朝鮮を亡ぼし、日本でトドメをさした。

アメリカのインカや、アフリカもみな同じ運命をたどった。その原因是、天災による大洪水のほか人災である。近代人のこころは、文明国の人々のほうが、退化したともいえよう。それは人祖の恩愛を忘れ、祖先を無視

した結果でないか。

葛尾村觀福寺の秘蔵品（南朝御物）は、明治36～7年に齊藤慈教が盗み、大正9年竹内巨麿氏に秘売というが、南朝の一部の遺品でなかろうか。すくなくとも、巨麿氏は大部分の神宝は、富山から車に3台分に満載して持帰られた。

カンヤマト第105代ゴカシハラ天皇

後柏原天皇（ゴツチミカド天皇第1皇子）は、37才で践祚されたが、戦争で即位できず、翌年3月幕府に、即位費を勅語で求む。幕府は即位料を諸国に課す。11代將軍義高は義澄と改名、9月に祇園祭を、応仁乱後はじめて行なう。

足利12代義晴の4月7日、天皇63才でカミサル。ゴナラ天皇践祚。

カンヤマト第106代ゴナラ天皇

後奈良天皇（ゴカシワバラ天皇第1皇子）は、31才の4月29日に践祚。乱戦はつづき、本願寺は加賀を支配、みんな強い者勝だが、加賀の門徒は貧乏人が協力、金沢の御堂を建て大衆の勢い増大。

九州の大名はキリシタンを信仰。天皇は62才の9月5日カミサリ、同月27日に正親町天皇は、42才で践祚。

カンヤマト第107代オオギマチ天皇

正親町天皇（ゴナラ天皇第1皇子）の即位費を足利氏は出せず。大友義鎮に即位費を献上させた。翌年5月、武田信玄と上杉謙信とは川中島で戦う。9月に木下藤吉郎は織田信長に仕えた。

即位4年、桶狭間で信長は今川義元を斬る。即位17年（1573）武田信玄死す。信長は、足利15代義昭の二条城を攻め、義昭は河内若

江に逃れ、足利氏は事実上亡んだ。

即位22年3月、上杉謙信死す。4年後の6月、明智光秀は本能寺
ノブナガ ヤマザキ
で信長（49才）を殺し、秀吉は山崎で合戦、光秀殺さる。

即位30年11月7日、天皇69才で讓位、同月25日、後陽成天皇16才
で即位。

サンカ出の日吉丸豊臣秀吉は神国天皇を尊ぶ

水のみ百姓出の秀吉は、日本神国・万世一系だと知る。初めは政治経済で、宣教師を迎える、大阪に教会も建築させたが、キリスト教の信者は、神仏をやめ、天主教の外国崇拜に立腹。宣教師を追出し、貿易は許し、ヤソ教を禁止した。秀吉は、スペインが宣教師を送り、天主教で住民を手なずけ、軍隊で征服することを、他派の宣教師から聞いた。

菅原道真・平将門の心は、万民の信仰心にしみこみ、豊臣秀吉の天皇尊重は、明治維新につながる。

カシヤマト第108代ゴヨーゼイ天皇

後陽成天皇（正親町天皇第1皇子）は、16才で即位。

豊臣秀吉は、農民の出で、生れつき勤皇の志あつく、キリシタンを禁じ、気宇大きく九州島津を攻め、熊本入城。

聚楽第に上皇（70才）と天皇（18才）をご招待、4年後にもご招待した。翌年正月正親町上皇75才にカミサル。秀吉は朝鮮まで出兵。

天皇28才の8月、秀吉63才で死んだ。2年後の慶長3年（1598）
7月、家康は江戸城に入り、石田三成・小西行長らと関ヶ原で合戦、
10月、西軍は破れ、東軍は石田・小西らを斬殺、天下分け目の戦い
は慶長5年（1600）おわった。

慶長7年、加賀の前田利家は、富山の神主、竹内重綱を白州（法廷）に引出し、皇祖皇太神宮の宝物を出せと強要、文献に「きびしく調べ、残念至極」と記録している。

前田利次は、越中富山の城主となり、竹内家の地行全部を没収したが、竹内家は神宝をあくまで守った。

豊臣秀頼は方広寺大仏を改造。

慶長8年2月、ゴヨーゼイ天皇（33才）は、家康を征夷大将軍に補し、4月、豊臣秀頼を内大臣任命。7月、家康は、孫娘を秀頼の嫁とした。

ゴヨーゼイ天皇は、41才の慶長16年3月27日譲位。4月12日ゴミズオ天皇16才で即位。

後水尾天皇（1596～1680）は、後陽成天皇の皇子で、母は中和門院前子（近衛前久の娘）。

この時代は幕府と藩体制の確立期で、公家諸法度の制定など、天皇制への徳川幕府の圧迫激しく、秀忠の娘（中宮和子）の生んだ明正・後光明・後西・靈元の4代にわたって院政。剃髪して円淨といわれた。

ヤマト第109代ゴミズオ天皇

後水尾天皇（ゴヨーゼイ天皇第3皇子）は、16才の4月12日即位、家康70才、2代秀忠33才だった。この年8月幕府はキリスト教を、はじめて禁じた。

翌年、秀頼の再建した方広寺は、3月に完成。2年後の4月、大仏殿の鐘ができた。家康は、鐘の銘で因縁をつけ、大阪城を攻めた。11月に大阪冬の陣となり、12月に和議とだまし、外堀を埋め、翌年5月、大阪夏の陣となり、木村重成（21才）・真田幸村（46才）戦死、豊臣氏は亡んだ。家康は孫の千姫を本多氏に再婚させ、まもなく堺市にて74才に死去、徳川幕府は、これを秘めて江戸へ送った。そして翌年3月、家康を正式に太政大臣に任じ、4月に死を発表、東照宮にまつった。

天皇27才の6月、徳川秀忠（45）は京都に参内、娘和子を女御に

入内させた。^{イエミツ}7月家光（21才）は徳川3代将軍に任命された。

天皇29才に徳川和子は中宮に昇格皇女を生む。

天皇33才の寛永6年（1629）10月江戸大奥の春日局は、京都に参内して天皇を品定めして、11月8日讓位させた。

関白の兼選を摂政と定め、7才の明正女皇（母は徳川秀忠の娘）を即位させた。徳川幕府は権力で、天皇を代え、しかも裏面では、心からしたがう形式をとった。

貴族権力者は天皇を利用

漢字で唐藤原・橘・平・源などで日本占領、万世一系は守ったが、天皇は半セイ者で、カイライの女皇や、幼帝を多く即位させた。

御用学者は、政府の命ずるままに、優れた天皇を逆に暴君とし、幼帝をあがめ、これを漢字で表現。

歴史の真相を知り、皇祖の天職天皇の歴代を見なおし、世界無比の天皇をいたいた日本に、真底から感謝の涙でザンゲをしたい。

日本人の心には、5万年以来の伝承が、骨のズイまで残り、同じ日本人でも、昭和生れと明治生れとでは、天皇を崇拜する心は根本からちがう。今上天皇は、みづから一夫一妻の範を示され。皇祖天皇と同格の真人、聖天子におわします。

カンヤマト第110代メイショウ女皇

明正女皇（ゴミズオ天皇第1皇女の東福門院）の母は徳川和子で、^{カネトキ}わずか7才で即位。藤原公家の摂政。

寛永12年11月12日、富山城主の前田は、皇太神宮の鳥居前で、^{ジョー}^{コーキンシ}^{コーサツ}乗行禁止の高札を無視、鳥居前で落馬して立腹、高札をぬきすて「仏教以外の他教信者の罪科を行う」の高札を立てた。竹内家は3度目に大瓶に入れて埋め、「宝物は全部、長享2年、享禄2年に失った」と、他人には極秘として堅く護った。メイショウ女皇は、20才の10月

3日に譲位、同月21日、後光明天皇は11才で即位。この月、僧の天海カイは108才で死んだ。

カンヤマト第111代ゴコーミヨー天皇

後光明天皇（ゴミズオ天皇第4皇子）は、徳川3代家光と、公家がきめ、11才で即位。11年後の天皇22才の9月20日、カミサリ、11月28日、19才のゴサイ天皇即位。

カンヤマト第112代ゴサイ天皇

後西天皇（ゴミズオ天皇第7皇子）は、19才の11月28日に践祚、12月に關所の制を定め、正月にコドモの紙ダコ遊びを禁止。

天皇の即位式は21才の正月23日。関東に盜賊出没、明暦3年（1657）1月18日、江戸大火で災死者10万8千人、2月徳川光圀は「大日本史」編集に着手。

オランダと通商の令を定め、長崎に探題タンダイ（警察官）を置く。
シナの僧、インゲン隱元ヤマジロウは、山城宇治に黄檗山万福寺オーバクサンマンブクを建てる、一切経をつくり、21年後に完成。

ゴサイ天皇は、寛文3年（1663）正月26日28才で譲位。4月27日レイゲン天皇即位。このとき徳川將軍は4代家綱だった。

カンヤマト第113代レイゲン天皇

靈元天皇は、先皇譲位の正月26日、9才で践祚、4月27日即位。家綱は、武家法度ブケハフト（法律）で殉死を禁じた。それまで主人が死ぬと、家臣は殉死した。徳川光圀は、朱子学のために、道祖神の男根や女陰など3000を、淫祠として太古の多数の遺品をつぶした。

日本暦学者の安井春海は、冬至と夏至を観測、シナ暦よりも正し

いコヨミを作った。

ヤマザキ シイカ シンドー

山崎アンサイは垂加神道を唱え、隱元禪師は一切經をまとめた。

インゲンゼンジ

イチジョー

靈元天皇は33才で讓位、12才のヒガシヤマ天皇が即位。関白の一条
フユヅホ 冬経が摂政した。

カンヤマト第114代ヒガシヤマ天皇

東山天皇（レイゲン天皇第1皇子）は、5代綱吉のとき、12才の3
月21日に禪で受戒、4月28日即位。11月に130年間やめていた大嘗
サイ 祭を復活した。シナの商館を長崎に造る。唐人屋敷といった。

東山天皇21才に、メイショーフクニ 女皇（上皇）74才でカミサリ、天皇25才
に徳川光圀73才で死す。翌年3月、浅野長矩は殿中で吉良を傷け、
アサノ ナガノリ デンチュー キラ
オーアイシヨシ オ キラヨシナカ
切腹を命じられた。翌元禄15年2月、大石良雄は吉良義央を殺す。
アライ ハクセキ
新井白石の活躍時代。

宝永6年（1709）正月、64才で徳川5代綱吉死す。天皇は同年6
月21日讓位。10才のナカミカド天皇即位、東山上皇は同年12月17日、
ホウソウのため、35才で、にわかにカミサリたまう。

カンヤマト第115代ナカミカド天皇

中御門天皇（東山天皇第5皇子）は、10才で即位。同年新井白石
セイヨー キブン
アライ ハクセキ
はヤシ教を調べ『西洋紀聞』を著わす。さらに「采覽異言」を著わ
オーオク ロージョ エシマ
ヤナギサワ
し、密貿易を禁じ、大奥の老女絵島を流す。同年11月、老中の柳沢
ヨシヤス
ヤスイシユンカイ
吉保は死んだ。暦学者の安井春海は77才で死す。

江戸の護持院観音堂を、護国寺と改む。8代將軍吉宗のとき、す
なわち天皇33才の8月6日、靈元法皇は79才でカミサリ。3年後の享
レインボーオー
ジユゼン
保20年（1735）3月21日、桜町天皇は7才で受禅、11月3日に即位、
ナカミカド天皇と交代。

カンヤマト第116代サクラマチ天皇

桜町天皇（中御門第1皇子）は、7才の11月3日即位、天皇9才の4月、ナカミカド上皇は37才でカミサル。将軍は徳川8代の吉宗。

桜町天皇15才（1740）の11月、280年間やめていた新嘗祭を復活した。天皇22才の5月2日譲位。関白の藤原道香が摂政、9月21日、7才のモモソノ天皇即位。

カンヤマト第117代モモソノ天皇

桃園天皇（桜町天皇第1皇子）は、7才の9月21日即位、10才のとき、桜町上皇は31才でカミサル。将軍は徳川9代の家重。

天皇16才の宝暦6年（1756）2月27日富山の前田氏は、竹内家に秘蔵の神宝の提出を強請、竹内基重107才は、申し開きに自害。その後、竹内家の代替りには、必ず白州にひきだし、代々伝承の宝物を出せと迫った。竹内基重の子の重清は、基次と改めたが、子の又三郎もろとも、前田のため害され、自害した。つよい執念の追及だった。

竹内義康は、国守や坊主に、再三『皇太神宮』と竹内の宝物を出せとせめられ、家の大没落を残念のあまり自害。先祖代々の墓地は大洪水で流され、池となり、竹内家も移り、墓地も移る。5度目の宝物を大瓶に入れ、墓地の内に大秘蔵して、かくし通した。

天皇は、宝暦12年（1762）7月12日、22才でカミサリ、一つ上の姉智子内親王は同月27日、23才で践祚、後桜町女皇になられた。女皇の『後桜町天皇御製』を見ると、文才にめぐまれ、まことに英明な資質がうかがわれる。

カンヤマト第118代ゴサクラマチ女皇

後桜町女皇（桜町天皇の皇女）は、23才の7月27日践祚、関白の近衛内前が摂政。
コノエウチマエ

翌年3月、全国の銅山を調べ、4月、韓国の使節を、接待する費用として、金9万7千両を、宗義暢^{ソーリョウ}に下賜、6月、諸大名の正妻を、江戸に迎えさせた。8月、朝鮮・広東の人参を、勝手に売るのを禁じた。同年11月27日、女皇は24才で即位。

この年、平賀源内は水準器を造る。検校や座頭の高利貸を禁ず。
ヒデヒトシノ一
カモノマブチ

女皇29才のとき、英仁親王を皇太子とした。翌年、賀茂真淵73才と、青木昆陽72才は死んだ。
アオキコンヨー

女皇32才の正月、京都の仙洞御所が完成。亡き弟の桃園天皇皇太子が、13才に成人され、4月28日後桃園天皇として即位。女皇は仙洞御所で文筆に親しまれた。

カンヤマト第119代ゴモモゾノ天皇

後桃園天皇（桃園天皇の皇太子）は、13才の4月28日即位。杉田玄白^{スギタゲンハウ}は、「人身内景図」フワケ図を日本文に訳した。

翌年8月、摂政の近衛内前（近衛家23代）を関白に任じた。
カシインノミヤ

後桃園天皇は、22才の10月29日カミサリ、東山天皇の皇孫、閑院宮典仁親王の第6王子、兼仁王が9才の11月25日践祚。
カネヒト

カンヤマト第120代コーラク天皇

光格天皇（東山天皇の皇孫閑院宮の第6王子）は、10才で即位、
ナオミ
関白の尚実（九条家25代）が摂政。

天皇16才に徳川10代家治50才で死亡。11代家斉^{イエナリ}の代となり、3月に鷹司輔平が関白職。
タカツカラサスケヒラ

天皇18才の正月、京都の大火灾で皇居延焼、天明8年（1788）3月
に内裏の造営を、老中松平定信に命じた。

天皇19才の正月、父君の閑院宮典仁親王に対し尊号を議し、老中の反対で実現せず。

天皇20才の11月、皇居ができ、還幸された。25才の11月、高橋作左エ門は幕府の天文方になり、鷹司政熙が閑白職。

天皇28才に伊勢松坂の本居宣長は、「古事記伝」を完成。35才に徳川11代家斉は、杉田玄白を見た。光格天皇は儒学を好まれ、有職故実にくわしく、皇國は神國の大信念で次の和歌をよまれた。

「神さまの国に生れて神さまの道がいやなら外国へ行け」

天皇43才の閏11月3日、後桜町女皇は、仙洞御所で74才でカミサル。

天皇46才の文化14年（1817）3月22日、仁孝天皇（15才）は受禅、4月に杉田玄白は死す。9月21日、ニンコー天皇即位。

天皇の追尊号

皇位につかれない親王で、カミサリ後、天皇の尊号を賜ったのは、第39代天智の第3皇子施基親王を春日宮天皇と追尊号された。第51代桓武の弟早良親王を崇道天皇。『追尊天皇』は、5親王あり。

明治天皇は、光格天皇の思いをかなえられ、父君を『慶光天皇』と追尊号された。

カンヤマト第121代ニンコー天皇

仁孝天皇（光格天皇第4皇子）は、文化14年（1817）3月22日15才で受禅、9月21日即位。イギリス船は浦賀に来た。

天皇17才の正月、水戸家8代斉脩（9代斉昭の兄）は、大日本史紀伝」45冊を献す。

この年、平田篤胤は「神字日文伝」を著作、伴友信は反論、兩人は絶交した。

天皇20才の文政5年（1822）4月、イギリス船は再び浦賀に入港、文政6年8月ドイツ人シーポルトは長崎に来た。文政7年10月、光格上皇（53才）^{ガクシユーアイン}は学習院に行幸。天皇30才の天保3年（1832）5月、水戸光圀に従二位を追贈。9月に頬山陽死す。^{トミツグニ ジューニイ ライサンゴー オージオハイハチロー}

天皇35才の天保8年2月、大阪で大塙平八郎（46才）が反乱、3月に自刃した。徳川11代家斉は、12代家慶に代る。6月にアメリカ船モリソン号は浦賀に入港、8月にはサツマにきた。

天皇42才の天保14年（1843）9月平田篤胤68才で死んだ。^{ヒラタ クアツカホ}

天皇45才の弘化3年正月26日カミサル。2月13日に16才の孝明天皇践祚。5月にフランス船は、琉球にきて交易を求めた。閏5月にアメリカ船は浦賀にきて交易を求む。6月デンマーク船が浦賀に来た。

カンヤマト第122代コウメイ天皇

孝明天皇は16才の弘化3年（1846）2月13日践祚。^{サクマシヨーダン}4月5日アメリカ船が琉球に来航、天皇18才の嘉永元年佐久間象山は、洋式の野砲を造る。外国船は北海道・陸奥・浦賀・対島・五島・近海に出没。

老中・三奉行は海防のため大砲を造らせ、各地に砲台を築かせた。

天皇22才の嘉永5年（1852）9月22日、明治天皇ご生誕。

嘉永6年（1853）4月、アメリカ軍使ペリー琉球に来る。この年加賀藩は錢屋五兵衛をハリッケとし財産没収。同年6月アメリカ艦隊4隻とペリーが浦賀に来航、翌年再来、ハリスと神奈川条約結ぶ。幕府は吉田松陰・佐久間象山を捕え、安政大獄がはじまり志士多数を殺した。万延元年（1860）3月水戸とサツマ浪士は、大老の井伊直弼を、江戸桜田門外で刺殺。^{カガ}
^{イイナオスケ}

水戸藩主の齊昭第7子の慶喜は、一橋家をつぎ（1847）、尊皇攘夷派に立つうち、安政大獄で隠居謹慎になった。井伊大老の死で幕政改革の將軍後見役となり、公武合体・藩権維持のため、孝明天皇の妹和宮を、徳川14代家茂の夫人に要請した。文久元年（1861）

10月、和宮は江戸に下りたまう。11月江戸城に入り、翌年2月11日嫁入る。この年、明治天皇11才、孝明天皇32才。

サツマの島津久光は3月京都へ出発、久光は4月23日伏見の寺田屋で有馬新七らをうたせた(寺田屋の変)。岩倉具視ら和宮降嫁の関係者を処罰、三条実美ら公卿7人は長州に落つ。天忠組の大和義挙。

天皇34才の元治元年7月、佐久間象山(54才)が殺さる。8月に長州征伐の布令。

天皇35才の慶応元年(1865)正月、高杉晋作の再挙、3月、幕府は長州再征を決定、西郷吉之助らは反対を主張。5月、将軍家茂は京都御所で九州進発を奏上。

7月、ロシヤはカラフトに築城、9月にイギリス・アメリカ・フランスの軍艦は、兵庫に来て神戸開港を強要、水戸藩主斎昭第7子慶喜は、開港条約の勅許を奏請した。

天皇36才の慶応2年正月、長州の木戸孝允とサツマ(西郷ら)の薩長同盟なる。

9月、勝安芳(安房守)と長州休戦の談判、11月、徳川昭武をフランスに派遣、福沢諭吉をアメリカに派遣。

12月、徳川14代家茂は、デンマークとの和親条約を許されて結んだが幕府の通商条約は許したまわす。

孝明天皇は12月25日、35才で毒殺されたまう。

第123代明治天皇は、16才の正月9日に践祚。

討幕開港論が大勢を決した。

8、明治維新・祭政復古

2000年間、狩獵民ドレイの日本万民を、救う使命の明治天皇は、皇祖皇宗の一君万民、祭政一致に復古のため、あらゆる改革を断行された。記・紀と万葉で太古を消し、帰化人の源平・藤橘が、神国の万民を、支配した時代は終った。

雄略下賜の史書で、天武は「帝紀」を御製。太安磨はそのスキガキの古事記を作り、1400年間だました。

天平アスカは、神道を仏教にかえた暴逆サガの天下。天智の皇孫光仁天皇の御子、桓武天皇は京都遷都、サガ天皇は大反撃。平安朝の諸天皇は再び公家に支配され、足利北朝に神器はなく、南朝と合併させた。

神国日本は、学者の菅原道真から平将門などに、心で伝えた。

明治天皇は全国民のため、神武の昔にもどすため、『五箇条の御誓文』を宣明され、新らしい政治の大方針を、5カ条で示された。

- (1) 広く會議を興し、万機公論に決すべし。
- (2) 上下心を一にして、盛んに経綸をおこなうべし。
- (3) 官・武一途庶民に至るまで、おののその志をとげ、人心をして倦まざらしめん事を要す。
- (4) 旧来の陋習を破り、天地の公道に基づくべし。
- (5) 知識を世界に求め、大いに皇基を振起すべし。

カンヤマト第123代メイジ天皇

明治天皇（孝明天皇第2皇子）は、慶応3年（1867）16才の正月9日践祚。関白二条斉敬が摂政した。

2月徳川15代慶喜は、大坂（大阪）で、イギリス・フランス・オランダの3公使と会見、6月、サツマ・長州・土佐の3藩は、王政復古を

協議。討幕の密勅を出し、大阪遷都を内定した。時勢を察した徳川慶喜は、300年の將軍職と公家の摂政をやめ、京都の二条城で天皇に大政を奉還して大阪へ下る。

サツマと長州とを握手させたため、長崎のユダヤ商人グラバーは、金と船を坂本竜馬^{サカモトリヨウマ}に与え、西郷隆盛^{サイゴクカモリ}・勝安房^{カツアワ}などに、薩長土の三国を連合させた。坂本竜馬(33才)は、中岡慎太郎とともに勤皇の商家(京都河原町四条上ル)の2階で、11月刺客に殺された。

慶応3年(1867)12月9日、ついに王政復古の大号令発布。ここに近代日本の夜が明けた。

12月、兵庫を開港、大阪を開市した。三条実美・毛利敬親らは、薩長土の協力体制でゆるされた。ここに政治は、薩長土でかたまる。

江戸の旧徳川方は、長州サツマ土佐の、江戸藩邸を焼打ちした。

明治元年(1868)正月、慶喜は大阪城に入り、鳥羽伏見の戦いで敗れ、港から船で東走。徳川征討の大号令。

2月、東征の榎仁親王^{カエドコーアイン}は出発、3月、静岡へ入城。徳川幕府亡ぶ。木戸孝允^{タケヒト}は、『五箇条の御誓文』建言。

天皇は、神武の肇國をならい、皇祖に『五カ条』を誓文され、大阪へ行幸遷都。町民は私財をささげた。4月、慶喜の死罪をゆるし征討軍は江戸に入城。太政官職を改め、府県制とし、4月10日『内外新報』という新聞を創刊。5月に大阪府と江戸府を設け、江戸を東京と改め、新聞で国民に報道事業を始めた。

9月、東京へ行幸、慶応4年を、明治と改元、一世一元と制定。

天皇は17才で皇后を京都で立てられた。

明治4年、東京・大阪間の郵便ができる。

明治5年、国立銀行設置。ドレイの奉公人解放。

太陽暦採用で明治5年12月3日は、6年の元旦となる。

明治7年、台湾征討。8年、万民に苗字の「氏」を与えて万民を平等とする。このころは、西洋のあくなき東洋侵略がつづいた。

明治9年6月、天皇奥羽巡行。水夫を水兵とよび、国民皆兵制。

熊本に神風連のサワギがあった。

明治10年（1877）西郷隆盛は征韓を主張、鹿児島の学徒は、政府の兵器弾薬庫をおそい、2月、西南の役ヒイナンエキを起し、熊本城を攻めた。官軍はこれを守った。9月、官軍は鹿児島に突入、西郷隆盛らは自殺。11月、北海道のアイヌを、土人と名づけた。

明治12年、ハリツケ刑をやめ、人権尊重。^{サンジョーナネットミ} 8月31日、大正天皇ご誕生。^{イワクタトモミ} 太政大臣は三条実美、右大臣は岩倉具視、左大臣は島津久光。^{シマヅヒサミツ}

16年、条約改正のため鹿鳴館を開設した。18年4月清国と天津条約を結ぶ。第1次伊藤内閣成立。22年、憲法を発布、議員選挙。

23年、第1回帝国議会。10月30日『教育勅語』発布。全国民は大御心に感激した。

大津市でロシア皇太子をおそう事件起る。韓国では西洋反対派の「東学党」があばれた。韓帝はシナに助けを求め、清国は条約に反し、韓国に陸海軍出兵。日本はやむなく、シナ海軍と交戦。

27年（1894）8月、日清戦争ニッシンが起り、皇軍は連戦連勝、5カ月で大勢きまり、28年4月17日、和議が成立。

シナは遼東半島をゆずり、2億両（約3億円）の賠償金を払う。

ロシアは、ドイツとフランスの三国で、遼東半島を返せと迫る。

日本は涙をのみ、列強にしたがう。ロシアは、清国にかわり韓国と、遼東半島に出兵、日英は同盟。

38年（1905）2月6日、日露戦争開始、連戦連勝、1年7カ月で終戦。日本は、日清・日露の両戦役とも全く防衛戦だった。

明治の新政で日本は近代化。韓国問題に始まり、日韓併合に終る。

明治45年（1912）7月30日、明治天皇は61才でカミサル。

第124代大正天皇は34才で即日践祚、御大葬の日、乃木大将夫妻は自刃して、天皇にお供。

明治天皇ご夫妻を、伏見桃山御陵にあつく葬り、乃木神社も造られた。

明治天皇の皇后は、左大臣一条家の美子姫で、昭憲皇太后と申上げ、貞徳高く国民はみな、うやまいあおいだ。

神武カタカナ神字復活 (カナクラシーの起り)

明治天皇の御製『ヨキをとり アシキをすべて トツクニに おとらぬくこと なすヨシもがな』

天皇は万民の文盲をなくし、国民全部を平等教育、全国に小学校をつくり、神武カタカナで教え、世界にまけぬ教育に全力をあげたもうた。

漢字で2000年間占領のため、漢字廃止は困難。前島密は、漢字を廃止の建白書を出し、明治2年、集議院に建議。明治4年「ひらがな」新聞を発刊、

明治6年福沢諭吉は『文字の教え』で、漢字制限を呼び、国字改良論が続出した。

長い間の試行をへて、大正9年(1920)ついにカナモジカイが生れ、昭和のコンピュータ時代をむかえた。

学問は歴史と聖語

2000年史は学問のヒトコマ、漢字書き史書は、ただ征服史にすぎない。宗教はアヘンだが、大乗仏教を哲学として学ばせ、道徳へみちびくこと。道徳哲学と歴史こそ真の学問、教育勅語はカナ文章に書き改め、内容を体得させて、ぜひ実行しなければならない。

マクロの歴史を教え、宗教の大本を知り、各宗の聖語を教え『経・史』2学を学修を、実践させたい。

今の学問は、根本からあやまり、聖職者を一般労働者に落した。

教養は、生涯教育で身につけよう。大学は20才以下で卒業できるよう、学問の正味をカナでやさしく説くこと。

16才までに高等課程を終え、大学は、働きながら、自ら学ぶ習慣をつけ、教師を聖職にもどすこと。

カンヤマト第124代タイショー天皇

大正天皇（明治天皇第3皇子）は、明治45年（1912）7月30日34才で践祚、大正と改元。31日に朝見式をあげられた。

大正3年4月、昭憲皇太后カミサリ、大正4年11月、京都で即位大礼式。翌年、皇太子（第1皇子裕仁親王）を立てる大礼。

大正8年5月、両陛下は靖国神社に参拝。皇太子殿下ご成年式。

飛行協会は東京・大阪の航空郵便を試む。第1次ヨーロッパ大戦。

大正9年1月、世界平和を克服の大詔。3月にサガレンと尼港で日本人が殺され、5月24日までに700人がロシア兵に殺された。

6月、皇軍は尼港とハバロフスク占領。

ヨーロッパ（世界）大戦はドイツ敗戦でおわる。

大正10年（1921）ヒロヒト皇太子殿下ヨーロッパご訪問。

12年9月1日関東大震災。

大正13年、皇太子ご成婚式。

14年、大正天皇25周年の銀婚式を全国で奉祝。

大正15年12月25日、天皇は48才でカミサリ、26才の皇太子が践祚。昭和と改元。28日、朝見式をあげらる。

大正9年カナモジカイ創立

大正は明治につづく激動と、世界大戦にウズまく時代だった。

平安と鎌倉のころ、漢字の害を叫んだ人は、みな抑えられた。新井白石と賀茂真淵は、漢字不要論を説いた。明治初年前島密は、葉書を『はがき』と書いた先覚者。大正9年（1920）山下芳太郎は「ヨコガキ・カタカナ」に命をかけ、カナモジカイを創立、会員は2万人に達した。カナモジカイは国語改良につとめ、大正12年に最初のカナタイプを売出した。

カンヤマト第125代今上ヒロヒト天皇

今上天皇（大正天皇第1皇子）は、明治天皇の再来といわれ、乃木大将は学習院長としてご指導にあたった。皇太子のときから摂政の宮、26才で即位。激動の世界をみそなわす。

昭和11年（1936）2・26事件。12年、蘆溝橋の北支事変からシナ事変に発展、軍は独断専行、13年、国家総動員。

昭和15年の神武紀元2600年祭は国民服で祝う。

16年12月8日、太平洋戦となり20年8月15日、終戦の大詔くだる。

マッカーサー元帥は、大東亜に広めたカナ日本語を恐れ、文部省をおどし、カナをやめさせ、ひらがなとローマ字を強要した。カナの同志は、カナタイプと、カナ事務器で文書能率をあげ、カナを大人のモジとした。

昭和25年（1950）6月朝鮮の南北戦争。昭和26年3月マ元帥は、中国本土攻撃のかまえで、解任された。9月8日、対日平和条約を49カ国で調印。ソ連ほか3国だけ、まだ調印はない。

28年7月、朝鮮は、休戦協定を、板門店で結んだ。

30年、神武景気となり、32年下期から33年秋まで、鍋底景気。

39年下期から1年間岩戸景気。44年5月イザナギ景気。

45年（1970）に日本万国博開催。

皇祖皇太神宮の竹内義宮管長は『神代の万国史』を出版。これを見ならう秘録の古文献は、続々出現。各種、未発表の古文書や、神代モジの記録は、全国的に公開され、真相を発表する。

47年3月、アスカ高松塚の極彩色壁画を発見、これによって朝鮮・シナ・西域までの研究が必要となった。文書の自由化、国際情報化時代で、世界のナゾは急速にとけはじめた。

テレビの広まりで、地球は全く同一の家族になり、新世界は、21世紀（今から22年後）にひらける。

（オワリ）

カナクラシー時代

ニッポンのコトバとモジのかず書きは、世界最高能率をあげる神宝。

和歌・俳句など、31字や17字数で、深い内容をあらわす。日本の電文は僅か10字、カナのテレックスは、字数は世界一短く、ハッキリと発音。技術は益々向上、ムダ・ムリ・ムラはなくなり、世界の人々はみんな、ニコニコ顔でくらす。

カナで教育すると、20才までに全国民は、働きながら大学卒業、教養学科は生涯教育で全部達成。

地名は番号制、オートメ生産で、みんな安居樂業、太古のように、祖先に感謝のオマツリを楽しみ、健康で150才まで長生きをする。
アンキヨラクギロー
セツオンヒヨー

名前はカナで登録すれば、ムダはなく、役人の半減はうけあい。

カナは、やさしいから、欧米人にローマ字のA I U E O、K S T N H M Y R Wと、Nのンと、ニゴリ音の切音表を、小カードに印刷して、見せると、みんなスグ読み、発音する。全く世界無比のモジ。

字画は『ノフヘ』1画、または2~3画で、4画は『ホ・ネ』の2字しかない。ひらがなは『わ・ね』『め・ぬ』のように、まちがいやすく、おぼえにくい。

カナとローマ字は、上半分の形で読めるが、横書のカナは、語形が漢字と同じく、4~5字は一目でわかる。

カナタイプは、話をそのまま速記でき、50年の研究で実用は万全、カナは真文明の神器とわかる。すでにカナタイプは百万台が活躍、テレックスも数千台動く。カナを使えばヤサシイへコトバができ、字体も美しくキレイになる。

カナ発音は正確カンタン

- 1、母音はアイウエオの5音で、子音も特異なものはない。
- 2、1音・1字で、X・Wなどの長音なく、ハッキリ短い音節。^{エックス ダブリュ}
- 3、発音は科学的で類似音もない。
- 4、性（オス・メス）の区別もない。
- 5、単数・複数の別もない。
- 6、冠詞のAやザ（The）も不要、めんどうな文法もない。
- 7、1人称～3人称・形容詞・動詞などの制限もない。

こんなに便利で、すぐれてやさしい日本語を、皇祖が作りたもうた。

漢字をヤメルことで、真正ヒノ・モト世界一の文化にモドル。

詳しいことは、わたしの命のつづく限りつたえて死にたい。

世界平和のみち

宗教の大元は、日本生れとわかり、祖神はみなヒトツになった。教典を学校で教え、教祖を偉人として、その言行録を学ばせよう。政党は愛国団体に生れ変り、争いは消え、世界平和は実現する。教育は実学をカナで教え、20才までに全部大学を卒業、教養学科は生涯教育で、死ぬまで勉強。各大学課程を各高等学校で教え、国民の教養は万民平等、学歴は同じ。

今の大学を研究所とし、その研究成果は、テレビで知らせ、カナでヤサシク説くようになるであろう。

政府や役所は、コンピュータで能率化、国民の一生の暮らしを考え、この世を極楽世界にかえる。

カンナガラ科学と皇道

科学（コトワリ）は真理をとき、宗教は絶対界の信仰でサトル。

サトリは、宇宙にとけこむ状態で、生きていながら死を体験する。正しい信仰の絶対界は、神も人もゼロの宇宙、カンナガラの世界。

ナンム・アミン、正坐と拍手

万物の本体は「色即是空」の空無（ゼロ）の世界。「汝（ナ）産む（ン）無し（ム）」。「吾（ア）が身（ミ）産む（ン）」。ナンム・アミン、汝はゼロ、吾は大宇宙の本体。

天神第1代の神名を唱え、空無（禪）で、拍手のシウン間こそ、自他不二の現在。拍手の前は過去。未来は輝く天地。

神の拝礼で、心は洗われ、清々しい宇宙に住める。
スガスガ

神の本体は、無限に変らぬ絶対界。宇宙万物は、永遠に流転。皇祖は、易の真理を體悟、道徳実践の神職を天皇とし、子孫万民を、代々みちびく皇統を定めたまう。

すなわち、眞にチエを明らかにする方法が、皇道であるといえよう。

漢字は学問全体に百害

理科・スウガク・レキシ・チリ、すべての学科に、大害を及ぼす漢字は、単なる『国語』の問題ではない。漢字は大和のト、和泉のイ、和歌山のワなど、ヨミ方の多い悪魔モジ。

漢字を国字と信じた人に、漢字をヤメヨと叫び、子孫を熱愛した愛国者はみな、けとばされた。

むつかしい内容を、話しこトバで、わかりやすく説明すれば、大学の知識は、小学校6年生でもわかる。

神武カナタイプで、世界の心は交流し、すごく神國は輝きわたる。

常用語はカナでわかる。漢字のヨミカタは、趣味として生涯教育。

漢字は外国語として研究すればよい。カナの万葉集・論語・ツレヅレ草など、カナの読物はすでに出版すみ。

カナの点字は世界一優秀

盲人には漢字不要、常用語でテガミもデンワも自由自在。欧文の点字は、漢字と同様の略号が多く、カナはローマ字より、能率抜群。

盲人は、カナタイプで、目アキより早く良く、ラクニ学習できる。
すべてはカナ（神字）のおかげ。目アキのほうが教育に苦労する。なん
という皮肉か!!

共産中国では、漢字をカナ式に簡略化の、表音文字の試作に着手と
きく。1字に4声の発音をもつ中国語は、至難のワザだがコンピュータ時代の
今、漢字の表音文字化は、至上の命令である。日本のカナコトバと神字は、
皇祖にさずかったタカラモノ。やがて漢字のかわりにカナが、日本モジの主
人公となるであろう。

能率立国こそ日本の本命

資源は5万年間に取りつくし国土の2%に6300万人も住む日本、オーストラリアやカナダは、1平方mに人口は2人、日本は同面積に約7700人、所により5万人。日本は、1言語・1民族・1億人、世界無比のカナと
数字、電算機政治で世界に奉仕し、地球を極楽に導く神国。

奥ぶかい竹内文献の真実性

竹内文献は、宗教法人『皇祖皇太神宮』竹内義宮管長の謹編『神代の万国史』（昭和45年10月発行）と、『神代の神代の話』『デハ話ソウ』で、全体の内容がわかる。

昭和6年から秘密裁判15年間、強い断圧で発禁処分が多い、だが
竹内関係の出版は今だにつづく。

その中の主なものは、

- 「太古日本史」岩田太中著（昭6）
- 「大日本神皇記」木村錦洲著（昭9）
- 「皇道と興亜の規矩」吉田兼吉著（昭14）
- 「神皇御記録」2巻 小島光枝著（昭17）
- 「万国棟梁天皇御系図1巻」（弁護士用）写本印刷・児玉天民（昭30）
- 「大日本神代皇統記」—神代秘史の写本—2巻 尾上丁之助（昭35）
- 「神靈正典」矢野祐太郎著（昭39）

「世界の正史」山根キク著（昭39）等

書けばきりがない。上の「神皇御記録」の傍証は、南朝と竹内家の詳細記録を図示。小島光枝女史は、竹内家の神宝を伊勢神宮に奉還を考え、昭和24年前後に伊勢の高官たちと交渉、竹内文献に命をかけた。（吾郷氏の報告）

竹内文献を世に出したのは、竹内66代巨麿翁だが、そのほか前田常蔵・高畠康寿・酒井將軍・鳥谷幡山・岩田大中・矢野祐太郎・田多井四郎治・安江仙弘・木村錦州・神田孝一・山根キク・竹島一郎・井上仁・高安啓治・森佐平

などの諸氏は、死ぬまで大努力された。今でも多くの方々は、必死に努力をつづける。

この竹内文献歴史のほかに、モーゼ・キリスト来日記録には、「モーゼの裏十戒」酒井將軍著（昭26）

「キリストは日本で死んでいる」（新刊）山根キク著（昭50）

「日本のキリスト伝説」武内祐著（昭51）等がある。

このほか、「歴史誌本」や週刊誌・雑誌など、古代研究書は山積、歴史ブームとなつた。

ウエツフミは、歌・天文・建築冶金など、あらゆる資料が揃い、古代エンサイクロペディアである。

竹内文献は、古代和字の豊庫だが、歴史篇に限られている。

本著の編集会議（高岡市伏木一宮・医学ランド温泉『健康大学』）にて、義宮管長より『竹内文献』の歴史篇は、竹内家秘蔵の瓶7個に、それぞれ7つの銅管（長さ1尺2寸）に納めてあった。

残念ながら、竹内巨麿の神宮神祠不敬罪『天津教事件』証拠物として戦前に押収され（約4,000点）、前記銅管6個は空襲で焼失という話があった。

竹内文献の発表が早すぎ、官憲が強引に押収した。言論は自由に

なり、不敬罪もなくなった今日、『物部古文書』は、未だに発表されない。竹内文献も天皇にお返しするまで、全面発表はされない。

それにしても本書の古代モジは50余種あり、研究家によると、少くとも180種あるという。

近ごろの学者は、表面しか知らず、竹内巨麿翁を狂人のようにおもう。わたしも古代（誇大）妄想狂といわれる。

上古第1代の神名「ヒサカタノ アマノマバシラ ミトルツナ マクアイマシツ オメノフタカミ」

五七五七七の和歌をみても、5万年も前から七五調を用い、世界一に短い字数の俳句・川柳などが民間にも流行発達した。

カナこそ古雅・神秘・幽玄・神韻のコトダマ歌。（マエガキの解説参照）

刑事被告人竹内巨麿の名義の、『上告趣意書』を見るに、雄大で莊重な田多井四郎治氏の論陣で、大審院の三宅正太郎裁判長は、証拠不充分として、巨麿翁を無罪と論告した。

ところが長い間、被告として扱かだったので、役人でも無罪を知らず、いつまでも断圧をつづけた。

竹内文献は、神眼で科学的に調べ、探究すればするほど、世界の最高の聖書とわかる。

昭和17年9月、前記小島女史は、『傍証』の現地・古蹟「御遺物の調査請願書」を呈出した。その活版印刷2頁を、吾郷氏は所蔵。

竹内家 67代の系図

天越根中国 日見日高見 赤池上神明 万国祖根棟梁 皇祖皇太神宮 別祖
大神宮 神主 紀竹内家系図

孝元天皇

彦太忍信命（大神宮神皇主紀竹内之祖）

屋主雄心命（神皇主）

武雄心命（神皇主）

武内宿禰大臣 神主 武内詔賜つ改竹内と改め第1代。

2代、竹内紀 平群木菟宿禰（神主）

3代、紀竹内 真鳥宿禰（〃）古文献を漢字訳。

4代、紀竹内 茲寢臣（〃）

5代、紀竹内 真昨臣（〃）

6代、紀竹内 小足臣（〃）

7代、紀竹内 塩手臣（〃）

8代、紀竹内 大口臣（〃）

9代、紀竹内 大人臣（〃）

10代、紀竹内 園益臣（〃）

11代、紀竹内 諸人臣（〃）

12代、紀竹内 麻呂臣（〃）武藏国に神明分宮を祭る。

13代、紀竹内 右磨臣（〃）

14代、紀竹内 真磨臣（〃）竹内家分家姓をつくる。

15代、紀竹内 大磨臣（〃）

16代、紀竹内 赤池久江磨臣（神主・国守）

17代、紀竹内 大伴部 赤池仲磨（神主・国守）

神宝を土地に埋めて秘藏。

18代、紀竹内 越中守是忠（国守・神主）

19代、紀竹内 越中守清悦（国守・神主）

- 20代、紀竹内 神明三郎高明（国守・神主）
- 21代、紀竹内 越中介清信（国守・神主）
- 22代、紀竹内 神明越中磨（国守・神主）
- 23代、紀竹内 神明隆磨（国守・神主）
- 24代、紀竹内 越中守経家（神主）源の姓を賜わる。清和源氏始祖。
- 25代、紀竹内 経姫
紀竹内 義信} （神主）
- 26代、紀竹内 赤池神明 三郎隆信（神主）
- 27代、紀竹内 赤池三郎 兵衛尉越中守覺義（神主）
- 28代、紀竹内 神明三郎越中守惟信（神主・国守）
- 29代、紀竹内 惟忠（神主）
- 30代、紀竹内 相模守惟基（国守・神主・相模国守）
主従数名、ゴダイゴ天皇にお伴し自害す。
- 31代、紀氏竹内 越中守基義（国守・神主）
- 32代、紀氏竹内 越中守惟光（神主）
- 33代、紀氏竹内 越中守惟真（神主・良子内親王御降下）
長慶天皇にお伴し自害す。
- 34代、紀氏竹内 越中守宗義（神主・国守）
主従、天皇にお伴し自害。母は後醍醐天皇女良子内親王。
- 35代、紀氏竹内 越中守政則改惟義（神主）
- 36代、紀氏竹内 三郎越中守義信（〃）自害す。
- 37代、紀氏竹内 三郎衛門越中守義豊（〃）自害す。
- 38代、紀氏竹内 越中守勝秀（〃）
- 39代、紀氏竹内 越中守頼信（〃）
- 40代、紀氏竹内 越中守信季（〃）
- 41代、紀氏竹内 越中守光頼（〃）
- 42代、紀氏竹内 宮川三郎右衛門頼光（〃）
- 43代、紀氏竹内 三郎兵衛頼基（〃）
- 44代、紀氏竹内 三郎左衛門直義（〃）

45代、紀氏竹内	三郎兵衛惟久（〃）
46代、紀氏竹内	赤池三郎右衛門安光（〃）
47代、紀氏竹内	赤池神明三郎衛門尉重光（〃）
48代、紀氏竹内	赤池三郎左衛門尉重綱（〃）
49代、紀氏竹内	赤池三郎右衛門尉 重清（〃）
50代、紀氏竹内	宮川三郎兵衛尉 重保（〃）
51代、紀氏竹内	赤池三郎兵衛尉 重義（〃）
52代、紀氏赤池	神明三郎康重（〃）
53代、紀氏竹内	宮川郷三郎左衛門尉 安光（〃）
54代、紀氏竹内	三郎兵衛尉左衛門義家（〃）
55代、紀氏竹内	宮川赤池三郎右衛門尉 基重（〃）
	神宝を守り自害す。
56代、紀氏竹内	神明三郎重清改基次（〃） 神宝を守り自害す。
57代、紀氏竹内	宮川郷三郎兵衛重安改義重（〃）
58代、紀氏竹内	宮川右衛門尉 義長（〃）
59代、紀氏竹内	赤池三郎兵衛尉 義康（〃）
60代、紀氏竹内	宮川三郎右衛門尉 義則（〃）
61代、紀氏竹内	三郎左衛門尉 義高（〃）
62代、紀氏竹内	三郎兵衛尉 右衛門 惟利（〃）
63代、紀氏竹内	赤池神明三郎兵衛尉 惟重（〃）
64代、紀氏竹内	三郎兵衛尉 右衛門惟光（〃）
65代、紀氏竹内	赤池三郎 庄蔵義利（〃）
66代、紀氏竹内	赤池神明 巖太郎重鸞改巨磨（〃）
	初名照弘丸改紀氏経基改巨磨日月輪五全命
67代、竹内義宮（現管長）	

人祖・皇統の年代しらべ

(大まかに年数を推察、あくまで仮定にすぎない。)

大宇宙の創生 無限の年数	天神第1代 〃 2代	天地はヒトツのタマゴ形の大宇宙 天と地と分れる	
200万年前	〃 3代	人祖誕生(文献には、上古4代より) (224万3216年とある。)	各代の推定年数
50万 〃	〃 4代	火を発明(ヒノモト)	
20万 〃	〃 5代	1音のコトバで話す	
10万 〃	〃 6代	50音の縄文語発達	
5万 〃	〃 7代	人口が激増、海外に進出	天照日神(上古第1代) (1世の父上)
45207 〃	上 古1代	アシカビ朝24世代 (80年平均)	1920年間
43287 〃	〃 2代	ツクリスシ朝33 〃 (80年平均)	2640 〃
40647 〃	〃 3代	ヒノヒミイ朝24 〃 (70年平均)	1680 〃
38967 〃	〃 4代	ミナカヌシ朝21 〃 (80年平均)	1680 〃
37287 〃	〃 5代	ヤクダリ朝22 〃 (70年平均)	1540 〃
35747 〃	〃 6代	アメクダリ朝22 〃 (〃)	1540 〃
34207 〃	〃 7代	アイアワス朝21 〃 (〃)	1470 〃
32737 〃	〃 8代	ヤオタルヒ朝20 〃 (〃)	1400 〃
31337 〃	〃 9代	ヤソヨロズ朝22 〃 (〃)	1440 〃
29897 〃	〃 10代	タカミムスピ朝20 〃 (80年平均)	1600 〃
28297 〃	〃 11代	カミムスピ朝20 〃 (〃)	1600 〃
26697 〃	〃 12代	ウマシカシカビ朝18 〃 (〃)	1440 〃
25257 〃	〃 13代	アメノトコタチ朝19 〃 (〃)	1520 〃
23737 〃	〃 14代	クニノトコタチ朝22 〃 (〃)	1960 〃
21777 〃	〃 15代	トヨクモ朝18 〃 (〃)	1440 〃
20337 〃	〃 16代	ウチヒニ朝16 〃 (〃)	1280 〃
19057 〃	〃 17代	ツスグヒ朝11 〃 (〃)	880 〃
18177 〃	〃 18代	オオトノチ朝10 〃 (〃)	800 〃
17377 〃	〃 19代	オモタル朝15 〃 (〃)	1200 〃
16177 〃	〃 20代	カシコネ朝13 〃 (〃)	1040 〃
15137 〃	〃 21代	イザナギ朝16 〃 (70年平均)	1120 〃

14017 //	// 22代	アマテラス朝11世代 (100年平均)	1100 //
12917 //	// 23代	オシホミ朝 7 // (//)	700 //
12217 //	// 24代	ニニギ朝 5 // (//)	500 //
11717 //	// 25代	ホホデミ朝 8 // (//)	800 //

今年(昭和53年)
1978年の10917年前 26代ウガヤ朝 73世代 (平均113年強) 8277年間
// 2937 // 27代カンヤマト朝125 // (平均21年強) 2637年
(現在まで)



縄文時代の土偶

不合朝の年代しらべ

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	西暦在位年数	参考事項
初代 第1世		80年			BC 8939～8859年	
〃 2〃		30			8859～8829	シナ天能
〃 3〃		70			8829～8759	ジン地能
〃 4〃		80			8759～8679	ジン人能来日
〃 5〃		23			8679～8656	
2 日高日子軽島彦天皇	100才	31	2年	133才	8656～8623	
3 真白玉真輝彦天皇	49	120	1	170	8623～8502	年中行事制定
4 玉噛彦天皇	30	163	1	194	8502～8340	アトランチス水没 (BC 8498)
5 天地明成赤珠彦天皇	38	63	0	101	8340～8277	
6 石鉾歯並執楯天皇	70	85	8	163	8277～8192	
7 クシトヨ媛女皇	40	88	3	131	8192～8104	国力低下
8 ヒカリトホルワラワセ媛女皇	97	16	2	115	8104～8038	
9 千種媛女皇	71	121	3	195	8038～7917	
10 千足媛女皇	50	117	18	185	7917～7802	万国図作成陸地沈む
11 禍斬剣彦天皇	37	143	3	183	7802～7659	
12 イヤヒロトノツクリ天皇	36	95	0	131	7659～7564	インカ文明繁栄
13 豊明國押彦天皇	31	130	0	161	7564～7434	エジプトのカイロ来日
14 火進奇猿媛女皇	27	160	3	190	7434～7274	
15 ウスキネ彦天皇	85	53	0	138	7274～7221	

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	西暦在位年数	参考事項
16 産門真幸天皇	30	116	1	147	7221~7105	イギリス石造天文台
17 表照明天媛女皇	32	96	3	131	7105~7009	ムー大陸水没(BC 7036)
18 依細里媛女皇	97	80	5	182	7009~6929	
19 少名形男彦天皇	81	50	0	131	6929~6879	
20 少名大汝彦天皇	61	100	3	164	6879~6779	
21 饒明立天皇	31	133	17	181	6779~6646	
22 天押開神魂天皇	26	130	5	161	6646~6516	
23 国足天皇 天饒國鏡狹都別 クニタラシ	55	118	0	173	6516~6398	
24 黒浜彦天皇	62	129	2	193	6398~6269	
25 富秋足中置天皇	26	160	1	187	6269~6109	
26 種浙彦天皇	26	102	3	131	6109~6007	
27 建玉天皇 天之海童	50	128	0	178	6007~5879	
28 濁樂之雄天皇	48	130	11	189	5879~5749	
29 神豊実姫天皇	38	147	0	185	5749~5602	
30 円背之男天皇	35	126	2	163	5602~5476	
31 橘姫天皇	73	106	2	181	5476~5370	
32 花撰姫女皇	60	137	0	197	5370~5233	
33 清之宮姫女皇	19	122	3	144	5233~5111	
34 八千尾龟之男天皇	64	119	6	199	5111~4992	
35 花媛女皇	72	103	8	183	4992~4889	
36 若照彦天皇	56	139	1	196	4889~4750	
37 松照彦天皇	63	137	2	202	4750~4613	

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	西暦在位年数	参考事項
38 天津太祝詞子天皇 カミタサイタラシヒコ	74	106	7	187	4613～4507	
39 神足伊足彦天皇 カンタテヒヌヒコ	42	138	3	183	4507～4369	
40 神楯媛女皇 カンタテヒコハタ 神楯広幡 カツワタラヒコ	38	128	5	171	4369～4241	
41 八十足彦天皇 ヨロタタケルオノミナカ	76	105	2	183	4241～4136	エジプト太陽 暦採用 (BC 4236)
42 鶴舞媛女皇 ツルマツヒヌヒコ	67	106	3	176	4136～4030	
43 豊足大御中天皇 オーフクニフキ	57	76	0	133	4030～3954	
44 大炊氣吹天皇 ヲラツアラツイカラス	70	7	111	188	3954～3947	
45 空津争烏天皇 トリコトタルスガオ	46	81	0	127	3947～3866	
46 烏言足清男天皇 オーニワタルヒメ	63	128	0	191	3866～3738	ユダヤ創世年 (BC 3761)
47 大庭足媛女皇 トヨブカンタルワケ	93	103	1	197	3738～3635	
48 豊津神足別天皇 トヨタラシヒコ	72	86	3	161	3635～3549	
49 豊足彦天皇 カンタラシワケ 神足別 タニオシノヒメ	84	80	3	167	3549～3469	
50 国押之姫女皇 クニオシワケカンタラシヒコ	31	135	16	182	3469～3334	
51 国押別神足彦天皇 クニオシワケカンタラシヒコ	89	103	15	201	3334～3231	
52 天津紅之枝玉天皇 アマツタレノニタマ	45	89	4	138	3231～3142	
53 天開明知国東天皇 タカマガハラ 高天原 カカリトホルクニシル	38	146	7	191	3142～2996	
54 輝徹国知天皇 アマツタマカシワヒコ	30	162	9	201	2996～2634	
55 天津玉柏彦天皇 アマツタマカシワヒコ	41	143	7	191	2834～2691	
56 天津成瀬男天皇 アマツナルセモノオ	48	120	1	169	2691～2571	ノア大洪水 (BC 2561)
57 天津照雄之男天皇 アマツフテルオノオ	51	130	2	183	(BC 2561年ノ ア大洪水) 2571～2441	シナ伏羲、神 農來日
58 御中主幸玉天皇 ミナカヌンサキタマ	106	82	3	191	2441～2359	
59 天地明玉主照天皇 アメツチアカリタマヌシテル	27	137	4	168	2359～2222	

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	西暦在位年数	参考事項
60 天照櫛豊姫女皇	21	135	0	156	2222～2087	
61 豊足日明媛女皇	77	106	0	183	2087～1981	
62 天豊足別彦天皇	60	138	3	201	1981～1843	
63 国守高彦天皇	59	130	3	192	1843～1713	シナに篆字 (象形字)を教 える (BC 1836)
64 豊日豊足彦天皇	48	130	1	179	1713～1583	桃太郎伝説
65 勝勝雄之男天皇	56	82	3	141	1583～1501	
66 幸手男天皇	50	137	2	189	1501～1364	
67 春建日媛女皇	60	117	4	181	1364～1247	
68 宗像彦天皇	52	138	4	194	1247～1109	
69 神足別豊穢天皇	23	128	2	153	1109～981	ユダヤ、モー ^一 ゼ来日
70 物部建天皇	58	130	11	199	981～851	インド・シャ ^一 カ来日
71 百日白杵天皇	37	116	0	153	851～735	太陽三体表わ る (BC 813)
72 彦五瀬夢皇	81	35	1	117	735～700	
73 狹野尊天皇	60	40			700～660	

(狭野尊100才以降ヤマト朝となる176才迄76年間神大和朝初代として治政)

カンヤマト朝の年代表

(次代天皇即位マデノ空位
ヲフクム)

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入	西暦
1. 神武 (空位3年)	100才	76年	0年	176才	シナ <small>老子</small> 来日	BC 660～585年 584～582
2. 綏靖	52	33	0	84		581～549
3. 安寧	20	38	0	57	シナ <small>孔子</small> 来日	549～511
4. 懿德 (空位1年)	43	34	0	77	シナ <small>春秋</small> 作ル <small>孔子</small>	510～477 (476)
5. 孝昭	31	83	0	114	シナ 戰国初	475～393
6. 孝安	35	102	0	137	シナ <small>孟子</small> 来日	392～291
7. 孝靈	52	76	0	128	秦ノ始皇来日	290～215
8. 孝元	59	57	0	116	カングンチヨーセンセンリヨー 漢軍朝鮮占領	214～158
9. 開化	55	60	0	115	カンケイテイ チヨーサオ 漢景帝・長沙王	158～98
10. 崇神	51	68	0	119	カングンコーキヨセンリヨー 漢軍皇居占領	97～30
11. 垂仁	40	99	0	139	キリスト来日	BC 29～AD 70
12. 景行	83	60	0	143	タケウチスカネウマ 武内宿弥生ル	AD 71～130
13. 成務 (空位1年)	47	60	0	107		131～190 (191)
14. 仲哀	43	9	0	52		192～200
15. 神功皇后	31	69	0	100	ヒミコを廃止	201～269
16. 応神 (空位3年)	70	41	0	111	カカジンダイサブト 帰化人大殺到	270～310 310～312
17. 仁德	24	87	0	110	カングンヤマトハイテイ 漢軍大和平定	313～399

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入	西暦
18. 履中 リ チュウ	72才	6年	0年	77才		AD 400～405
19. 反正 ハン セイ	54	6	0	60		406～410
(空位1年)						(411)
20. 允恭 イン キヨー	36	42	0	78		412～453
21. 安康 アン ヨー	36	3	0	39	天皇殺サル	453～456
22. 雄略 ユー リヤク	40	23	0	62	カミヨ史秘藏	456～479
23. 清寧 セイ ネイ	37	5	0	42	摄政皇女モ死	480～484
24. 頤宗 ケン ソー	35	3	0	38	雄略墓コワス	485～487
25. 仁賢 エン ケン	39	11	0	50		488～498
26. 武烈 ブ レツ	29	8	0	37	皇統断絶	498～506
27. 繼体 ケイ ダイ	57	25	0	82	15代応神子孫	507～531
28. 安閑 アン カン	66	4	0	70	ハイカキヨーキタ	531～535
29. 宴化 セン ゲイ	69	4	0	73	仏教伝来	535～539
30. 欽明 キン メイ	31	32	0	63	大伴ヲ弱ラス	539～571
31. 敏達 ピ タツ	34	14	0	48	ソガ馬子大臣	572～585
32. 用命 ヨー メイ	67	2	0	69	物部ヲ亡ス	585～587
33. 崇峻 ス ジュン	68	5	0	73	馬子天皇ヲ殺ス	587～592
34. 推古(女) スイコ	39	36	0	75	聖徳死・隋亡ブ	592～628
35. 舒明 ジョ メイ	36	13	0	49	唐太宗ノ天下	629～641
36. 皇極(女) コーギヨク	48	3	20 (10年後重祚)	68	ソガ入鹿殺ス	642～645
37. 孝德 ヨー トク	49	10	0	59	鎌足長男入唐	645～654
38. 斎明(女) サイ メイ	61	7	0	68	皇極女帝ノ重祚	655～661
39. 天智 テン チ	36	10	0	46	大化改新	662～671
40. 弘文 ヨー ブン	24	1	0	25	壬申ノ乱	672

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入	西暦
41. 天武	51才	14年	0年	65才	天智ノ4才兄	AD 673~686
42. 持統(女)	42	10	6	58	天武皇后	687~696
43. 文武	15	11	0	25	元明ノ子	697~707
44. 元明(女)	47	7	7	61	奈良遷都	707~714
45. 元正(女)	35	9	25	69	文武ノ母	715~723
46. 聖武	24	25	8	56	文武ノ子	724~748
47. 孝謙(女)	32	9	12	53	聖武ノ娘	749~757
48. 淳仁	25	7	1	33	舍人ノ子	758~764
49. 称徳(女)	48	5	0	53	孝謙重祚	764~769
50. 光仁	62	11	1	73	反撃	770~781
51. 桓武	45	25	0	70	平安遷都	781~806
52. 平城	33	3	15	51	藤原反抗	806~809
53. 嵐峨	25	14	18	57	天皇反撃	810~823
54. 淳和	38	10	7	55	新姓氏録	824~833
55. 仁明	24	17	0	41	嵯峨上皇崩御	833~850
56. 文徳	23	9	0	32		850~858
57. 清和	9	18	4	31	藤原摂政	858~876
58. 陽成	10	7	65	82	〃	876~884
59. 光孝	54	4	0	58	〃	884~887
60. 宇多	21	10	34	65	菅原道真	887~897
61. 醍醐	13	33	0	46	ミチ道真流罪	897~930
62. 朱雀	8	16	6	30	マサカド門反抗	930~946
63. 村上	21	21	0	42	(宋)太祖	946~967
64. 冷泉	18	2	42	62		967~969

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入			西暦
65. 門 融	11才	15年	7年	33才	ソー(宋)	タイ太	ヨー宗	AD 969～984
66. 花 山	17	2	22	41				984～986
67. 一 条	7	25	0	32	フジ藤	ワラ原	ミチ道	ナガ長
68. 三 条	36	5	1	42	フジ藤	ワラ原	ゼン全	セイ盛
69. 後一条	9	20	0	29	フジ藤	ワラ原	ヨリ頼	ミチ道
70. 後朱雀	28	9	0	37	キヨー京	ト都	トー盜	ゾク賊
71. 後令泉	21	23	0	44	ミナモト源		ヨシ義	イエ家
72. 後三条	35	4	1/2	39	フジ藤	ワラ原	カン閑	バグ白
73. 白 河	22	14	42	77	シラ白	カワ河	ジョー上	ヨー皇
74. 堀 河	9	20	0	29	ジョー上	ヨー院	イン政	1086～1107
75. 鳥 羽	5	16	33	54	タツラ平		タダ忠	セイ盛
76. 崇 德	5	18	23	46	ト鳥羽	バ	ジョー上	ヨー皇
77. 近 衛	3	14	後白河に重祚	17	タツラ平	キヨ清	モリラ	セイ盛
78. 後白河	30	3	33	66	ホ保	ダン元	ノ乱	1155～1158
79. 二 条	16	7	0	23	ヘイ平	ヲ治	ノ乱	1158～1165
80. 六 条	2	3	8	13				1165～1168
81. 高 倉	8	12	1	21	キヨ清	モリ盛	シヅ執	セイ政
82. 安 德	3	5	0	8	ヘイ平	シ氏	ホロ亡	ブ
83. 後鳥羽	6	13	41	60	カマ鎌	クラ倉	バグ幕	フ府
84. 土御門	4	12	21	37				1198～1210
85. 順 德	14	10	22	46	ダン源	ジ氏	ホロ亡	ブ
86. 仲 恭	3	1	13	17	ホー北	ジョー条	シヅ執	セイ政
87. 後堀河	10	11	2	23	シン真	シュー宗	イヅ一	ヨー向
88. 四 条	2	10	0	12				1232～1242

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入	西暦
89. 後嵯峨	24才	4年	25年	53才		AD 1242~1246
90. 後深草	5	13	44	62	曹洞宗	1247~1259
91. 亀山	12	15	30	57	日蓮宗	1259~1274
92. 後宇多	9	13	36	58	元冠ノ役	1274~1287
93. 伏見	23	11	19	53		1287~1298
94. 後伏見	12	3	34	49		1298~1301
95. 後二条	17	7	0	24		1301~1308
96. 花園	13	10	30	53		1308~1318
97. 後醍醐	17	35	0	52	建武中興	1318~1339
98. 後村上	12	29	0	41	神皇正統記	1339~1368
99. 長慶	26	8	0	34		1368~1383
100. 後龜山	37	10	31	78	古事記訂	1383~1392
101. 後小松	16	20	21	57	南北朝合併	1392~1412
102. 称光	13	15	0	28		1412~1428
103. 後花園	10	36	6	52	足利文庫	1428~1464
104. 後土御門	23	36	0	59	応仁ノ乱	1464~1500
105. 後柏原	37	26	0	63		1500~1526
106. 後奈良	31	31	0	62	種子島銃	1526~1557
107. 正親町	42	29	6	77	信長秀吉	1557~1586
108. 後陽成	16	25	6	47	秀吉, 家康	1586~1611
109. 後水尾	16	18	51	85	家忠, 家光	1611~1629
110. 明正(女)	7	14	53	74		1629~1643
111. 後光明	11	11	0	22		1643~1654
112. 後西	19	8	22	49		1654~1663

世代天皇	即位年	治政	退位後	崩御年	参考記入			西暦
113. 靈元	9才	24年	46年	79才	4代	家	綱	A.D. 1663~1687
114. 東山	12	23	0	35	5代	綱	吉	1687~1709
115. 中御門	10	26	1	37	8代	吉	宗	1709~1735
116. 桜町	16	12	3	31	〃			1735~1747
117. 桃園	7	15	0	22	9代	家	重	1747~1762
118. 後桜町	23	8	43	74				1762~1770
119. 後桃園(女)	13	9	0	22	10代	家	治	1770~1779
120. 光格	9	37	24	70	11代	家	斎	1779~1817
121. 仁孝	15	30	0	45	平	田	篤	1817~1846
122. 孝明	16	20	0	36	毒	殺	説	1846~1866
123. 明治	16	45	0	61	明	治	維新	1866~1912
124. 大正	34	15	0	48	世	界	大戦	1912~1926
125. 昭和	25	(治政現在53年目) (数え御年78才)			昭	和	一新	1926年~



「紫宸殿の儀」

象形字カタカナの起り

早わかり

人は20万年前ころ、1音のコトバで合図、やがて記号の象形字を発明した。10万年前には、5母音と10父音で子音を考え、音韻科学の50音を発声。

「50音アヒル字」の発明により、1音語が発達し、3音～5音も話した。ながい間に、7音も話すようになり、日本の独特の七五調が生れた。

アヒル楷書体が広まるとともに、早書きの草書体が流行した。

2万年近く前、上古18代オオトノチ天皇、20代カシコネ天皇は、モジを知らない人に「ヒフミ歌(いろは)」を教えたいと、考えられた。

50音「ワ行」の「ヰウヱ」3字は、母音イウエと類似のため、3字をはぶいた47音字で、みんなの知る「天地造化の品物名」の、たれにもヨメル象形画字を作った。この画字によって、庶民文化は進展。上古20代アマテラス朝に、文明の花がひらいた。天皇は各代ごとに、新字を創作され、長い間に各国向けのモジが多くなった。

カタカナの5万年の進化のようすを次の「早わかり表」に示した。

カナ50音節		アイウエオ	カキクケコ	サシスセソ
御製年代	天品地物造化名	ト朝 射 生れ 柄 八方き 目 る れる ほ きい	蚊 木 繩 毛 コ 糸 マ	シ 草 背 祖先 棚 リ 中 札 拝
上古1代 アシカビ天皇	1	日 久 春 月 雷	春 金 登 金	金 金 金 金 金
上古2代 ツクリシ天皇	2	弓 久 春 月 雷	春 金 登 金	弓 久 月 雷 月
上古18代 オトノチ天皇	3	日 久 春 月 雷	手 乘 めく足 月	未 ひ 月 月 月
上古20代 カシコネ天皇	4	日 久 春 月 雷	手 乘 めく足 月	丹 ト 月 月 月
上古21代 イザナギ朝	5	日 久 可 ユ タ	羊 乘 めく足 月	甘 ユ 月 月 月
上古22代 アマテラス朝	6	アス可 ナ タ	水 外 ウ 月 月	卅 ト ハ 月 月
上古26代 ウガヤ1世	7	アスラエ オ	カ 丰 ク 月 月	サ ト 久 义 月
ウガヤ71世 神武天皇父	8	アヌヰエ オ	カキクケコ	サシスセソ
カンヤマト初代 神武天皇作	9	アイウエオ	カキクケコ	サシスセソ
カナ50音節		タチツテト	ナニヌネノ	ハヒフヘホ
御製年代	天品地物造化名	田 乳 集 手 戸	魚 荷 沼 根 野 糸 地	葉 光 父 へ 穂 日 月
上古1代 アシカビ天皇	1	日 久 春 月 丁	春 金 登 金 金	發 皐 月 凡 月
上古2代 ツクリシ天皇	2	田 乳 四 春 月	春 田 月 木 木	弓 月 の 川 木
上古18代 オトノチ天皇	3	田 乳 四 月 月	火 月 木 木 木	中 月 の 月 月
上古20代 カシコネ天皇	4	田 乳 四 月 月	火 月 木 木 木	の 月 の 月 月
上古21代 イザナギ朝	5	田 乳 不 申 日	火 中 木 木 木	の 月 月 月 月
上古22代 アマテラス朝	6	田 乳 口 早 日	火 ト 木 木 木	川 月 月 月 月
上古26代 ウガヤ1世	7	田 业 久 早 日	火 ト 木 木 木	小 月 月 月 月
ウガヤ71世 神武天皇父	8	タチツテト	ナチヌ子ノ	ハセフヘト
カンヤマト初代 神武天皇作	9	タチツテト	ナニヌネノ	ハヒフヘホ

カナ50音節		マミムメモ					ヤイユエヨ				
御製年代	天品地物造化名	マユ毛	身 体	ムシ器	日 茂	矢	射 る	湯	愛	夜	
上古1代 アシカビ天皇	1	日	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古2代 ツクリミシ天皇	2	ニ	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古18代 オートノチ天皇	3	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古20代 カシコネ天皇	4	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古21代 イザナギ朝	5	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古22代 アマテラス朝	6	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古26代 ウガヤ1世	7	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
ウガヤ71世 神武天皇父	8	マ	ビ	ム	メ	モ	ヤ	レ	ユ	エ	ヨ
カンヤマト初代 神武天皇作	9	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	イ	ユ	エ	ヨ
カナ50音節		ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ
御製年代	天品地物造化名	裸 体	リ ン	見 る	切 る	朗 らか	居 輪	失 る	男 女	女 愛	尾 む
上古1代 アシカビ天皇	1	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古2代 ツクリミシ天皇	2	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古18代 オートノチ天皇	3	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古20代 カシコネ天皇	4	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古21代 イザナギ朝	5	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古22代 アマテラス朝	6	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔
上古26代 ウガヤ1世	7	ラ	ヰ	ル	ヱ	ロ	ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ
ウガヤ71世 神武天皇父	8	ラ	ソ	ル	レ	ト	ワ	オ	ウ	ヱ	ヲ
カンヤマト初代 神武天皇作	9	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ヰ	ウ	ヱ	ソ

監修・校閲者 略歴

タケウチ オシノミヤ

竹内 義宮先生（皇祖皇太神宮管長）

大正4年 北茨城市磯原に生る。

昭和12年 日本大学文学部卒業。同年10月召集北満ハイラルに入隊後大連特務機関に入り、中支に転属、無錫、蘇州、泰県の各特務機関にて特務班長（部隊連絡官）を歴任。その後貿易商となり、21年4月帰還。帰還後、父の宗教活動をせるも、GHQの追放処分のため出来ず、諸事業をなす。その後昭和40年父亡きあと、皇祖皇太神宮天津教の管長となり、世界平和、神宮再興に専念中。

現住所 〒319-15 茨城県北茨城市磯原町天津山

電話・北茨城 (02934)-2-0087

主要著書 「神代の神代の話」、「デワ、話ソウ」—(父巨麿の伝記)、「神代の万国史」等。

アゴウ キヨヒコ

吾郷 清彦先生（本名 哲夫）

明治42年 島根県に生る。

昭和10年 旅順工科大学電気工学科卒業。満州電業(株)に入社。

同 21年 満州より島根県の郷里に帰る。

同 24年 三重県に仮寓し古道大系研究所を設立。

現 在 日本神学連盟理事・日本神学誌編集同人。神理研究会同行会員。島根県仁摩町教育委員。

現住所 〒699-24 島根県仁摩町宅野39 電話・(085498)-2045

主要著書 ウエツフミのコリツテ・ウエツフミ要録(霞ヶ関書房)、原文併記ウエツフミ全訳一全六巻(同上)、かきやわしウエツフミ・古事記以前の書(大陸書房)、直訳ホツマツタエ・春日山紀抄註(自己維新誌)、九鬼文書註解・但馬故事記註解(同上)、日本神学の幾何学的把握・有機的全神論(日本神学誌)、日本神代文字(古代活字総観一大陸書房)、石見神楽読本『梼の狹筵』(さすら誌)、高天原論究(霞ヶ関書房)等。

高坂 則魅先生

昭和22年 青森市荒川村に生る。北海道で育ち、北海道教育大学に学ぶ。空飛ぶ円盤を多數目撃。U F O・宇宙考古学の研究で日本各地の宇宙遺跡の発見と調査を続ける。かたわら各大学での宇宙教育講師やテレビラジオにも数多く出演。

同 51年 ヨーロッパでの第3回宇宙考古学会に参加。

同 52年 ブラジルでの大会に参加。現在、国際宇宙考古学会の日本代表・日本P S学会の幹事。

現 住 所 〒270 松戸市常盤平陳屋前12の1 電話・(0473)-85-7552

主要図書 宇宙人のなぞ(立風書房ジャガーパック), 空飛ぶ円盤のなぞ(小学館101シリーズ)等。

協 力 者

岡本安出女史	(東京都)	浜部トシツグ先生	(静岡県)
上野重雄先生	(東京都)	タカイセイジ宮司	(ハワイ)
クボタトシオ先生	(ハワイ)	スワ富多先生	(青森県)
井上喜代太先生	(小倉市)	鈴木貞一先生	(京都市)
樋口寅史先生	(八王寺市)	尾上丁之助宮司	(三重県)
高祖英二先生	(東京都)	鶴田丙午先生	(北九州市)
実桐幹夫先生	(富山县)	山田 実先生	(岩手県)
長岡逸郎先生	(東京)	川端善雄先生	(三重県)

昭和43年1月、商工毎日新聞を古代研究紙にキリカエ、毎号3000部発行、読者に教えられて研究は続行できた。多くの方に貴重な資料を拝受、多数の声援によってこの本ができた。全く感謝のほかはない。10年間に同志の亡くなられた靈に、謹んで本書をささぐ。

編集には、竹内先生・吾郷先生・高坂君が懸命に努力された。編集事務には、尾崎一弥氏・山口正夫氏に特別のお骨折りをねがった。印刷製本は、河北印刷 K.K. 河北社長、地図作製は高坂香善子氏とニッシン印刷 K.K. が担当し、アキナイクラブの諸氏や講師の方々にも御指導を頂いた。

本書は多数の方々によって、完成した。わたしは編者にすぎない。

厚くお礼申しあげたい。

参考文献

人類・大陸・砂漠・ユダヤ・縄文・弥生・日本・各地・竹内文献などは、前著「縄文文化と弥生大革命」に9頁分(110余種類)を全部掲載スミ。

この本は、最近6年間に入手の本のみ集録。重複をさけた。前著を参照乞う。森羅万象ことごとく、日本の真相の生きた参考です。

日本史

著者	書名	発行所
竹内 巨磨	萬国ノ棟梁天皇御系図宝の巻	
安江 仙弘	宏遠なる我が神代史	
小島 光枝	神皇御記録(第1・2巻)	
竹内 義宮	竹内巨磨伝「デハ話ソウ」	皇祖皇太神宮
田多井四郎	日本神代文化と東亜新秩序建設	神代文化研究所
川口 興道	太古日本の迦具土	日本湖沼時代研究所
武藤 秀吉	20世紀アマテラス物語	
岡崎 敬	縄文時代の考古学	学生社
高山 純	縄文人の入墨	講談社
藤森 栄一	縄文の世界	"
上田 正昭	日本文化の原点	"
武内 裕	日本のピラミッド	大陸書房
川瀬 勇	日本民族秘史	科学情報社
森 豊	日本の遺跡	毎日新聞社
平山 蘆江	日本神話	すみよし書店
加藤 慧	神話のふるさと	保育社
吾郷 清彦	古事記以前の書	大陸書房
"	高天原論究	霞ヶ関書房
"	日本超古代秘史資料	新人物往来社
大羽 弘道	銅鐸の謎	光文社
米村喜男衛	モヨロ貝塚	講談社
高木 彰光	成吉思汗の秘密	光文社
吉岡 力	歴史パズル	"
桜井徳太郎	祭りと信仰	新人物往来社

浜部 寿次	日本成仏	
小松 左京	日本沈没(上・下)	光文社
鈴木 武樹	日本古代史99の謎	産報
田畠 喜作	高天ヶ原は実在した	講談社
矢留 的	天皇アラブ渡米説	日本シェル出版
大林 太良	神話学入門	中公新書
清水馨八郎	日本列島の未来	角川新書
藤森 栄一	古道	学生社
林 房雄	神武天皇実在論	光文社
荒深 道齊	実錄	サンガロー
日立日出彦	神武天皇紀	山雅房
鳥越憲三郎	神々と天皇の間	朝日新聞社
鈴木 貞一	超古代王朝の発見	秋田書店
林屋辰三郎	日本の道	講談社
樋口 隆康	日本人はどこから来たか	〃現代新書
大羽 弘道	邪馬台国は沈んだ	光文社
武田 静澄	日本伝説の旅(上)	教養文庫
苗代清太郎	古事記大観	肇国社
〃	元暦・萬葉集	〃
水野 祐	勾玉	学生社
藤間 生大	日本武尊	創元社
安本 美典	邪馬台国への道	筑摩書房
中部日本新聞社	新日本史のカギ	東京大学出版会
半村 良	黄金伝説	祥文社
末永 雅雄	高松塚壁画古墳	創元社
末永 雅雄	〃	朝日新聞社
井上 光貞	〃	〃
上原 和	班鳩の白い道のうえに	〃
川野 京輔	飛鳥の謎	徳間書店
菱野 広志	飛鳥路の寺	保育社
杉本 苑子	飛鳥資料館案内	奈良国立文化財研究所
入江 泰吉	聖徳太子	吉川弘文館
		創元社

鳥越憲三郎	伊勢神宮の原像	講談社
増谷 文雄	仏教聖典	青山書院
春木 秀映	青年地球誕生	たま出版
奥所 一男	救世主の出現と地上天国	霞ヶ関書房
清水馨八郎	日本列島再発見	角川文庫
筑紫 申真	神々のふるさと	秀英出版
坂口 安吾	安吾の古代史探偵	講談社
中野 幡能	古代国東文化の謎	新人物往来社
棚橋 一晃	木喰仏	鹿島出版会
鈴木 武樹	地名・苗字の起源	産報
西村 貞二	歴史から何を学ぶか	講談社
鳥越憲三郎	古事記は偽書か	朝日新聞社
橋本 文男	天皇家の起源	叢文社
絵守きよし	異色古代史	霞ヶ関書房
梅原 猛	隠された十字架	新潮社
上田 正昭	帰化人	中公新書
清原 貞雄	奈良時代史	修文館
高木 健夫	生きている日本史	鱗書房
田中 俊資	吉田松陰	山口県教育会
上野 一郎	私の明治維新	産能大
大久保利謙	明治の歴史(全4巻)	集英社
寒川光太郎		
ねづまさし	天皇と昭和史(上)	三一書房
臼田甚五郎	日本神社100選	秋田書店
加藤秀俊ほか	明治・大正・昭和世相史	社会思想社
和歌森太郎ほか	人物日本の歴史	小学館
M・トケイヤー	謎の古代史	産能大
上田 正昭	日本神話の世界	創元新書
邦光 史郎	原・日本人の謎	祥伝社
飛鳥 久	謎の日本列島	ベストブック社
司馬遼太郎	手掘り日本史	毎日新聞社
原田 常治	上代日本正史	同志社

三上 次男	図説 日本の歴史(全18巻)	集英社
岡田章雄ほか	日本の歴史	読売新聞社
"	" (別巻)	"
小葉田淳ほか	"	清水書院
直木孝次郎	"	小学館
"	"	中央公論社
青木 和夫	"	中央パックス
ジョン・W・ホール	"	講談社現代新書
井光 趟夫	日本古代文明の	謎大陸書房
市村其三郎	秘められた古代日本	創元社
アンドルー・トマス	太古史の謎	角川文庫

東洋史・西洋史

貝塚 茂樹	中国の歴史	岩波新書
安藤彦太郎ほか	図説 中国の歴史	講談社
今井 湊	中国物理雑識	全国書房
<u>吉川幸次郎</u>	中国古典選(10・11) 史記	朝日新聞社
藤田 信勝	生きている西洋史	鷲書房
毎日新聞社	世界の名著	毎日新聞社
大宅壯一ほか	世界の旅 カラー版	中央公論社
今西錦司ほか	世界の歴史 (全25巻・別巻年表)	河出書房
田中 豊	日本と世界の歴史(22巻)	学研
亀井高孝ほか	世界歴史地図	吉川弘文館
山根 キク	世界の正史	平和世界社
増田 義郎	古代アステカ王国	中公新書
リチャード・F・デンペウルフ	失われた都市	大陸書房
G・ダニエル	文明の起源と考古学	教養文庫
E・キエラ	粘土に書かれた歴史	
T・R・フェレンバッハ	スイス銀行	早川書房
デスマンド・モ里斯	裸のサル	河出書房新社
デスマンド& ラモナ・モ里斯	人間とサル	角川選書

村越 潔	原始時代	北方新社
森 豊	孔雀文様の旅	講談社
香山 陽坪	騎馬民族の遺産	新潮社
藤繩 謙三	ギリシア神話の世界観	新潮選書
吉村 作治	エジプト史を掘る	NHKブックス
東京国民国際交流協会	アラブは訴える	広論社
田中 四郎	コーランは生きている	地産出版
竹内 均	サイエンス 一大陸移動地球の物理— 新十八史略	日本経済新聞社
後藤基己ほか	NHK未来への遺産取材記 (全3巻)	河出書房
NHK取材班		日本放送出版協会

地 方 史

諫訪 富多	大湯の歴史	大湯郷土研究会
〃	大湯環状列石発掘史	〃
小館 哀三	岩木山信仰史	北方新社
納屋 嘉治	歴史の京都	淡交社
奈良本辰也	京都の謎	祥伝社
今村 義孝	秋田県の歴史	山川出版社
北日本放送	風土記とやま	北日本放送
富山県教育委員会	富山県の文化財	富山県教育委員会
川端 道春	宝塚の風土記	川瀬書店
川合勇太郎	ふるさとの伝説	津軽書房
市浦 村史 編纂委員会	みちのくのあけぼの (全3冊)	市浦村史 編纂委員会
山上 笠介	続 つがるの夜明け——よみ もの津軽藩史(上・下)——	陸奥新報社
柳原与四郎	高橋城物語り(1・2)	柳原騰写堂
野尻湖発掘調査団	野尻湖の発掘写真集	共立出版
吾郷 清彦	石見神楽	神理研究会
朝倉 久喜	おおみわ 大神神社	
中山 和敬		学生社
神宮 司庁	お伊勢まいり	神宮司庁
駒井 和愛	楽 浪	中公新書
広瀬 誠	立山と白山	北国出版社

米谷 利夫	播磨国風土記疑解	小野高速印刷
吾郷 清彦	後藤碩田の偉業	大分県人社
橋本犀之助	近江高天原の研究	村下印刷所

文字・コトバ

吾郷 清彦	かきやわしウエツフミ	日本神学連盟
〃	ウエツフミ要録(上・下)	霞ヶ関書房
〃	古史精伝	〃
〃	ウエツフミ全訳(全5巻)	〃
酒井 勝軍	上記鈔譯(前・後編)	国教宣明団
宮崎小八郎	神代の文字	霞ヶ関書房
吾郷 清彦	日本神代文字	大陸書房
鈴木 貞一	日本古代文書の謎	〃
高畠 康明	神字起源解	世界大祖国史期成会
吉田 兼吉	神武天皇の神字の研究	太古研究会
相馬 龍夫	日本古代文字の謎を解く	新人物往来社
平山 輝男	日本の方言	講談社新書
酒井 堅次	日本語の現場	読売新聞社
池田摩耶子	日本語再発見	三省堂新書
築島 裕	日本語発掘	学生社
藏中 進	上代日本語音韻の一研究	神戸学術出版
大野 晋	日本語の起源	岩波新書
江上 波夫	日本語の謎	毎日新聞社
大野 晋	人名地名の語源	大修館書店
山中 襄太	漢字の起源	徳間書店
藤堂 明保	漢字と文化	〃
〃	国語協会文字文化 展覧会出品物解説	カナモジカイ
カナモジカイ	邪馬台国の言葉	コスモ出版社
加治木義博	絵文字及源始文字	磯部甲陽堂
田崎 仁義	伊勢神宮の古代文字	三信孔版
丹代貞太郎	東大古族言語史鑑	喜文堂書店
小島 末喜		
浜名 寛祐		

J・G・ヘルダー	ヘルダー言語起源論	大修館書店
室松 岩雄	平田篤胤全集	法文館書店
加藤 一朗	象形文字入門	中公新書
川勝政太郎	梵字講話	河原書店
ユダヤと日本		
I・ドイツチヤー	ユダヤの商法	ベストセラーズ
箱崎 総一	非ユダヤ的ユダヤ人	岩波新書
ラビ・M・ケイヤー	ユダヤ人の思想	番町書房
オトマール・クラインツ	ユダヤ5000年の知恵	実業之日本社
熊谷 武仁	ユダヤ人のアメリカ発展	千峰書房
岡本 安出	世界の謎	たま出版
永淵 一郎	ユダヤの秘密	霞ヶ関書房
酒井 勝軍	日本とユダヤ合せ鏡	新人物往来社
エス・ニールス	ユダヤ人と世界革命	東京内外書房
山根 キク	猶太人の世界征略運動	破邪顕正社
武内 裕	世界顛覆の大陰謀	平和世界社
山根 菊子	ユダヤ議定書	大陸書房
岡本 安出	キリストは日本で死んでいる	日本の世界社
〃	日本のキリスト伝説	霞ヶ関書房
山本 佳人	光りは東方より	言霊宗宣言会
中島今朝吾	キリスト日本来住の史実	大陸書房
岡本 安出	ヨハツ黙示録義解	皇道世界政治研究所
村山 惣作	合図の旗	文星堂
イザヤ・ベンダサン	キリスト宇宙人説	五色屋書房
岡本 安出	皇運世界政治の提唱	文芸春秋
五島 勉	Two go Together	言霊宣言会
	世界は日ノ本に帰る	祥伝社
	日本教について	
	栄光の遺産	
	恐怖の默示	

雑誌・年表

NHK

未来への遺産姉妹編
遺跡の旅(全5巻)

学研

NHK	NHK未来への遺産取材記 刻まれた情念	日本放送出版協会
	未来への遺産	学研
	99の謎	
	歴史シリーズ1・自然科学 シリーズ	産報
	地球ロマン(全6巻)	絃映社
	新聞とユダヤ人	欧亜通信社
三笠宮崇仁	考古学文明の遺産	日本経済新聞社
日本オリエント学会	オリエント(第16巻 第1・2号)	日本オリエント学会
"	日本オリエント学会・月報 (第1~4巻)	平凡社
佐藤 有文	古代文明ミステリー旅行	学研
宮原 誠也	ムグンファ	日韓文化情報センター
吉田 兼吉	皇道と興亜の規矩(343P) S14. 9	
三省堂	コンサイス世界年表	
"	世界史年表	
南淵 凌雲	世界暗記年表	文進堂

その他

中山 茂	日本の天文学	岩波新書
エリザベス・アカエリス	時と暦	日本暦法協会
小沢啓太郎	暦講話	辰文館
黄 小 娥	十二支	光文社
F・S・クラウス	日本人の性と習俗	桃源社
田口 真堂	仙術入門	大陸書房
富永惣一ほか	万国博美術館	日本万国博協会
竹村 文祥	神と人間と性	東都書房
伊藤 堅吉	性像 賛美	図譜出版
田中 四郎	エジプト十夜一夜 <small>てん や・わん や</small>	読売新書
彭 永海	台湾平地山地のならわしと でんせつ	忠興印刷廠
田里 享無	道元禪入門	産能大
牛島 秀彦	ハワイの日系人	三省堂新書
井尻 正二		
湊 正雄	地球の歴史	岩波新書

竹内 均	続地球の科学	NHKブックス
喜多 要光	UFOと地球大陰謀作戦	高文社
桜井徳太郎	世界不戦論	誠和連盟
林 松治	未来を開く世界の経済	天地の会
南山 宏	超現実の世界	大陸書房
川瀬 勇	箸とフォーク	広済堂出版
河本 一止	教祖様の御逸話	黒住教日新社
中村 一夫	脳狂日本	新国民出版社
亀井勝一郎	現代人の研究	角川新書
高取 正男	宗教以前	NHKブック
橋本 峰雄	米食・内食の文明	"
筑波 常治	変貌する産業社会	ダイヤモンド社
ピーター・F・ドラッカー	先祖の祭祀と家庭運	徳風出版社
竹谷 聰進	人 生 論	理論社
林田 茂雄	一生き甲斐の探究— 書と人物・第1巻	毎日新聞社
是澤 恭二	天皇, 宮家	
竹内 義宮	増補 神代の萬国史	皇祖皇太神宮 広報部
"	" 神代の神代の話	"

◆ ア・ト・ガ・キ ◆

明治36年7月28日、大阪でセンス屋の2男に生れ、明治・大正・昭和の聖代に、幸運な一生をすごした。カレンダー50年、能率道・力ナモジ40年、ユダヤと聖道研究に35年、私は幼年期から読書三昧、諸先生に導かれ、人間が日本で進化したことを知った。わたしは、この本を書残し、世界最高の人生を、送らせて頂いたことに感謝する。

人類の歴史は、数多くの人々が流した、血と涙でつづられている。本書は人間の歴史の真相を多くのご協力で、一応まとめたにすぎない。考えちがいもあるう。

これを、研究のタタキ台とし、世界の人々のご協力で歴史の真相を末代に伝え、この世に生れたお礼として、子孫に伝えたい。

悠久長遠な5万年史は、1字でも短く、10倍100倍の内容をちぢめた。1行の文章のなかに、壮大なロマン、愛欲のヨロコビや、悲しみが秘められており、楽しくも長い物語が多い。

人生修行と、空無の世相・無常観を、知らず知らずに、感じることもできよう。この本で、わたしは多くの敵をつくり、憎まれようが、「他は我にあらず」と、ひとり法悦にむせぶ今日このごろ。

インドのシャカは、「サトル人はガンジス河の、ヒトニギリの砂」といった。本書の内容を味読できる人が、何人あろうか。それほど説明はムズカシイ。読書百ペん、おのづからワカル本といえよう。

地球の万世平和を祈る

世界は七トツと、確認のために、コトバとモジの起りや、人間の文化史、世界遺跡の探究に、15回海外旅行。「縄文文化と弥生大革命」を出版、内地外地多数の愛国者のご協力で、この本ができた。

世界中、平和をねがう人で充满太古の歴史を抹殺、「親おもう心

にまさる親心」を忘れてた。

子孫を愛された歴代の天皇の恩徳で、人類文化は起った。

カミの信仰は、祖先や親をおがむ心で、永遠に安心して暮せる。

心身一如の修行は、年に応じて育成を教え、人の一生の生活指導は、ウガヤ初め「万国祭政法」。

ウガヤ朝は、人壽150才平均、不老長生の医道は、高度に進展。

空無(無我)サトリは般若心経

日本は「言あげせぬ國」。説明せず実践で示さる。世界の聖者は經典で表現。日本佛教(大乗)はサトリの宗教、正坐拝礼自覺、内覺「禪」体験で、サトリに導く。

ナンムアミンは、浄土真宗式で早わかりだが、宗教人は特定の神や、神靈を狂信する人が多い。宇宙人は昔の觀音信仰と同じで、まぼろしを信ずる。神のすがたは人の形体。人は死ねばカミと同化。皇祖は肉身の宇宙生命カミサマ。

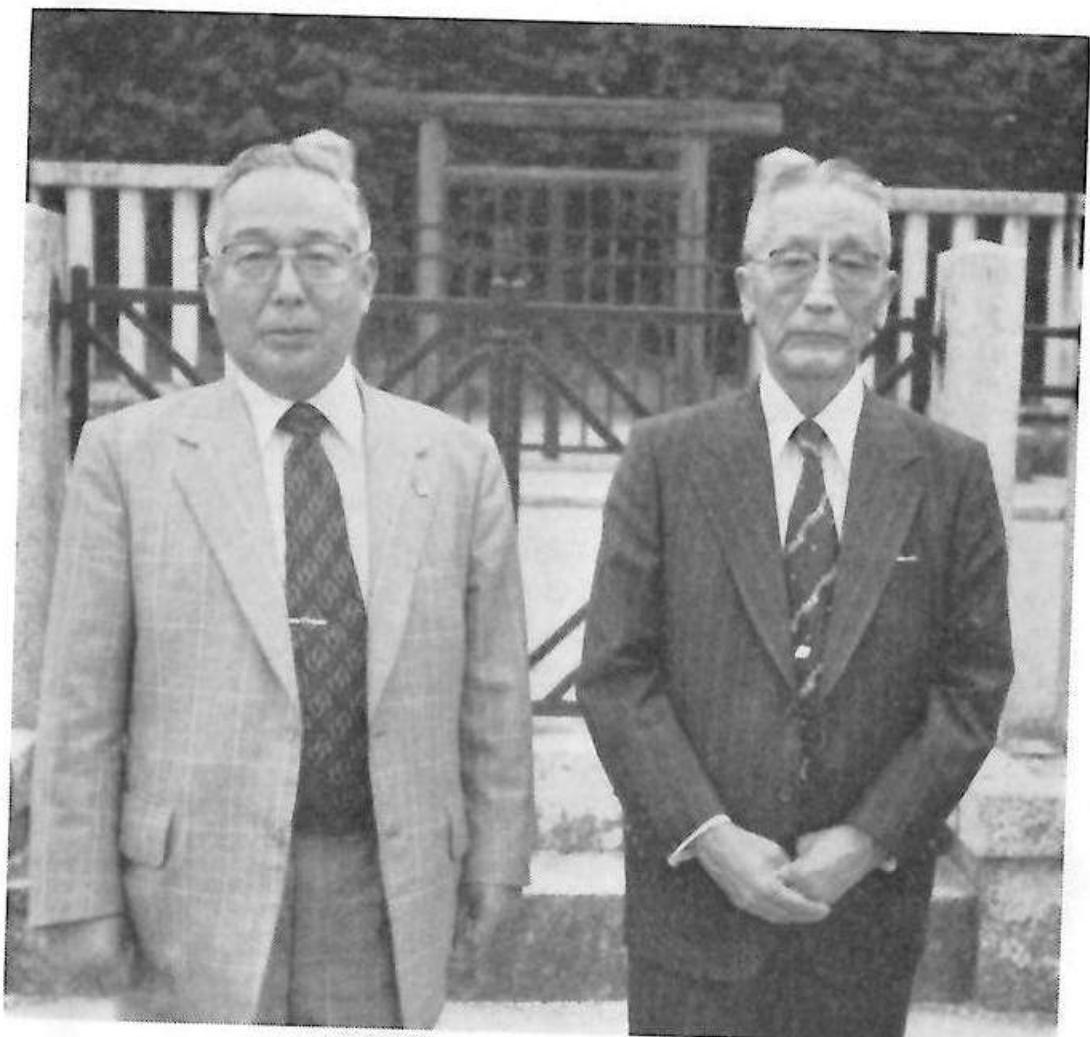
ナゾときにチャレンジしよう

ナゾとか、何々らしいは、プラスしない。ナゾのままの発表は、つしみたい。ナゾは深くよく考え、調べた結論を出す。万一の訂正は恥でない。あいまいにゴマ化す学者には、ガマンがならない。常にへりくだった心が、大切であろう。

本書の疑問点については、忌憚のないご教示を乞う。本書は限られた紙数の要約文、わからぬ所は商工毎日新聞で説明したい。

昭和53年元旦(数え75才)

ハヤシ シンジロー



雄略天皇御陵前の竹内管長（左）と著者（右）(53.6.20)

著者略歴

ハヤシ
林 信二郎

明治36年(1903)7月28日、大阪府鳥本家の二男に生る。小学5年から、伯父の落語家、桂枝太郎の養子となり、京都第二高小卒後、通信中学校、YMCAにて英語を学ぶ。昭和元年林信本店を創業、同6年5月林信チェーン月報を創刊。

以来53年間ボランタリーチェーンを経営。同11年よりカナモジ タイプライタを実用化し、カナモジ運動につくす。

現在、㈱ハヤシンチェーン会長、日本経営士会経営士、商工毎日新聞社主、アキナイクラブ理事長、カナモジカイ会員として活躍。

現住所 〒580 松原市阿保町442の1

電話 0723-(36)-1355

主要著書 「生きているコヨミ」、「コヨミ・暦・カレンダー」「外交宝典」「セールス成功法」「縄文文化と弥生大革命」「いろのみち聖道」「フリカエル半世紀」、その他。

本書は「神代の万国史」の解説につき無断で一部分でも利用することを固く禁じます。

日本 の 真 相

昭和53年7月28日 発行

価格 5,000円

著者 林 信二郎

発行 商工毎日新聞社

京都市南区唐橋門脇町28

印刷所 河北印刷株式会社

580 大阪府松原市阿保町442-1
発売元 株式会社 ハヤシンチェーン
電話 0723(36)5151(代)

シャンティ株式会社情報室ニュース編集部
シャンティニュース